

者ヲ招致シ会谈スル所アリタルガ其結果ヲ代表者ヨリ倫敦本部ニ打電セル次第ハ往電第一五六八号ヲ以テ不取敢及電報置候処別紙<sup>(註)</sup>右代表者発倫敦本部宛電報原文写茲ニ差進候条御査閲相成度此段申進候也

註 別紙ヲ省略ス該別紙ハ前掲一九七文書附屬書一ノ別紙ト同文ナリ

### 事項三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件

一九九 一月二十日

在米國石井大使ヨリ  
在紐育矢田総領事  
在シカゴ来栖領事 各宛

アボット中国行ノ用向及米國ノ对中国借款成

立説ニ関スル件

紐機密第二号

市機密第一号

大正八年一月二十日

在米

特命全權大使子爵 石井菊次郎

在紐育 矢田総領事

在市俄古 来栖領事

支那借款ニ関スル件

市俄古大陸商業銀行副總裁アボット (John Jay Abbott, Vice President of the Continental and Commercial Trust and Saving's Bank of Chicago) ハ支那財政事情調査ノ為メ國務省ノ承諾ヲ得近日渡支ノ筈ナル旨「モルガ

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 一九九 二〇〇

ン」会社ノ談トシテ最近各新聞紙ニ掲載セラレタル次第ハ既ニ御承知ノ義ト存候処右ニ関シ國務省当局ハ「アボット」ハ過般成立セル米國財団(約三十ノ銀行ヨリ成リ旧米國財団ヲモ含ム)ヲ代表シ支那南北妥協後ニ於ケル資金需要ノ狀況等調査ノ為國務省トモ相談ノ上支那ニ赴クコトニ決定シタル次第ニテ本月下旬出發日本經由渡支ノ予定ナリト内話致候然ルニ「モルガン」会社ヲ筆頭トスル銀行団ハ支那ニ対シ約五千万弗借款締結方決定シタリ云々ノ報道在紐育華盛頓ポスト通信員ニ依リ一昨十八日ノ同紙上ニ伝ヘラレ候右ハ米國団ニ於テ右金額以内ノ対支借款ハ何時ニテモ必要ニ応ジ引受クルコトノ内規ニテモ有之結果ナルベキカトモ被察ニ付貴地米國財団關係ノ向ニ就キ夫トナク内探ヲ遂ケラレ其結果本省及当方ヘ報告相成様致度此段申進候也

写送付先 本省

二〇〇 一月二十四日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使  
在米國石井大使 各宛 (電報)

米國シンヂケートノ对中国四千六百万弗新借款成立說ニ付確メ方訓令ノ件

第九九号 (支宛)

第五三三号 (米宛)

情報ニヨレハ米國「シンヂケート」代表「ガラステイ」、トラスト、コムパニー」ハ鉄道其他ノ建築事業費トシテ四千六百万弗ノ对支借款ヲ訂結シ「アボット」ハ之カ細目協定ノ為一月十七日紐育ヲ発シ支那ニ向ヒタルモノナリトノコトナルカ右ハ何等根拠アル報道ナルヤ御確カメノ上電報アリタシ

(在米大使ヘハ「本大臣ノ訓令トシテ在紐育総領事ヘ転電アリタシ」ト附加セリ)

二〇一 一月二十五日

在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

國務省第三次官出渾ニ対シ新借款团组织及中國鐵道借款ニ対スル日米提携ニ関シ談話並米國ノ对中国借款成立說ニ付報告ノ件

第八一号

(一月二十六日接受)

銀行団ト談合ノ結果ナル可シト認メラル、將又最近当地新聞紙上ニ紐育電報トシテ米國銀行団ト支那トノ間ニ五千万弗ノ借款成立セリトノ報道アリ右ハ勿論誤報トハ思料スルモ銀行団内部ニ該金額迄ハ何時ニテモ对支投資ノ為メ釀出ス可シトノ内約ニテモアルニ非ズヤト存ジ關係ノ向ニ付内探方直ニ在紐育総領事ニ申送り置タリ。

二〇二 一月二十五日

在紐育矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

米國ノ对中国新借款成立說ニ関連シアボット中国行ノ用向ニ付査報ノ件

第一九号

(一月二十六日接受)

シカゴ銀行家「アボット」ノ支那行ニ関シ今二十四日「クローロブ」ノ「オットー、カーン」、「モルガン」商会ノ「ラモント」、「シテイー、バンク」ノ「バンダーリッブ」ニ会見、談話ノ要領左ノ如シ、

「カーン」曰ク「アボット」ノ支那行ハ國務省トノ打合せノ結果ナルハ事実ナルモ単ニ米國財団ヲ代表シ支那ニ於ケル戦後公私ニ関スル一般の調査ヲ為シ其報告ヲ齎ラスニ止

一月二十四日出淵参事官國務省第三次官ニ面会シ貴電第四七号阪谷男ニ関スル御訓令ノ次第ヲ申入レタル際次官ハ对支借款問題ニ言及シ曩ニ米國政府ヨリ提議セル新借款团组织ノ件ハ一日モ速ニ実現ヲ希望スト述べ尙英國政府トノ談合ハ其後着々進行シツツアルヤノ口吻ヲ洩シタルモ実業借款ニ対スル同國ノ態度如何ニ就テハ明答ヲ避ケタリ次デ次官ハ自分ハ多年支那ニ於ケル日米実業提携ニ付研究シ居レルガ今回日本ニ向ツテ提供ス可キ一ノ借款ヲ發見セリト前置シ約十日前在米仏國代理大使ヨリ米國ノ資金ヲ仰ギ速ニ湖広鐵道ヲ完成シ度シトノ申出アリタルニ付直チニ詮議ノ結果同代理大使ニ向ツテ該鐵道經營者タル英國側ニ於テモ異存ナキニ於テハ米國銀行団ニ於テ之レニ応ズ可キ旨回答シ置キタルガ愈々英仏一致シテ米資ヲ求メ来ル場合ニハ米國ハ日本ト協同シ各所要資金ノ一半ヲ分担スルコトトシ鐵道借款ニ対スル日米提携ノ基礎ヲ作り度シト内話シ英仏ノ現状ニテハ当分支那ニ向ツテ投資ノ余地ナシト認ムル旨確言セリ右ニ対シ出淵ハ本件ハ日本ニ於テ歡迎セラル可ク内話ノ次第ハ直ニ東京ニ報告ス可シト特ニ念ヲ押シ置キタル由次官ハ二十二日紐育ニ赴キタル事実アルニ付本件ハ米國

リ何等支那政府ト「ネゴシエート」シ若ハ「コンミット」セザル様言ヒ含メアリ支那財政改革ニ関スル資金供給等ニ関スル貴問ニ対シテハ当方单独ニ何等ノ行動ヲ執ルノ意思ナク此件ニ関シテハ先般当地ニ來訪セル山科礼藏氏ノ熱心ナル慫慂ヲ受ケタルモ之ハ兩國政府ニテ決定ス可キ問題ニテ政府ニ於テ未タ決定ヲ見サル今日財団ニ於テ何等積極的行動ヲ執ルヲ得サルハ自然ノ數ナリ又貴問ノ五千万弗位迄ハ支那政府ヨリ借款ノ申込アリ次第「モルガン」商会若ハ財団ニ於テ主ニ之ニ応スル準備アリ云々ノ噂ハ財団ノ關スル限り今日ノ処事実無根ナリ又「モルガン」商会ニ於テ单独ニ斯カル内商議ヲ為シツツアリトモ覺エズ尙対支借款ニ関シテハ財団ハ日本ノ態度カ「フランク」ナル限り日本ト協同的歩調ヲ執ルノ方針ニシテ日本ノ支那政策トノ關係ハ恰カモ仏國ノ独逸ニ対スル關係程密接ナルモノアルハ財団ノ充分承認シ且ツ尊重セントスル処ナリ云々、

「ラモント」ノ談話モ「アボット」ノ支那行ニ対シテハ大要「カーン」ノ談話ト同様ナリシカ只幣制改革ニ関スル对支借款ノ点ニ付テハ同氏ハ之ニ付テハ日本ノ態度カ今少シク明瞭トナラサル限り米國側ニ於テ進止ニ迷ハサルヲ得ズ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二〇三 二〇四

トテ稍々日本ノ態度ニ不満ノ色アルヲ看取シタリ、又「バンダーリップ」ハ対支問題ニ関スル日米ノ関係ニ付テハ平常最辛直ニ其意見ヲ述フル方ナルカ幣制改革借款ノ件ニ対シテハ日本ノ対支態度ニ「ラモント」以上ニ不満ノ色ヲ表ハセリ、

以上ノ会談ヨリ察スルニ「アボット」ノ使命ハ「ノンコムミツタル」ナルコト丈ケハ確カナル様ナレトモ同時ニ近キ将来ニ於テ米國財団カ対支活動ヲ開始セントスル意思アリ其下準備ノ為メナルハ疑ノ余地ナキカ如ク即チ昨年同氏ノ支那行ニ比シ遙ニ重要ノ意義ヲ有スルモノト推セラル、

「ラモント」カ本官ニ示シタル「アボット」發電報ニ依レハ「ア」氏ハ昨二十三日春洋丸ニテ桑港ヲ出發セリ、本電報写暗号ノ儘在米大使ニ郵送セリ、

二〇三 一月二十八日 在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国四千六百万弗新借款説ニ関シ國務省第  
三次官二問訊セタル件

第八八号 (一月三十日接受)

ナルニ似ズ頗ル曖昧要領ヲ得ザリシモ其談話中ヨリ左ノ点ヲ絞リ取ルコトヲ得タリ

支那政府ヨリ昨年来鐵道ノ「エクイブメント」ヲ「ファイナンス」スル為メ借款ノ申込アリ「アボット」ノ支那行ハ之ニ關係アルモ本件ハ未タ少シモ確定的ナラズ支那目下ノ状況ニ鑑ミ物ニ成リソウニハ思ハレズトノ事ナリシヨリ本官ハ此借款ハ米國財団ノ問題ナリヤ又ハ「ガランチー」單獨ノ問題ナリヤト問ヒタルニ之ニ対シテハ明答ヲ避ケ「ガランチー」ハ財団ノ一員ナレドモ同会社ハ支那ニハ既ニ銀行ヲモ設立シ居リ單獨ニ行動スルコトヲ妨ケズトノ事ナリ又借款額ニ付テハ四千六百万弗ナドト云フ如キ大金ニハアラズ千万円内外ノモノナリ尤モ「アボット」歸米ノ上ニテ如何ニ變更スルヤ計ラレズ云々尚ホ本官ハ一両日中他ノ方面ニ就キ今少シク精探ノ上ニテ本省及貴官ニ電報スル考ナリキ本官ノ得タル最近米國財政家ノ意嚮ニ対スル感想ハ彼等ノ頗ル積極的ニシテ戦争ノ為メ米國ガ贏チ得タル財政的優勝地位ヲ利用シ戦後他ニ顧慮スルコトナク活動ヲ開始スベシトノ点ナリ

本電報外務大臣ヘ転電済

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二〇五

貴電第五三号ニ関シ

二十八日國務省第三次官ニ尋ネタル処自分ハ約十日前偶然「ガランチー、トラスト」ガ某支那人トノ間ニ鐵道車輛ヲ米國ニ於テ製造シ支那ニ貸与スルコトニ付相談中ナリトノ話ヲ聞込ミタルコトアルモ右ハ未ダ纏リタリトハ思ハレザルノミナラズ四千何百万弗ノ大借款成立云々ノ如キハ到底信ジ兼ネル旨答ヘタリ。

在紐育総領事ヘ転電セリ、

二〇四 一月二十九日 在紐育矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国四千六百万弗新借款説ニ関シ「ガランチー、トラスト」ノ「ヘンピル」談話ニ付報告ノ件

第二五号 (一月三十日接受)

本官発在米大使宛電報第七号  
貴電第一二二号(大臣宛貴電第八八号)ト行違ニ昨二十八日本官ハ「ガランチー、トラスト」ノ「ヘンピル」ヲ往訪種々話ヲ交ヘタルガ「ヘンピル」ノ態度平時ノ「フランク」

二〇五 一月三十日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

実業借款ヲ新借款団ノ事業中ニ包含セシムル  
米國案ニ反対ナル旨梁士詒周自齊同道來談並  
曹汝霖亦同様意見陳述ノ件

第一四七号

米國ノ提議ニ係ル対支新借款団ノ事業中ニ実業借款ヲモ含マシムル点ニ関シ芳沢参事官ニ対スル梁士詒談話ノ大要ハ客年往電第一五九三号ヲ以テ林公使ヨリ報告ノ次第アリタル処一月十五日梁士詒、周自齊同道態々本使ヲ來訪シ前記芳沢参事官ニ対スルト大体同様ノ趣旨ヲ縷述シタルニ付本使ハ支那実業界ニ重キヲ為セル両君ノ所見右ノ如クナルニ於テハ両君ノ力ニ依リテ國論ヲ一致シ以テ之レカ対応策ト為サレンコト敢テ難キニアラサルヘシ英國側ニ於テモ実業借款包含ニハ從來余リ乘リ氣トナリ居ラサル模様ニ承知シ居リ旁本問題ニ関シ最も重要ノ關係アル支那ノ輿論サヘ反對ニ傾カハ支那政府ハ相当ノ支持ヲ期待シ得ヘシト信スル旨ヲ答ヘ置タリ其後一月二十八日曹汝霖ニ面会ノ節同人ヨ

リモ本件ニ論及シ梁及周ト略ホ同様ノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ前記梁、周ト本使トノ間ニ交換セラレタル談話ノ趣旨ヲ敷衍詳述シタル処曹ハ本件ニ付テハ最初新借款团组织実業借款包含ノ報道アリタル際在米支那公使ヲシテ本問題ニ対スル支那政府ノ反対意向ヲ米國政府ニ申入レシメ置タル次第モアリト述ヘ本使ヨリ更ニ右支那政府ノ意向ニハ今以テ変化ナキ義ナリヤト念ヲ推シタルニ対シ曹ハ自分ハ政府ノ意向トシテ之レヲ明言スヘキ地位ニアラサルモ自分ハ支那トシテハ飽迄之レニ反対セサルヘカラスト考ヘ居レリト答ヘタリ在米支那公使ヨリ此点ニ関シ米國政府ニ申入レヲ為シタリトノコトハ初耳ニモ之レアリ御参考ト相成ヘント思料シ電報ス(一月三十日 后〇・五五 奉天経由)

註 日本外交文書大正七年第二冊上卷二六五文書

二〇六 一月三十日

内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛 (電報)

对中国四千六百万弗借款說ニ関スル在中國米  
國公使館員ノ説明ニ付通報ノ件

第六五号

二〇七 二月二日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛 (電報)

米國提案ノ对中国借款团問題ニ関スル中国側  
トノ応酬方ニ付訓示ノ件

第一三五号

貴電第一四七号ニ関シ

米國政府提案ニ係ル対支新借款团ノ件ニ付テハ帝國政府ニ於テハ先般來慎重詮議中ノ次第アリ実業借款ヲ含マシムルヤ否ヤノ点ニ関シテモ一面本案全体ノ仕組並我對支經濟活動ノ將來ト他帝國大局上ノ利害トヲ考查シ精細ニ考究ヲ重ネ居レル義ニ付右貴電ノ如キ場合ニ於テモ其ノ御含ヲ以テ支那側ト御応酬相成度殊ニ他ヲシテ日本側ニ於テ内々支那側ト結ヒ米國ノ裏ヲカカントスル意嚮アルヤノ感想ヲ生セシムルカ如キコトナキ様御留意アリ度シ為念

二〇八 二月十六日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛 (電報)

米國提案ノ对中国新借款团問題ニ関スル幣原  
次官及アボット對談内容通報ノ件

第二一七号

二月十三日 Abbott 來省幣原次官ニ面会シ米國政府ノ提案ニ係ル新借款团组织問題ニ対スル日本政府ノ所見ヲ問ヒタルヲ以テ次官ヨリ本案ハ主義上可ナルモ実行上ニ於テ種々ノ困難ヲ伴フヲ免レス第一ニ露國銀行团ハ現四國团ノ一員ナルカ今回ノ提案ニハ露國团ヲ除外シアルヲ以テ當時在本

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二〇八

邦露國大使來訪ノ上本案愈々実行セラレ新借款团ノ成立ヲ見ルニ至ラハ露國团ハ如何相成ルヘキヤ万一露國团ノ權利特權ヲ無視セラルルカ如キコトアラハ露國側トシテハ抗議セサルヲ得サル旨申出テタルニ付自分ハ未タ此ノ点ニ対スル米國政府ノ意向ヲ知悉セサルモ少クトモ日本政府ノ関スル限り露國ノ正当ナル地位ヲ無視スルカ如キコトナカルヘキ旨口頭ニテ保障シ置キタリ第二ニ実業借款ヲモ新借款团ノ共同事業中ニ包含セシムトスル米國ノ提案ニ付テハ巨額ニ上ル借款ハ事實上政府ノ支持ナクシテ之ヲ引受クルモノナカルヘキヲ以テ政府ニ於テ如何様トモ監督ノ途モ存スレトモ小額ノ借款ニ付テハ政府ノ承知ニ入ラサルモノモアルヘク之等ヲ一切網羅シ新借款团ノ事業中ニ包含セシムルコトハ果シテ実行シ得ヘキコトナリヤ否ヤ疑ナキヲ得ス固ヨリ政府ハ予メ其ノ承知セサル借款ニ付テハ一切支持ヲ拒絶スルノ自由ヲ留保スル次第ナレトモ實際ニ於テ右借款ノ条項カ支那官憲ノ信義ニ依リ履行セラレス自國人ノ投資ニ不當ナル侵害ヲ受クルカ如キ場合ヲ生スルトキハ政府ニ於テ元來之ノ借款ヲ承知セサリシコトヲ理由トシテ支那官憲ノ不法処置ヲ黙過スルコトハ政府ノ職責上困難ナルヘシ



素ト六國団ノ共同範圍ハ実業借款ヲモ包含シ居リタルモノナルカ其後「クリスプ」借款ノ如キ銀行団所屬外ノ資本家ノ活動ヲ見ルニ至リ英國政府ハ之カ取締ニ窮シ去リトテ英國ノ如キ國柄ニ在リテハ資本家ノ全部ヲ借款団ニ強制的ニ網羅セムコトモ事實上不可能ナリトテ実業借款ノ分離ヲ提議シ關係各國ノ替同ヲ見ルニ至リタル歴史モ有之次第ニ付先般米國政府ノ提案ニ接シタル際日本政府ヨリ非公式ニ英國政府ノ意嚮ヲ質シタルニ英國政府ニ於テハ実業借款問題ニ付テハ大体先年同様ノ意見ヲ持シ之カ併合ニ對シ難色アルヤニ認メラレタルカ最近世界ノ狀勢一變セルヲ以テ之ニ伴ヒ実業借款問題ニ付テモ英國政府ノ所見ニ變更アリタルヤ否ヤハ未タ確聞スル所ナキモ要スルニ本件ハ一ノ困難ナル問題ナリ第三ニ option ヲ新借款団ニ引継ク件ハ現ニ本邦資本家ノ有スル一切ノ「オプション」ヲ引継カシムルコトハ到底行ハレ難カルヘク去リトテ只引継カシムヘキ「オプション」ノ範圍ヲ限定スルコトハ亦容易ノ問題ニ非ス例ヘハ延払ニテ物品売込ノ契約ヲ為ス場合ニ將來引続キ同様ノ注文アルコトヲ条件トシテ物品ノ價格ヲ差引クカ如キコトハ普通ニ行ハルル正当ノ商取引ナルカ嚴格ニ云ハハ之レ

### アボットトノ會談ニ關連シ米國提議ノ对中国新借款団問題ニ付正金銀行ノ意見開示ノ件

附屬書 右問題ニ關スル井上正金頭取ノ意見書

(巻紙)

拝啓過刻内話申上候アボットトノ話合ノ件々差上候間御覽被下御貴見ノアル処ハ明朝参趨得貴意度候 敬具

二月十七日

井上準之助

芳沢老台

侍史

(附屬書)

二月十七日井上正金銀行頭取ヨリ提出ノ意見書

米國提議ノ对中国新借款団問題ニ關スル件

米國政府提案新借款団ノ組織ハ各關係國共ニ支那ニ對シテ各事情ヲ異ニスルヲ以テ実行ニハ各國共ニ不尠困難ヲ感スレトモ已ニ各國ニ於テ主義上之レヲ認ムル以上ハ直ニ実行案ノ協定ヲ試ミルコトハ帰結ニ達スル捷徑ト考フル処ナリ一、現団体ハ解散セスシテ新ニ日米英仏ノ借款団ヲ組織スルコト

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二〇九

一種ノ「オプション」ヲ伴フ借款ナリ然ルニ政府ニ於テスルモノ迄モ提供ヲ強ユルコトハ困難ナルコト云フヲ俟タス以上三点ノ困難ハ日本政府ニ於テ米國ノ提案ニ応スルニ当リ相当ニ之ニ処スルノ方法ヲ講シ置カサルヘカラス蓋シ日本政府ハ一旦協定ニ同意スル以上ハ誠実ニ其ノ各条項ノ実行ヲ期セムトスルモノナルカ故ニ右実行ノ確信ナクシテ輕々ニ同意スルコトヲ得ス是レ本案ニ對スル回答ノ遅延スル所以ナリ尤モ米國提案ノ主義ハ自分一己トシテハ同感ヲ有スルモノニシテ目下以上ノ細目ニ亘リ困難ヲ排除スルノ方法ヲ講究中ナリト述ヘタル処 Abbott ハ日本当局ヨリ初テ親シク意見ヲ承知シ多大ノ Encouragement ヲ得タリ已ニ日本政府ニ於テモ主義上米國提案ニ賛成ナリトセハ此ノ上ハ關係各國ノ銀行家ヲ會合セシメ本件実行方ニ關スル商議ヲ進捗セシメテハ如何ト申出テタルヲ以テ次官ハ右ハ便宜ノ方法ト思考スル旨答ヘ置ケリ不取敢御含迄

註 右全文ハ二月十六日内田大臣発在米石井大使宛電報第一二

二号ヲ以テ転電セラレ且英仏伊ニ転電セシメラレタリ

二〇九 二月十七日 井上正金銀行頭取ヨリ

芳沢政務局長宛

現団体ノ解散ハ殆ト不可能ナリ何トナレハ第一改革借款契約ヨリ生スル公債ノ元利支払及塩税収入保管ノ如キハ公債所有者ニ對シテ勝手ニ他ニ譲渡スルコトヲ得サルナリ況ンヤ新団ニハ露國団体ヲ加入セシメサルヲ以テ彼レノ有スル義務ト利益ノ処分ニ付テハ一層ノ困難ヲ感スルナリ

次ニ現団体ハ解散セスシテ単ニ第一次改革借款ヨリ生スル公債利子ノ支払ト塩税収入保管ヲナス文ケノ団体トシテ存在セシムルコト

從テ現団体ノ有スル左ノ權利ハ悉ク新団体ニ譲渡スルコト

甲、政治借款

乙、塩税収入担保借款ノ優先權

丙、幣制借款

右ノ優先權ノ譲渡ニ付露國団体ノ抗議ニ對シテハ同団体ニハ各國ノ認ムル露國政府ノ成立ト同時ニ新団体ニ加入ヲ承諾スルコトノ確約ヲナシ置クコト

二、政治借款、經濟借款共ニ新団体ノ事業ニ含マシムルコト但次ノ条件ヲ附スルコト

一九九

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二二〇

甲、借款ハ直接中央政府地方府又ハ中央地方政府ノ保証アル会社及銀行ニ対スル借款ニ限ルコト

乙、借款ノ一口金(アボットハ五十万円ヲ主張ス)超エサルモノニシテ公衆募集ヲナサザルモノハ必スシモ新団体ノ業務タラザルコト

三、優先権ノ放棄

甲、各国政府ハ新団体ノ組織ニ付テハ其ノ国民ニシテ優先権ヲ有スルモノニ新団体ニ加入ヲ勧誘シ若シ加入ヲ諾セザルモノアルトキハ其ノ借款ノ性質ヲ調査シ其ノ資金ノ用途ヲ監督スルコト

乙、優先権ヲ有スル加入者ハ新団体ニ其ノ優先権ノ実行ニ要スル資金ノ調達及作業ト共ニ加入者自身之レニ当ランコトヲ留保スルヲ得之ノ場合ニ於テ団体ハ其ノ資金ノ支途ヲ監督スヘシ

丙、新団体ニ対シテ放棄シタル利権ハ必スシモ契約當事者ヲ變更セズ從來ノ儘ニ存在セシムルヲ原則トスルコト

鉄道並行線(競争線)ノ如キ場合ニハ契約一部ノ變更ヲ必要トシ或ハ二者ヲ合併シテ一トナスコトアル

二〇〇

可シ

丁、加入者ノ放棄スル利権ハ団体ニ於テ其ノ内容ヲ充分ニ調査シ其ノ結果不都合ノ点アルトキハ之レヲ拒絶スルコトアル可シ

戊、利権所有者資金調達者間、資金調達者双方間ノ關係ハ公平ニ処理スルモノトス

四、他団体員ニ代リテ資金調達ヲナシタル場合ノ団体員相互ノ關係ハ現団体間ノ規約及世界ノ各市場ニ於ケル同一ノ場合ノ慣例ヲ斟酌シテ之レヲ定ムルモノトス

(欄外註記)

「新借款団ハ条約上ノ權利ヲ妨クルモノニ非ザルコトヲ明ニスベシ」

二二〇 二月二十七日

幣原外務次官  
在本邦白國公使會談

对中国國際借款團再組織ニ関シ白國銀行団參加ノ希望申出ノ件

附屬書 同日白國公使提出ノ覚書

二月二十七日白國公使外務次官ヲ訪問シ本覚書ノ趣旨ヲ申入レタリ

de sa réorganisation.

(右和訳文)(註 仮訳文ナリ)

支那ニ於ケル國際借款團ノ作業ニ現実加入ノ目的ニテ Société Générale de Belgique 銀行主宰ノ下ニ白國銀行団組織中ナリ右銀行団ハ借款團再組織ノ為ニ開カルヘキ會議ニ参与センコトヲ希望ス

本使ハ右ノ次第ヲ帝國政府ニ通告スヘキ旨ノ訓令ニ接セリ白耳義ハ右借款團再組織ノ際實際之ニ加入ヲ容認セラルヘキ旨ノ保証ヲ白國政府ニ与ヘラレタルニ依リ本使ハ右白國希望ノ実行ニ関シ何等故障無キコトヲ期待ス

二二一 三月八日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

中国ニ関スル日米共同投資トアボット氏ノ使命ニ関スル原首相ノ声明ニ付通報ノ件

別電 同日内田外務大臣宛小幡公使宛電報

第三〇九号

右原首相ノ声明

第三〇八号

過般 Abbott 来朝ノ砌原総理ト會談ノ際同氏ハ对支投資ニ

白國財業者ハ實際本件出費ノ意思ヲ有スルヤトノ問ニ対シ公使ハ本覚書ニ Participation effective トアルニ依レハ右出資ノ用意アルモノト解セラル又事實ニ於テ白國ハ目下巨額ノ遊金ヲ有スト答ヘタリ

(附屬書)

二月二十七日在本邦白國公使提出ノ覚書

Un groupe de banques belges, sous la direction de la Société Générale de Belgique, est en voie de formation en vue d'une participation effective aux opérations du consortium financier international en Chine. Ce groupe désire être admis à prendre part aux réunions qui auront lieu pour la réorganisation du consortium.

Je suis chargé de notifier ce qui précède au Gouvernement Impérial. J'exprime en même temps l'espoir que la réalisation de ce désir ne rencontrera pas d'objection, puisque des assurances ont été données au Gouvernement Belge que la Belgique serait admise effectivement dans le consortium lors

関スル日米協同ノ希望ヲ述ヘ且日本政府ヨリ之ヲ声明セムコトヲ望ミタルヲ以テ三月八日別電ノ通り原總理ヨリ新聞紙上ニ於テ声明セリ

右別電ト共ニ上海広東ニ転電アリタシ

(別電)

三月八日内田外務大臣兼小幡公使宛電報第三〇九号

原首相ノ声明

第三〇九号 別電

支那ニ関スル日米共同投資ト「アボット」氏ノ使命ニ関スル原首相談

今般「アボット」氏ノ支那ニ赴クニ当リ世上ニハ往々同氏ニ於テ米國資本団ヲ代表シ日本ヲ疏外牽制シテ一大經濟的活動ヲ支那ニ試ミトスルノ計画ヲ有スルヤノ臆説ヲ伝フルモノナキニ非ス自分ハ其ノ無稽ノ流言タルヲ信シ今仍ホ日米兩國ノ離間ヲ事トスルモノアルヲ遺憾トス同氏ハ今回渡支ノ途次本邦ニ立寄りタル節自分トモ親シク面談シ対支投資ニ対スル日米ノ關係ニ付隔意ナク所見ヲ交換シ又外務、大蔵兩当局トモ同様腹藏ナキ会見ヲ遂ケタリ殊ニ同氏ハ自分ト会見ノ際米國銀行家ニ於テハ対支投資ニ付日米協

同セムコトヲ切望シ居レル旨ヲ述ヘタルカ支那ニ関スル日米協同投資ハ日本モ亦夙ニ切望スル所タルヤ申ス迄モナシ是レ實ニ日米兩國ノ為ニ等シク得策ナルノミナラス同時ニ支那ノ真正且永遠ノ利益ト合致スルモノナリ惟フニ「アボット」氏今回ノ極東來遊ハ日米兩國資本家ノ共同提携ニ一新時期ヲ劃セルモノト言フヘキナリ尙対支借款団ニ米國銀行団ノ復帰セムコトハ日本ノ予テ希望セル所ニシテ屢々米國側ニ勧誘ヲ試ミタルコトアリシガ「アボット」氏ノ來遊ハ本件ヲモ更ニ促進スル有力ナル動機タルヘシ

二一二 三月十日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛 (電報)

アボット氏芳沢参事官ニ対シ对中国企業ノ困難性ニ関スルケーリー等ノ所見ニ付談話ノ件

政送第三一号

John Abbott 來談ノ件

過般シカゴ大陸通商銀行副頭取 Abbott 來省ノ砌芳沢参事官ニ対シ「シームス、ケーリー」会社副社長「ヒッチコック」ト市加古ニ於テ会見シタル処「ヒッチコック」ハ「ア

ボット」ニ対シ自分ハ「ケーリー」社長トハ極メテ懇親ニテ同社長ヲ援ケテ業務ノ進捗ニ尽瘁シタルモ何分支那ニ於ケル企業ノ甚タ困難ナル為メ今般右副社長ヲ辞スルニ至リタル旨語リタル趣並ニ「シアトル」滞在中ノ「ケーリー」ヨリ桑港滞在中ノ「アボット」ニ対シ「シアトル、ボースト、インテリジェンサー」紙所載「ケーリー」ノ談話切抜ヲ送タル趣ヲ述ベ「ケーリー」ハ支那ニ於テ着手シタル事業ニ厭氣ヲ生シタルモノノ如キ旨内話致候趣ニ有之候処前記「ケーリー」ノ談話「アボット」ヨリ借受ケ別紙ノ通写取何等御参考迄及御送附候也

註 別紙省略

二二三 三月十一日 在本邦米國大使館ヨリ  
日本外務省宛

对中国借款団ノ實際の運営方ニ関シテハ包含セラルベキ借款及優先權ニ付關係四國財團間ニ於テ商議スルヲ捷徑トスベキ旨申越ノ件

Aide-Memoire.

The American Embassy has been instructed to advise the Imperial Japanese Government that, as

三 对中国新借款団組織ニ関シ米國提議ノ件 二二三

a result of various conferences in regard to the practical working of the proposed international consortium for China business, the suggestion has been made that questions as to what loan agreements should be included and what options surrendered, might most easily be settled by negotiations among the four financial groups concerned; their conclusions, however, to be of course subject to the approval of their respective Governments. This suggestion has received the approval of the American Government which has advised the representative of the American Group to that effect.

The Embassy has further been instructed, in communicating this information to the Imperial Japanese Government, to request that, if it perceives no objection to the procedure proposed, it should take similar action in regard to the Japanese financial group.

Tokyo, March 11th, 1919.

(欄外註記)

「三月十七日米國大使持参」

二二四 三月十三日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛

原首相ト「アボット」氏トノ対談要領写送付

ノ件

附屬書 右対談要領

政機密送第三六号

原総理大臣に於テ「アボット」氏トノ会談ニ基キ对支投資  
ニ付日米共同方声明アリタル次第ハ往電第三〇八号ヲ以テ  
及御通報置候処右会談ノ要領ハ別紙写ノ通りニ有之候間委  
曲右ニテ御承知相成度此段申進候也

(附屬書)

別紙写

大正八年二月十七日原首相ト「アボット」氏トノ対談

要領

アボット 本日ハ御多用中会见ノ機会ヲ与ヘラレ親シク閣  
下ノ御意見ヲ拝聴スルコトヲ得ルハ誠ニ以テ光榮トスル  
次第ナリ自分ハ米國对支投資団ヲ代表シ今回支那ニ赴任

スルノ途ニ在ル者ニシテ過日米貴國大藏大臣外務次官及  
民間銀行家各位ニ面晤ノ機ヲ得对支投資ニ対スル日米ノ  
關係ニ付テ夫々意見ヲ交換シタルガ只今閣下ヨリモ此問  
題ニ付御高見ヲ拝聴スルコトヲ得ハ光榮ノ次第ト存ス

首相 貴下ノ来朝セラレタル件ニ関シテハ過日米大藏大臣  
並ニ外務次官ヨリ詳細聴及ビタリ偕对支投資ニ付テ日米  
兩國ガ最モ親善ナル關係ヲ保チ互ニ共同シ行クコトハ政  
治上經濟上何レノ点ヨリ觀察スルモ最モ必要ナルコトニ  
シテ賛成セザルヲ得ザル所ナリ自分ハ過般内閣組織以來  
此大体方針ヲ以テ支那及「サイベリヤ」ニ関スル諸問題  
ヲ処理シ居ルモノナリ当初ハ此等ノ問題ニ付テ多少日米  
間ニ意見ノ相違モアリタレドモ自分ノ就任以來日米間ニ  
完全ナル了解ヲ得ルコトヲ力メ最早今日ニ於テハ着々其  
目的ヲ達シタル次第ナリ此事ハ貴國大使「モリス」氏  
ニ御尋ネアラバ詳細ノ現状ヲ解スルコトヲ得ラルルナル  
ヘシ

アボット 只今ノ御話ヲ承リ自分ニ於テモ満足ニ存ズ、偕  
支那ノ現状ニ於テハ或ル經濟上ノ目的例ヘハ煙酒專売ノ  
如キモノヲ担保トシテ茲ニ或ル借款ヲ起シ支那ハ仮リニ

此借款金ヲ交通銀行ナド云フ如キ銀行ニ預入シタリトセ  
ン然ルニ今日ノ狀態ノ下ニ在リテハ右ノ如キ資金モ支那  
政府ハ直ニ之ヲ引出シテ他ノ目的ニ之ヲ流用スル様ノコ  
トトナリ折角經濟上ノ為ニ之ヲ得テモ經濟其物ノ為ニ用  
ヒラレズシテ或ハ大官其者ノ私用ニ供セラレ或ハ政治上  
討伐費ニ充テラルル現状ニアラズヤ就テハ今後新ニ支那  
ニ借款ヲ起サントスル場合ニハ予メ支那ノ財政制度ヲ改  
善シテ其得タル資金ヲ濫用セシメザル様ニ為サザレバ多  
大ノ苦辛モ寸効ナキニ了ルベシ就テハ如何ナル順序方法  
ニヨリテ支那ニ借款ヲ起サシムヘキモノナル歟是レ予メ  
今日ニ於テ大イニ研究シ置カザルベカラザル問題ナリト  
思惟スルガ之ニ対シ閣下ノ御高見如何

首相 貴説ハ誠ニ御尤モノ義ト存ス、抑モ支那ニ於テ最モ  
緊要ナリトスル問題ハ政治上先ヅ第一ニ南北妥協ヲ計リ  
統一アル政府ヲ建設スルコトニアリ是レ支那ノ財政制度  
改善ヲ画ル前ニ当リ先ヅ以テ着手セザルベカラザル最大  
急務ナリトス即チ支那ニ統一アル政府ヲ建テテ後始メテ  
財政制度ニ及ボスベキモノナリト思考ス以上ノ理由ニ基  
キ自分ハ就任以來各國政府ト共同シテ南北ノ妥協ヲ支那

ニ勧告スルコトトシ此妥協ノ成立スル迄ハ新ニ借款ニ応  
ゼザルコトニ決シタルガ支那モ之ヲ諒トシ目下上海ニ於  
テ南北妥協ノ協議ニ尽力中ナルヲ以テ不遠其效果ヲ見ル  
ニ至ルベシト信ズ、偕南北ノ妥協愈々成立ノ曉トモナラ  
バ相当ノ方法ヲ設ケタル上ニテ支那ニ借款ヲ起サシムル  
コト必要ナルベシ夫ニハ支那財政機關ノ改善ニ付各國相  
當之ニ干涉シテ援助ヲ与ヘザル限リハ支那人自身進ンデ  
財政ヲ改善スベキコトハ覺東ナキ義ト思ハル去レバ矢張  
相当ノ方法ヲ立テテ支那ノ財政ヲ監督スルコト必要ナル  
ベシ夫ニ付テハ各國ガ協議シテ一定ノ方針ヲ定ムルノ要  
アルベシ自分ノ考ニテハ支那投資ノ問題即チ財政上援助  
ニ付テノ問題ハ各國ノ代表者倫敦若シクハ巴里ニ会シ各  
般ノ事項ヲ解決スル必要アルベシト予想ス

アボット 御高説ヲ拝聴御同感ニ存ス偕自分ハ二年前支那  
ニ対シ五百万米弗ノ借款ヲナシタルガ其當時此借款ノ用  
事ヲ帯ビテ支那ニ赴キ其後二千五百万弗乃至参千万弗ノ  
借款ヲ支那ニ起サントスルノ協議ヲナシタリ右ハ當時米  
國ガ全ク单独ニ支那ニ交渉シタルモノニシテ支那人モ之  
ヲ以テ全然貴國トハ何等ノ關係ナキモノナルコトヲ了解

シ居レリ然ルニ今回自分ガ貴國ニ参リ段々貴國ノ有力ノ方々ヨリ日米協同投資ニ関スル御希望モ承リ又我が代表スル米國ノ銀行家ニ於テモ其目的タルヤ支那ニ於テ只經濟發展ノ為メニ資金ヲ投スルモノニシテ他ニ何等ノ野心ヲ保藏スルモノニアラズ常ニ公明正大ナル方々ニヨリ種々ノ事業ヲ進行セントスルノ希望ヲ有スルモノナルガ故ニ素ヨリ单独ニ之ニ資金ヲ供給スルコトハ何等ノ差支ナキモ元來米國銀行家ニ於テモ貴國ト同シク熱心ニ日米ノ協同ヲ希望スルモノナルガ故ニ今回日米協同ノ事ヲ予メ支那政府及同國人ニ声明スルコト最モ有益ナルベシ勿論此協同ノコトヲ声明スルトセンカ米國側トシテハ事業ノ進行上種々ノ障害ヲ増スヘキコトハ予メ覺悟セサルヘカラサルコトナルガ日米間ガ既ニ共同ノ意味ヲ有スル以上ハ明瞭ニ之ヲ声明シ置クコト此際最モ必要ナルヘキコトト信ス就テハ自分ヨリ之ヲ声明スルコトハ如何ノ義カトモ思ハルル故自分ガ北京到着ノ前ニ予メ貴國政府ニ於テ支那ノ官民ニ対シ此事ヲ声明セラルル手段ヲ講セラレンコトヲ希望スル次第ナリ

首相 御希望ハ誠ニ御尤モナリ当方ニ於テ相当ノ手段ヲ以

ナルガ故ニ自分ハ此際之ヲ打破シテ列強ノ為メ並ニ支那開發ノ為メ真実利益アル政策ヲ確立シテ彼ノ國ヲ救済スルノ途ヲ講スルコト此際最モ肝要ナリト思フ之ニ付日米間ニ腹藏ナク協議ヲ進ムル必要アルヘシ

首相 右ハ至極同感ナリ

アボット 自分ハ忌憚ナク御尋ネ致度キ儀ハ風説ニヨレハ日本ハ支那ニ參千万円ノ借款ヲナシ支那政府之ヲ引出シ内乱關係ニ之ヲ用ヒ居ルトノコトナリ次ニ又日本ハ軍器供給ノ契約ヲ結ビ之ニヨリ兵器ヲ供給シ居ルトノ噂アルガ右ハ果シテ事實ナルニヤ

又現内閣ノ成立後ハ内乱ノ為メニ借款ヲ諾セラレザル方針ナリト聴及ヒシカ貴政府ニ於テ支那ガ金員ヲ引出スコトヲ制限セラルル様ニ仕向クルコトハ不可能ナルカ例ヘハ右ノ借款ハ鐵道ト言フ名義ナルヲ以テ其以外ノ費用ニ流用スルコトヲ貴政府ニ於テ取締ラルルコトハ不可能ナルカ

首相 御尋ネノ參千万円ノ借款ナルモノハ前内閣ニテ為シタルモノニシテ現内閣ハ内乱ニ関スル借款ハ一切之ヲ受理セス前内閣時代ノ借款ハ支那政府直チニ之ヲ引出シ銀

テ貴下ノ御希望ヲ満タス方法ヲ講スヘシ  
貴下ハ何日頃迄当地ニ滞在セラレ又支那ニハ何月頃迄逗留ノ予定ナルヤ

アボット 自分ノ秘書明日伏見丸ニテ横浜着ノ予定ナル故同人ト共ニ上海經由北京ヘ赴ク積リナリ從ツテ当地発ハ三四日内ナラン又北京逗留日数ハ尠クモ二箇月乃至六箇月ヲ要スルナルヘシ兎ニ角目的ヲ達スル迄ハ北京ニ逗留スル積リナリ即チ北京ニ於テハ種々投資ノ調査ヲナシ同時ニ支那大体ノ研究ヲナサント欲スルナリ然ルニ東洋ト西洋トハ人情風俗非常ニ相違セルヲ以テ東洋ノ事情ヲ西洋人ガ十分理解スルコトヲ得ルヤ否ヤ覺束ナキ感ナキ能ハズ加之支那人ガ胸襟ヲ披キテ己レノ心理状態ヲ他人ニ伺ハシムルコトヲ許スヤ否ヤ之モ亦六ヶ敷コトナルヘシ

首相 御説ノ通り支那ニテ事物ヲ研究シテ真相ヲ得ルコトハ困難ナリ特ニ支那人ハ是迄トモ一ノ外國ト他ノ外國ト利害ノ衝突ヲ起サシメ之ヲ利用シテ兩々相制セシムルコトガ彼國外交術ノ慣用手段ナル故貴下今回ノ御研究ニモ之ヲ念頭ニ置カレ其真相ヲ逸スルコトナキヲ希望ス

アボット 支那ガ其外交術ヲ弄スルコトハ古代ヨリ其宿弊

行ノ普通勘定ニ移シタリ御承知ノ通り一度銀行ノ勘定ニ移レハ政府ノ力ヲ以テ其金ノ引出ヲ制限スルコト能ハス斯クノ如クシテ支那政府ハ之ヲ引出シタル次第ナリ次ニ軍器借款ハ契約ノ締結ハ有之タレトモ今日ハ中止中ナリ

アボット 貴答能ク了解シタリ自分ハ銀行家ナル故資金ガ一度ビ銀行ノ普通預金ニ移サルル時ハ政府ノ命ヲ以テ之カ引出ヲ束縛スルコト能ハサル儀ハ能ク了解シ得ルナリ更ニ伺ヒ度キ義ハ北京ニテ西原ガ種々ノ借款ノ契約ヲ為シタルコトナルガ西原ノ契約ハ日本政府ニ於テ之ヲ維持シテ夫々完結セラルル方針ナルヤ

首相 西原ハ一箇人ノ資格ニテ北京ニ滞在シ居リタリ今ハ其所在ヲ知ラス彼ガ結ヒタリトノ借款契約ハ日本ノ銀行団ト支那政府トノ間ニ締結セラレタルモノニシテ日本政府モ認メテ以テ之ヲ維持スル方針ナリ自分ノ考ヘニテハ本契約ヲ締結スルノ時ニ際シ之ニ相当ノ注意ヲ加フル時ハ契約ノ主体タル各事業ハ總テ支那ノ經濟發展ニ有益ナルモノナル故此契約ノ実行ヨリ生スル結果ハ支那ノ經濟上發展ニ裨益スル大ナルモノアルヘシト信ス

アボット 自分ノ恐ルルコトハ前内閣ニテ結ハレタル借款

ノ担保品ハ支那ニ存在スル重立タルモノヲ網羅シ尽シ最早今日トナリテハ其他ニ見込アルモノ存在セサルニハアラサル歟御考ヘ如何

首相 成程北部ニ存在スル担保物ハ幾分カ少クナリシヤモ知レス然レトモ南部ニハ未タ手ヲ触レサルヲ以テ一旦南北妥協ノ曉ニハ南部ニハ有望ナル事業多ク且支那ハ邦土広大ナル国ナルヲ以テ其他ニモ相当有利ノ事業多カルヘク自今貴下ノ研究ヲ進ムルニ從ヒ相当有利事業ヲ発見セラルコトハ必ス可能ナルヘシ且又支那人側モ有利ナル事業ヲ提供シ借入金ヲ為スニハ機敏ナル人民ナル故支那ニ於ケル事業ノ前途ハ有望ナリト思フナリ

アボット 種々有益ナル御話ヲ謝ス重ネテ復真面目ニ願度儀ハ前談申上ケタル通り自今米國ノ資本団ガ日米協同シテ支那ニ投資スル希望アルコトヲ支那ニ声明スルコト望マシケレハ其レニ付日本政府ニ於テ適當ナル手段ヲ講セラレンコトヲ懇願ス自分ヨリ指図ガマシク陳述スル意味ニハ無之キモ支那ニ之ヲ声明セラルル前ニハ予メ米國政府英仏政府ニ夫々御打合セアルコトガ或ハ必要ニハアラスナルナキ歟此辺何卒宜シク御配慮ヲ煩ハシ度シ

軍需品ノ製造及船舶ノ後始末ニ関シ

アボット氏ヨリ詳細ノ報告アリタリ

二二五 三月十四日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

アボット訪中ノ使命ニ関スル米國公使ノ説明  
報告ノ件

第三六二号 (三月十四日接受)

貴電第三四二号ノ件米國公使ニ面会ノ上当方希望トシテ申入レタル処同公使ハ実ハ最近ノ当地新聞紙上ニ於テ「アボット」ノ使命ニ関シ種々ノ取沙汰伝ハリ窃カニ誤解ノ生ゼンコトヲ恐レ一ノ statement ヲ出サンカト思ヒ居リタル処ナルニ付旁々「アボット」ノ使命ハ米國將來ノ活動ニ資スル為専ラ支那ノ財政状態調査ノ為ニシテ (不明 financial investigation of China for the future American action) 決シテ現在直チニ事業ニ着手セントスル意嚮ナク特ニ財政顧問ニ応聘云々ノ如キハ「アボット」ノ念頭ニ於テ想像タモ為シ居ラレサル処ナル旨ノ意味ヲ公表スル積リナリト答ヘシニ付右ハ至極我方ノ希望ニ適ヒ適當ノ措置ト思考スル

首相 其レニ付テハ夫々相當ノ手段ヲ講スヘシ  
アボット 今日ハ閣下ノ貴重ナル時間ノ割愛ヲ被リ如斯御高見ヲ伺ヒタルヲ感謝ス尚ホ米國ノ現状ニ付御尋ネノ儀アラハ自分ノ知ル限りハ御答弁申上クヘシ

首相 支那ハ列國ヲ離間スルコトヲ力メ其間ニ乗シ仕事ヲ為サントスル方針ニシテ今日モ日米間ヲ離間スルニ力ムル様子見ユ現ニ紐育ニテハ支那政府ノ後援アル(エージエンシー)アリテ専ラ日米間ノ親交ヲ疎害スル報告ヲ捏造シツツアリテ東洋ノミナラス巴里ニ於ケル講和會議ニ迄モ種々ノ惡影響ヲ及ボスコトニ努力シツツアリ如斯ク支那側ノ希望トスル所ハ可成日米ヲ相反目セシムルニアリテ今回ハ大ニ米國ヲ利用スルコトガ其目的ナル如シ如斯キ事情ヲ熟知シタル上ニテ支那ニ臨ムニアラサレハ思ハヌ不覺ヲ日米協同事業ノ上ニ生セストモ期シ難シ  
アボット 紐育ニ於ケル(エージエンシー)ニ付テハ始メテ承ル所ナルガ自分モ支那ニ於テ日米ヲ反目セシムル企テアルコトハ承知シ居レリ此点ニ付テハ將來十分注意ヲ怠ラサルヘシ

其他米國ノ經濟上ノ現状及兵員ノ復員

旨答ヘ置ケリ

二二六 三月十四日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

アボット訪中使命ノ實際ハ一般人士ニ与ヘタル感想トハ相違ノ廉アル旨稟報ノ件

第三六八号 (三月十五日接受)

「アボット」ノ使命ニ関シテハ貴電第三〇八号来示ノ外往電三六二号米國公使ノ本使ニ対スル所説ニ顧ミルモ当地ニ於テ此際直ニ单独行動ニ出ヅル如キコト無之ト思料セラルル処三月十四日「アボット」ノ武内ニ語リタル所ニ拠レハ其使命ニ関シ本邦ニ於テ我朝野ノ人士ニ与ヘタル感想トハ頗ル相違ノ廉アリ就テハ委細武内ヨリ本店ヘノ電報ニ付御了悉ノ上新団体組織ニ関スル我方ノ意向ヲ速ニ確定セラルルコト必要ナルヘキト同時ニ同問題カ英仏兩國側ニ於テ順調ニ進捗シツツアリト「アボット」ノ所説ニモ鑑ミ一面右兩國側ノ意向ヲ充分確メラルルコト肝要ナルヘシト思考ス尚上記「アボット」ノ談話ニ付テハ其内機會ヲ捉ヘ本使ヨリモ直接同人ノ意向ヲ探究スヘキハ勿論一方更ニ米國公使ニ会见篤ト懇談ヲ重ネタキ所存ナルモ前記ノ次第不取敢

貴聞ニ達シ置キタシ

二二七 三月二十一日 中村正金銀行副総支配人ヨリ  
内田外務大臣宛

武内副総支配人ヨリノアボットノ使命ニ関ス  
ル報告を送付ノ件

附屬書

三月十五日付在北京武内正金副総支配人ヨリ同  
本店頭取宛書信写  
アボットノ会談ニ関スル件

大正八年三月二十一日 (三月二十四日接受)

横浜正金銀行

副総支配人 中村錠太郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

拝啓左記ノ件ニ付別紙写ノ通り北京ヨリ報告越候間玆ニ供  
御内覧候 敬具

一、Abbott 氏ト会見ニ関スル件(三月十五日  
特第ハ/十四号)

(附屬書)

別紙写

約束ニ御座候要スルニ米國團ノ方針ハ Abbott 一人ノ言動  
ニ依リ決定シ得ベキニ非ズトスルモ本邦側ニ於テ主義上米  
國團ヲ歓迎スル意向ナル上ハ当地四國団代表者ニ於テ勿論  
Abbott ト団体組織ノ協議ヲナス事ハ不可能ナルモ個人的  
ニ意見ノ交換ヲナスハ無益ノ業ニモ無之カト存居候他代表  
者ノ意向モ同様ニ感ゼラレ候

尚 Abbott 談話中米國團ハ固ヨリ其申出ヲ固執スルノ主意  
ニ非ズ四國団ニ於テ主義上同意ナル上ハ Option ヲ共同ニ  
スル程度、包括セラルベキ Industry ノ範圍等ニ付テハ各  
団体代表者ニ於テモ充分ノ詮議ヲナシ關係者ニ最モ公平ナ  
ル所ニ決定スルコトハ米國團ノ主意トスル事モ明言致居候  
右電信中略シ候所モ有之乍序得貴意候 拜具

二二八 三月二十六日 在英国永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英国政府ハ对中国新借款団ニ関スル米國提議

ニ賛同ノ旨通告越ノ件

別電 同日永井臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第  
一三八号

三月二十二日付右通告ノ趣旨

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二二八

特第ハ/拾四号 大正八年三月十五日

北京 武内金平

頭取席 御中

拝啓陳バ Abbott 会見ニ関シテハ公使トモ相談ノ上不取敢  
要領御電報申上ゲ御承知相成候事ト存候

米國公使ノ小幡公使ニ語リタル所又 Abbott 自身ガ他ノ方  
面ニ言明シタル所モ唯当地ノ事情実見ニ参リタル様申居候  
ヘ其他ノ方面ノ内報ニ依レバ支那政府筋ヨリ借款ノ担保ト  
シテハ何ヲ提供スベキヤトノ質問ニ対シ同人ハ鉄道ハ最モ  
適當ナラントノ答ヲ為シタリト云フガ如キ說モアリ又或ハ  
同人ノ来京ハ新団体ノ成立ヲ速進セシムル下心ナリ等トカ  
種々ノ說アリ兎ニ角同人行動ハ銀行団代表者並ニ一般ノ注  
意ヲ引キ居リ候 Hillier ハ対米國團ノ關係ニ付テハ団体本  
部ヨリ余リ報告ニ接シ居ラズ St. Pierre ハ今迄ニ入手シ  
タル報告ニ依レバ仏國政府ハ米國政府ニ質問ヲナシタル程  
度ニ止マル由ニテ何レニセヨ米國團對四國団交渉ハ何カ適  
当ナル筋合ヲ脱シ自然其ノ間誤解モアリ得ベキ筈ナリト申  
居候同人モ今明 Abbott ト懇談ヲ試ミ其ノ模様内報スルノ

第一三七号 (三月二十七日接受)

英國政府ハ別電第一三八号ノ趣旨ヲ以テ支那放資新銀行団  
組織ニ関スル米國ノ提議ニ賛同スルコトニ決セルヲ以テ本  
國政府ニ通告有度キ旨三月二十二日附本官宛通牒シ来レル  
ガ本件ニ関シテハ尚ホ当局者ニ質問ノ上追電スル所有ルベ  
キモ不取敢。

在米、仏、伊各大使ヘ転電セリ。

(別電)

三月二十六日永井臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第一

三八号

三月二十二日付英國政府通告ノ趣旨

No. 138 betuden

The American scheme, as understood by His  
Majesty's Government, may be summarised as fol-  
lows:

1. It is proposed to establish a system of inter-  
national cooperation in Chinese finance in the shape  
of a Four Power Consortium, comprising Great  
Britain, France, the United States of America and  
Japan, each Power constituting a representative

group of Banks and Financial Houses, without prejudice to the claims of Belgium and Russia to be included at a later date.

2. The Four Groups will share equally in all Chinese Government guaranteed loans, industrial as well as administrative and financial, which involve a public issue, but financial operations not involving a Chinese Government's guarantee or a public issue will remain open to all.

3. The Groups will pool all existing and future options, except such concessions as may be already in operation.

4. Each national group will receive active and exclusive support of its Government in the sphere thus indicated.

It is fully realized by His Majesty's Government that the acceptance of these proposals involves complete reversal of the policy adopted by His Majesty's Government in 1913 when it was decided to

promise of support by His Majesty's Government applies solely to the financial side of such loans, and that the British group is prepared to dissociate itself from the industrial side, and while providing for the flotation of the loans, to put up to public tender the contracts for the execution of the engineering or other works to be built out of the proceeds of the loans and for the supply of the necessary materials.

On these conditions His Majesty's Government have authorized the British group to participate in the operations of the proposed International Consortium and have guaranteed to it exclusive official support as regards all future public loans to China which involve a Government guarantee and public issue, whether for industrial, administrative or financial purposes. At the same time, I must add that any financial assistance to China on a large scale from this country cannot be looked for at the present

exclude industrial loans from the scope of the Consortium's activities, but so convinced are His Majesty's Government of the urgency, in the interests not only of China herself, but also of foreign trade and finance, of adopting some system to ensure the proper control of loans to the Chinese Government, that they have determined to depart from their previous attitude and to authorize on certain conditions participation of a British group in a Consortium constituted on the lines suggested by the United States Government.

These conditions comprise the enlargement of the British Group in such a manner as to make it representative of the banks and financial houses of this country interested in loans to China and the pooling by the various members of the group of all their existing as well as future options for such loans. Further the inclusion of industrial loans in group business is subject to the understanding that the

moment, as, having regard to the heavy pressure on the capital resources of this country for reconstruction purposes and to the consequent restrictions imposed on capital borrowing in the London market, His Majesty's Government have only been able to assent to British participation in the Consortium, on the understanding that any loan to China in the near future must be of very moderate dimension and that the share of the British group should be carried temporarily by the Japanese and United States Groups.

Nagai

二一九 三月二十七日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新財団ノ目的中ニ実業借款包含問題ニ関スル

英國ノ意向ニ付ローズ談話ノ件

第四七六号

三月二十六日往電第三七五号「ローズ」徳川ヲ来訪ノ際徳川ヨリ新財団ノ目的中ニ実業借款包含ノ件ニ関スル米國ノ



提議ニ対スル英國政府ノ意向如何ヲ尋ネタル処「ローズ」ハ英國政府ヨリ何等の確ナル回答ヲ与ヘタルヲ聞カズ要スルニ改革借款ヨリ実業借款除外ノ際ノ歴史ニモ鑑ミ所謂実業借款トハ主トシテ鉄道借款ヲ眼中ニ置クモノナルベキモ該問題ノ帰趣ハ要スルニ鉄道問題ノ決定如何ニ依ル次第ニシテ米國側ニ於テモ右様了解シ居ルモノト信ズト述ベタル趣ナリ御参考迄

註 右全文ハ三月二十九日内田外務大臣発第二二三号ヲ以テ在米國石井大使ニ電報セラレ英仏伊ヘ転電セシメラレタリ

二二〇 三月二十八日 在英國永井臨時代理大使ヨリ内田外務大臣宛(電報)

米國提議ノ对中国新借款团ニ英國加入ニ関シ極東部長内話ノ件

第一四四号

(三月二十九日接受)

往電第一三七号ニ関シ新四國团英國加入ニ付極東部長内話要領左ノ通

(一)実業借款包含ハ從來内話シ置ケル如ク望マシカラズ思考シタルモ外相代理ハ自カラ講究セラレタル後米國ノ希望ニ添フコトナリタリ但シ同借款ニ関スル条件ヲ厳ニシタレ

第一一九号

客年貴電第一〇七五号ニ関シ

先般 Abbott 来省幣原次官ト会谈ノ次第ハ本省発在米大使宛往電第一二二二号ニテ御承知ノ通りナルカ其後三月十七日在本邦米國大使来省次官ニ対シ別電第一二二〇号覚書ヲ手交シタル処元来新借款团组织ノ件ハ帝國政府ニ於テ主義上同意ナルモ之カ実行上種々ノ困難且複雑ナル問題ヲ包含スルニ付此等問題ノ解決方法ヲ案出セシメンガ為今前回記米國政府提案ノ通り各國政府ノ承認ヲ条件トシテ關係各國銀行家間ニ所見交換ヲ試ムルコトハ極メテ有益ナルヘント思考ス本件ハ英仏兩國ニ取リテモ重大ノ關係アルヲ以テ帝國政府ヨリ右米國政府ノ提案ヲ応諾スルニ先チ現借款团所屬國タル英仏兩國政府ニ於テ異存ナキヤヲ確ムルコト当然ノ順序ト認ムルニ付貴官ハ任國当局ニ対シ以上ノ次第可然説明ノ上其意嚮ヲ確メ回電アリタシ尚米國政府ヘハ右ノ通り關係各國政府ニ問合中ノ旨不取敢回答シ置ク筈ナリ右別電ト共ニ訓令トシテ仏ニ参考ノ為米ニ転電アリタシ。

註 1 日本外交文書大正七年第二冊上卷二六六文書

2 前掲二二三文書末尾ノ欄外註記参照

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二二二

バ議會ノ攻撃ハ緩和シ得ル考ナリ  
(二)「クリスピー」借款ノ如キ事件再発ノ懸念モアルベキモ兎ニ角本決定ハ之ヲ断行シ必要ニ応シ臨機ノ策ヲ講スルコトトセリ

(三)提供スベキ「オプション」ト提供セザルモノトノ區別ハ各場合借款团ニテ決定スヘキモ現ニ著手サレ居ラザルモノハ之ヲ「オプション」ト認ムヘキモノト思考ス

(四)Financial side ト Industrial side トヲ截然區別スルニ困難ナキヤノ問題ハ相当講究ヲ遂ケ「モルガン」氏ヨリノ説明モ差支ナシトノ結論ニテ之ヲ別クルコトトセリ  
(五)露國团ノ加入ハ同國ノ現状ニ鑑ミ近キ将来トモ思ハレザルニ付露國团ニ関スル諸問題ノ如キハ愈々ノ時ニ講究スルコトトシタク白國团ニ関シテハ帝國政府ヘ申入レノ為メ別ニ在本邦英國大使ヘ電命セリ  
在米、仏、伊各大使ヘ転電セリ

二二一 四月二日 内田外務大臣ヨリ在英國永井臨時代理大使宛(電報)

新借款团组织ニ関スル米國提案ニ付英國政府ノ意向確メ方訓令ノ件

3 別電第一二二〇号ヲ省略ス右ハ前掲二二三文書ト同文ナリ

二二二 四月二日 日本外務省ヨリ在本邦米國大使館宛

对中国借款团ノ實際の運営方ニ関スル米國申越ニ対シ回答ノ件

覚書

帝國政府ハ米國大使閣下ヨリ対支新借款团组织問題ニ関シ千九百十九年三月十一日附覚書ヲ受領セル処元来本件ハ帝國政府ニ於テ主義上同意ナルモ実行上種々ノ困難且複雑ナル問題ヲ包含スルニ付此等問題ノ解決方法ヲ案出セシメンガ為米國大使閣下覚書所載ノ通り各國政府ノ承認ヲ条件トシテ關係各國銀行家間ニ所見交換ヲ試ムルコトハ極メテ有益ナルベント思考ス尤モ本件ハ英仏兩國ニ取リテモ重大ノ關係アルヲ以テ帝國政府ヨリ米國政府ニ右確答スルニ先チ現借款团所屬國タル英仏兩國政府ノ意嚮ヲ確ムルコト当然ノ順序ト認メ之必要ノ措置ニ出テタリ右不取敢米國大使閣下ニ内報シ置カムトス

二二三 四月二日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国新借款团ニ関シ仏國銀行団代表者ノ小  
田切ニ対スル内話報告ノ件

講第四八六号

(四月四日接受)

支那新借款団ニ関シ三月三十一日仏國銀行団代表者 Stanislas Simon ガ当地滞在ノ小田切ニ語ル所左ノ通り  
米國政府ノ提議ニ係ル支那新借款団組織ノ件ニ対シテハ仏國政府ハ既ニ主義上ノ同意ヲ表セリ、予ノ私見トシテハ右新借款団成立ノ上ハ現在借款団ノ有スル対支政治借款契約ノ權利、義務ヲ其儘一併継承スルノ外、經濟借款ニ付テモ今後ノ分ヲ引受クルコトトスベキモノト考フルモ其範圍ニ付テハ今後ノ鐵道借款ニ限ルコトスルヲ至当トスベシ從ツテ小田切ノ指摘セル欽渝鐵道ノ如キハ既ニ著手済ナルヲ以テ其範圍外タルヘク尚新借款団ノ規約ハ關係諸國政府ノ承認ヲ要スルヲ以テ露國側ノ加入ハ他日ニ譲ルコトトセバ可ナルベク又巴里ニ於テ非公式団体会議ヲ開クモ一案ナルベシ云々

在英、米、伊各大使ヘ転電セリ

ノハ Option ト認ムトアルカ其ノ「着手」トハ如何ナル意味ナリヤ

(二) Financial side ト industrial side トノ區別ハ(イ)総テノ實業借款ニハ右ノ兩面アルモノト看做シ financial side トハ借款募集ノミニ関スル一面ヲ指シ industrial side トハ右募集金額使用ニ関スル一面例ヘバ工事材料供給受負ニ関スル約款又ハ契約ノ類ヲ指スモノニシテ右「インダストリアル、サイド」ニ付テハ借款団ニ於テ直接引受クルコトナク一般競争入札(パブリック、テンダー)ニ附シ即チ借款団以外ノ者ヲシテ引受ケシムルコトニ異議ナシトノ趣意ナリヤ元來資本家力實業借款ヲ引受クルニ方リテハ其借款ノ用途タル工事又ハ材料供給等ヲモ自ラ引受クルコトニ依リテ生スヘキ利益ヲ予想スルヲ常トスル処今回英國提案ノ趣旨ニシテ前述ノ通ナリトセバ借款引受ノ資本家ハ予メ工事引受又ハ材料供給等ニ基ク利益ノ配当ヲ工事又ハ材料請負人ト協定スルコトト為スノ趣旨ナリヤ將又(四) industrial 及 financial ハ何レモ實業借款中ノ小区分ニシテ即チ industrial loans ト financial loans トヲ區別スルノ意ナルヤ若シ然ラハ兩種ノ借款ハ如何ナル標準ニ依

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二二四

二二四 四月八日 内田外務大臣ヨリ  
在英國永井臨時代理大使宛(電報)

对中国新借款团ニ関スル英國政府ノ通牒ニ付  
先方当局ノ説明取付方訓令ノ件

第一二七号

貴電第一三七号ニ関シ

本件ハ英國政府通牒ニ対シテハ目下研究ヲ重ネ居レルカ不取敢貴官ノ思付トシテ左ノ諸点英國当局ニ問合ハセ其説明ヲ取付ケ回電アリタシ

(一)英國政府ノ通牒中新借款団加入資本家ノ一切現存及将来ノ優先權ノ Pooling ト有之処(イ)将来ノ優先權トアルヲ以テ見レバ将来ニ於テモ資本家力借款団ノ名義ニ依ラスシテ单独ニ優先權ヲ獲得スルヲ妨ゲズ唯其ノ優先權ハ獲得ノ上之ヲ借款団ニ提示スルコトヲ要ストノ趣意ナリヤ、(ロ)貴電第一四四号極東部長ノ内話ニヨレバ提供スヘキ Option ト提供セサルモノトノ區別ハ各場合借款団ニテ決定スベシトアルヲ以テ見レバ一切ノ優先權ノ「プーリング」ヲ予期セサルモノナリヤ又右極東部長内話ノ現ニ着手サレ居ラサルモ

リテ區別スルヤ(尚貴電第一三八号ノ二中段 dissociate itself from the industrial side 以下 necessary materials ニ至ル迄ノ間再電アリタシ)。

(二)鐵道借款ハ實業借款中ニ包含セシムル趣旨ト思考セラルル処果シテ然ルヤ又 industrial 及 financial トノ區別ニシテ前記(一)ノ(ロ)ノ趣旨ニヨルモノトセハ鐵道借款ハ financial 及 industrial 何レノ side ニ属スルモノト解スベキヤ(四)米國政府ノ提案ハ新借款団ハ現借款団トハ別箇ノモノトシテ組織セムトスル趣旨ナル処新借款団ハ現借款団ノ有スル權利及已定事項ハ其儘之ヲ踏襲スヘキモノナルヤ此点ニ関スル英國政府ノ解釈如何。

(五)貴電第一三八号ノ二後段 (and has guaranteed to it exclusive official support ノ直ク次ニ as regards all future public loans to China which involve a Govt. guarantee and public issue whether for administrative or financial purposes stop トアリ右電文ハ誤字又ハ脱字ナキヤ(殊ニ Financial purposes 及 industrial purposes ノ誤記ニ非サルカ) government guarantee ヲ含ム public loans トハ英國側ニ於テ支那政府及地方政府ノ借款並右両

二二七

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二二五

者ノ一又ハ双方カ保証スル会社又ハ公共団体ノ借款、換言セハ支那中央又ハ地方官憲ノ負担ニ帰シ若ハ帰スルコトアルヘキ借款ヲ指スモノト解シ居レルヤ

(イ)新借款团ノ共同事業ハ条約上ノ優先権ヲ妨クルコトナキ趣旨ナルヘク即チ仮令新借款团ニ加入セル資本家ト雖モ該資本家所屬國ニ於テ条約上ノ優先権ヲ有スルモノニ付テハ新借款团ト關係ナク行動シ得ルコト勿論ノ次第ト思考ス此ノ点ニ關スル英國当局ノ解釈如何

(ロ)從來已ニ成立セル借款ハ米國側ニ於テ新借款团ニ回収シタキ希望ナルヤニ認メラルル処(客年本省宛在米大使來電第四九一号参照)右ニ關スル英國当局ノ解釈及意嚮如何。右為参考 仏、米ニ転電アリタシ

註 日本外交文書大正七年第二冊上卷二六〇文書

二二五 四月九日 内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛(電報)

对中国日米共同投資ノ原首相声明ニ關スルア  
ボット氏ノ誤解ニ対シ小野與銀副總裁ヨリ釈  
明シタル件

トノ協同ヲモ切望スル次第ハ該声明後段米國銀行团對支借款復歸ノ項ニ徴スルモ明白ナリ尤モ米國提案タル新借款团組織ノ件ハ日本政府ニ於テモ主義上同意ナル趣ニテ目下英仏政府ト打合セ中ナリトノコトニテ旁以テ「アボット」氏ノ抱クカ如キ懸念ナカルベキ旨回電方取計置キタル処「アボット」ヨリ右ニ對シ謝意ヲ表シ來レル趣ナリ御参考迄、右英仏ニ転電アリタシ。

二二六 四月九日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛

原首相声明ニ關スルアボット氏ノ誤解ニ付同  
氏及小野與銀副總裁間往復電報写送付ノ件

- 附屬書
- 一 アボット宛小野與銀副總裁宛電報写
  - 二 小野與銀副總裁ヨリアボット宛返電案
  - 三 アボット宛小野與銀副總裁宛電報写

政送第四七号

支那ニ於ケル日米共同投資ト「アボット」ノ使命ニ關シ  
原總理声明ノ件

往電第三〇九号原總理大臣声明ノ次第ハ當時小野與銀銀行副總裁ヨリ「アボット」ニ電報致サセ置キ候処之ニ對シ「ア

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二二六

二二八

第二〇七号

過般 Abbott 來朝ノ砌、原總理ト会谈ノ際同人ハ對支投資ニ關スル日米協同ノ希望ヲ述べ且日本政府ヨリ之ヲ声明セシコトヲ望ミタルヲ以テ原首相ヨリ三月八日新聞紙上ニ於テ Abbott 氏ノ極東來遊ハ日米資本家ノ共同提議ニ一新時期ヲ画セルモノト云フヘク尚米國銀行团ノ對支借款团復歸ヲモ更ニ促進スル有力ナル動機タルヘシトノ意味ヲ声明アリ(當時國際通信社ヲシテ打電セシメ置キタリ)其後右声明ハ会谈ノ際通訳ノ任ニ當レル小野與銀副總裁ヨリ之ヲ「アボット」ニ電報シタル処之ニ對シ「アボット」ヨリ前記声明ハ日米提携ヲ云為シ從テ英仏ヲ除外セントスルモノナルカノ如キ感想ヲ与フルノ虞アリ素ト新借款团組織ニ關スル米國ノ提案ハ日本ノミナラス英仏トノ協同ヲモ目的トセル次第ナルカ日本政府ハ右声明ニ當リ英仏米諸國政府ニ對シ適當ノ措置ヲ執リタルヤ否ヤ承知シタキ旨電報シ來リタル趣ニテ何等「アボット」ニ於テ誤解ヲ抱キ居レルヤニ認メラレタルニ付小野ヨリ「アボット」ニ對シ前記聲明ニ於テ日米協同ヲ述ヘタルハ原總理トノ会谈ニ於テ日米協同カ主タル話題トナリタルニ因ルモノニシテ日本カ米國同様英仏

ボット」ヨリ別紙甲号写ノ通電報有リタル趣ニテ何等「アボット」ニ於テ誤解ヲ抱ケルモノト認メタルニ付別紙乙号写ノ通同副總裁ヨリ「アボット」ニ回電方取計置候処今回別紙丙号写ノ通「アボット」ヨリ電報アリタル趣ニ付右御参考迄及御送付候也

(附屬書一)

別紙甲号写  
アボット宛小野與銀副總裁宛電報

Your two cablegrams received stop seems to me my discussions in Japan would have been more appropriately described as being in connection with the formation of a group based upon American plan the same having been simultaneously suggested to Great Britain, Japan, France rather than by saying quote American capitalists were in favour of join investment in China with Japanese capitalists end quote thereby implying that Great Britain and France were to be eliminated which impression it was of course not your desire to create as it was not my

二二九

desire to convey any such impression stop on the contrary the invitation extended by America looks to cooperation not only with Japan but with Great Britain and France also stop beg to inquire if your government has taken the action which it was promised would be recommended to your cabinet namely the agreement in principle to American plan with appropriate advices to governments Washington, London, Paris.

Abbott

(附屬書II)

別紙乙号写

小野興業銀行副總裁ヨリ「アボット」ヘノ返電案

原首相カ其声明ニ於テ日米協同云々ヲ述ヘラレタルハ貴下トノ会談ニ於テ日米協同カ主タル話題トナリタルニ因ル次第ナルモ之ト同時ニ右ハ決シテ英仏トノ提携ヲ顧念セスト謂フニ非ズシテ日本ガ米國同様英仏トノ協同ヲモ切望シ即チ日米英仏四國協同ヲ以テ其本旨トナス次第ハ該声明末段ニ於テ対支借款団ニ米國ノ復帰方ヲ希望スル旨声言セラレ

タルニ依ルモ明白ニテ從テ英仏除外ノ如キ誤解ヲ生スル懸念ナシト思考ス尙米國ノ提案タル新借款団組織問題ニ付テハ日本政府ニ於テモ主義上同意ナル趣ニテ目下日本政府ヨリ本件ニ付英仏諸國トノ間ニ打合中ナリトノコトニ付旁々以テ貴下御懸念ノ如キ誤解ヲ招クコトナカルヘシト信ズ

(附屬書III)

別紙丙号写

四月五日着アボットヨリ小野興業銀行副總裁宛電報

Industrial Bank

Tokio

Thanks for your cablegram third agreeing to American plan principal and taking action thereon stop. Kindly express to Premier Hara appreciation of Japanese Government's action the effect of which will tend to the realization of our mutual desire that good relations between Japan and America will not be interfered with but on the contrary will be extended.

Abbott

二二七 四月十一日

在英国永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国新借款団ニ関スル英国政府通牒ニ付極

東部長ノ説明報告ノ件

第一六三号

(四月十三日接受)

貴電第一二七号ニ関シ

貴問第一ノ(c)前段ノ内話ハ本官ヨリ広キ意味ニ於ケル「オプシヨン」中当然引継ガシムルニ困難ナキモノト特種ノ關係ヲ有シ簡單ニ「オプシヨン」トシテ提供セシメ難キモノトナル可ク推測セラルル処何レヲ提供セシメ何レヲ提供セシメサルカノ區別判斷ハ如何ニスベキヤトノ質問ニ対シ答ヘタルモノニテ部長ハ之等ノ實際問題ハ借款団ニテ決定スルノ外ナシトナシ居タリ

貴問第二ノ區別ニ関シ部長ノ与ヘタル説明ハ大体貴見(f)ノ通(往電第一三八号ノ二、中段再電ス、該部分ハ措辞込入リ居レリ)

貴問第三ノ答。「然リ」

貴問第五ノ前段英文ハ whether for administrative

三 对中国新借款団組織ニ関シ米國提議ノ件 二二七 二二八

トノ間ニ industrial ノ一字ヲ挿入スレバ完全ナリ。後段保障ノ意義ハ貴見ノ通り解シ居ルモノト認メタルモ、政府ハ中央政府ニ限りタキ意向ナルヲ明言セリ。

貴問各項ハ部長近來ノ態度ニ顧ミ書キモノトナシ面談ノ上其確答ヲ取付ケ詳報スヘキモ過日会谈ノ節聴取シ居ル分丈ケ取敢ヘズ

在欧米各大使ヘ転電セリ。

二二八 四月十一日

在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国新借款団ニ関スル米國提議ニ対スル日

本ノ態度ニ付ラモント小田切会谈ノ件

講第五四四号

(四月十四日接受)

四月九日小田切ハ「メルガン」商会組合員 Lamont (目下彼ハ「ストラウ」氏ト共ニ「ウィルソン」ノ財政顧問ノ地位ニ在リト云フ)ト会見セシニ彼ハ対支投資新団体組織ニ関スル米國ノ提議ニ対シ英國ハ既ニ回答ヲ与ヘ仏國ノ意嚮モ略明白ト成レルニ独リ日本側ヨリハ何等明答ニ接セザルガ非公式ニ入手セル日英間意見交換ノ成行ニ関スル報告ニ

二二一

徴スルニ日本側ハ余リ其成立ヲ喜バサル為斯克遅延スルナラント思ハルル旨告ゲタルニ付小田切ハ自身ノ関知スル限リ日本側ハ主義上之ニ異議ナキモ右ハ支那經濟借款ノ「オペション」全体ヲ包含スル問題ナルヲ以テ周到ノ考量ヲ要シ回答ノ遅延ヲ免カレサル次第ナルヘキヲ答ヘタルニ彼ハ滿洲及ビ山東諸鐵道ノ問題ニ関スル日本側ノ意見ヲ叩キタルニ付小田切ハ何等確答ノ権限ヲ有セサルモ個人ノ意見トシテハ滿洲借款鐵道ノ一部ハ既ニ開通シ其他ノ部分ハ既ニ測量ヲ開始シタル処有リ且資金ノ準備成立セシト信ゼラルル理由アルヲ以テ之ヲ挙ケテ新財団放資ノ目的ト為スコトハ甚ダ困難ナルヘク山東省ノ延長諸鐵道ニ至ツテモ前同様ナルモ私見ニテハ之ヲ滿洲ニ比スレバ多少狀態ヲ異ニスルノ点アリ即チ前者ハ既ニ「オペレーション」ノ範圍ニ在リ後者ハ未ダ事業ニ著手セラレザルコト之ナリト答ヘタル処彼ハ滿洲諸鐵道ノ現狀ヲ承知シタシト請求セシニ付小田切ハ問合ノ上回答スヘキコトヲ承諾シ置キタリ、

彼ハ話頭ヲ転ジ、其内ニ新団体組織ニ関スル會議ヲ適當ノ地ニ（多分巴里若ハ倫敦ニ於テ）開キ度キ旨申出デ小田切ハ之ニ対シ会合地点打合済ノ上ハ本国ニ打電ノ上参加スベ

キ旨ヲ告ゲタルニ彼ハ右団体組織會議前ニ於テ四国団体代表者會議ヲ開キ湖広鐵道ノ独逸ノ「シェーヤー」処分ノ件ヲ相談スルノ必要アルヲ述ヘタル上日本側ハ右「シェーヤー」ニ引受ノ希望ヲ有スルヤ否ヤヲ尋ネタルニ付小田切ハ個人ノ意見トシテ「イーコール、フーチング」ニテ引受ヲ望ムナラムト答ヘ置キタリ

小田切ノ意見ニテハ米國ノ提議ニ対シ我回答ノ遅延ハ徒ラニ米國側ノ誤解ト惡感トヲ惹起スルノミナラズ一方英國ノ態度既ニ決定シ他方米資本団ハ代表者ヲ支那ニ派遣セシ今日ニ於テ有利ノ結果ヲ齎スモノト信スル能ハザルヲ以テ日本側ハ出来得ル限り速ニ方針ヲ決定シテ明答ヲ与フル事得策ナルベク又前記ノ如ク米國側ニ於テハ遠カラス會議ヲ開キ度シトノ希望切ニシテ何時其通知ニ接スルヤモ計リ難ク其際我ニ於テ相応ノ訓令ヲ有スルニ非ザレバ之ニ参加スルヲ得サル次第第二付右方針ノ御決定ト共ニ代表者ノ心得トナルヘキ事項詳細御電訓ヲ請フトノ事ナリ。

右欧米各大使ヘ転電セリ。

二二九 四月十二日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

对中国新借款団ニ関シラモントヨリ小田切ニ

対シ日本ノ公式回答ヲ要請シ来レルニ付請訓

ノ件

講第五五二号

（四月十五日接受）

往電講第五四四号ニ関シ「ラモント」ヨリ四月十一日附書面ヲ以テ小田切ニ対シ左ノ通り申越シタルニ付本件ニ対スル日本側ノ態度至急御回答アリタシ

往電講第五四四号會談後記錄中新財団進行ニ関スル特約（スペシフィック、アグリーメント）米、英、仏三国政府間ニ成立セルコト並ニ「アボット」ヨリ日本政府モ亦之レニ同意ノ旨入電アリシヲ發見セルモ日本政府ヨリハ何等公式通牒ニ接シ居ラス就テハ至急此ノ点ニ関スル日本側意嚮ヲ明カニシ且ツ五月上旬当地ニ開会ノ答ナル會議ニ貴下ノ列席差支ヘ無キ様至急御措置アランコトヲ乞フ。

二二〇 四月十五日

在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

米國提案ニ対シ仏國ハ未回答ナル旨当局談話ノ件

第一一八号

（四月十六日接受）

在英大使宛電第一一九号ノ趣旨文書ニ認メ米國提案ト共ニ四月十四日「ベルトロー」氏ニ手交シタル処仏國政府ハ未ダ本件ニ関シ米國政府ニ正式ノ回答ヲ為シ居ラサルモ四國銀行家ガ其ノ所見ヲ交換スルニハ異議ナシ。何レ右ノ趣旨書面ヲ以テ回答スベシト云ヘリ。

二二一 四月十七日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛（電報）

新借款団組織ニ関スル日本政府ノ意向ニ付小田切ヨリラモントニ内話方訓令ノ件

講第二五九号

貴電講第五五二号ニ関シ

米國政府提案ノ新借款団組織問題ニ対スル帝國政府ノ所見ハ本省發在英代理大使宛往電第一一九号ニテ御承知ノ通ニテ且右往電第一一九号末段ノ通右往電ノ趣旨ニテ在本邦米國大使ニ一応回答シ置キタルニ付米國政府ニ於テモ帝國政府ノ所見ヲ承知シ居ルヘキ筈ナリ就テハ右ノ次第小田切ヲシテ可然「ラモント」ニ一応内話セシメ置カレタシ

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二三三

右貴電第五五二号ト共ニ為参考英、米ニ転電シ且英ニハ  
右往電第一一九号任國政府申入ノ件如何様成リタルヤ回電  
スル様本大臣ノ訓令トシテ申添ヘラレタシ。

二三三 四月十七日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛

英國政府ハ对中国新借款团ニ関スル米國提議  
ニ賛同ノ旨ヲ通告セル三月二十二日附通牒写  
送付ノ件

附屬書 右通牒写

機密公第一五号

大正八年四月十七日 (六月五日接受)

在英

臨時代理大使永井松三(印)

外務大臣子爵内田康哉殿

新對支借款团組成ニ関スル英國政府

通牒写送附ノ件

右標題通牒写ニ通致ニ差進候御査収相成度候 敬具

Sir,

Your most obedient humble servant,

(For Earl Curzon of Kedleston),

(Signed) Gerald Spicer.

註 右省略セラレタル部分ハ三月二十六日在英國永井臨時代理  
大使宛内田外務大臣宛電報第一三八号(二一九文書別電)  
ノ全文ト同文ナリ

二三三 四月十八日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国新借款团ニ関スル英國政府通牒ニ付英

外務省極東部長ノ説明報告ノ件

第一七六号 (四月十九日接受)

貴電第一二七号ニ関シ

極東部長ノ説明左ノ如シ

(一)普通ニハ起ラサル場合ナルカ单独ニ優先權ヲ獲得スル

コトモアルベク其節ハ之ヲ借款团ニ提供スルヲ要ス

(四)「オブション」トシテ提供セシムルモノト之ヲ提供セ

サルモ可トスルモノトノ區別並ニ如何ナル程度ニアル  
ヲ着手後ト為スカハ団体會議ニテ決定スルノ外無ク政

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二三三

二三四

(附屬書)

三月二十二日附英國外相代理署名ノ通牒写  
英國政府ハ一定条件下ニ对中国新借款团ニ関スル米國提議  
ニ賛同ノ旨通告ノ件

COPY.

No. 37459/10. F.

FOREIGN OFFICE. S.W.I.  
March 22, 1919.

Sir,

As you are aware from unofficial conversations  
at this Department, His Majesty's Government have  
had under careful consideration the proposal of the  
United States Government for the formation of a  
new International Consortium to provide loans to  
China, and I now have the honour to inform you,  
for communication to your Government that they  
have decided to authorize a British group to enter  
the Consortium under the conditions suggested by  
the United States Government.

(以下末文前迄省略) (註)

I have the honour to be with high consideration,

府トシテハ大体ノ原則方針ヲ設定スルヲ以テ足レリト  
ス

(一)貴見(イ)前段ノ通、蓋シ実業借款ヲ含ムコトトシタルモノ  
ナルヘク特別保護ノ範圍ヲ狭クスルノ要アルヨリ支持ハ  
「フイナンシアル、サイド」ニ限レルナリ引受資本家ト  
受負人トノ間ニ利益配当ノ協定ヲ為スコトトスル趣意ナ  
リヤトハ思ヒカケザル質問ニテ否ト答ヘサルヲ得ス、実  
際裏面ニハ其ノ種ノ協定行ハルヤモ計ラレサルモ、ソハ  
政府ノ知ル所ニ非ス英國政府(脱)「インダストリアル」  
ヲ辞スルハ英國自身ノ国情之ヲ要スルガ為ニテ米國ニハ  
米國ノ条件アルヘク自國ヲ以テ他國ヲ律(脱)立入テ質  
問サルル要ナカラント稍激昂ノ気味アリシカ察スルニ部  
長ハ本件ノ如キ詳細ノ考究ヲ為シ居ラサルモノノ如シ、  
尚往電第一三八号ノ二、中段 that the British group  
is prepared ノ前ニ and ノ一字ヲ挿入スルヲ諾セリ

(三)鐵道借款ハ実業借款ナリ

(四)踏襲スヘキモノト解ス

(五)然リ、但地方政府ノ分ハ中央政府ノ保証アル外之ヲ認メ  
サルヲ原則トシタシ

二三五

(六)否、条約ニ依ル優先権亦新借款団ニ移スヲ要ス

(七)米國同様ノ希望ヲ有スルモ回収ニ応セザルモノハ致方ナシ之ニ支持ヲ与ヘサル迄ナリ

尚同部長ノ談ニ依レバ米國申出會議期日ハ五月十五日ナルモ英國団ノ人士ハ協議中ニテ決定ノ時期見極メツカサル今日會議ノ期日ノ如キハ問題ニナラス開会地紐育説ハ承認シ難シトノコトナリ、  
米、仏ヘ転電セリ

二三四 四月二十二日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英國政府ハ米國提案ニ異議ナキ件

第一八二号 (四月二十三日接受)

貴電第一一九号ニ関シ

英國政府ニ於テ米國ノ提案ニ異存ナキ旨回答済ナリトノコトナリ

在米大使在仏大使ヘ転電セリ

二三五 四月二十二日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國提案ニ付關係各國銀行家間ニ所見交換ノ

右貴電ニ「回答済」トハ英國政府ヨリ何レノ國ニ回答シタルモノナルヤ或ハ米國政府ヨリ英國政府ニ対シテモ往電第一二〇号帝國政府ニ対スル米國政府提案ト同様ノ義申入レアリタルニ対シ英國政府ヨリ異存ナキ旨米國政府ニ回答済ナリトノ意味ナリヤ果シテ然ラバ往電第一一九号貴官ノ申入レニ対シテハ英國政府ニ於テ右米國政府ニ対スル回答ノ次第ヲ以テ答ヘ即チ右貴官申入通り關係各國間ニ所見交換方異存ナシトノ趣旨ト解シ差支ナキヤ再応電報アリ度シ  
右米仏ニ転電アリタシ。

二三七 四月二十五日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英國ハ關係各國銀行団間ノ所見交換ニ異議ナ

キ旨米國政府ニ回答セル趣旨ナル件

第一八六号 (四月二十六日接受)

貴電第一一九号ノ趣旨米國大使覺書ヲ示シ説明ノ上英國政府ノ意向ヲ問ヒタルニ対シ同政府ハ關係銀行団ガ米國提案ノ如ク所見ヲ交換スルニ異議ナク本件ハ米國政府ヨリ申出アリタルニ付之ニ対シ異議ナキ旨回答ヲ発シ置キタリト答

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二三七 二三八

議ニ関シテハ仏國ハ日本ト同意見ナル旨申越  
ノ件

第一二六号 (四月二十五日接受)

往電第一一八号ニ関シ仏國政府ハ帝國政府ト全然同意見ニシテ本件所見交換ニ対シテハ既ニ仏國銀行家ニ必要ノ訓令ヲ発シタル旨猶在巴里米國(脱)ヨリ關係各國銀行家ノ会合ヲ倫敦若クハ巴里ニテ是非共五月十五日前ニ催サンメタシトノ提議ニ接シタル処仏國政府ハ右会合ノ時期及場所ノ撰定ハ同國銀行団及其他國同僚トノ協議ニ一任スル旨四月二十一日附公文ヲ以テ回答シ来レリ。

右往電第一一八号ト共ニ在英大使、在米大使、在伊大使ヘ転電セリ。

二三六 四月二十四日 在英國永井臨時代理大使宛(電報)  
在英國永井臨時代理大使宛

英國政府ハ米國提案ニ異議ナキ旨回答済ノ趣

ニ付右確メ方訓令ノ件

第一四八号

貴電第一八二号ニ関シ

ヘタル趣ナリ尚英國政府ニ於テモ自國銀行団ニ右ノ次第通知シアリ(二十五日)

在米大使、在仏大使ヘ転電セリ

二三八 四月三十日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國提案ニ関スル四國銀行家會議開催ニ付ラ

モント小田切ニ内報ノ件

第一三二号 (五月五日接受)

往電第一二六号ニ関シ

「ラモント」ガ小田切ニ対シ語ル処ニ依レバ Consortiumノ會議ハ五月八、九兩日当地ニ於テ開カル可シトノコトニ付同會議ニ出席スベキ我団体代表者ヘ至急適當ノ訓令ヲ発セシムル様御取計アリタク尚特ニ代表者ノ任命之ナキ場合ニハ小田切異兩人出席スベシ  
英米ヘ転電セリ

二三九 五月二日 日本外務省ヨリ  
在米邦米國大使館宛

米國提議ノ新借款団問題ニ関シ關係各國銀行

家間所見交換ノ議ニ異議ナキ旨回答ノ件

覚書

外務省ハ米國大使閣下ヨリ受領セル対支新借款团组织問題ニ関スル千九百十九年三月十一日付覚書ニ対シ四月二日付覚書ヲ以テ不取敢回答ニ及ヒ置キタルカ右外務省覚書ノ通り英仏兩國政府ニ照会シタル上帝國政府ハ本件実行上ノ困難且複雑ナル諸問題ノ解決方法ヲ案出セムカ為右米國大使閣下覚書所載ノ通り關係各國銀行家間ニ各國政府ノ承認ヲ条件トシテ所見交換ヲ行ハシムルノ提案ニ賛同スルコトニ決定セリ仍テ帝國政府ハ我關係銀行家ニ対シ必要ノ指示ヲ与フベシ

二四〇 五月四日 内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛 (電報)

新借款团组织問題ニ関シ各國銀行家間ノ所見

交換ニ異議ナキ旨米國大使ニ回答シタル件

第三五〇号

本省発在英代理大使宛往電第一一九号ニ関シ英仏兩國政府ノ意嚮モ御承知ノ通りニ付五月二日在本邦米國大使ニ対シ

(別紙)

米國提議対支新借款团一件方針案

米國政府提案新借款团组织ノ件ハ我将来ニ取り政治上經濟上甚ダ重要ノ關係ヲ有スル次第ニ付極メテ慎重ノ考慮ヲ要スル処大体左記ノ方針ニ出ツルコト然ルベシト認ム

一、米國政府ノ説明ニヨレバ新借款团ハ現借款团ヲ改造スルニアラズシテ全然別箇ノモノトシテ創設セムトスルモノナル処我方トシテハ米國团ノ参加ハ同团ニ於テ単独ニ現四國团ニ復歸スルコト最モ望マシキ方法ナルモ此ノ点米國側ニ於テ異論アラバ強テ我主張ヲ固執スルニ及ハサルベシ但シ新借款团ニ於テ現借款团ノ權利ヲ繼承シ事業ヲ踏襲スルコトトナスヲ要件トスヘシ、然ラザレバ現四國团ハ政治借款ニ関シ優先權ヲ有シ居レル關係上支那政府トシテハ先ツ現四國团ニ協議セサルヘカラサル次第ニテ實際ト適合セサルカ如キ事態トナルヘシ或ハ現四國团ハ新借款团成立ノ上ハ空名ヲ存スルコトトナリ支那政府ヨリ協議ヲ受クルモ之ニ応スルコトナク從テ支那政府ハ新借款团ニ協議シ得ル自由ヲ有スルコトトナル次第ナルヘキモ斯クテハ常ニ迂遠ノ手續ヲ踏マサルヲ得サル

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二四一

大要帝國政府ハ本件実行上ノ困難且複雑ナル諸問題ノ解決方法ヲ案出セムカ為米國大使覚書(本省発在英代理大使宛往電第一二〇号)ノ通り關係各國銀行間ニ各國政府ノ承認ヲ条件トシテ所見交換ヲ行ハシムルコトノ提案ニ賛同スルコトニ決定シ我關係銀行家ニ対シ必要ノ指示ヲ与フヘキ旨ノ覚書ヲ送致シ置ケリ

右英仏ニ転電アリタシ

註 前掲二二文書ノ註3参照

二四一 五月六日 幣原外務次官ヨリ  
井上日本銀行總裁  
梶原正金銀行頭取 各宛

米國提議ノ对中国新借款团组织問題ニ関スル

方針案ニ付意見回示方依頼ノ件

附屬書 右方針案

拜啓陳者米國政府提議対支新借款团组织問題ノ件ニ関シテハ当省ニ於テ種々考究ノ結果大体別紙方針案ヲ以テ臨ムコト然ルヘキカト思考セララルル処該方針案ニ対スル貴見一応承知致度ニ付右御内見ニ供シ候間何分ノ義至急御回示相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

次第ニテ寧ロ初メヨリ直截ノ方法ヲ採リ得ルコト適當ナルヘシ尤モ右ハ支那政府トノ間ニ協定ヲ遂クルヲ必要トスヘシ右ニ關聯シ考慮ヲ要スル諸点左ノ如シ

(イ)現借款团ハ支那政府ニ対シ政治借款及塩稅收入担保借款ニ付優先權ヲ有スルヲ以テ右優先權ハ新借款团ニ於テ繼承スルヲ必要トス新借款团ニ現借款团団員ヲ加入セシムルコトトセバ此点ハ比較の困難ナル問題ニハアラサルヘシ

(ロ)現借款团ハ追加改革借款トシテ幣制借款ヲ引受ケムガ為メ支那政府ト交渉中ノ次第アルニ付新借款团ヲシテ右事業ヲ踏襲セシムルコト然ルヘシ現ニ米國政府説明中ニ新借款团ハ幣制借款ヲ引受クヘキ旨言明シアレバ此ノ点ハ容易ニ米國トノ間ニ了解ヲ遂クルヲ得ヘシ

(ハ)阪谷男幣制顧問傭聘ニ付テハ已ニ米國側ノ了解ヲ經タル次第ニ付幣制借款ヲ米國団体ヲ加ヘタル新借款团ニ於テ引受クルトモ顧問問題ニ付我立場ニ累スルコトナカルヘキモ一応確メ置クコト然ルベキカ

(ニ)現借款团ハ追テ之ヲ解散スヘシ若シ露國団体ニ於テ異論アルニ於テハ之ヲ新借款团ニ加入セシムベシ露國团

二二九



加入ハ米國ニ於テ必ズシモ反对ナキカ如シ又現借款団ハ解散スルコトトスルモ已ニ支那側ニ交付セル第一次改革借款ニ伴フ諸般ノ事項例ヘハ元利支払又ハ塩稅收入保管等關係ニ於テハ尚存続スルモノトナスヲ必要トスベシ

(尚白國財団加入ノ件ハ略日白間ニ協定成レル次第第二モアリ場合ニヨリテハ之ヲモ加入セシムベシ)

(ホ)大正六年一月三十日ノ倫敦會議ハ我方ニ取り有利ノ決議ヲ見タルモ右ハ主トシテ資金及顧問ノ關係ニ於テ然ルニ外ナラザル処資金ハ米國提案ニヨルモ差当リ日米兩國ニテ引受クルコトトナリ居リ又顧問ノ件モ前頭ノ通り米國政府及其ノ他關係諸國政府ノ了解ヲ得タル次第ニ付同會議決議條項ハ必ズシモ新借款団ノ対支借款ノ基礎トナサムコトヲ主張スルニ及ハサルベシ

一、米國政府ノ提案ハ新借款団ヲシテ政治借款タルト実業借款タルトノ區別ナク一切ノ対支借款ヲ独占セシムムトスルモノナル処新借款団ノ事業ハ矢張り政治借款ニ限ルヲ可トスヘシ此ノ点ニ関スル米國ノ主張ハ強硬ナルカ如キモ日本ニ取りテモ重大ノ關係アルニ付十分米國トノ間

テ今回米國政府ノ提議ニ付テモ英國政府ニ於テ容易ニ同意ヲ表スルコトナカルヘシト信セラルルニヨリ日本ヨリ米國ノ反省ヲ求ムルト共ニ他面英國政府ノ手ニテ米國政府ヲ動かス様措置ヲ講スルコト可然

(ハ)実業借款分離問題ニ付テハ前記ノ方針ニヨリ英國ト協同シ米國ト交渉ヲ遂クルモ到底米國側ノ同意ヲ得ズ而モ日本ニ於テ強テ之ヲ主張スルトキハ結局支那ニ於テ米國トノ間ニ經濟上ノ角逐ヲ招クニ至ルカ如キ情勢ヲ生スル虞アルニ於テハ日米關係ノ大局ニ顧ミ左ノ方法ニヨリ米國ノ主張ニ賛同スルモ一案タルベシ又斯クシテ支那ニ於ケル經濟問題ニ付早晚殺到スヘキ米國ノ資本的勢力ヲ我有利ナル方面ニ導キ且之ヲ以テ戦後支那ニ於ケル英國ノ活動ニ具フルニ資スルコトヲ得ベシ

(1)新借款団ノ共同事業ハ支那政府及地方官憲ノ各種借款ニ限ルコトトシ右以外ノ借款ハ新団体事業中ヨリ除外スベシ此ノ点ニ関スル米國ノ提案ノ趣旨ハ聊カ明瞭ヲ欠クモ個人的借款迄モ含マシムトスル意ニハアラサルベシ

(2)日本ノ支那ニ対スル投資事業ハ借款主義ヲ改メ事業

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二四一

ニ折衝ヲ尽ス覚悟ヲ要ス  
本項ニ付考量ヲ遂クルニ

(イ)今ヤ我經濟力膨張シ民間実業家ノ対支投資熱昂マリ支那政府及地方官憲ノ借款ニ応スルモノ尠カラサル実情ニ付若シ新借款団ヲシテ対支借款ヲ独占セシメ此等民間一般ノ傾向ヲ抑止セムコトハ甚タ困難ナルノミナラス個人ノ対支企業ノ自由ヲ束縛スルコトトナリ其ノ激烈ナル非難攻撃ヲ蒙ルニ至ルベシ

(ロ)サレバトテ対支投資ノ希望ヲ有スル民間実業家ノ全部ヲ新借款団ニ包容スルコトモ事實行ハレ難ク又斯ク全部ヲ網羅セサルトキハ新借款団ニ加入セサル資本家ニ於テ自由活動ヲナシ先年「クリスプ」借款ノ類ノ紛糾ヲ惹起スルカ如キ虞ナキヲ保セス而モ予メ之ヲ取締ルコトハ事實不可能ナリ

(ハ)又日本ハ新借款団ヲ通シ外國ト協同スルニアラサレハ何等支那ニ対シ借款事業ヲ為スヲ得サルカ如キハ日本ノ支那ニ対スル經濟的方面ニ於ケル正当ナル特殊關係ヲ益々發達助長セシムル所以ニアラサルヘシ

(ニ)將又元來実業借款分離ハ英國ノ首唱ニ出テタルモノニ

主義トナスベシ支那民間ノ有力者ヲシテ有利ナル事業ヲ計画シ我資本家ト合併經營セシメ我資本家ヨリ資金ヲ支出シ我援助ノ下ニ事業ノ經營ヲ為サシムルカ如キ方法ニ出ヅベシ斯クシテ此ノ方面ヨリ支那資源ノ開發我実勢力ノ扶殖ヲ図ルコトトスベシ

一、米國政府提案ニヨレハ新借款団ニ加入スル団体員ハ其ノ有スル対支借款優先權ヲ拋棄スルコトト相成居レル処此ノ点ハ左ノ通了解ヲ明ニセバ左迄重要視スルノ要ナルベシ

(イ)新借款団ニ加入スル団体員ニ限り其ノ有スル優先權ヲ拋棄スル次第ニ付借款団ニ加入セサル其他ノ資本家ノ有スル借款優先權迄モ拋棄スルモノニアラザルヤ言ヲ俟タズ

(ロ)新借款団ハ政治借款ノミヲ引受クルコトトセハ右優先權モ政治借款ニ関スルモノノミトナリ結局現四國団ノ有スル優先權ヲ拋棄スルコトトナルニ止マルベシ

(ハ)然ルトキハ右優先權拋棄ノ件ハ國家ノ有スル條約上ノ權利ニ基ク優先權(別紙甲号参照)ニハ現四國団時代ト同様何等關係ナキコトトナルヘシ

(二)尚万一前項ノ通り新借款団ニ於テ実業借款ヲモ含ムモノトセハ聊カ前項トハ事態ヲ異ニシ更ニ考慮ヲ要スルモノアルヘシ

(1)此ノ場合ニハ拋棄スヘキ優先権ノ範圍ハ自然拡大セラルル次第(別紙乙号参照)ナルカ之トテ新借款団ノ共同事業ヲ前記ノ通りトセバ支那政府及地方官憲ニ対スル借款優先権ノ範圍ヲ超ユルコトナク從テ我方トシテ最も重要ノ關係アル漢冶萍公司ニ対スル分ハ除外セラルルコトナルベシ

(2)新借款团组织ノ為日本カ条約上有スル權利ヲ妨クルコトナキヲ明ニスルヲ要スヘシ米國ノ提案ハ条約上有スル權利自体ノ拋棄ヲ意味スルモノニアザルモ例ヘバ之カ為大正四年ノ日支条約ニ基ク滿蒙ニ於ケル我鐵道借款優先権ニヨリ日本資本家が单独ニ投資セムコトヲ妨クルニ於テハ右条約上ノ權利モ結局有名無実トナルニ終リ延イテ勢力範圍撤廢問題ニ触ルルニ至ルヘシ故ニ新借款団ハ條約上ノ權利ヲ妨クルモノニアザサルコトヲ明ニスルコトハ必要ナルヘシ然ルニ滿蒙ニ付テハ容易ニ米國ノ同意ヲ得ベキモ

(別紙丙号中五ノ(i)及(ii)参照)山東省ニ付テハ相当折衝ヲ要スヘシ尤モ勢力範圍撤廢論ハ早晚米國側ヨリ提唱ヲ見ルニ至ルナキヲ保セス而モ滿蒙ハ之ヲ除外スルコト左迄難事ニアラスト思考セラルルニ付山東省ニ於ケル我優先権ヲ拋棄シ英國ノ揚子江流域、仏國ノ雲南広西広東地方ニ於ケル優先権ヲ拋棄セシムルコトハ正ニ支那保全ノ一端ニシテ而モ新借款団事業ノ範圍ニ属スルモノハ別トシテ其他ハ支那全土ヲ挙ケテ自由活动ノ地域トナス考慮ニ値スル問題ナリ

(3)実業借款ハ多ク一定ノ事業ヲ目的トシテ供給シ其事業ノ成否ニ付債權者ニ於テ特殊ノ關係ヲ有スル次第ニ付斯ル借款ニ伴フ優先権ハ拋棄スルトモ其事業自体ニ付テハ失張り旧来ノ債權者ノ特殊關係ヲ認ムルカ如キ仕組トナスヲ可トス

(4)元來米國ノ支那ニ対スル借款額ハ日英仏諸國ニ比スレハ甚タ少額ニシテ從テ其ノ有スル優先権モ尠ナキ実情ナルニ拘ラス新借款団ニ加入スル団体員ヲシテ一律優先権ヲ拋棄セシメントスルハ米國ニ取リ余リ

ニ都合ヨキ提案ト云ハサルヘカラサル次第ニテ又英國側ノ態度モ前項ノ通りニテ実業借款分離テ実業借款ニ伴フ優先権拋棄ニハ容易ニ同意セサルヘシト思考セラルルニ付若シ此点ニ付米國側提案ヲ容ルルノ已ムヲ得サル場合ニハ以上ノ如キ条件ヲ付スルハ左迄困難ニ非ザルベシ

又翻テ考フルニ從來列國ノ支那ニ投セル実業借款トシテ最も顯著ナルモノハ鐵道借款ナリ然ルニ滿蒙ハ兎モ角支那本部ニ於ケル日本ノ鐵道投資ハ甚ダ小規模ニシテ列國ノ雄大ナル計画ニ比スヘクモアラズ且列國ノ鐵道投資ハ一定規画ノ下ニ行ハレ漸次支那ノ分裂の形勢ヲ馴致スルニ至ラムトシ將來支那ノ保全ニ重大ノ關係ヲ有スル次第ニ付新借款団ノ事業中ニ実業借款ヲ包含セシムルニヨリ各國ノ鐵道政策ヲ緩和スルコトヲ得ハ我方ニ取リテハ甚タ有利ト云ハサルヘカラス然ルニ支那本部ニ於ケル列國ノ鐵道借款ハ大半未發行ニ付所謂優先権ハ此等未發行公債引受ヲモ含ムコトトシ新借款団共同ノ事業トセハ支那保全ニ資スル所尠少ナラサルベク從テ此ノ見地ヨリ見

ルトキハ実業借款ノ併合ハ一概ニ排斥スルモ考物ナリ尤モ現ニ一定計画ノ下ニ交渉中ノ借款ハ之ヲ除外スルコトニ取極ムルコト得策ナルモ若シ行ハレ難キトセバ我ニ取リ有利ナルモノ例ヘバ山東鐵道延長線及南潯鐵道延長線等ハ新借款団成立前ニ急遽借款契約ヲ結ヒ工事ニ着手スル等ノ方法ヲ講スルコト得策トス

一、米國提案ニ関シ國務卿ノ石井大使ニ語ル処ニヨレバ種々ノ獨立借款ハ悉ク新借款団ニ回収スルコト望マシキモ之ヲ主張スル次第ニハアラス尤モ出来得ル限り回収シタキ希望ナリトノ趣ナル処從來ノ借款ヲ悉ク新借款団共同事業ニ引直スコトハ素ヨリ同意シ難キ処ナルモ已ニ成立セル各種借款ヲ新借款団ニ於テ回収スルコトハ絶対ノ條件トセス新借款団ト団体員トノ間ノ自由商議ニ委スル趣旨トセバ別ニ差支ナカルヘク但シ何等其ノ間強制的ノ措置ナキヲ肝要トス尤モ第一次改革借款及三千万円ノ第二次改革借款前貸ノミハ新借款団ニ引継グコトトスルモ差支ナカルベシ

一、米國新提案ハ經濟上ノミナラス政治上ニ於テモ重大ノ

關係ヲ有スル次第ニ付支那ニ對シ特殊ノ地位ニ立テル日本ニ取リテハ他國ニ比シ一層慎重ニ而モ特異ナル考量ヲ加ヘサルヲ得ス已ニ日本ノ特殊地位ヲ承認セル米國ニ對シ右日本ノ立場ニ對シテハ十分ノ考慮ヲ払フヘキコトヲ主張スルモ何等支障ナカルヘシ

(欄外註記)

漢冶萍公司借款ノ外左ノ借款モ除外セラルルコトナルベシ

(一) 南潯鐵道借款

(二) 交通銀行借款

(三) 漢口水電借款

註 別紙省略

二四二 五月六日 内田外務大臣ヨリ  
高橋大藏大臣宛

米國提議ノ对中国新借款团组织問題ニ関スル

我方針案ニ付意見回示方依頼ノ件

附屬書 右方針案

拜啓陳者米國政府提議對支新借款团组织問題ニ付テハ當省ニ於テ種々考究ノ結果大体別紙方針案ニヨリ政府ノ議ヲ纏ムルコト然ルヘキカト思考セラルル処右方針案ニ對スル貴見一應承知致度ニ付何分ノ儀至急御回示相成度此段申進候

敬具

(附屬書)

別紙

米國政府提議對支新借款团组织問題

方針案

對支新借款团组织問題ニ関スル米國政府ノ提案ハ現四國銀行団トハ別個ノモノトシテ日英米仏四國銀行団ヨリ成ル新借款団ヲ創設シ支那官憲ノ保証アル借款ハ其ノ政治借款タルト實業借款タルトヲ問ハス將來新借款団ノ共同事業中ニ包含セシメ且已成借款ト雖其優先權ハ新借款団ニ引渡サシメムトスルモノニシテ政治上經濟上頗ル重要ノ關係ヲ有スル次第ナル処米國ノ大資本カ將來支那ニ投下セラルルニ至ルヘキハ蓋シ免レ難キ大勢ノ帰趨ナルヲ以テ日本トシテハ寧ロ進ンデ新借款団ニ加ハリ對支投資ニ関スル日米ノ協同ヲ緊密ナラシメ歐米ノ資本的勢力ヲ大局上我ニ有利ナル方向ニ導クコト最得策ト認ム仍テ新借款团组织問題ハ左ノ方針ノ下ニ米國政府ノ提議ニ賛同スルコトト致度シ

一、新借款団ハ政治借款及塩稅收入担保借款等ニ関スル現四國団ノ優先權ヲ繼承シ且幣制借款ニ関スル四國団ノ事業

募集セラルルコト (Public issue) ヲ一ノ条件トナシ居レルヲ以テ公募セラレサルヲ常例トスル小額ノ借款ハ當然除外セラルルコトトナル次第ナルモ本案ニ付テハ左ノ二点考慮ヲ要ス

(一) 小額ト雖公募サルルモノハ當然共同範圍ニ属スルモノナルコト從テ右英國案ノ形ニテハ小額ノ借款ヲ除外セムトスル目的ニハ十分添ハサルコト

(二) 多額ノ借款ト雖モ公募セラレサルモノハ共同事業ノ範圍ニ属セサルヲ以テ之ヲ利用スルトキハ借款団ノ本旨ヲ破壞スルニ至ルコト

借款額ニ最少限度ヲ設クル為ニハ寧ロ先般井上元正金頭取及 Abbott 氏会谈ノ際、金額ニ付テハ未定ナルモ主義ニ於テ意見一致セルカ如ク一定額以下ノ小額借款ハ其ノ公募セラルルト否トニ拘ラス団体ノ共同範圍外ニ置クノ方法ニ出ツルコト得策ナルヘシ

尚英國案ノ如ク公募サルルモノヲ条件トナセル本旨ハ銀行ノ普通貸借ニ属スルカ如キモノヲ除外セントスルニ在ルヘシ蓋シ巨額ノ資金カ公募サルルコトナクシテ融通サルルカ如キハ普通ニハアリ得サルコトナルヲ以テ本案ノ如キ提案

ヲ為セルモノト推測セラル從テ万一之ヲ利用シ(例ヘバ預金部ノ融通ノ如シ)巨額ノ資金ヲ融通スルカ如キコトアラハ借款団ノ規定ニハ抵触スルコトナシトスルモ借款团组织ノ本旨ニ反スルモノトシテ他日紛議ノ因ヲ成スヘキヲ予想セザルベカラズ

三、実業借款中最モ顯著ナルハ鐵道借款ナルカ支那ノ保全ヲ完クスルコト列國ノ鐵道計画ノ規模雄大ナルコト而モ我資金ノ十分豊潤ナラサルコト等ニ顧ミ將來ノ鐵道借款ハ寧ロ新借款団ノ共同事業中ニ包含セシメ其手ニテ鐵道ノ開發ヲ図リ列國ノ鐵道政策乃至我ニ不利ヲ来スヘキ共同管理說ヲ阻止スルコト得策トス英國モ鐵道借款ヲ実業借款中ニ包含セシムル意嚮ニ付鐵道借款ヲ共同事業中ニ加フルコトハ各國側ニ於テモ異存ナシト思考ス

四、借款優先權拋棄ニ付テハ第一各國カ条約上有スル權利ニハ何等影響ナキコトヲ明白ニスルヲ要スヘシ從テ假令借款団ニ加入スル我資本団ニ於テモ例ヘハ滿蒙ニ於ケル日支条約ニ基キ優先權アル借款(即チ鐵道及租稅担保借款)ニハ单独ニ応スルヲ得ルモノトス英國ハ条約上ノ權利ヲモ拋棄スヘキモノトノ意見ナルカ如キモ本件ハ勢力範圍問題ニ

家ハ左ノ範圍ニ於テ自由活動自由競争ノ余地アルヘシ

(イ)一定額以下ノ借款

(ロ)支那人若クハ会社相手ノ借款(支那官憲ノ保証ナキモノ)

(ハ)実業借款中企業ノ部分ニ属スル活動範圍從テ漢冶萍公司等ノ類ハ当然本案ヨリ除外セラルヘク其他日本人ハ支那人トノ合併事業ニヨリ或ハ支那人ヲシテ会社ヲ組織セシメ之ニ資金ヲ融通スルノ手段ニヨリ十分支那ニ於テ經濟的活動ヲ試ムルノ余地アルベシ

二四三

五月十三日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國提議ノ对中国新借款团组织ニ関スル四國

銀行家會議ノ決議ニ付報告ノ件

別電

五月十四日在仏國松井大使宛内田外務大臣宛電報  
講第九八六号

右決議事項

講第九八五号

(五月十八日接受)

五月十一日米國提案對支借款新団体組織ニ関スル会合「バンク、ド、ランドシン、バリ」ニ於テ開催セラレ団体代表者トシテ

モ触ルル次第ニテ篤ト攻究ヲ要スヘシ尤モ普通ノ借款契約ニ基ク優先權ヲ拋棄スルモ条約上ノ優先權ハ拋棄スルヲ得サル旨ヲ主張スルニハ有力ナル論拠ニ付篤ト研究ヲ要スル次第ナルガ結局山東省ニ関スル鐵道計画問題ハ別問題トスルモ少クトモ滿蒙ニ在リテハ我國國民感情ノ上ヨリ云フモ同地方ニ於ケル我地位ニ累ヲ及ホスカ如キ施設ニハ到底賛同スルヲ得ズ此ノ点ハ我國ノ滿蒙ノ如キ特殊關係、特殊ノ歴史ヲ有セザル他外國トハ全然其ノ立場ヲ異ニスルモノナルコトヲ主張スルノ外ナカルベシ 將又借款契約ニ基ク優先權ニ付テハ英國案ニ所謂「着手」云々ノ意義ヲ明白ニシ例ヘハ借款契約ハ成立シ居レルモ公債ノ發行ニ至ラサルカ如キモノ(例ヘハ寧湘浦信鐵道借款)ハ優先權ト見做スコトニ了解ヲ遂クルコト日本ニ取り有利ナルベシ

五、已成借款ニシテ已ニ資金交付済ノ分ヲ新借款団ノ事業ニ引直スヤ否ヤハ一々其借款當事者ト新借款団トノ間ノ自由商議ニ委スルコトトシ然ルベシ(尚英國意見ノ如ク引直スコトヲ肯ゼザルモノニハ支持ヲ与ヘスト云フハ意味不明ナリ)

以上ノ如キ方針ニヨリ米國案ニ賛同スルニ至ルトモ我資本

米國 T. W. Lamont, H. H. Harjes, J. R. Carter, C. F. Whigham,

英國 Sir Charles Addis, A. N. Frewer,

仏國 D. S. Simon, Ch. G. Picot,

日本、小田切萬寿之助異孝之丞出席シ「ラモン」推サレテ議長トナル、其議事ノ經過左ノ如シ

一、新団体業務ノ範圍

「ラモン」ハ米國提案ノ新団体ノ業務ハ從來ヨリモ更ニ範圍ヲ拡ケ独リ政治借款ノミナラズ鐵道借款、実業借款即チ中央政府各部地方政府ノ借款及政府ノ保証スル会社ノ借款ニシテ公債發行ニ依ルモノヲ一切包含スルモノニシテ既に各団体ニ於テ所有セル利權並ニ將來取得スヘキ利權ヲモ此ノ中ニ網羅セシムルノ主義ナルコトヲ述ヘ英仏政府ハ主義上之ニ同意シ各団体ニ對シテ夫々通知ノ手續ヲナシタルモ独リ日本ヨリハ未ダ何等ノ通牒ニ接セサル旨ヲ附言セリ之ニ對シ小田切ヨリ日本政府ハ主義トシテ之ヲ承認セルモ日本団体ハ未ダ詳細ノ指図ニ接セス元來日本ノ団体ナルモノハ政治借款ニ関シテハ何等規約存在セサルヲ以テ之ヲ個々ニ所有セル利權ヲ新団体ニ持込ムコトハ本國政府並ニ各利

權所有者ノ承認ヲ得ルニアラザレハ確答シ難シ 只正金銀行ノ関スル限り之ヲ承認スルコトヲ得ヘシト述ヘタリ此時「ラモント」ハ昨夜華盛頓ヨリ受取リシ電報ニ依レバ在京米國大使ヨリ日本政府モ米國案ニ同意シ日本側代表者ニ對シ政府ノ承認ヲ条件トシテ他団体ト意見交換ヲナスヘシト命令シタル由ナルガスル電報ハ未ダ当地代表者ノ手ニ着セサルモノト察セラルル旨述ヘタルニ付小田切ハ否自分ハ之ニ関シ政府ノ主義上同意ナルコトハ承知スル処ナルモ問題ノ重要ナル点即チ提供スヘキ「オブション」等ニ関シテ未ダ日本ヨリ何等ノ指図ニ接セサルヲ以テ如何トモナスコト能ハザル旨答ヘ彼此押問答ヲ重ネシガ 議場ニ於ケル此時ノ光景ヲ見ルニ若シ日本ノ代表者ニ於テ引続キ固執ノ態度ヲ採ル時ハ日本代表者ノ地位ハ単ニ正金銀行ノ代表者タルニ止マリ日本全体ノ代表者ニアラサルノ立場トナリ結局本會議ニ列席スル權限ナキノ状態ニ立至ルヘク感セラレ同時ニ代表者退席ノ結果ハ各方面ニ不慮ノ影響ヲ与フヘキモノアラント想像シ本問題ハ更ニ本國政府ノ承認ヲ得ルコトヲ条件トシテ(他ノ問題モ同様ナルモ)「アデイス」ノ提議ニ係ル別電第一及第二項ノ如キ決議ニ同意ヲ表シ置キタ

ニ其持分ヲ有スルコトヲ廢シタシト述ヘ「アデイス」ハ右ニ関シ在北京代表者及技師ヲシテ考案ヲ立テシムヘシト發議シ滿場一致別電第六項ノ通り決議セリ

#### 六、湖広鐵道ノ件

湖広鐵道利權中独逸ノ持分ハ戰爭ノ結果英米仏団体ニ歸屬シタルヲ以テ日本カ新団体ニ加入スルコトヲ条件トシテ同鐵道利權ノ四分ノ一ノ持分ヲ不分割主義ノ下ニ日本ニ讓渡スベシト「ラモント」ヨリ申出アリシニ對シ小田切ハ之ニ同意シ滿場一致別電第九八六号第七項ヲ決議セリ

#### (別 電)

五月十四日在仏國松井大使宛内田外務大臣宛電報講第九八六号

五月十一日巴里ニ於ケル四國銀行家會議ノ決議事項

#### 講第九八六号

1. It was resolved that the principles laid down for the formation of the new Consortium for Chinese Loan Business, in the note dated July 11th 1918 by the American Government, addressed to the British, French and Japanese Governments and the subsequent memoranda relating thereto be and the same

リ  
二、露國団加入ノ件

「ラモント」ハ新団体ニ加入スヘキ団体ハ各自政府ノ援助ヲ有スルヲ必要条件トスルモノナルカ目下露國ハ確乎タル政府存在セズ故ニ他日關係諸國カ露國政府ヲ承認ノ後ヲ俟チテ其加入ヲ勧誘スヘシト提議シ滿場一致別電第三項ヲ決議セリ (Addis ノ小田切ニ語ル処ニ依レハ本件ニ関シテ巴里ノ露亜銀行代表者ニ於テモ異論ナシトノコトナリ)

三、白耳義団ノ加入ノ件

Simon ハ白耳義カ新団体ニ加入ノ希望ヲ有スル旨ノ書面ヲ披露シ且米國側之ニ同意ナル旨ヲ述ヘ滿場一致別電第四項ヲ義決セリ (Lamont ハ白耳義団ニ對シテハ他ノ一団体ノ有スル一半ノ權利ヲ与フベシトノ意見ヲ洩シタリ)

四、各國団体会員資格ノ件

Addis ハ独逸資本排斥等ノ目的ノ為各団体会員資格ニ関シテ別電第五項ノ通發議シ滿場一致通過セリ

五、不分割主義ノ件

Lamont ハ新団体ノ主義トシテ鐵道借款及実業借款ノ事業ヲ不分割トナシ從來ノ如ク区間ト区域ヲ定メ個々連鎖的

are hereby approved.

2. It was resolved:

(a) That in addition to future business all existing loan agreements and options which involve the issue for subscription by the public of loans be pooled, with the exception of agreements and options relating to industrial undertakings (including railways) upon which substantial progress has been made;

(b) That the Groups will surrender to the Consortium any such agreements and options which they themselves possess or control;

(c) That the Groups will use their best endeavour to induce other parties who may possess or control any such agreements or options to surrender the same to the Consortium.

3. It was declared that the Groups would be prepared to consider the inclusion of a Russian Group in the new Consortium as soon as a Government recognized as such by the respective Governments of

the Groups should be established in Russia. The Chairman was requested to communicate a copy of this resolution to the Russian Group.

4. M. Simon, having reported that a Belgian Group had requested that they should be included in the Consortium as a principal, it was resolved that favourable consideration should be given to this request after the formation of the new Consortium. M. Simon was requested to communicate a copy of this resolution to the Belgian Group.

5. It was resolved that each Group in the new Consortium shall be a national unit and that no member of any group shall within the scope of the operations of the Consortium represent directly or indirectly any other national interest;

That each Group shall be established by a formal agreement in writing;

That each of these agreements shall be furnished to the other Groups.

二四四 五月十四日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国新借款団組織ニ関スル四国銀行家第二  
回會議ニ於テ新団体規約案決定ニ付報告ノ件

講第九〇号

(五月二十日接受)

五月十二日午前拾時半対支新団体組織第二回會議開催場所及出席者ハ前電ノ通ニシテ「ブダース」ノ起草セル新団体規約案ニ付意見交換ノ後之ヲ決定シ同時ニ關係政府及団体ノ考慮ヲ求ムル為メ同案ヲ提出スベキ事ヲ議決セリ右決定新規約案八箇条ハ一九二二年六月十八日ノ六国団旧規約<sup>(註)</sup>大同小異ニシテ其異ル点概要左ノ如シ

新規約序文ニハ旧規約序文中ヨリ独国団、露国団ヲ除キ米  
国団ヲ

J.P. Morgan and Company, The Kuhn Loeb & Co.,  
The National City Bank of New York, The Guaranty  
Trust Company of New York and The Continental  
and Commercial Trust and Savings Bank of Chicago  
(hereafter called "the American Managers") ナルメ  
Reorganization loan 及前貸ニ関スル文字ヲ削除シ終リニ

6. It was recognized in principle that industrial undertakings and railways in particular should be handled as an undivided whole and not sectionally, and it was resolved that instructions be given by the Groups to their respective Representatives and Engineers to prepare a joint scheme for carrying this principle into effect.

7. The question of the participation of the Japanese Group in the Hukuang Railway Loan having been raised, the other Groups stated that it was their intention, as soon as the new Consortium was formed and the Japanese Group included therein, to offer to them an equal share with the other Groups in this Loan upon the terms of the last mentioned resolution.

All the above resolutions were passed subject to the confirmation of the respective Governments of the Groups.

Matsui.

~~~~~

Whereas the British, French, Japanese and American Groups were formed with the object of negotiating and carrying out Chinese loan business and are entitled to the exclusive diplomatic support of their respective Governments ナルハ

第一条ノ全文左ノ通り

Each group reserves to itself the right of increasing or reducing the number of its own members but so that any member of a group dropping out shall remain bound by the restrictive provisions hereof and any member of a group coming in shall become subject to the restrictive provisions hereof and so that no group shall (without the consent of the others) be entitled to admit into its group a new member who is not of its nationality and domiciled in its market. The admission of any new group shall be determined by the parties hereto subject to the approval of their respective Governments.

第二条ノ全文左ノ通り

This agreement relates to existing and future loan agreements which involve the issue for subscription by the public of loans to the Chinese Government or to Chinese Government Departments or to Provinces of China or to Companies having Chinese Government or Chinese Provincial Government guarantees but does not relate to agreements for loans to be floated in China. Existing agreements relating to industrial undertakings upon which it can be shown that substantial progress has been made may be omitted from the scope of this Agreement.

第三条ノ全文左ノ通り

The existing agreements and any future loan agreements to which this Agreement relates and any business arising out of such agreements respectively shall be dealt with by the said groups in accordance with the provisions of this Agreement.

第四条ノ全文左ノ通り

This Agreement is made on the principle of com-

plete equality in every respect between the parties hereto, and each of the parties hereto shall take an equal share in all operations and sign all contracts and shall bear an equal share of all charges in connection with any business (except stamp duties and any charges of and in connection with realization by the parties hereto in their respective markets of their shares in the operations) and the parties hereto shall conclude all contracts with equal rights and obligations as between themselves, and each party shall have the same rights, privileges, prerogatives, advantages, responsibilities and obligations of every sort and kind. Accordingly preliminary advances on account of or in connection with business to which this Agreement relates shall be borne by each of the parties hereto in equal shares and each of the parties hereto shall be entitled to participate equally in the existing Agreements and will offer to the other parties hereto an equal participation with itself in

ment at any time.

尚原案ニハ Material ノ購入ハ Open tender ノ主義ヲ採用スルノ簡条アリシガ之ハ資金供給者ニ優先權ヲ与フルヲ可トスヘク又北京代表者及技師ヲシテ研究セシメテハ如何トノ説モアリテ削除セラレタリ又原案ニハ新団体ニ持込ムヘキ総テノ利權ヲ本規約ノ末尾ニ列記スル事ニ為リ居リシガ是ハ適當ナル時機ニ於テ會議ヲ開キ決定シ其持込ムベキ利權ノ明細ヲ同會議録ニ記入スル事ニ変更セラレタリ之ニテ會議終結

英米大使及白国公使ハ転電セリ

註 日本外交文書第四十五卷第二冊九〇四文書附屬書ニ参看

二四五 五月十八日 在奉天赤塚総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

アボット本邦經由帰国ニ付便宜供与方ノ件

第一三三三号 (五月十九日接受)

公使発本官宛電報

第九一号 至急

「シカゴ」大陸銀行副總裁「アボット」随員一名ヲ同伴五

月十七日夜当地出發日本へ直航五月二十四日西比利丸ニテ  
歸米ノ筈、汽車其他ニ関シ充分便宜ヲ供与方可然御配慮相  
成度シ外務大臣へ転電アリタシ

二四六 五月十八日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

アボット急遽歸國ノ理由ニ付路透報道ノ件  
第七三九号 (五月十九日接受)

本使發奉天宛往電第九一号ニ関シ五月十七日路透通信ハ  
「アボット」ハ「モルガン」ノ招電ニ応シ支那ノ現状ノ報  
告並支那改善ノ為支那ニ与フヘキ援助ノ種類及程度審議ノ  
目的ヲ以テ開カルヘキ會議ニ參列ノ為俄カニ歸國スルコト  
トナリタルモノナル旨報シ居レリ右ハ米國公使館アタリノ  
公表ニ依ルモノカト察セラル

二四七 五月二十日 高橋大藏大臣ヨリ  
内田外務大臣宛

对中国新借款团組織問題ニ関スル方針案ニ付  
大藏省ノ意見回答ノ件  
官房秘乙第一、一〇八号 (五月二十日接受)

如ク引直スコトヲ肯ゼザルモノニハ之ニ支持ヲ与ヘスト  
云フコトハ政府ニ於テ支持セザルトノ意味ナラバ不同意  
ナリ

五 方針案中四ハ左ノ趣旨ニ改メ度

滿蒙ハ本邦接壤ノ地ニシテ特殊ノ利害關係ヲ有シ英國ノ  
揚子江沿岸及仏國ノ雲南、広西地方ニ於ケルトハ其關係  
全ク異ナレルコト及以上ノ關係ハ英國ハ数次之ヲ承認シ  
米國モ近ク石井「ランシング」ノ宣言ニ依リテ承認シタ  
ル処ナルコトヲ指摘シテ滿蒙ヲ新借款团ノ共同範圍ヨリ  
除外スルコトト致度シ

二四八 五月二十日 閣議決定

对中国新借款团組織問題ニ関スル四國銀行家  
會議ノ我代表者ニ対スル訓令ニ付請議ノ件

对支新借款团組織ニ関スル米國政府ノ提案ハ現四國銀行团  
トハ別個ノモノトシテ日英米仏四國銀行团ヨリ成ル新借款  
团ヲ創設シ支那官憲ノ保証アル借款ハ其ノ政治借款タルト  
実業借款タルトヲ問ハス将来新借款团ノ共同事業中ニ包含  
セシメ且已成借款ト雖其優先權ハ新借款团ニ引渡サシメム

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二四八

米國政府提議对支借款团組織問題方針案ニ関シ御照会ノ趣  
了承右ハ左記五点ノ外異議無之候間右様御承知相成度此段  
及御回答候也

大正八年五月二十日

大藏大臣男爵高橋是清(印)

外務大臣子爵内田康哉殿

記

一、方針案前文中「大局上我ニ有利ナル方向」トアルヲ  
「東洋ノ平和及彼我ノ公益ニ資スル方向」ト改ムルコト  
二、方針案中二ノハニ関シ新借款团ノ共同スヘキ借款ノ範  
圍ハ金額及公衆募集双方ヨリ制限スルコト即金額ノ制限  
ハ三百万円トシ三百万円以上ノ借款ハ其公衆募集タルト  
否トニ拘ラス共同スルコト又公衆募集ニヨル借款ハ其金  
額ノ大小ニ拘ラス総テ共同スルコト

三、方針案中三ヲ削除スルコト

四、方針案中五ノ第一項ヲ左ノ通修正致度

已成借款ニシテ已ニ資金交付済ノ分ヲ新借款团ノ事業ニ  
引直スヤ否ヤハ個々ノ場合ニ於テ借款当事者ト新借款团  
トノ間ニ自由商議ニ委スルコトハ妨ゲザルモ英國意見ノ

トスルモノニシテ政治上經濟上頗ル重要ノ關係ヲ有スル次  
第ナル処米國ノ大資本カ将来支那ニ投下セラルルニ至ルヘ  
キハ蓋シ免レ難キ大勢ノ帰趨ナルヲ以テ日本トシテハ寧ロ  
進ミテ新借款团ニ加ハリ对支投資ニ関スル日米ノ協同ヲ緊  
密ナラシメ欧米ノ資本の勢力ヲ東洋ノ平和及彼我ノ公益ニ  
資スル方向ニ導クコト最得策ト認ム仍テ帝國政府ニ於テ新  
借款团組織問題ニ関スル米國政府ノ提議ニ賛同シ左記(一)乃  
至(四)ノ趣旨ニ依リ我代表者ニ訓令スルコトト致度シ

(一) 新借款团ハ政治借款及塩稅收入担保借款等ニ関スル現  
四國团ノ優先權ヲ繼承シ且幣制借款ニ関スル四國团ノ事業  
及行懸ヲ踏襲スル等事実上現四國团ニ代ルヘク現四國团ハ  
単ニ第一次改革借款ノ元利支払、塩稅收入保管等ノ目的ニ  
限り存続セシムルコトスヘシ尚現四國团ノ一員タル露國  
团体ノ為ニハ列國ノ承認ヲ得ヘキ露國政府ノ確立ヲ待テ新  
借款团ニ加入スルコトヲ得セシムヘク又白國团体ニ付テハ  
現四國团体改造ノ機ヲ以テ新借款团ニ加入スルコトト致度  
シ

(二) 新借款团共同事業ノ範圍ハ政治借款及実業借款ヲ包含  
スルモ左ノ通制限ヲ設クヘシ



(イ)支那中央政府及地方官憲ヲ相手トスル借款又ハ右中央政府及地方官憲ニ於テ元利支払ヲ保証スル借款タルコト  
(ロ)実業借款ニ付テハ企業(例ヘハ工事請負及材料供給ノ如シ)ニ関スル方面(industrial side)ト金融ニ関スル方面(financial side)トヲ區別スル英國案ハ其ノ趣旨ニ於テ同意ヲ表スルヲ妨ケサルコト

(ハ)公募セラルル借款ハ其ノ額ノ如何ヲ問ハス借款団ノ共同範圍トシ又公募セラレサル借款ハ其ノ金額ニ相当ノ最少限度ヲ定メ其ノ限度以上ノ借款ニ限り新借款団ノ共同事業ニ属セシムルコト而シテ右最少限度ハ金三百万円トスルコト

(ニ) 実業借款中最モ顯著ナルハ鐵道借款ナルカ鐵道ニヨル支那分割ノ形勢ヲ緩和シテ支那ノ保全ヲ完クスルコト、列國ノ鐵道計画ノ規模雄大ナルコト而モ我資金ノ十分豐潤ナラサルコト等ニ顧ミ将来ノ鐵道借款ハ寧ロ新借款団ノ共同事業中ニ包含セシメ其手ニテ鐵道ノ開發ヲ図リ列國ノ鐵道政策ヲ中和シ乃至我ニ不利ヲ来スヘキ共同管理說ヲ阻止スルト共ニ現在列國ノ關係アル広大ナル支那一般鐵道ニ對シテモ我發言權ヲ獲得スルコト有利トス尤モ英米兩國共ニ

於テ支持ヲ与ヘストノ意味ナラハ不同意ナリ(以上訓令終リ)

因ニ云フ以上ノ如キ方針ニヨリ米國案ニ賛同スルニ至ルトモ我資本家ハ左ノ範圍ニ於テ自由活动ノ余地アルベシ從テ漢冶萍公司等ノ類カ当然本案ヨリ除外セラルヘキハ論ヲ俟タズ

(イ)一定額以下ノ借款(但シ公募セラレサルモノ)

(ロ)支那人若ハ会社相手ノ借款(支那官憲ノ保証ナキモノ)

(ハ)実業借款ノ企業(例ヘハ工事請負及材料供給)ノ方面ニ属スル事業

註 右請議案ノ冒頭余白ニ「大正八年五月二十日閣議決定(内田外相印)」ノ記入アリ

二四九 五月二十日 内田外務大臣ヨリ 在仏國松井大使宛(電報)

对中国新借款团组织問題ニ関スル我方針ニ付

小田切及巽ニ傳達方指示ノ件

別 電一 同日内田外務大臣発在仏國松井大使宛電報第

二三三号右日本政府ノ方針

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二四九

鐵道借款ヲ新借款団ノ共同事業ノ範圍中ニ包含セシムル意嚮ナルノミナラス日本ヨリ進テ斯ル申出ヲ為スハ後記滿蒙ニ関スル我特殊地位ノ主張ヲ為ス点ヨリスルモ面白カラサルニ付以上ハ単ニ我代表者ニ於テ含ミ置クニ止メ度シ

四 日本ハ滿蒙ニ對シ地理上歴史上特殊ノ感情及利害關係ヲ有スルコト及以上ノ關係ハ英米露仏諸國ノ数次承認シタル所ナルノミナラズ現借款団規約調印ノ際ニモ我ニ於テ滿蒙ヲ留保シタル行懸リアルコトヲ指摘シテ滿蒙新借款団ヨリ除外スルコトヲ致度將又借款契約ニ基ク優先權ニ付テハ英國案ニ所謂「着手」云々ノ意義ヲ明白ニシ例ヘハ借款契約ハ成立シ居レルモ公債ノ發行ニ至ラサルカ如キモノ(例ヘハ寧湘浦信鐵道借款)ハ優先權ト見做スコト日本ニ取リ有利ナルヘシト思考セラル尤モ此ノ点ハ日本ヨリ進テ申出ツル必要ナカルヘキニ付單ニ代表者ニ於テ含ミ置クニ止ムベシ

(四) 已成借款ニシテ已ニ資金交付済ノ分ヲ新借款団ノ事業ニ引直スヤ否ヤハ一々其ノ借款當事者ト新借款団トノ間ニ自由商議ニ委スルコトトシ然ルベシ(尚英國意見ノ如ク引直スコトヲ肯セサルモノニハ支持ヲ与ヘスト云フハ政府ニ

二 同右電報第二三四号滿蒙除外ニ関スル我主張ノ参考事項

第二三二号(至急)

對支新借款団問題ニ関スル帝國政府ノ方針別電第二三三号ノ通決定シタルニ付右ノ次第至急小田切及巽ニ御傳達相成度

尚本件ニ付左ノ諸点御含置相成度且小田切、巽ヘモ可然承知セシメ置カレタシ

一、前記決定案ノ通り我特殊關係アル山東福建ニ関シ何等ノ留保ヲ為ササルハ一ハ以テ米國提案ノ趣旨ニ賛同シ對支投資ニ関スル日米ノ共同ヲ緊密ナラシメ欧米ノ資本的勢力ヲ東洋ノ平和及彼我ノ公益ニ資スル方向ニ導カンカ為ナルト共ニ一ハ斯ク我ニ於テ開放的ノ態度ヲ執ルト共ニ他列強ヲモ同一態度ニ出テシメ以テ從來各國ノ特殊關係ニ依リ事實上不便障礙尠カラザリシ我對支全般ノ經濟的活動ヲ自由ナラシメムカ為ナリ但シ滿蒙ハ山東福建又ハ揚子江流域等ノ支那本部ト自ラ關係異ルノミナラズ前記決定(四)ノ事情モアルニ付右(四)ノ通り全然別種ノ取扱ヲ求ムル次第ナリ尚滿蒙除外ニ関スル我主張ノ参考トナルヘキ事項別電第二三四

号ノ通り

二、将来日本団体ヲ構成スヘキ我銀行業者実業家側ニ対シテハ至急大蔵大臣ニ於テ右決定方針ノ大体ヲ内示シ正金銀行ト共ニ一ノ新日本団体ヲ組成セシメ右新団体成立ノ上ハ一応其ノ承認ヲ経テ小田切、巽ヲ正式ニ新日本団体代表者タラシムルコトトナルヘシ

右別電ト共ニ英、米、白ニ転電アリタシ

## (別 電 1)

五月二十日内田外務大臣発松井大使宛電報第二三三三号  
日本政府ノ方針

## 第二三三三号

(一)新借款団ハ政治借款及塩税收入担保借款等ニ関スル現四國団ノ優先権ヲ継承シ且幣制借款ニ関スル四國団ノ事業及行懸ヲ踏襲スル等事実上現四國団ニ代ルヘク現四國団ハ第一一次改革借款ノ元利支払塩税收入保管等ノ目的ニ限り存続セシムルコト尚現四國団ノ一員タル露國団体ノ為ニハ列國ノ承認ヲ得ヘキ露國政府ノ確立ヲ待テ新借款団ニ加入スルコトヲ得セシムヘク又白國団体ニ付テハ現四國団改造ノ機ヲ以テ新借款団ニ加入スルコトハ既ニ帝國ノ同意セル

政策ヲ中和シ乃至我ニ不利ヲ来スヘキ共同管理説ヲ阻止スルト共ニ現在列國ノ關係アル廣大ナル支那一般鐵道ニ対シテモ我發言權ヲ獲得スルコト有利トス尤モ英米兩國共ニ鐵道借款ヲ新借款団ノ共同事業ノ範圍中ニ包含セシムル意向ナルノミナラス日本ヨリ進テスル申出ヲ為スハ後記滿蒙ニ関スル我特殊地位ノ主張ヲ為ス点ヨリスルモ面白カラサルニ付以上ハ単ニ我代表者ニ於テ含ミ置クニ止ムルコト

(四)日本ハ滿蒙ニ対シ地理上歴史上特殊ノ感情及利害關係ヲ有スルコト及以上ノ關係ハ英米露仏諸國ノ数次承認シタル所ナルノミナラス現借款団規約調印ノ際ニモ我ニ於テ滿蒙ヲ留保シタル行懸リアルコトヲ指摘シテ滿蒙ヲ新借款団ノ共同範圍ヨリ除外スルコトヲ將又借款契約ニ基ク優先権ニ付テハ英國案ニ所謂「着手」云々ノ意義ヲ明白ニシ例ヘハ借款契約ハ成立シ居レルモ公債ノ発行ニ至ラサルカ如キモノ(例ヘハ寧湘浦信鐵道借款)ハ優先権ト見做スコト日本ニ取り有利ナルヘシト思考セラル尤モ此ノ点ハ日本ヨリ進テ申出ツル必要ナカルヘキニ付單ニ代表者ニ於テ含ミ置クニ止ムルコト

(五)已成借款ニシテ已ニ資金交付済ノ分ヲ新借款団ノ事業ニ

所ナルヲ以テ其ノ約ヲ履ムコト

(二)新借款団共同事業ノ範圍ハ政治借款及実業借款ヲ包含スルモ左ノ通制限ヲ設クルコト

(イ)支那中央政府及地方官憲ヲ相手トスル借款又ハ右中央政府及地方官憲ニ於テ元利支払ヲ保証スル借款タルコト

(ロ)実業借款ニ付テハ企業(例ヘハ工事請負及材料供給ノ如シ)ニ関スル方面(industrial side)ト金融ニ関スル方面(financial side)トヲ區別スル英國案ハ其ノ趣旨ニ

於テ同意ヲ表スルヲ妨ケサルコト

(ハ)公募セラルル借款ハ其ノ額ノ如何ヲ問ハス借款団ノ共同範圍トシ又公募セラレサル借款ハ其ノ金額ニ相当ノ最少限度ヲ定メ其ノ限度以上ノ借款ニ限り新借款団ノ共同事業ニ屬セシムルコト而シテ右最少限度ハ金三百万円トスルコト

(ニ)実業借款中最モ顯著ナルハ鐵道借款ナルカ鐵道ニヨル支那分割ノ形勢ヲ緩和シテ支那ノ保全ヲ完クスルコト、列國ノ鐵道計画ノ規模雄大ナルコト而モ我資金ノ十分豐潤ナラサルコト等ニ顧ミ将来ノ鐵道借款ハ寧ロ新借款団ノ共同事業中ニ包含セシメ其手ニテ鐵道ノ開發ヲ図リ列國ノ鐵道

引直スヤ否ヤハ一々其ノ借款当事者ト新借款団トノ間ノ自由商議ニ委スルコト(尚英國意見ノ如ク引直スコトヲ肯セサルモノニハ支持ヲ与ヘスト云フハ政府ニ於テ支持ヲ与ヘストノ意味ナラハ不同意ナリ)(以上訓令終リ)

## (別 電 1)

五月二十一日内田外務大臣発在仏國松井大使宛電報第二三四号  
滿蒙除外ニ関スル我主張ノ参考事項

## 第二三四号

滿蒙ニ於ケル我特殊地位ハ英仏米諸國ノ已ニ承認シ居レル所ニシテ其ノ重ナル事例ヲ挙クレバ左ノ如シ

(イ)米國ハ石井「ランシング」協約其ノ他ニヨリ滿蒙ニ於ケル我特殊利益ヲ承認シ居リ且大正六年一月二十六日米國國務卿ハ日本大使ニ対シ米國政府ハ支那ニ於ケル各國ノ優先権ハ承認スルコト能ハサルモ滿洲ハ別ナリト言明セリ(大正六年本省宛在米大使來電第二六号參照)

(ロ)英國ハ各種ノ事件ニ触レ滿蒙ニ於ケル我特殊地位ヲ承認シ居レリ、後記(ニ)參照アリ度シ尚大正五年八月二十一日政機密送第一四三号極東、特ニ支那ニ於ケル日本ノ地位

ニ関スル英國政府言明中滿蒙關係ノ分ヲモ参照アリタシ

(ハ) 仏國モ亦從來滿蒙地方ニ対スル日本ノ特殊地位ヲ承認シ居レルハ疑ナキ事實ニシテ(後記(ニ)参照)、現ニ大正六年中仏國政府ヨリ帝國政府ニ対シ雲南、広東、広西ニ於ケル仏國ノ地位確認ヲ得ムコトヲ提議シ来タリタル際此等諸省ニ於ケル仏國ノ地位ト滿洲ニ於ケル日本ノ地位トヲ同視スルモノニハアラザルコトヲ言明シ居レリ尚右仏國ノ提議ニ対シテハ爾來其ノ儘回答ヲ与ヘ居ラズ右ニ含ミ置カレ度シ

(ニ) 露國カ三回ニ亘ル日露間ノ秘密協約ニヨリ日本ノ滿蒙ニ於ケル我特殊利益ヲ認メタルハ御承知ノ通りニシテ右ハ各条約締結當時英仏兩國ニハ之ヲ内示シ其ノ諒解ヲ得タル処ナリ

(ホ) 大正四年締結ノ南滿東蒙ニ関スル日支条約ハ英仏ハ勿論米國ニ於テモ當時異存ナカリシ処ニシテ右ハ此等諸國當局ノ親シク言明セル処ナリ詳細ハ當時ノ往復電報転電等ニ就キ御承知アリ度シ

(ヘ) 日本銀行團ハ明治四十五年六月十八日六國団會議ニ於テ本借款カ毫モ南滿洲及南滿洲ニ接近セル内蒙古ノ東部地

方ニ於ケル日本ノ特殊ノ權利及利益ヲ毀損セサルヘキコトヲ条件トシテ本借款ニ加入スヘキ旨ヲ宣言シ之ヲ會議録ニ記載セシメタリ

註 1 日本外交文書大正六年第二冊四四五文書

2 同右大正六年第三冊七二三文書參看

3 同右明治四十五年第二冊九〇四文書附屬書一

二五〇 五月二十日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

梁士詒ヨリ小貫ニ対シ中華銀行ノ新借款團

參加希望及日本側ノ好意的斡旋方申出デタル

ニ付請訓ノ件

第七四七号 (五月二十一日接受)

五月十九日梁士詒、小貫正金支配人ヲ來訪シ中華銀行公司理事長トシテ懇談シタシトテ対支四國借款團改造ノ議著々進捗シツアル趣ナルガ若シ中華銀行公司ニシテ右借款團ノ一員トシテ參加スルコトヲ得ルニ於テハ支那側ト借款團トノ間ニ立ツテ調節ヲ計ル等種々ノ利益尠カラザルベシト思料セラルルニ付右參加方ニ関シ日本側ノ好意的斡旋ヲ得バ幸甚ナル旨述ヘタルニ付小貫ヨリ試ミニ右ハ既ニ日本以外ノ

關係國側ニモ会谈セラレタル次第ナルヘキヤト諮問シタル

ニ実ハ「アボット」出發前略ホ同様ノ希望ヲ申入レタル処支那側ノ意嚮ヲ諒トシ兎ニ角婦米ノ上關係者ノ考量ニ入ルヘキ旨ヲ約セリトノコトニテ其他梁士詒來談ノ詳細ハ小貫

ヨリ本店ヘ電報ノ答ニ付委曲右ニテ御了悉願度唯突然右ノ如キ申出ヲ為シ来レル動機如何ハ差向キ確知シ難キモ卑見ニ拠レバ支那政府ト外國借款團トノ間ニ立チテ仲介ノ任ニ當リ支那金融界ニ實權ヲ握ラント目論見タル中華銀行公司本來ノ目的ハ支那借款团组织ノ如キ支那其他四國ノ局面ノ進展ニ連レ漸ク実行難ヲ感スルニ至リタルヲ以テ自ラ進ンデ

借款團ニ加入センコトヲ提唱スルニ至レルニアラズヤト察セラル右等ノ動機如何ハ暫ク之ヲ措キ中華銀行公司ヲシテ參加セシムルコトノ利害得失如何ハ篤ト考量ヲ要スルモノアルベキト同時ニ一面他國側ノ思惑如何ヲモ考究スルコト肝要ナルベキガ本使差向キノ感想ニ依レバ之ヲ單ニ政治上ノ

見地ヨリ推察スルトキハ寧ロ我方ニ於テ進ンデ斡旋ノ勞ヲ執リ支那側希望達成上援助ヲ与フルニ於テハ將來ニ取り好影響尠カラサルヘキカト存ズ兎ニ角小貫ヨリ何分ノ回答ヲ与フル必要モ有之ニ付御詮議ノ結果何分ノ儀御電訓ヲ請フ

二五一 五月二十日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

アボット帰國ノ理由ニ関シ梁士詒内話ノ件

第七四八号 (五月二十一日接受)

往電第七四七号梁士詒小貫ヲ來訪ノ際アボット急遽帰國ニ付小貫ニ尋ネタルニ対シ小貫ハ路透ノ報道ヲ引用シ答フル処アリタルニ梁ハ其真相ハ確知セザルモ新借款团组织問題ニ関シ米國資本団内部ニ何等カノ異論生ジ為ニ一先婦米ノコトト成レルヤニ伝フルモノアル旨語リタル趣右御含迄

二五二 五月二十四日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

正金ガ本邦銀行團ノ代表銀行トナリタルニ付

異及小田切ニ於テ正金代表者トシテ交渉方指

示ノ件

号外

正金ヨリ異ヘ

本日東京大阪ノ公債引受銀行一同米國提案ノ対支「シンデイケート」ヲ形成シ本行ヲ以テ代表銀行トセリ貴君及小田

切氏ニテ本行ヲ代表シ交渉ヲ進メラレタシ

二五三 五月二十四日 内田外務大臣ヨリ  
在仏国松井大使宛（電報）

正金ヲ本邦銀行団ノ代表銀行トシタルニ付異  
及小田切両氏ニ指示方訓令ノ件

附 記

五月二十四日本邦銀行代表者ニ対シ為シタル高  
橋大蔵大臣演說要旨  
对中国新借款团组织問題ニ関スル件

第四一七号

往電第二三二号ニ関シ

五月二十四日大蔵大臣ニ於テ正金銀行其他十七銀行代表者  
ヲ招致シ對支借款团组织問題從來ノ經過大要ヲ説明シタル  
後帝國政府ニ於テハ主義トシテ米國政府ノ提議ニ賛同スル  
コトニ決シタルニ付テハ我銀行家ニ於テ本提案ニ賛成シ速  
ニ新借款団ニ加入スヘキ本邦団体ヲ組織シ以テ本件ニ関ス  
ル巴里會議ノ決議ニ對シ講究セムコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ  
本大臣ヨリ右巴里會議ノ決議ニ関シ敷衍説明シタル処我銀  
行家ニ於テ直チニ協議ノ結果我団体ヲ組織シ外部ニ對シテ  
ハ正金銀行ヲ以テ本邦団体ノ代表者トスルコトニ決定セリ

之ニ加ハリテ所謂四国団体ナルモノ組織セラレ後更ニ日露  
兩國ノ銀行者之ニ參加シテ六国団トナリタルガ当初其共同  
範圍ハ政治借款ノ外ニ実業借款ヲモ包含シタリシモ後英國  
団ノ主張ニ基キ実業借款ハ其共同範圍ヨリ除外セラルルコ  
トトナレリ然ルニ米國ハ大正二年ニ至リ同國大統領改選ノ  
結果對支政策ノ變更ニ伴ヒ団体ヨリ脱退スルコトナリ又  
独逸ハ今次ノ戰爭以來之レヨリ除外セラレタルヲ以テ六国  
団ハ變シテ四国団トナレリ

其後四国団体ニ於テ支那第二次善後借款ニ付キ議ヲ進ム  
ルニ當リ大正六年ノ初メ一度ハ米國団ニ對シ団体復帰ノコ  
トヲ勧誘シタルコトアリシモ米國団ハ右勧誘ニ応シ難キ旨  
回答シタリシカ大正七年六月ニ至リ米國政府ハ新ニ四国団  
トハ別個ノモノトシテ對支借款团组织ノ事ヲ提議シ来レリ  
即チ先ツ同國ノ三十一銀行ヲ以テ對支借款ニ付專ラ政府ノ  
支持ヲ受クヘキ米國団ヲ組織シ左ノ要綱ノ提議ヲ日、英、  
仏三国政府ニ為シタリ

一、現四国団ノ範圍ヲ擴張シ更ニ汎ク資本家ヲ網羅スル為  
ニ日、英、仏、米四国資本団ヲ以テ對支新借款団ヲ組織  
スルコト

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二五三

又巴里會議ノ決議ニ對シテハ講究ノ上何分ノ儀申進スヘキ  
モ右不取敢電報ス又小田切、巽兩氏ハ日本銀行団ノ代表者  
タルモノト了解シ置カレタシ尚以上ノ次第ハ小田切、巽ヘ  
モ伝ヘラレ右本邦銀行団成立ノ次第ヲ他國財団代表者ニ披  
露セシメラレ度尙其際本邦団体ハ不取敢十八銀行ヲ以テ組  
織セラレタルモノ今後更ニ増加スルコトアルヘキニ付右ノ旨  
ヲモ併セ披露セシメラレ置カレ度シ、將又往電第二三三三号  
對支新借款团组织問題ニ對スル我方針ハ閣議ノ決定ヲ經タ  
ルモノナルカ右閣議決定ニハ冒頭ニ左記<sup>(註)</sup>甲ノ通り又末段ニ  
左記<sup>(註)</sup>乙ノ通り記載アル処右ハ本問題ニ對スル帝國政府ノ内  
意ヲ示スモノニテ將來ノ參考トナルヘキニ付此点ハ貴官限  
リ御含迄電報ス

註

「左記」甲及乙ヲ省略ス甲ハ前掲ノ五月二十日閣議決定  
（二四八文書）冒頭「對支新借款团组织」ヨリ「代表者ニ  
訓令スルコトヲ致シタシ」迄ノ全文ナリ又乙ハ同末段「因  
ニ云フ」以下全文ナリ

（附 記）

高橋大蔵大臣演說要旨（五月二十四日於大蔵大臣官邸）  
對支投資ノ國際的団体ニ付テハ初メ英、仏、独ノ三国銀行  
者ノ団体成立シタリシカ明治四十三年ニ至リ米國ノ銀行者

二、新団体ハ政治借款ノミナラス実業借款ヲモ共同スルコ  
ト

三、新団員ハ既得ノ借款優先權ヲ支那若クハ新借款団ニ  
譲リ渡スコト

右提議ニ對シ英國政府ハ支那借款ニ對シ適當ナル監督ヲ為  
ス可キ組織ノ必要ナルコトヲ認メ從來ノ実業借款除外ノ方  
針ヲ拋棄シ且ツ新借款団共同ノ範圍ヲ支那中央政府及地方  
官憲ニ對スル借款又ハ政府ノ保証ヲ有スル借款ニ限ルコト  
トシ大体米國ノ提案ニ參同スル事ニ決シ其旨本邦政府ニモ  
通シ来レリ本邦政府トシテハ對支投資ニ関シ各國ト協調ス  
ルコトハ年來ノ方針ニシテ今回ノ米國ノ提案ハ更ニ各國協  
調ノ範圍ヲ拡大シ且ツ該協調ヲシテ益々緊密ナラシムルモ  
ノナルヲ以テ主義トシテ米國政府ノ提議ニ參同スルコトニ  
決シタリ

尙新借款团组织ニ関シ実行上惹起セラルヘキ諸問題ニ関シ  
彼我意見交換ノ末關係各國銀行家ノ會議ヲ開催スルコトト  
ナリ右各國団体代表者ハ本月十二日迄ニ已ニ二回巴里ニ於  
テ會議ヲ開キタルカ本邦トシテハ未ダ本邦新団体組織ノ運  
ニ至ラサルヲ以テ正式ニ代表者ヲ會議ニ列セシムルノ由ナ

二五三

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二五四

カリシト雖モ目下滯巴中ノ小田切、巽両氏ヲシテ本國政府ノ承認ヲ条件トシテ會議ニ列シ各國団トノ聯絡ヲ取ラシメタリ

右二回ノ會議ニ於テ新団体規約ノ大綱ヲ議決シ之ヲ各國政府及其団体ノ考慮ニ附スルコトナリタルヲ以テ之ニ對スル本邦ノ意嚮ヲ決定スル必要アリ茲ニ從來支那投資ニ關係アル銀行家各位ノ会同ヲ煩ハシタル次第ナリ希クハ各位ハ本提案ガ支那國ノ福祉増進並ニ其富源開發ニ資スルコトノ甚大ナルハ勿論關係列國ノ協調ヲ齎ス所以ナルニ鑑ミ本提案ニ賛成セラレ速カニ本邦団体ノ組織ヲ遂ゲ以テ巴里會議ノ決議ニ對シ講究セラルル所アランコトヲ望ム

二五四 五月二十五日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛 (電報)

对中国新借款团組織問題ニ關スル四國銀行家會議ニ於ケル決定事項ニ付質疑ノ件

講第四二二号 至急

貴電講第九八五号第九八六号及第九九〇号ニ關シ不取敢左ノ諸点承認致度ニ付小田切、巽ニ於テ如何ニ了解シ居レルヤ必要ノ際ハ同人等ノ思付トシテAddisニモ確メ

シメ回電アリタシ

(一) 新規約案第一条

(i) 各國ノ財団ヲ構成スヘキ財業者ハ所謂銀行家ニ限ラス我東亞興業ノ如キ特殊ノ会社ヲモ包含セシメ差支ナシト思考スル処果シテ然リヤ

(d) A new member who is not of its nationality 云々ノ規定ノ結果中日實業会社ノ如キ合弁会社ノ加入ハ他団体ノ同意ヲ要スルモノナルヤ

(二) 新規約案第二条

(f) Agreement relating to industrial undertaking トハ実業借款及鐵道借款双方ヲ含ムモノト解シ差支ナキヤ

(g) 貴電講第九九〇号ニハ it can be shown that subscription has been made トアル処右 subscription substantial progress ノ誤ニアラサルヤ

(h) 政府ノ保証スル会社ノ借款トハ政府ノ保証ニ係ル会社ガ借款ヲ為ス場合ノ意味ナリヤ或ハ一般ニ会社ノ為ス借款ニシテ政府ノ保証アルモノヲ意味スルヤ

(三) 新規約案第三条

他日白國財団加入ノ際ハ比ノ点ニ付修正ヲ加ヘラルル次第ナリヤ

(a) 新借款団ト現四國団トノ關係ニ付テハ往電第二二三号(一)ノ通り我意嚮申進シ置キタルカ今回ノ會議ニ於テハ此ノ点ハ如何ニスル意嚮ナルヤ又大正六年一月三十日倫敦ニ於ケル四國団決議ニ於テ第二次改革借款ノ顧問ハ日本ヨリ出スヘキ旨等我方ニ有利ナル了解アルハ御承知ノ通ナル処今回ノ會議ニ於テ此種現四國団ノ引掛ハ新借款団ニ引継グコトト了解シ差支ナキヤ

(b) 新借款団ニ引継グヘキ借款及優先権ハ已成借款ト雖右借款カ公募セラレタルモノナル場合ニ限ルモノト解シ差支ナキヤ

右英米白ニ転電アリタシ

註 日本外交文書大正六年第二冊二〇一文書ノ(一)参照

二五五 五月二十六日 神野大藏次官ヨリ  
幣原外務次官宛

对中国新借款团問題ニ關スル在バリ森財務官宛ノ電報写送付ノ件

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二五五

any business arising out of such agreement トハ工事請負材料供給等ヲモ含ムモノト解セラレ且ツ貴電第九九〇号末段材料購入優先権ノ問題モアリ本省宛在英代理大使發電第一三八号 industrial side financial side トヲ區別シ前者ハ自由ニセムトスル英國案ノ趣旨ハ實現困難ナルニ至リシ次第ナルヤ

(四) 貴電講第九八六号中

(i) 右決議(2)ノ(a)ニ所謂 substantial progress トハ如何ナル意味ナルヤ例ヘバ工事ニ着手シ居レル程度ノモノヲ指スヤ或ハ契約成立シ前貸ノ交付ヲ見タル程度ノモノヲ指スヤ此ノ点小田切、巽ニ於テ如何ニ了解シ居レルヤ為念承認致度シ

(d) 決議(2)ノ(b)及(c)ハ(a)ノ範圍内ニテ団体員ノ pool スヘキ權利ニ限ラルヘキモノト解セラルル処右ノ内(b)ノ they themselves possess or control 云々トハ如何ナル意味ナルヤ

(五) 貴電講第九八五号中白國財団ニハ一半ノ權利ヲ与フヘシトノLamontノ意見ハ後日ノ討議ニ附セラルルコトトナル次第ナリヤ又新規約案ハ全然均等主義ヲ原則トスル処

官房秘乙第一一六五号

(五月二十七日接受)

对支新借款团ノ件ニ関シ別紙写ノ通在巴里森財務官ヘ電報  
相成候間御参考迄ニ及御送付候也

大正八年五月二十六日

大蔵次官 神野勝之助(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

(別紙)

五月二十四日高橋大蔵大臣ヨリ在巴里森財務官宛電報写

对支新借款团组织ニ関スル米國ノ提議ニ基キ本日日本銀行  
以下十八「シンジケート」銀行代表者ヲ集メ本大臣ヨリ帝  
國政府ニ於テハ对支投資ニ関シ列國協調ノ從來ノ方針ニ抛  
リ主義トシテ今回ノ米國政府ノ提議ニ賛同スルコトニ決定  
シタルヲ以テ我銀行家ニ於テモ本提案ニ賛成シ速ニ本邦団  
体ヲ組織シ巴里ニ於ケル銀行家會議ノ決議ニツキ講究アリ  
タキ旨ヲ述ヘ其ノ結果直ニ銀行家ノ協議ニ依リ本邦団体組  
織セラレ横濱正金銀行ヲ以テ外部ニ対スル団体代表者トス  
ルコトニ決定シ団体會議ニハ小田切、巽兩人ヲ本邦団体代  
表者トシテ列席セシムルコトトセリ就テハ貴官ハ裏面ニ在  
リテ右兩人ヲ援助シ本件処理上遺憾無キ様尽力相成度尚本

シテ其採択セラレンコトヲ希望致置候処該問題ハ爾來幾多  
ノ曲折ヲ經テ今次米國銀行団ノ代表者トーマス、ラモン<sup>モント</sup>  
氏ノ來朝トナリ我当局ト折衝ヲ重ネタル後新四國借款団ノ  
成立ヲ見ルニ至レリ而シテ該団作用ノ範圍ニ関シ下名等ノ  
諒解スル所ニヨレハ該団共同事業ハ支那官憲ニ対スル借款  
又ハ其保証スル借款ニシテ公募セラルヘキモノタルコトヲ  
要シ既成実業借款ニ付テハ其事業カ具体的進捗ヲ為シ居ラ  
サルモノタルコトヲ要スルモノノ如シ右ノ諒解ニシテ誤ナ  
シトスレハ下名等ハ新借款団ノ作用ニ関シ茲ニ重ネテ意見  
ヲ開陳シ併ハセテ二三ノ疑点ニ就キテ高教ヲ仰カント欲ス  
ルモノニ有之候

### 第一 支那ノ意向

客年六月ノ意見書冒頭並ニ結尾ニ述ヘタルカ如ク國際財団  
ハ政治經濟借款ヲ打テ一団トナシ關係國政府ハ各之レニ援  
助ヲ与フルノ結果勢ノ趨ク所支那共同管理ノ端ヲ開クニ至  
ルノ虞アリ從テ下名等ハ本借款団ノ成立ニ付テハ我國ハ先  
ツ支那政府ノ意向ヲ参酌シ支那ト他三國トノ間ニ立チテ居  
中斡旋ノ勞ヲ執ラレンコトヲ切望シタル次第第二御座候然ル  
ニ聞ク所ニヨレハ本問題ニ関シテ最近支那ニ於テ強烈ナル

件ニ対スル本邦政府ノ方針ニ付テハ松井大使宛外務大臣電  
報第二二三二号、第二二三三号及別電第二三四号参照相成度

二五六 五月二十七日

内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛(電報)

アボット急遽帰國ノ理由ニ関スル件

第三九一号

「シカゴ」大陸銀行ノ「アボット」ハ過般支那出發歸米ノ  
途ニ就ケリ尚梁士詒ハ在北京正金銀行支配人ニ対シ右「ア  
ボット」急遽帰國ノ真相ハ確知セザルモ新借款团组织問題  
ニ関シ米國資本団内部ニ何等カノ異論生ジタル為一先歸國  
ノコトナレルヤニ伝フルモノアル旨語リタル趣ナリ右ニ  
付何等參考トナルヘキ事項アラバ回電アリタシ  
英仏ニ転電アリタシ

二五七 五月二十八日

東亜興業外八社代表ヨリ  
内田外務大臣宛

对中国新借款团组织問題ニ関シ伺出ノ件

附記 右ニ対スル外務省ノ説明案

客年春夏ノ交ニ於テ日米英仏四國間ニ对支借款問題ノ協議  
ニ上リ居レルニ際シ下名等ハ六月六日付ヲ以テ意見ヲ具陳  
反對論發生シ政府当局タルト民間有志タルトヲ問ハス挙國  
新借款団ノ成立ニ嫌焉タルモノノ如ク随テ我國ノ態度ニ対  
シ失望シタルコト尠ナラサルモノアリトノ事ニ有之思フ  
ニ借款団ノ成立ニ先チ支那ノ諒解ヲ得ルハ至当ノ順序ナリ  
シナランニ今日ニ於テハ既ニ其ノ時機ヲ逸シタルニヨリ少  
ナクトモ今後之カ実行ニ先チ支那ノ諒解ヲ得ルハ極メテ必  
要ノ事ナリト確信致候而シテ此事ニ関シテハ隣邦ノ友誼上  
將又日支從來ノ關係上我政府ニ於テ居中斡旋ノ勞ヲ執ラレ  
ンコト切望ニ堪ヘサル次第第二御座候

### 第二 新旧両借款団ノ關係

新借款団ノ成立ト共ニ旧借款団ハ消滅スヘキモノナリヤ否  
ヤ未タ之ヲ詳ニスル能ハサルモ新借款団ハ政治經濟兩方面  
ノ借款ヲ包含スルモノナルヲ以テ政治借款ノミヲ專ラト  
スル旧借款団ハ自然借款団ノ作用中ニ統一セラレ縦令消滅  
ニ帰セストスルモ事實新借款団契約ノ規定ニヨリテ支配セ  
ラルルコトトナルニ非サルカト推想仕候モ此点ハ对支借款  
ニ関スル重要ナル点ノ一ニシテ明確ニシ置クコト必要ト信  
スルニ付キ關係当局者間ニ何等カ之ニ関スル明約若クハ默  
約アラハ御開示ヲ得度存候

第三 新借款团作用ノ範圍

新借款团共同作用ノ範圍ハ公募スヘキ借款ニ限定セラレアルヲ以テ公募セラレサルモノハ団員外ノ者ハ勿論団員ト雖モ之ニ応スルコトヲ得ヘク又団員外ノ者ニシテ支那借款ニ応シ之ヲ公募ニ附スルコトハ何等差支ナキ儀ト存候就テハ右等ノ場合ニ於テ当該國政府ハ之ニ援助ヲ与フルニ際シ団員タルト否トヲ問ハス何等ノ差別アルヘカラサルコト言フ迄モナキ儀トハ存候得共此点ニ関スル当局御意見開示得度存候

新借款团ニ於テ支那ヨリ申出タル借款ニ応スヘキヤ否ヤハ団代表者ノ會議ニ於テ多數決ニヨリテ決セラルヘキコトト信スルモ該會議ニ於テ応セサルコトニ決定シタル借款ハ団員中ノ或ルモノニ於テ希望アレハ自由ニ之ニ応スルヲ得ルコトナリ居ルヤ否ヤ承知致度蓋シ我國ノ支那ニ對スル關係ハ言フ迄モナク英米仏トハ大ニ異ル処アルヲ以テ他ノ団員ニ於テ應スルコトヲ好マサル借款ト雖モ我國ニ於テ之ニ応スルヲ利益ナリトスル場合モ之アルヘク此場合ニ於テ団員外ノモノノ之ニ応スルヲ得ヘキコトハ勿論ナルモ団員中ノモノト雖モ之ニ応スルヲ妨ケサルコトトナシ置カサレ

技術者等モ団員側ヨリ供給スルコトアルヘク其場合ニハ各団員団ヨリ平等ニ供給スルコトナルヘシト存候又該事業ノ実施ニ伴フ工事請負材料供給等ノ事項ニ関シ財団ニ於テ請負及供給ノ分配ヲ為ス場合ニハ各國均等ニ之ヲ為スヘキコト緊要ト存候此点ハ我支那關係事業家ノ最重要視スル処ニシテ若シ曩日ノ英國ノ主張ノ如ク借款ニ伴フ事業ニ関スル請負及供給ハ一般入札ニ附スルコトモナラハ多クノ場合ニ於テ我事業家ハ甚シキ不利ノ地位ニ立ツコトヲ免ルル能ハサルヘキヲ以テ次ニ開カルヘキ借款団代表者會議ニ於テ此点ハ我國希望ノ最重要ナルモノノ一トシテ極力主張貫徹セラレンコトヲ切望致候

新借款团契約ノ内容ヲ詳ニセサルヲ以テ下名等ノ意見ヲ細密ニ陳述スルコト能ハサルモ以上ニ希望及疑点ノ要領ヲ叙述致候ニ付之ニ對シ高教ヲ垂レラルコトヲ得ハ幸甚ノ至ニ奉存候

大正九年五月二十八日

石 塚 英 藏 (印)

東洋拓殖株式会社

奥 村 政 雄 (印)

ハ我立場ヲ不利ナラシムルコトアルヲ免レスト存候又二個以上ノ借款主目アリテ其何レヲ先ニシ何レヲ後ニスヘキカノ議論ヲ生シタル場合ニ我ノ先キニセント欲スル処ヲ他ノ多數者ハ之ヲ後ニスルコトニ傾ケル場合ノ如キ例セハ我ハ山東鐵道延長線ノ敷設ヲ先ニセント欲スルニ拘ハラス他ノ団員ハ広東雲南線ヲ先ニセントセルカ如キ場合ニハ我ハ単独ニテ我ノ先ニセントスル処ヲ實行シ得ルノ自由ヲ如何ナル形カニ於テ保留スルノ必要可有之存候

同一借款事業ニシテ支那ヨリ借款团及団外ノモノニ同時若クハ先後シテ交渉シタル場合ニハ団員ト団以外ノモノトハ競争者ノ地位ニ立ツコトナルヘク此場合ニ当該國政府ハ先ツ団員ニ對シ援助ヲ与ヘ若シクハ兩者ノ妥協ヲ勸奨スルノ態度ヲ執ルヘキハ至当ノ順序ト思考致候得共若シ団員外ノモノノ交渉ノミ成効ニ帰シタル場合ニ至ラハ当該國政府力之ニ援助ヲ与フルコトハ何等差支ナキ儀ト存シ下名等ノ希望スル処ニ御座候

第四 借款ニ因リ經營セラルヘキ事業ノ分配

借款ニ因リ經營セラルヘキ事業例ヘハ鐵道電信ノ如キモノハ自然該借款ノ担保トナルヘク從テ其經營ニ付テハ管理者

三菱商事株式会社

荻 野 元 太 郎 (印)

古河商事株式会社

尾 崎 敬 義 (印)

中日實業株式会社

川 上 常 郎 (印)

東洋拓殖株式会社

門 野 重 九 郎 (印)

合名会社大倉組

龍 居 頼 三 (印)

南滿洲鐵道株式会社

倉 知 鉄 吉 (印)

中日實業株式会社

藤 瀬 政 次 郎 (印)

三井物産株式会社

小 池 張 造 (印)

久原鋳業株式会社

荒 井 賢 太 郎 (印)

東亜興業株式会社

白 岩 龍 平 (印)

東亜興業株式会社

外務大臣子爵 内田康哉殿

(附 記)

東亜興業外八社ノ伺出ニ対スル外務省ノ説明案

対支借款ニ関シ東亜興業外八社代表者ヨリノ伺出ニ対シテハ大体別紙ノ趣旨ニ依リ説明ヲ与ヘ可然哉ニ思考セラルルモ本件ハ一応大蔵省トモ協議ヲ経ルコト然ルヘシ尚ホ此ノ機会ニ於テ重ナル事業家ニ対シ借款団ノ内容等ニ関シ外務大蔵及正金側ヨリ委曲ノ説明ヲ与ヘ且質問ニ応スル為合ノ機会ヲ作ルコトモ一策ナルヘキ乎

(別 紙)

第一 支那ノ意向

新借款団ニ対スル支那ノ輿論良好ナラサルモノアルハ之ヲ認メサルヲ得サルモ其ノ多クハ新借款団ヲ以テ支那財政ニ対シ列強干渉ノ端ヲ開クモノナリトノ疑念等ニ胚胎スルモノニシテ要スルニ新借款団事業ノ本旨ヲ誤解シタルニ出ツルモノ多ク而カモ右等ノ疑念ハ過般米國銀行団代表者「ラモント」氏渡支後各地ニ於ケル説明ニ依リ支那有職者ニ於

テハ大体諒解スル所アリタルモノノ如シ尚ホ新借款団ノ組織ニ対スル支那側反對理由ニ関シ世上或ハ政治經濟兩借款ヲ包括スル新組織成ラハ支那側ヲシテ其ノ私利ヲ図リ乃至一派勢力ノ伸張ヲ期スルノ途ヲ失ハシムルコトナルニ依リ種々ノ口実ヲ設ケテ之カ反對説ヲ唱道スルニ過キスト為スモノアリ是亦一顧ノ価値無キニ非サルヘシ借款团组织ニ関シ支那側ト予メ完全ナル諒解ヲ遂クルヤ否ヤノ問題ハ時ノ外交關係ヲモ顧慮スルノ必要アリ只最近新借款団ノ運用ヲ徹底セシメムカ為メ之カ組織ノ由来及目的等ヲ此際支那政府ニ通告スヘシトノ議駐支關係國公使ノ間ニ熟シツアルハ事実ナリ

第二 新旧借款団ノ關係

旧借款団ト新借款団トハ固ヨリ別箇ノ団体ナリ而シテ新団体成立後ニ於ケル旧団体トノ關係如何ハ未タ各關係國政府又ハ關係國資本団ノ間ニ何等成議ヲ見サルモ旧借款団ハ新借款団成立ト共ニ其ノ既得優先權ヲ新借款団ニ提供シ単ニ第一次改革借款ノ元利支払及塩稅收入保管ノ目的ニ限り存続スルコトナルニ至ルヘシト思ハル此ノ点ハ本年十月ノ新借款団會議ニ於テ關係者間ニ協定セラルルナラム

第三 新借款団作用ノ範圍

(一) 新借款団作用ノ範圍ニ付テハ去ル五月十三日外務当局ノ談トシテ諸新聞紙ニ掲載セラレタルモノ克ク其ノ内容ヲ尽セリ即チ

(1) 新団体ノ共同範圍ニ属スヘキモノハ政治借款タルト經濟借款タルトヲ區別セス又現在成立セル借款タルト將又將來ノ借款タルトヲ問ハス一切之ヲ包含スルモ右ニ就テハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス

(イ) 本件共同事業ハ支那政府及地方官憲相手ノ借款並支那政府及地方官憲ノ保障スル会社借款タルコト

(ロ) 公募セラルルコト

(ハ) 既成実業借款ノ中其ノ事業カ具体的進捗ヲ為シ居ラサルコト

(2) 右ノ結果左記ノ借款其ノ他ノ投資事業即チ

(イ) 支那個人若ハ会社相手ノ借款 (但シ支那政府及地方官憲ノ保障無キモノニ限ル)

(ロ) 公募セラレサルモノ

(ハ) 既成実業借款ノ中其ノ事業カ具体的ニ進捗シ居ルモノ

(ニ) 合併事業ノ如キ借款ニ非ルモノ等ハ借款団ノ範圍ニ属セス從テ我カ資本家乃至企業家ハ此ノ方面ヨリ自由ニ対支投資ニ從事スルコトヲ得ヘシ

(一) 別紙伺出中ニ所謂「団員外ノ者ニシテ支那借款ニ応シ之ヲ公募ニ付スルコトハ何等差支ナキ儀云々」ノ趣旨明白ナラサルモ右ニ所謂支那借款カ前項(1)ニ掲ケタル各要件ヲ具備セサルモノナルニ於テハ何人ト雖之ニ応スルヲ妨ケスト雖右所謂「支那借款ニシテ新団体ノ作用範圍ニ属スルモノニシテ且団員外ノ者ニシテ之ニ応セムトスルモノナルニ於テハ自ラ其ノ考量ヲ異ニセサルヘカラス即チ政府ハ団体規約所定ノ事業ニ関シテハ団員員ニ対シ支持ヲ与フヘク若シ団員外トノ間ニ競争ヲ生スル場合ニハ団員員ニ対シテノミ其ノ外交上ノ援助ヲ与フルコトトナルヘシ

(ニ) 新団体ニ於テ支那ヨリ申出タル借款ニ応スヘキヤ否ヤ如何ニシテ決定スヘキカニ付テハ今日迄何等明確ナル了解ヲ見スト雖団体規約ハ当事者ノ一若ハ数者カ現存ノ借款契約又ハ其ノ一部若ハ或種借款事業ニ参加スルコトヲ拒否シタル場合ニハ参加方ヲ承諾セル当事者ノ一若ハ数者ニ於テ之ヲ実行スルヲ妨ケサル旨ヲ規定シアリ



(四)二個以上借款種目アル場合ニ其ノ先後ヲ如何ニ決スヘキ  
カニ付テハ從來何等成議ノ存スルモノナシ如斯ハ对支借款  
ニ対スル根本方針如何ニモ依ル次第ニシテ從テ自然機微ナ  
ル政治的關係ヲモ包含スヘク旁々頗ル慎重ナル考慮ヲ要ス  
ル問題ナリ

(五)同一借款事業ニ関シ団体員ト団体外ノモノトノ間ニ競争  
ヲ生シタル場合ニ於ケル政府トノ關係ニ就テハ已ニ本項(二)  
所説ノ通ナリ

#### 第四 借款ニ因リ經營セラルヘキ事業ノ分配

借款ニ依リ經營セラルヘキ事業ノ分配ニ関シ各団体員カ主  
義上平等ノ立場ニアルヘキハ勿論ナリ工事請負材料供給等  
ノ事項ニ関シ一般入札ニ依ルヘキカ又ハ各国均等主義ニ依  
ルヘキカニ付テハ今日迄ノ如何等成議ナシ是亦我方ノ利害  
關係ヲモ顧慮シ篤ト考究ヲ要スル問題ナリ

二五八 五月三十日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

白国銀行団ノ新借款団加入ニ関スル四国銀行  
家會議ノ決議ニ対シ日本ノ意向承知シ度旨伝

猶(一)(三)ハ小田切、巽ヲシテ Addis 等ニ問合せノ上更ニ電  
報スベシ

(一)、東亞、中日共ニ日本法律ニ依リ組織セラレタル会社ニ  
シテ its nationality ニ該当スルモノナレバ其加入ニ就  
テ他団体ノ同意ヲ要セサルモノト了解ス但シ新借款団ハ  
公債發行ノ業ヲ営ム銀行家ヲ基礎トシテ組織セラルルモ  
ノナレバ他国団体ニ於テ根本的異議アルヤモ計リ難シ

(二)、(イ)貴見ノ通り

(三) Having guarantees 云々ハ會議ノ際小田切ヨリ  
質問セシニ一同其意味ノ曖昧ヲ認メタルモ是ニ代ルヘキ  
適當ノ文字無ク又是ハ旧規約ノ文字ヲ襲踏セシモノナリ  
トノ理由ニテ其儘据置キタリ、右ハ御質問ノ兩様ノ意味  
ヲ含ムモノト了解セリ

(三) Any business ニハ支那鐵道借款ノ普通条件トシテノ材  
料供給ヲ含ムモ工事請負ヲ含マサルモノト了解セリ

(四) Substantial progress has been made ニ関シテハ會  
議ノ際小田切ヨリ浦信鐵道ハ之ニ該当スルモノナリヤ否  
ヤヲ質問セシニ「ラモント」ハ右ハ新借款団ノ業務ニ移  
ルベキ借款目録ヲ調製スル時ニ於テ是ヲ決定シ度シト述

国外務省ヨリ申越セルニ付請訓ノ件

第一六九号

(六月一日接受)

貴電第一七〇号ニ関シ

御訓令ノ次第直ニ当国外務当局ヘ申入レ其後更ニ書面ヲ提  
出シ置キタル処今般同外務省ヨリ五月二十七日附書面ヲ以  
テ本月十二日对支借款团组织ノ為巴里ニ開催セラレタル日  
英米仏銀行団代表者會議ニ於テ白耳義団加入ニ関シ議決セ  
ラレタル formula (往電講第九八五号該會議經過ノ三、白  
耳義団加入ノ件参照)ハ仏國政府ノ既ニ同意ヲ与ヘタル処  
ナルヲ以テ同政府ハ帝國政府ニ於テ右「フオーミュラ」ニ  
対シ異存之無キヤ承知致シタキ旨申越シタリ至急何分ノ義  
御電訓ヲ請フ

二五九 五月三十日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国銀行家會議ニ於ケル決定事項ニ関スル質  
疑ニ対シ回答ノ件

第一一四七号

(六月二日接受)

貴電講第四二二号ニ関シ小田切ノ了解左ノ通り

ベ Addis ハ今日ニ於テ之ヲ論議スルハ稍々早計ニ属スル  
ナラント認ムル故他日ノ審査ニ譲リ度シト答ヘタリ小田  
切ノ意見ニテハ契約成立シ前貸ノ交付ヲ見タル程度ノモ  
ノハ言フ俟タス浦信ノ如キモ亦 Substantial progress  
云々ニ該当セサルモノト了解セリ

(d) possess トハ団体各員ノ調印済契約及「オプショ  
ン」ヲ意味シ又 Control トハ団体各員ノ勢力範圍ニ  
アル契約等ノ意味ニテ香港上海銀行対 British and  
Chinese Corporation ノ關係ノ如キハ其一例ナルベシ  
ト了解セリ

(五)白国団体ニ対シテハ利益及投票權共ニ他団体ノ一半ヲ与  
ヘントスル意嚮ニシテ右ハ他日白国団体加入ヲ具体的ト  
為ス場合ニ於テ之ニ関スル規定ヲ設クル事ニ打合せ済ナ  
リ

(六)初段ニ関シテハ次回會議前ニ各団体代表者ト意見交換ノ  
上會議ニ於テ之ヲ決議セシメ度キ考ナリ、末段ニ関シテ  
ハ事前相当ノ手段ヲ執リ適當ノ形式ニ於テ新借款団ニ引  
継ガシムル事ニ尽力スヘキハ勿論ナルガ本件ハ米國態度  
變更ノ為メ其結果ハ予想シ難シト考フ

(七)一切ノ借款及優先権共ニ新借款団成立ノ際會議録ニ記入引繼ヲ為シ而テ鐵道借款ガ諸借款ノ如キ公債発行ニ依ルモノヲ除キ其他ノ借款ハ公開セラルル場合ニ協議ヲ遂ゲタル上事実引繼キヲ為ス事ヲ最モ便利ナリト考フルモ之等ノ手續ハ次回會議ニ於テ決定スルノ外無シト考フ  
在英大使へ転電セリ

二六〇 五月三十一日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団ニ関スル四國銀行家會議ノ決議ハ米  
國政府ノ承認ヲ受ケタル旨ヲモント小田切ニ  
談話ノ件

講第一一六号

(六月三日接受)

五月三十一日「ラモント」ハ小田切ニ對シ過般ノ新借款  
団議決一切ハ昨日「ウィルソン」「ランシング」ノ承認ヲ  
受ケタルコト、「アボット」ハ七月中著米ノ管ナルガ彼ノ  
帰國ハ支那及日本ノ情況報告ノ為ニシテ今日迄ハ彼トノ間  
ニハ何等意見ノ齟齬ナシトノコトヲ語り又同人ハ日本新借  
款団組織ノコトヲ聞キ喜ビタル由ナリ

關スル五月十二日付巴里會議決議書ヲ送附シ来リ米國政  
府ニ於テ右決議ヲ承認シタルニ付帝國政府ニ於テモ速ニ之  
ヲ承認シ来ル六月十八日現借款団規約消滅以前ニ新借款団  
ノ成立ヲ見ルニ至ラムコトヲ希望スル旨申出タリ  
英仏ニ転電セリ

二六二 六月二日 在本邦米國大使館ヨリ  
日本外務省宛

巴里銀行家會議ノ決議ヲ米國政府承認ノ旨通  
報及日本ノ早急同調方要請ノ件

# MEMORANDUM

The Government of the United States announces  
its acceptance and confirmation of the resolution  
that has been adopted unanimously by the Confer-  
ence of Bankers held on May 12th in Paris and urges  
upon the Imperial Japanese Government that it will  
promptly, and without delay, give like confirmation  
in order that the formal recognition of the new con-  
sortium may be completed previous to June 18th, on

小田切ハ貴電第四二二号ノ(一)(二)及(六)ノ諸段ニ関シ「ラモン  
ト」ト意見ヲ交換セシニ彼ハ大体ニ於テ我ノ諒解ニ對シ  
(往電第一一四七号参照)差シタル異議ナキ模様ナリシモ  
尚他ノ団体代表者ノ意見ヲモ徴サレタキ旨ヲ答ヘタル由ナ  
リ  
当日ハ「ラモント」非常ニ多忙ノ為貴電第二三三三号ノ(一)  
(二)及(四)ニ関シテハ意見交換ノ違ナカリシヲ以テ來週更ニ會  
見ノ筈、又(四)ノ初段ニ関シテハ或ル適當ノ時機迄小田切ニ  
於テ沈黙ヲ守ル筈、又貴電第四二二号(六)ノ末段ニ関シテハ  
異「アデス」會見ノ狀況分リ次第当地ニ於テ相呼応シテ相  
當ノ手段ヲ執ル筈ナリ

二六一 六月二日 在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國政府ハ巴里會議ノ決議ヲ承認シタルニ付  
日本モ速ニ之ヲ承認セラレ度旨國務卿代理ヨ  
リ申越ノ件

第四〇〇号 (六月三日接受)

五月三十一日付公文ヲ以テ國務卿代理ヨリ對支新借款団ニ

which date the old consortium agreement expires.  
The Embassy has been informed that like repre-  
sentations have been made by the Governments of  
France and Great Britain.  
Tokyo, June 2, 1919.

二六三 六月二日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

濟南順德、高密徐州兩鐵道ハ新借款団ヘノ引  
繼ヲ避ケ度ニ付他國側トノ応酬方ニ関シ我代  
表ニ指示スル様訓令ノ件

第二四六号

往電第二三三三号ニ関シ

濟南順德高密徐州兩鐵道ニ関シテハ素ト大正二年十二月三  
十一日在支独逸公使ト支那政府トノ間ノ取極ニヨリ独逸政  
府ハ膠州灣租借條約第二章第一条規定ノ鐵道敷設權中已設  
ノ分以外ヲ放棄シ其代償トシテ右兩鐵道ノ借款權ヲ得タル  
行懸アリ(詳細ハ日独戰役講和準備調査附屬參考調書上卷  
一四九頁以下参照)且大正四年山東ニ関スル日支條約第一  
条ニヨリ日本カ独逸ヨリ承継スヘキ權利中ニ同鐵道ニ関ス

ル權利亦包含セラレ居レルノミナラズ日本政府ハ大正七年九月二十四日ノ日支間交換公文ニヨリ日本資本家ヨリノ借款ニヨリ其敷設ヲ図ルヘキコトヲ約シ更ニ同月二十八日支那政府ト我資本家トノ間ニ予備借款契約ヲ締結シ右ト同時ニ二千万円ノ前貸ヲ支那政府ニ交付シ且目下北京ニ於テ彼我当事者ノ間ニ本契約交渉中ニ属ス(本年一月此等諸鉄道契約案已ニ支那側ニ提出済ナルモ目下ハ吉会鉄道ニ付交渉中ニテ右結了次第直チニ本件諸鉄道ニ及フ次第ナリ)今回ノ講和會議ニ於テモ山東省ニ関スル我要求ハ既ニ聯合國ノ同意ヲ得ルニ至リ經濟的權利例ヘハ膠州灣租借条約ノ規定スル一般的ノ投資優先權ノ如キモ当然我手ニ保有セラハヘキコトナリタルニ拘ハラス帝國政府ハ同省ニ付テハ往電第二三二二号ノ通り滿蒙ノ場合ト區別シ特ニ留保ヲ為サルコトニ決シタル次第ナルカ右兩鉄道ニ付テハ前頭ノ通り特異ノ關係アリ我世論ノ一部ニ於テモ右兩鉄道借款ハ新借款団ニ「プール」スベキモノニアラズトノ議論有力ナラムトスルモノアルニ顧ミ新借款団ニ引繼クコトヲ避ケ度当方ノ希望モ有之尤モ之カ為新借款団加入ニ対スル日本ノ誠意ヲ疑ハシメ又ハ他國側ヲシテ有利ナル借款留保ノ口実

ヲ得セシムルカ如キハ不得策ナルニ付其辺我団体代表者ニ於テモ篤ト含ミ置キ適宜他國側ト応酬スル様申伝ヘラレ度シ、將又同鉄道ハ已ニ予備契約成立シ前貸金迄交付シ居レルニ顧ミSubstantial progressヲナセルモノト見做シ当然新借款団ヨリ除外セムコトヲ主張スルモ或ハ一案ナルヘキモ斯克テハ同様ノ程度ニ在ル寧湘鉄道、浦信鉄道、同成鉄道、欽渝鉄道等モ当然除外セラルコトナルノ虞アルニ付済順高徐鉄道除外ニ付テハSubstantial progressヲ援用スルコトナク前頭ノ通り一種特異ノ關係ニ立脚シ除外方懇談ヲ試ムルコト然ルヘシト思考ス此ノ点モ小田切、巽ヘ篤ト申含メラレ度シ尚往電第二三三三号ノ(四)末段ニ代表者ニ於テ含ミ置クニ止ムヘシトハ「着手」云々ノ意義ニノミ関スルコトニシテ滿蒙問題ニハ關係ナク即チ滿蒙問題ハ明白ニ我主張ヲナス趣旨ナリ右為念申添ユ

右為參考英米白ニ転電アリ度シ

二六四 六月三日 在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

アボット急遽帰國ノ事情ニ付國防省第三次官  
内話ノ件

第四〇一号

(六月四日接受)

貴電第三九一号ニ関シ

國務省第三次官ノ内話ニ依レバ約二週間前「モルガン」ヨリ近々米國銀行団會議ヲ催シ対支借款問題ヲ議シタキニ付「アボット」ニ至急帰國スル様電信取次方國務省ニ依頼アリ早速取計ヒタルコトアルカ右ハ米國銀行団ニ於テ可成速ニ同人ヨリ支那最近ノ事情ヲ聴取シタキ趣旨ニ外ナラサル由ナリ

在英仏大使ニ電報セリ

二六五 六月四日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

新借款団加入ノ英米仏財業者ノ名称回電方ノ  
件

第二四七号

対支新借款団ニ加入スヘキ英米仏三国銀行団ヲ組成スル各財業者ノ名称至急取調回電アリタシ

二六六 六月四日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

仏國団代表シモンノ小田切ニ開示セル意見報  
告ノ件

講第二二〇一号

(六月八日接受)

六月三日小田切ハ「シモン」ト会見、同人ノ意見左ノ通。

第一、貴電第四二二二号ニ関シ

(一)東亜、中日ニ於テ「オブション」携帯加入ノ場合ニハ他ノ団体ニ於テ何等異議ナカルベシ

(二)支那側トノ契約ニ特別規定ナキ限り工事請負ヲ含マサルモノト諒解ス

(四)末段ニ関シテ充分ノ諒解アリト見バ之ヲ新借款団ニ引繼ク可キハ当然ナリト考フ

(五)借款中公債発行ニ依ル分ハ新借款団成立ノ際會議録ニ記入引繼ギ又最少限度以上ノ普通借款ハ公開セラルル場合ニ協定スルコトニ同意

第二、貴電第二三三三号ニ関シ

(一)此意味ニテ決議スルコトニ同意(二)ノ(六)大体異議ナシ次ニ「シモン」ノ語ル所ニ依レバ仏國銀行ハ皆過般ノ決議ヲ承認セシニ付目下政府ノ認諾ヲ求メツツアルモ政府ハ果シテ仏國団体ニ

Exclusive support ヲ与フ可キヤ否ヤ問題ナリトノコトナリ。政府部内ノ或者ト Industrial Bank of China トノ關係ハ常ニ断行ヲ掣肘シツツアルモノノ如シ

小田切ハ又夫レトナク滿蒙除外問題ヲ打明ケシニ彼ハ日本ノ地位ヲ諒トセルモノノ如ク見受ケラレタル由ナリ。尚小田切ノ意見ニテハ貴電第二三三三号(五)ノ自由商議云々ハ趣旨御同意ナルモ其実行上困難ナル問題ニ逢着スルコトアルノミナラズ我ニ於テ主張ノ結果動モスレバ他団体ノ疑惑ヲ惹起スル恐アルニ付其引継手續ハ前記(七)ノ通りトシ前貸及契約締結ニ要シタル正当費用ハ新借款団ニ於テ平等分担スルコトニ取極メタシトノコトナリ

英、米大使へ転電セリ

二六七 六月四日 在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛

米國政府ノ巴里會議決議承認及日本ノ同調方  
希望申出ニ関スル國務卿代理公文写送付ノ件

附屬書 五月三十一日附國務卿代理ヨリ在米國石井  
大使宛公文写

機密第三五号 (六月二十五日接受)

1918, I have the honor to inform you that at a meeting of representatives of the banking groups of Japan, Great Britain, France and the United States, held at Paris on May 12, 1919, with the sanction of their respective Governments, for the purpose of organizing an International Group for financial business in China, the enclosed resolutions were unanimously adopted, subject to confirmation by the Governments concerned.

The Government of the United States, on its part, accepts and confirms the above resolutions and it is hoped that the Imperial Japanese Government will promptly give like confirmation in order that the formal organization of the new consortium may be completed, prior to the expiration of the old consortium agreement on June 18 next.

Accept, Excellency, the renewed assurances of my highest consideration.

(Signed) Breckinridge Long,

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二六八

大正八年六月四日

在米

特命全權大使子爵 石井菊次郎 (印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

对支新借款団ニ関スル國務卿代理

来信写送付ノ件

國務卿代理ヨリ五月三十一日付公文ヲ以テ对支新借款団ニ関スル五月十二日巴里會議決議書ヲ送越シ米國政府ニ於テハ右決議ヲ承認シタルニ付帝國政府ニ於テモ速ニ之ヲ承認セムコトヲ希望スル旨申出デタル次第ハ往電第四〇〇号ヲ以テ不取敢及電報候処右國務卿代理来信写致ニ及送付候間御查收相成度此段申進候也

(附屬書)

五月三十一日附國務卿代理ヨリ石井大使宛公文写

American State Department to Embassies.

May 31, 1919.

Excellency:

(註1)  
Referring to Mr. Lausang's note of October 8,

A Acting Secretary of State.

His Excellency

Viscount Kikujiro Ishii,

Japanese Ambassador.

Enclosure: Resolutions. (註2)

893. 51/

註 1 日本外交文書大正七年第二冊上卷二六二及二六三文書

参照

2 右公文ニ添付ノ決議ハ之ヲ省略ス該決議ハ前掲二四三文書別電末尾ノ一節 (All the above resolutions 以下) ガ削除セラレ其代リ左記一節ガ8トシテ附加セラレタルモノナリ

"The draft of the agreement was read and approved and it was resolved that the same should be submitted for the further consideration of the groups in consultation with their respective governments."

二六八 六月五日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

巴里四國銀行家會議ノ決議ニ関スル質疑ニ付

二六九

アヂスノ異ニ与ヘタル説明報告ノ件

第二二九号

(六月七日接受)

在仏大使宛電講第四二二号ニ関シ六月四日異ヲシテ「アヂス」ニ面会、在仏大使宛閣下宛電報講第一一四七号中ノ一、三、及六ニ付談合セシメタル結果大要左ノ通

(一)新借款団員ハ銀行家ニテモ差支ナシ尚「ナシヨナリテイ」ノ問題ニ関シテハ当地ニテモ仏人ノ株主ヲ有スル Central Chinese Railway Company 又巴里ニ於テモ支那人ノ株主ヲ有スル Banque de l'Indo-Chine ニ付同様ノ疑問アリ尤モ是等ハ多分団員タルヲ得ヘシ要スルニ投票權過半数カ自國ノ株主ニ存スル場合ニハ差支ナカルヘク唯団体同意ノ問題ハ反対ノ意見アル迄俟ツニ如カズト思考セラル

(二)公債發行ヨリ生スル総テノ事業ヲ意味スルモノニシテ仮リニ四百万磅ノ鐵道公債ヲ發行スル場合ニハ借款団体ニ於テ一百万磅宛ヲ發行シ其材料供給並建設等ノ事業ハ四団体ニ於テ之ヲ取扱フモノトスルコトトシ而シテ右取扱ノ方法ハ決議第六ニ依ル

(三)主義トシテハ現借款団ノ有スル総テヲ新借款団ニ繼承セ

大正八年六月六日

原田 芳太郎 (印)

三菱商事株式会社

萩野 元太郎 (印)

古河商事株式会社

尾崎 敬義 (印)

中日実業株式会社

門野 重九郎 (印)

合名会社大倉組

龍居 頼三 (印)

南滿洲鐵道株式会社

倉知 鉄吉 (印)

中日実業株式会社

藤瀬 政次郎 (印)

三井物産株式会社

小池 張造 (印)

久原鉱業株式会社

荒井 賢太郎 (印)

東亜興業株式会社

シムルモノトス故ニ現借款団カ從來議決シタル事項ヲモ全部繼承セシムルコト勿論ナリ尤モ支那政府ニ對シテハ独逸ヲ除外シ米國ヲ入ルル手続ヲ執ラサルベカラス唯第一次改革借款ノ元利支払並塩稅收入保管等ノ如キ細目ニ入りタル問題ハ今後決定セラルヘキモノナリ尤モ是等ハ既定事實ニ属スルヲ以テ現借款団ハ消滅スルモ第一次改革借款契約ニ基キ從來ノ通り存続セラルモノト思考ス尚第七ニ関シ「アヂス」ハ引繼クヘキ借款及優先權ハ其ノ儘現所有者ノ名義ニ残シ置キテ公債發行ノトキニ至リ新借款団ヲシテ事実上之ヲ繼承セシムヘシトノ意ヲ述ヘタリ

(五日)

在仏大使ヘ電セリ

二六九 六月六日 東亜興業外七社代表ヨリ  
内田外務大臣宛

对中国新借款团组织ニ関シ希望申出ノ件

對支新借款团组织ニ関シ下名等協議ノ結果別紙意見書ノ通り希望要項ヲ決議致候ニ付テハ何卒右御採択被成下度此段得貴意候

敬具

白石 龍平 (印)

東亜興業株式会社

外務大臣子爵 内田康哉殿

(欄外註記)

「六月六日荒井、倉知、門野三氏來談手交(内田外相印)」

(別紙)

今回日米英仏四國間ノ協議ニ上リ居レル對支借款問題ハ其各方面ニ影響スル処極メテ大ニシテ過般政府当局ハ固ヨリ朝野各方面ニ於テモ甚大ノ注意ヲ払ヒ銳意攻究セラレツツアルモノト察セラル

抑支那ニ對スル我經濟上ノ關係ハ近時倍々密接ノ度ヲ加ヘ随テ日支親善ニ資スルコト鮮少ナラサルモノアリ此時ニ際シ本問題ノ解決ニ一步ヲ誤ランカ又回復スヘカラサル創ヲ残スニ至ラン固ヨリ關係各國ノ意思ハ對支借款ノ國別競争ヲ避ケ政治問題ニ触ルルコトナク從テ支那ノ内政ニ干与スルカ如キハ之ヲ避クルノ目的ニアルヘキハ勿論ナルヘキモ而カモ政治及經濟借款ヲ打テ一団ト為シ之ヲ國際的財團ノ專有ニ歸スルノ結果勢ノ趨ク所支那共同管理ノ端ヲ開クノ虞ナキニアラスクテハ支那ノ為ニ不利益ナルノミナラズ

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二七〇

我帝國ノ利害ニ影響スル所実ニ甚大ナルモノアリ此意味ニ於テ新財団ハ全然經濟借款ヲ除外スルヲ至当ト認ムルモ若シ已ムヲ得サルニ於テハ左ノ各点ニ付我當局ニ於テ充分我主張ヲ貫徹セラレンコトヲ望ム

若シ夫レ我特殊利益ノ最緊切ナル滿蒙地方ニ関シテハ之ヲ除外セントスルコト我當局ノ意嚮ナリト了解スルヲ以テ吾等ハ其当然除外セラルヘキヲ期待スルモノナリ即チ新借款団ハ

一、新借款団ニ提供スルモノハ将来ニ於テ支那ヨリ得ヘキ權利ニ限ルモノトシ既ニ得タル權利ヲ提供スルト否トハ該權利所有者ノ自由タルコト

二、新借款団ノ目的タル事業ハ鐵道、幹線タルヘキ大道路及河川運河工事ニ限リ其他ノ事業ニ対スル借款ハ自由タルヘキコト

三、金額五百万円ヲ超エザル凡テノ借款ハ本財団ノ範圍外ニ置キ之ヲ自由トナスヘキコト

四、借款ニ因リ經營セラルヘキ事業ノ実施ニ伴フ工事請負、材料供給等ノ事項ニ関シ財団ニ於テ請負及供給ノ分配ヲナス場合ハ各国均等タルヘキコト

二七二

以上ハ希望条件ノ大綱ヲ略述シタルニ過キズシテ目下巴里ニ於テ進行シツツアル關係財団代表者協議ノ模様ニヨリ更ニ細目ニ涉リ希望ヲ開陳スルノ機会ヲ得タキニツキ随時内示アラソコトヲ望ム

尚本問題ニ関シテハ支那政府ノ意嚮ヲ参酌シテ我國ノ態度ヲ定ムルコト必要ナルヘシ若シ支那ニシテ本財団ノ成立ニ反対ナルカ又ハ新財団ニ対シ各種ノ希望要求アリトスレバ我國ハ日支兩國ノ關係及日本ト他財団國トノ關係ニ鑑ミ出来得ル丈ケ支那ノ希望ヲ達セシムルノ勞ヲ執ルコト当ニ我國ノ努ムヘキコトト信ス

二七〇 六月七日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

白國財団ノ新借款団加入ニ異議ナキ旨回訓ノ件

第二五三三號

貴電第一六九號ニ関シ

白國財団加入問題ハ素ト仏國政府ノ熱心ナル提議ニ基ク次第ニ付旁同國政府ニ於テ御來示ノ如キ意見ナルニ於テハ之

ニ対シ他關係國政府ニ於テ異存ナキ限り帝國政府ニ於テモ亦異存ナシ尤モ白國財団ノ件ハ貴電講第九八六號巴里會議決議ノ一事項ニ付帝國政府ノ回答ハ追テ右決議全体ニ対スル我方針決定ノ上他ノ事項ト共ニ一併申進スヘシ此ノ点為念英仏米當局ニモ申添ヘ置カレ度

右貴電第一六九號ト共ニ英米白ニ転電アリタシ

二七一 六月八日 金谷天津軍司令官ヨリ  
上原参謀総長宛(電報)

中国國會議員王某ノ新借款団ニ関スル談話報

告ノ件

天電第九四號 (六月八日接受)

國會議員王某ノ天津ニ於テ新銀行団組織ニ関シ語レル要旨左ノ如シ

借款問題ニ関シ朝野ノ注目シツツアルハ日本ノ態度ナリ即日本軍人派ハ之ヲ以テ滿洲蒙古及山東ノ特種利權ヲ失ヒ或ハ外國ノ掣肘ヲ受クルニ至ルヘシトナシ日本実業家ト意見ヲ異ニシ力爭シツツアリ之レ新銀行団ガ未ダ詳細ノ条件ニ妥協セサル所以ナリ而シテ日本ガ新銀行団ニ加入セサル時

三 对中国新借款団組織ニ関シ米國提議ノ件 二七一 二七二

二七二 六月八日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団加入ノ米國團體組成財業者ノ名称回報ノ件

講第一二五四號 (六月十三日接受)

貴電第二四七號ニ関シ「ラモン」ニ問合セシメタル処米國団体銀行名称左ノ通り仏國側ハ取調ノ上追テ電報スヘク英國側ハ在英大使ニ取調直接回電方依頼セリ尚「ラモン」ノ依頼アルニ付日本団体十八銀行名称電報アリタシ

J.P. Morgan & Company  
Kuhn, Loeb & Company

二七三

First National Bank  
National City Bank  
Guaranty Trust Company of New York  
Chase National Bank  
National Bank of Commerce  
Bankers Trust Company  
Central Union Trust Company  
Equitable Trust Company  
Harris, Forbes and Company  
(All of New York)  
Lee, Higginson & Company  
Kidder, Peabody Company  
First National Bank  
National Shawmut Bank  
(All of Boston)  
Continental & Commercial Trust and Savings Bank  
First Trust and Savings Bank  
Illinois Trust and Savings Bank  
Northern Trust Company

(All of Chicago)  
Commercial Trust Company, Philadelphia  
Girard Trust Company, Philadelphia  
Union Trust Company of Pittsburgh  
Mellon National Bank of Pittsburgh  
St. Louis Union Trust Company  
Mercantile Trust Company  
Mississippi Valley Trust Company  
(All of St. Louis)  
Anglo & London Paris National Bank  
Bank of California, N.A.  
Wells Fargo Nevada National Bank  
(All of San Francisco)  
Whitney Central National Bank, New Orleans.

二七三 六月八日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団加入ノ仏國団体組成ノ財業者名回報  
ノ件

講第一二五七号

(六月十四日接受)

貴電第二四七号ニ関シ

印度支那銀行ニ就キ仏國新団体銀行名称問合セシメタルニ  
左ノ通り

「バンク、ド、ランドシーヌ」  
「クレヂ、リオネー」  
「ソシエテ、ジェネラル」  
「バンク、ド、パリ、エ、デ、ペイ・パ」  
「コントアール、ナシオナル、デスコント、ド、パリ」  
「バンク、ド、リュニオン、パリジェンヌ」  
「バンク、フランセーズ、プール、ル、コンメルス、エ、  
ランデュストリー」  
「クレヂ、アンデュストリエル、エ、コンメルシアル」  
「クレヂ、モビリエ、フランセ」  
尚銀行員ノ語ル所ニ依レバ英國団銀行名称ハ左ノ通りナリ  
ト云フ御参考迄  
「ホンコン、アンド、シャンハイ、バンク」  
「ペーリンク、アンド、バンクス」  
「ロスチャイルド」

「ブリチッシュ、トレード、コーポレーション」  
「ロンドン、カウンチー、アンド、パース、バンク」  
「シュレーダー」  
「チャータード、バンク」  
英米大使へ転電ス

二七四 六月八日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

巴里四國銀行家會議ノ決議ニ関スル仏國政府  
ノ対米書翰写ヲ送付越シ日本政府ノ所見ヲ承  
知シ度旨申越シタルニ付請訓ノ件

講第一二六四号 (六月十日接受)

五月十一及十二兩日巴里ニ於テ対支新借款団組織ノ為ナシ  
タル決議(往電講第九九〇号)ニ鑑ミ仏國政府ハ今般在仏  
米國大使宛左記趣旨ノ書翰ヲ発スルト同時ニ本使ニ対シテ  
モ同書翰写ヲ送付シ来タリ仏國政府ノ見解ハ該書面中披瀝  
セル通ナル処帝國政府ニ於テハ右仏國政府ノ所見ニ対シ異  
議有之ヤ又右書面ニ就キ何等気付ノ点モ有ラバ承知シ度キ  
旨申越シタリ右ニ就キ至急折返シ何分ノ義御回電アリタシ

## 左記

仏國ガ「ランシング」氏ノ提案ニ対シテ異存ナキコトハ既ニ再三米國政府ニ通知シタル処ナルガ銀行団ハ「七月十日ノ米國ノノート中ニ掲ケラレタル綱領」ヲ以テ新借款団ノ組織ノ基礎トナシ而シテ其採用シタル決議ハ此等綱領ノ適用セラレタルモノニ他ナラザルニ顧ミ仏國政府ハ茲ニ既ニ其ノ同意ヲ与ヘタルモノト看做サルルモ可ナリ

唯仏國ノ態度ヲ鮮明シ置ク必要アル一点ハ在支仏國外交使臣ガ借款団ニ対シ与フベキ支持ノ点ナリ

「ランシング」氏ハ無意味ナル競争ヨリ生ズル面白カラザル影響ヲ避ケムガ為千九百十八年十月八日ノ覚書中ニ於テ新借款団ノ各員ハ一度協定ヲ遂ゲタル上ハ予メ關係國政府ノ許可ナクシテ個々ノ借款運動ヲ支持セザルコトヲ要スル旨ヲ述ヘラレタルガ右ハ五月十二日ノ協定ニ於テ承認セラレタルモノト看做スコトヲ得ベシ

各國政府自身ニ就テハ或ハ「予メ協定ヲ遂ゲズシテハ何等他ノ借款運動ヲ支持セザルコト」又ハ政府ノ專屬的支持 (appui exclusif) ハ借款団ノミニ対シテ之ヲ与フベキコト既ニ從來ノ交渉ニ於テ問題トナリタル処ナルガ此等文句ノ

意義並ニ之ヲ採用セル結果生スベキ規約ノ範圍ニ関シテハ今日ヨリ相互ニ了解ヲ遂ゲ置クノ必要アルヲ認ム

五月十一日ノ會議録ニ載セラレタル決議第一及第二ニ依リ銀行団ハ其ノ借款中実業借款ヲモ包含スルコトヲ協定シタルガ各銀行団ガ夫々優先当事者トナレル実業借款 (鐵道借款ヲモ含ム) ニシテ其ノ履行上既ニ「顯著ナル進捗」ヲ遂ゲ居ルモノハ該協定範圍ヨリ除外セラルルコト又右決議文ヨリ生ズル結果ナリ、他方決議第二ノ(c)項ニ依レバ各銀行団ハ第三団体 (fierce partie) ヲ懲罰シ其ノ有スルコトアルベキ借款若ハ options ヲ共同ニセシムルコトニ努力スルコトニナリ居ル処之レ借款団自身カ其ノ団体員ノ有スルモノ以外ニ他ノ実業借款ノ存在及実行ヲ是認スルモノナリ但仏國ニテモ英國ニテモ銀行団ハ新団体ヲ糾合スルニ當リ種々ノ理由ニ基キ支那ニ於テ重要ナル利害ヲ有スル諸会社ヲ看過シタルハ明カナリ而シテ他方支那ニ於テ活躍ヲ試ミムトスル新施設ニシテ借款団加入ヲ欲セザルモノ亦絶エズ生スベキ借款団ハ之ヲ承認セザルヲ得ズ然ルニ仏國法制ニ於テハ何人モ個人又ハ財政上工業上ノ会社ノ個人ノ行動ヲ掣肘スル能ハズ其ノ活動ノ範圍ハ何人モ支那ニ於ケルト其

de tout Contrat déterminé) 北京ニ於ケル 四國政府

ノ外交使臣ノ協同支持ハ借款団ノミニ対シテ与ヘラルベシ」

右ハ日英兩政府ヘモ通牒シタルニ依リ右ニ就キ米國政府ノ所見ヲ知ルヲ得バ幸ナリ

英米ヘ転電セリ。

二七五 六月九日

高橋大藏大臣ヨリ  
内田外務大臣宛

对中国新借款団講究資料送付ノ件

官房秘乙第一二八七号

(六月十日接受)

対支新借款団ニ關スル講究資料トシテ別冊「対支新借款団關係書類」並「帝國政府方針トシテ代表者ヘ内示事項」横濱正金銀行及日本興業銀行ヘ送付致シ尚右ノ内「帝國政府方針トシテ代表者ヘ内示事項」ハ本邦団代表者タル横濱正金銀行及日本興業銀行ノミヘ内示スル次第ニ付嚴秘扱トシ他ノ団体銀行ヘハ示ササル様申添置候間右様御承知相成度此段為念及御通知候也

大正八年六月九日

ノ他如何ナル地ニ於ケルトヲ問ハズ之ヲ制限スルヲ得ズ支那ニ於テ活動スル總テノ仏國分子ヲ糾合セザリシ以上又實際之ヲ糾合シ得ザル以上借款団ハ到底仏國政府ノ專屬の支持ヲ期待スルコト能ハザルベシ仏國公法規定及議會ノ意見モ皆政府ガ借款団ニ一種ノ特權ヲ附与スルヲ許サザレバナリ旧借款団ノ組織ニ際シテハ之ニ何等法律上又ハ事實上ノ特權附与セラルルコトナク其ノ創立者ノ信賴シタル処ハ団体ノ財政上ノ勢力加盟団体ノ團結力及支那市場ニ於テ優勝ナル地位ヲ把持セムトスル其ノ努力ノ結合ニ他ナラズシテ右優勝地位ハ今日モ其ノ失ハザル処ナリ新借款団發展ノ基礎モ亦法律上ノ特權ニアラスシテ寧ロ右成効ノ固有ノ要素ニ俟タザルヘカラズ

以上ノ趣旨ニ依リ借款ニ与フベキ支持ノ形式ガ左ノ通立案セラルヘキモノナラズヤ

「加盟四國団体ノ所属政府ハ借款団ノ企圖ニ係リ而シテ支那ノ財政状態ノ改善及其ノ工業上ノ發展ヲ目的トスル借款ニ就テハ借款団ニ対シ完全ナル支持ヲ与フルコトヲ約ス特定セラレタル一切ノ借款ノ獲得ニ対スル競争ノ場合ニ於テハ (en cas de compétition pour l'obtention



外務大臣子爵 内田康哉殿 大藏大臣男爵 高橋是清(印)

註 別冊省略ス尚右「帝國政府トシテ代表者ヘ内示事項」ハ前掲二四九文書ノ別電一ト同趣旨ナリ

二七六 六月十一日 横浜正金銀行中村副総支配人ヨリ  
内田外務大臣宛

梁士詒ヨリ小貫ニ対シ中華銀公司ノ新借款団  
参加希望ヲ申出デタルニ付報告ノ件

附屬書 五月二十一日付在北京小貫正金支配人ヨリ梶原  
本店頭取宛書信写

大正八年六月十一日 (六月十二日接受)  
横浜正金銀行

副総支配人 中村錠太郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿  
拜啓左記ノ件ニ付別紙写ノ通北京、小貫支配人ヨリ報告有  
之候間玆許供御内覽候

左記

一 梁士詒来談ノ件

(五月二十一日付頭第八ノ五拾号)

入ニ依リテ国民ニ周知セシムルヲ得ルコト

第二 各外国ト支那国民間ニ於ケル利害ノ調節ヲ計リ相  
互ノ諒解ヲ得ルニ便宜ナルコト

第三 先進國ノ指導ニ依リ幼稚ナル支那經濟組織ノ發達  
ヲ期シ得ルコト

同氏ハ更ニ語ヲ繼ギ銀公司ヘ加入ノ希望者ハ各地ヨリ続々  
有之モ現在決定セル尅千元ノ資本ハ当分其儘ニ据置度コ  
ト及早晚問題トナルヘキ善後借款ヲ二億五千万元ト仮定シ  
其ノ五分ノ一即チ五千万元ヲ銀公司ニ於テ引受ケ得ルヤ否  
ヤハ未ダ確信無キモ仮リニ其半額ヲ支那内地ニ於テ募集シ  
得ルモノトセバ残り半額ハ日本其他ノ市場ニ於テ公司持分  
トシテ募集シタキ事等ヲ述ヘ現在日支兩國ノ間ニ面白カラ  
ザル現象ヲ呈シ相互国民ノ間ニ諒解ヲ欠クノ事實アルハ頗  
ル遺憾トスル所其間ニアリテ米國人ノ如キ只管日本ヲ仇敵  
視シ唯日支ノ離間策ヲノミ講シツツアルハ解スヘカラズ余  
ハ從來日支提携論者ニシテ今日迄此主義ヲ以テ一貫シ来レ  
リ将来又然リ日本ハ民国二年始メテ銀行団ニ加入シタルガ  
支那政府ヲ動カシテ加入ヲ承諾セシメタルハ當時余ハ総統  
ノ秘書長トシテ内部ヨリ極力其ノ必要ヲ唱導シタル結果ニ

(附屬書)

頭第八ノ五拾号

大正八年五月二十一日

北京

小貫 慶治

本店

頭取 梶原仲治殿

梁士詒来談ノ件

拜啓一昨十九日梁士詒ハ先頃成立セル中華銀公司 (China  
Development Co.) 理事長ノ資格ヲ以テ小生ヲ銀行ニ訪  
問シ

銀公司組織ノ計画並ニ之レニ附帶スル希望ニ就テハ嘗テ  
其大要ヲ武内副総支配人ニ御話シタル事有之候処公司モ愈  
成立ノ運ニ至リ余ハ其ノ理事長トナレルヲ以テ日本銀行団  
代表タル貴下ニ向テ改メテ公司ノ希望ヲ述ヘタシト前提シ  
公司ガ四國銀行団ニ加入シ支那政府ヘノ借款ハ銀行団ト共  
同シテ平等ニ引受ケタシトテ半バ御都合主義ナル左ノ三点  
ヲ挙ケテ其理由ヲ説明致候

第一 外国借款ハ危険有害ノモノニ非ザル事ヲ公司ノ加

外ナラズカカル歴史アルコトモ考慮セラレ公司希望ノ貫徹  
スル様十分援助セラレタシ此旨可然日本ニ伝達セラレタシ  
云々ト結び申候。

話次小生ハ梁氏ニ向ヒ本件ハ嘗テ他ノ外国人ニ話シタルコ  
トアリヤ否ヤ殊ニ最近婦米ノ途ニ就ケル「アボット」ニ対  
シテハ如何ト質問シタルニ実ハ「アボット」ノ出発ニ際シ  
聊カ此件ヲ同氏ニ話シタルニ同氏ハ之ヲ諒トシ婦國ノ上朝  
野ノ有力者ニ伝達シテ其考慮ヲ求ムベキ旨ヲ約シタリト告  
白致居候

以下同氏ノ私見トシテ陳述セル処ニ有之御参考ノ為其要領  
ヲ附記致候

從來銀行団ノ放資ハ政治借款ニ限ラレタレトモ聞ク処ニ  
依レバ米國ハ經濟借款ヲモ其中ニ加ヘントスルノ意アル  
モノノ如シ其ノ範圍ハ不明ナルモ若シ鉄道ニ対スル放資  
ヲ總テ団体銀行ニ於テ壟斷スルガ如キコトアラバ國民ハ  
非常ノ反感ヲ懷クベシ余ハ之ニ賛成スル能ハズ云々

右要領昨日不取敢電報致置候間御承知ノ事ト存候尙帝國公  
使ヘモ委細御話致置候間御含置相成度候 以上

尚梁氏ハ「アボット」婦國ニ付左ノ通語リ居リ候ニ付併

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二七七 二七八

セテ御参考ニ供シ候

新聞伝フル処ニ依レバ新銀行团组织ノ交渉ハ順調ニ進歩シ今具体的条件ヲ決定スルニ就キ「ア」氏ノ意見ヲ聴取スル必要上本國ヨリ帰朝ヲ命セラレタルガ如クナレドモ余ハ一説トシテ聞ク処ハ全然反対ニシテ新銀行团组织ニ付米國內部ニ種々ノ障害アリ各關係國トノ交渉困難ニ陥レルタメニ急ニ帰國ヲ余儀ナクセラレタルモノナリ云々

写送付先 倫敦、上海

二七七 六月十一日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

濟南順德及高密徐州兩鐵道借款除外問題ニ関

シ意見具申ノ件

第八四七号

(六月十一日接受)

閣下発在仏大使宛電報第二四六号ニ関シ

本件我方ノ希望ガ何等ノ異議ナク他關係國ノ承認ヲ得ルニ於テハ元ヨリ此上ナキ好都合ナルモ昨今ニ於ケル四圍ノ形勢ニ顧ミ其点頗ル覺束ナク且ツ翻ツテ一考スルニ本件主張ハ帝國政府ニ於テ敢然山東ニ関スル留保ヲ差控ヘタル根本

二八〇

ノ態度ニ背馳シ以テ他關係國ヲシテ借款团组织ニ対スル我方ノ真意ヲ疑ハシムルノ虞アルノミナラズ事實ニ於テ斯ノ如キ緣由ヲ楯ニ執リ借款团協同事実ノ範圍ヨリ除外セシコトヲ見受ケラルルニ於テハ他各國ニ於テモ亦夫々相当主張ノ理由ナキニ非ザル可ク結局借款团组织ノ根本目的ハ終ニ達成セラルルコト不可能ナルベク、從テ他關係國ノ同意ヲ得ルコト困難ナル可キハ想察ニ難カラザルハ勿論勢ノ然ラシムル所或ハ滿蒙留保ニ対スル我方喫緊ノ主張ニモ累ヲ及ボシ同問題解決上不利ナル結果ヲ醸成スルコトナキヤヲ恐ルル次第ニ有之就テハ山東延長線問題ハ絶対ニ之ヲ主張スルノ必要アリトスルモ此際我方ヨリ進ンデ会谈スルコトハ暫ク之ヲ避ケ先以テ滿蒙留保ニ関シ全力ヲ尽シタル上、其後ニ於ケル会谈ノ推移如何ニ応ジ、好機ヲ狙ヒ提言セラルル方可然ト思考ス 御参考迄(六月十一日)

二七八 六月十一日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款团問題就中滿蒙除外及顧問ノ問題ニ関

シ小田切ラモント会谈ノ件

講第一二九五号

(六月十六日接受)

六月六日小田切ハ「ラモント」ト会见セシニ貴電第二二三三号ノ(一)及(二)ノ(ハ)ニ関シテハ同人異議ナク(四)ニ関シテ談話ヲ聞キタルニ同人ハ意外ナリトノ気色ニテ米國政府ノ意志ハ滿蒙包含ニ在リト信ズルヲ以テ本件ハ一応國務省ヘ報告ノ上ナラデハ何等意見ヲ述ブル能ハザル旨答ヘタルニ付小田切ハ之ニ対シ右ハ六國団体会議録ニモ同様ノ宣言記載セラレ一方各國特ニ米國当局者ハ滿洲ニ於ケル日本特殊ノ利益ヲ認メタル言明モアリ他方日本國民ノ考ヲモ考慮中ニ置ク必要アレバ此際日本トシテハ此ノ態度ヲ執ルノ必要アルコトヲ説明シタル上進ンデ本件ハ誤解ヲ生ジ易キ事柄ナレバ他ノ問題ト一括シテ後日書面ヲ以テ詳シク申出ヅベケレバ夫迄ハ兩人間ノ内話トシテ含マレ置キ他人ニ洩レザル様致サレ度シト告ゲタルニ同人ハ之ヲ諒トセシ由又小田切ハ貴電第四二二号(六)顧問ノ件ニ関シテ口ヲ開キタルニ同人ハ倫敦會議ノ成行ヲ承知セザリシモノノ如ク「シモン」トモ相談セシヤヲ尋ネタルニ付然リト答ヘタルニ之又書面ヲ以テ提議セラレ度シト請求セシニ付之ヲ承諾シ置キタル由ナリ之ヨリ先小田切ハ貴電第二二三三号ノ趣旨ニ依リ米仏側ニ対シテ夫トナク山東福建開放ノ意ヲ洩ラシタルコトアリシガ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二七九

為貴電第二四六号山東延長線ノ保留ヲ語ルハ立場甚ダ苦シキモノアリシモ之ニ関シ六日「シモン」ト懇談ヲ遂グル積ナリシ処滿蒙問題ニ対スル先方ノ態度前記ノ如クナレバ當日口ヲ切ルコトハ時機ヲ得タルモノニアラズト認メ之ヲ見合セタル由ナリ尚小田切ハ「ラモント」ノ書面問合ニ対シ日本銀行团ニハ台灣朝鮮興業ノ三銀行ヲ含ミ居ルナラムト答ヘタル由ナルガ後ニ「ラモント」ノ語ル処ニ依レバ右ハ特ニ國務省ノ依頼ニ基キ尋ネタルモノナリトノコトナリ。  
英米ヘ転電セリ  
註 前掲二六三文書

二七九 六月十二日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

巴里四國銀行家會議決定ノ若干事項ニ付小田

切ニ確メ方指示ノ件

講第四九三号(至急)

貴電講第一一四七号ニ関シ

左ノ点小田切ニ確メラレ回電アリタシ

(一)支那ニ於テ鐵道ノ利權ヲ有スル米ノ Siemens Carey 英ノ

二八一

Anglo-Chinese Corporation (寧湘鐵道) Pauling and Company (沙興鐵道) Chinese Central Railway (浦信鐵道) 等カ万一新借款団ニ加入セザル場合アリトセバ之等鐵道ニ關スル權利ハ当然ニハ新借款団ニ引継カザルコトナルベキモ貴電講第九八六号決議(2)ノ(b) Controlノ意味ニシテ貴電講第一一四七号ノ通トセバ右諸会社カ仮令新借款団ニ加入セズトモ新借款団ニ加入スヘキ英國又ハ米國ノ銀行団ノ Control ノ下ニ在ルニ於テハ其權利ハ当然 Pool スルコトナル次第ト認メラルガ之等諸会社ハ果シテ右英國又ハ米國銀行ノ Control ノ下ニ在ルモノナルヤ

(二) 貴電講第九八六号決議(2)ノ(a)及貴電講第九九〇号新規約案第二條ニヨレハ政治借款ト雖 Public issue セザルモノハ新借款団ノ共同範圍ニ屬セザルモノト解シ差支ナキヤ

(三) 新借款団ニ加入セザル者カ万一新借款団ノ共同範圍ニ屬スル借款ヲ為ストモ政府ニ於テハ之ヲ支持セザル方針ト思考セラルル処右支持セズトハ公債募集等ニ付援助ヲ与ヘズトノ意味ナルヤ或ハ支那政府カ元利ノ支払ヲ為サザルガ如キ場合ニモ政府ニ於テ支持ヲ与ヘズトノ意味ナルヤ

右英米ニ転電アリタシ

ヲ為ス者モアリテ殆ト際限ナキ狀態トナリ居レリ若シ政府ノ意見ニ從ハンカ恰モ回章ヲ以テ全國財業ヲ勧誘ヲ為スト同様ノ結果トナリ各団体員ノ受クヘキ利益ハ之カ為滅殺セラルルヲ以テ自然主要団体員ハ脱退シ却テ団体ノ内容ハ貧弱トナランカノ虞アリテ目下団体構成上頗ル困難ナル地位ニアリ

又現在ノ英國団員ヲ聞キタルニ巴里ヨリノ電報ノ通ナリ尚滿蒙除外問題ヲ打明ケ話シタルニ「アヂス」ハ日本側ヨリ此ノ問題ノ提起アルヘントハ予想シ居タル所ナリ然ラバ支那本部ニ關スル優先權ヲ悉ク提供スルノ意ナリヤト尋ネタルニ對シ異ハ然リト答ヘ「アヂス」ハ米國カ本問題ニ關シ如何ナル意見ヲ有スルヤハ自分ハ關知セスト述ヘタリ

在米、仏大使ヘ転電セリ

二八二 六月十三日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

巴里四國銀行家會議決定事項ニ關スル質疑ニ

對シ回申ノ件

講第一二八一号 (六月十四日接受)

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二八二

二八〇 六月十二日 内田外務大臣ヨリ  
在中國小幡公使宛(電報)

新借款団問題ニ關スル中國側反響電報方ノ件

第七九三号

對支新借款団組織問題ノ成行ハ新聞其他ニテ支那ニモ伝ハリ居ルコトト思考スル処同問題ハ内外新聞其他支那ノ各方面ニ如何ナル反響ヲ与ヘツツアルヤ殊ニ支那各般有力者ニ於テ如何ナル感想ヲ抱キ居レルヤ模様隨時電報アリタシ

二八一 六月十三日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国新借款団加入ノ英國团组织問題及滿蒙

除外問題等ニ關シ異アヂス會談ノ件

第二四〇号 (六月二十三日接受)

異六月十二日「アヂス」トノ會見ニ際シ英國团组织ニ關スル真情ニ付キ聞質シタルニ略左ノ通報道ヲ得タリ

英國政府ハ未タ「アヂス」カ提出シタル同団体ノ承諾ヲ為サズ同政府ハ新団体内ニ支那關係有力財業者ヲ悉ク網羅スルニアラザレバ援助ヲ与ヘズトノ意向ニシテ現ニ続々申出

貴電講第四七〇号ニ關シ

小田切ニ確メタル処左記(一)(二)(三)ノ通

(一) 浦信鐵道ノ如キ前貸交付セラレ尙聞ク処ニ抛レバ多少ノ建設準備ヲナシタル鐵道ト雖モ substantial progress has been made ニ該當セズ從テ該鐵道ハ新借款団ノ共同事業ニ編入スベキモノニシテ pool ヨリ除外スルヲ得ズトノ見解ナリ

(二) 往電一一四七号(二)ニ關シ小田切ノ修正意見左ノ如シ

(イ) 公債發行ノ契約 option 及貴電第二三三三号

(ロ) (ハ)ノ最少限度以上ノ貸金ハ総テ新借款団成立ノ際之ヲ會議録ニ記載スルコト

(ロ) 右公債發行ニ依ルモノハ「アヂス」意見通其ノ儘現所有者ノ名義ニ殘シ置キ其ノ満期更改セラルル場合之ヲ新借款団ニ引継グコト

(イ) 最小限度以上ノ貸金モ(ロ)ノ通現所有者ノ名義ニ殘シ置キ其ノ満期更改セラルル場合之ヲ新借款団ニ引継グコト

(三) 四國団体代表者ハ五月十一日七個条ヲ決議シ又十二日契約案議定ノ後更ニ一個条即

The Draft Agreement, a print of which is annexed hereto, was read and approved and it was resolved that the same should be submitted for the further consideration of the Groups in consultation with their respective Governments. ノ決議ヲナシ代表者之ニ署名セリ米國側ノ八個条トハ右兩日ノ分ヲ合計セシモノト信ズ

(四) 貴電第二五三号ニ関シ

白国銀行團ニ附与スベキ利益及投票權ヲ他団体ノ一半ニ限ルベシトハ四国団体代表者間ノ内議ナリ同國ノ加入請求ニ対シテ favourable consideration ヲ与フベシトハ決議ナリ其ノ点御含ミ置カレ度シ

英米伊ヘ転電セリ

二八三 六月十四日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団問題ト中国輿論ノ現状報告並梁士詒  
申出ノ詮議振ニ関シ請訓ノ件

第八七〇号

(六月十五日接受)

ノ要領ヲ通報シ来レリ其大要左ノ通り

対支借款団活動ノ範圍ハ支那中央及地方官憲ニ対スル借款又ハ支那官憲ノ保証セル会社ニ対スル借款ニシテ公衆ヨリ募集スルモノニ限ラレ居リ且ツ単ニ之ニ対シ外交援助ヲ与フル迄ニテ他ノ個人又ハ会社ノ対支事業活動ヲ一切排除セントスル趣旨ニ非ズ從テ新規団体ノ借款事業以外団体ニ属セザル個人又ハ会社ニ於テ対支財業的活動上十分ノ余地アル儀ト思料ス米國政府ハ關係國政府ニ於テ巴里會議決議ノ趣旨ニ從ヒ行フヘキ一切ノ事業ニ対シ速ニ自國団体ニ向テ完全ナル援助ヲ与フル事ニ決定セラレ六月十八日迄ニ協定成立ニ至ラン事ヲ切望ス

二八五 六月十六日

内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

四国銀行家會議ノ決議ニ関シ小田切ニ確メ方  
指示ノ件

講第五〇〇号

左ノ諸点小田切ニ確メ回電アリ度シ

(一) 貴電講第九八六号決議(2)ノ(a)及貴電講第九九〇号新規約

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二八五

貴電第七九三号ニ関シ

本件ニ付テハ本使(脱)アル次第ナルガ輿論ハ殆ンド、山東問題ニ集注セラレ居ルガ只政局ノ動搖ヲ惹起シ、為ニ内外新聞等ハ同問題ヲ顧ルノ暇ナキ現状ニテ今日迄ノ本邦ヨリノ報道ヲ転載スルノ外論評ヲ掲ゲタルモノナシ將又支那各般有力者ノ感想如何ニ就テハ更ニ探知ヲ試ミタルモ往電第七四七号既電ノ如キ梁士詒等ガ新借款団ノ成立ニ乗ジ、自分等ヲ中心トスル公司ノ維持發展ニ利用セントシツツアル形跡ナキニアラズ。尚今後共留意ノ上(不明)ノ序ナガラ前記往電梁士詒申出ニ対スル其後ノ御詮議振リ如何相成居ルヤ何分ノ儀御電訓ヲ請フ

二八四 六月十四日

在米國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国新借款団ノ活動範圍等ニ関シ仏國政府  
ニ対スル米國政府ノ回答要領報告ノ件

第四二八号

(六月十七日接受)

在仏日本大使發講第一二六四号ニ関シ十三日國務長官代理ヨリ六日附仏國政府通牒ニ対スル十一日附米國政府回答書

案第一条ニ所謂 Substantial progress ニタラズ industrial

undertaking ニ関スルモノト解スヘク即チ industrial undertaking ヲ伴フ借款ニシテ右 undertaking カ Substantial progress セルモノハ pool スルニ及バズトノ意味ト解セラルル処果シテ然ルヤ

尚貴電講第一一四七号(イ)ニヨレハ Substantial progress ハ必ズシモ industrial undertaking ノミニ限ラズ借款自体ニ付テモ云フモノナルカ如クニモ認メラルル処小田切ニ於テ果シテ右様ニ了解シ居ルヤ

(二) 公債發行セラレ支那側ニ交付済ニシテ而モ其ノ資金ノ已ニ費消セラレタル借款ハ complete セルモノニテ右借款ニ附帶スル優先權乃至統借ノ類ハ pool スヘキモノトスルモ右ノ如ク complete セル借款自体ハ pool スヘキ限ニ在ラズト解スヘキモノナリヤ

(三) 若シ右(二)ノ通りトセハ公債資金ハ已ニ費消セラレタルニ拘ラズ industrial undertaking ハ Substantial progress セザルカ如キ場合例ヘハ中法實業銀行借款(浦口ノ築港、北京ノ市營事業經營)ハ大部分公債ヲ發行シ支那側ニ於テ已ニ費消シタルニ係ハラズ industrial undertaking ハ

Substantial progress シ居ラザルカ如キモノハ今後右 industrial undertaking ノ完成ニ必要ナル統借(右中法銀行ノ場合ニハ未發行公債)ハ pool スヘキモノトスルモ右ノ通 complete セル公債自体ハ pool スヘキモノニアラザルヤ否ヤ

倘已成借款ニ附帶スル優先権乃至統借ノ類ハ右優先権乃至統借ニ基ク借款カ public issue セラルルヤ否ヤニヨリ pool スヘキヤ否ヤヲ決セラルルモノト解スル処右優先権等ニ基ク借款カ公募セラルルヤ否ヤ又ハ其ノ金額等ハ愈々実行ノ場合ニアラザレハ判明セザル次第第二付此ノ種ノモノハ其ノ権利者ニ於テ借款団ニ加入スルモ依然其ノ名義ノ儘保有シ他日実行ノ場合ニ事実 pool セラルルヤ否ヤヲ決セラルルコトト解シ差支ナキヤ

(d) 貴電講第一二〇一号第一ノ末段(七)ノ意味不明ノ点アルニ付更ニ詳細再電アリタシ尚新借款団ニ如何ナルモノヲ引継クヤ否ヤノ箇々ノ問題ニ付テハ貴電講第一一四七号ノ通暫ク他日ニ讓ルコトトスルモ大体ノ標準ヲ明白ニ了解シ置クコトハ緊要ト思考セラルルニ付本電ノ通り申進スル次第ナリ為念申添ユ

ハ文言通り「ニ依リ」ニシテ即チ英仏政府カ各自國ノ団体ニ対シテ like representations ヲ為セル意ト解釈ストノコトニ付大臣ハ我方ニテ得タル報道ニ拠レハ最近「アヂス」ヨリ日仏銀行団体代表者ニ対シ現団体規約更ニ一ヶ年又ハ新団体成立迄延期方提議アリ日仏代表者之ニ同意シ又英國側ニテハ未ダ英政府ノ満足スル新銀行団成立セサルモノ如ク当方ノ情報ハ右米大使ノ解釈ニ一致セザル旨ヲ指摘シ且電報ニ誤脱多ク巴里決議ノ意味不明瞭ナルトコロアリ目下問合中ニテ追テ一切ノ事情判明スル迄ハ本日米國大使申出テノ希望ニ応スル能ハザル次第ナリト答ヘラレタル処大使ハ後日ノ誤解ヲ避クル為メトテ自ラ別紙乙号ヲ通リ認メタルニ付右ニテ可ナリト答ヘラレ大使ハ自筆ノ分ヲ持チ帰レリ

註 前掲二六二文書

(別紙)

甲号寫

Use every effort to urge Japanese government to agree and to send instructions and authority to act to their representative in Paris so that the meet-

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二八七

(欄外註記)

「之ニテ質疑ハ打切り、アトハ我方ニテ相当論拠アル解釈ヲ一定シ置クコトト致度(右ニ付テハ米國提案英國提案等ノ精神解釈参考トナルヘシ)」

二八六 六月十六日 内田外務大臣 在本邦米國大使 會談

对中国借款團規約ニ関スル會議ニ日本代表出

席方ニ付米大使來談ノ件

内田外相ト米國大使會見要領

(大正八年六月十六日)

大正八年六月十六日米國大使「モリス」氏來省十三日華府発十五日接受ノ電報ナリトテ別紙甲号ヲ示シ内田大臣ノ意嚮ヲ尋ネタルニ付大臣ハ先ツ六月二日付米國大使ノ覚書<sup>(註)</sup>ニアル The Embassy has been informed that like representations have been made by the Government of France & Great Britain ノ「仏英政府ニ依リ」云々トアルハ「仏英政府ニ対シ」ニハ非ザルカ「仏英政府ニ依リ」ニテハ我方ニテ有スル報道ニ照ラシ事態諒解シ難キ嫌アリト述ヘラレ米國大使ノ意見ヲ求メラレタル処大使ハ右

ing can be held on the 18th.

乙号寫

Viscount Uchida tells me that his most recent information indicates that Great Britain representative has proposed an extension of the old Consortium for a year or until the new has been completed. He understands that French representative has expressed agreement with this suggestion and the Japanese representative is prepared to act accordingly. Viscount Uchida feels that until he is fully advised of entire situation including the attitude of France and Great Britain he cannot urge upon the Japanese representative any further action.

二八七 六月十七日 在英國永井臨時代理大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

滿蒙除外問題ニ関シアヂス及ラモントヨリ異

ニ対シ反对ノ意向ヲ表示シタル旨報告ノ件

第二四三三号 (六月二十五日接受)

二八七

「アヂス」ノ求メニ依リ十六日異ハ「ラモン」ト及同人ト会见シタル処「ラ」ハ日本政府ニ於テ滿蒙除外ノ希望ヲ有スル旨小田切ヨリ承知シタルガ右ニ関シ「アヂス」及異ニ会见センガ為メ来レリト前置キシ日本提議ノ内容今一応説明アリタシト述べ異ハ之ニ対シテ要ハ滿蒙ニ於ケル日本ノ利権ヲ「プール」セザルニアリ詳細ハ小田切十七日着英ノ後書面ニテ申送ル可シト答ヘタルニ「ラ」ハ日本ノ希望ハ果シテ右ノ如クナラバ從來華盛頓ニテ聞キ込ミタルコトヲ綜合スルニ米國政府ハ右ノ如キ除外ヲ設クルコトハ不承認ナルベキニ付本件米國政府ノ承認ヲ得ルコト難カラント思考スト述ベタリ依ツテ異ハ本問題ハ事頗ル重大ニシテ且団体組織ノ先決問題タルヲ以テ解決ヲ(脱)ノ為メ右「ラモン」トノ意見ヲ日本政府ニ電報シ差支ナキヤト念ヲ押シタルニ同人ハ右打電ハ迷惑ニ感ズ右意見ハ全然自分等ノ間ニ留メ置キタシ但本問題ハ巴里ニテ既ニ「ランシング」ニ話シアレバ兩三日中ニ其ノ回答ヲ得ベク其上ニテ更ニ内報スル処アラント断リタル由ナリ尚ホ同席シタル「アヂス」ハ三人会談中及「ラ」ノ去リタル後ニモ繰返シテ本除外ハ英國政府ニ unacceptable ノコトト思考ス又世界ノ大勢ハ変

更シ日本ガ國際聯盟ニ加入セル今日特種利益ヲ云々スルハ理論不徹底ノ觀アリ元来右井ランシング協約ハ米國ハ地理上ノ關係ヨリシテ日本ガ支那ニ特種ノ利害ヲ有スル事ヲ認ムルモ特ニ滿蒙地方ヲ指シタル様ノコトナシト記憶ス然ルニ日本ガ滿蒙ノミヲ主張セルハ却テ協約全体ニ惡影響ヲ及ボス虞ナキヤ兎ニ角本件ハ日本ノ為利益ナリトハ思ハズト述べ異ノ間ニ対シ右意見ヲ日本ニ電報シ差支ナキ旨答ヘタル趣ナルガ「ラモン」トノ来英ト云ヒ「アヂス」ノ態度ト云ヒ何等本除外反対ニ関シ打合スル処アリ特ニ会见ヲ求メタルモノトノ印象ヲ異ニ於テ得タル趣ナリ

在米大使、在仏大使へ転電セリ

二八八 六月十九日 内田外務大臣ヨリ 在中国小幡公使宛 (電報)

新借款団ヘノ中華銀公司加入問題ハ事理解シ  
難キ旨説示並梁士詒ヨリ在仏葉恭綽宛電報ニ  
纏ハル事情ニ付回電方訓令ノ件

第八三二号  
貴電第八七〇号ニ関シ

支那銀行カ新借款団ニ加入スルニハ同借款団ニ加入スル財団ノ一員タルカ若ハ独立ノ支那団体トシテ参加スルカ執レカノ方法ニ抛ラサルヘカラサル処中華銀公司ニ於テ他國財団ノ一員トシテ加入スルコトハ往電第七〇五号決議(5)及往電第七〇八号新規約案第一条ニ徴シ困難ナリ又独立ノ財団トシテ加入スルニハ右新規約案第一条ニヨリ他國財団ノ許諾ヲ必要トス又仮ニ右許諾ヲ得ルトスルモ元來對支新借款団ハ支那ノ財力不足ヲ補ハムカ為メ外國ヨリ支那ニ對シ資金ノ援助ヲ為サムトスルモノナルニ支那側ノ銀行自身カ資金供給者側ニ加ハルカ如キハ對支借款団組織ノ本義ニ適ハス加之中華銀公司ニ於テ新借款団ニ加入スルトモ到底自ラ支那内地ニ於テ資金ノ調達ヲ為スコトハ困難ト認メラレ又仮ニ内地ニ於テ幾分調達ノ余裕アリトセハ同額丈ハ外資ヲ借入ルノ必要ナキ次第ニテ即チ右ノ如ク外國財団ヨリ成ル銀行団ニ加入スルノ方法ニヨラズシテ直接支那政府其他ノ關係側ニ内資ノ供給ヲ為スコト素トヨリ当然ノ方途タルヘク何レノ途前顯中華銀公司加入ノ事理甚タ解シ難ク旁々我方ニ於テ好意の考慮ヲ加フルニ躊躇シ居リ他國側ニテモ多分同様ナルヘシト思料セラルル処貴地正金代表者ヨリ最

近本店ニ到達セル電報ニヨレハ梁士詒ハ交通部ノ手ヲ經テ在仏葉恭綽ニ對シ中華銀公司ハ新借款団ニ加入シタルニ付公司代表者トシテ当分巴里ニ滞在スヘシ云々ノ電報ヲ發シタルカ加入云々ハ疑問ナルモ米國側カ已ニ賛成セシニアラヌヤト推察スルモノ有之趣ナルカ右中華銀公司カ新借款団ニ加入シタリトハ同公司ノ方針トシテ加入スルコトニ定マリ居レリトノ意味ニ非ルヤ又米國側賛成云々ノ説ニシテ事實ナリトセハ右ハ他國側ニ於テ同意セサルヘキヲ見越シ單ニ表面賛成ノ意ヲ洩ラシタル位ニ過キサルヘシト思考セララルル処何等御氣付ノ廉アルヤ右葉恭綽宛電ヲ見ルニ至リタル事情ト共ニ詳細回電アリタシ右ノ結果ニヨリ貴電第七四七号ニ對スル当方確定的意見申進スヘシ

二八九 六月十九日 在英國永井臨時代理大使ヨリ 内田外務大臣宛 (電報)

小田切及異ラモンと及アヂスト会见ノ上滿蒙  
除外ニ関スル書面外一通ヲ提出シタル件

第二四九号 (六月二十六日接受)  
「モルガン、グレンフェル」会社ニテ小田切、異、「ラモ

ント」及「アデス」会谈要領左ノ如シ

「ラモント」ハ巴里ニテ過般小田切ト会见ノ際聞キタル滿蒙除外ニ関スル日本提案ハ未ダ公報ニ接セザルモ米國政府ニ於テ不承諾ナルベシト云ヒ「アデス」ハ日本ガ支那ニ對シ特種ノ利害ヲ有スルコトハ曩ニ各國ノ認ムル処ナランモ其後時勢ノ變遷ニ鑑ミ又今回新借款团组织ノ議ハ爾來各國ガ支那ニ於テ有セル勢力範圍圈ヲ打破シ新ナル覚悟ヲ以テ之ヲ始メントスル計畫ナレバ此際日本ヘ滿蒙除外ノ如キ提案ヲ為サザルコトヲ希望セザルヲ得スト云ヘリ小田切ハ之ニ對シ日本代表者ハ滿蒙除外ノ件ニ関シ日本団体ヨリ命令ニ接シ居ルヲ以テ其旨通知セザル可カラザルノ地位ニ立テリ依テ兼テ口約セシ如ク之ヲ書面ニ認メ持参セシヲ以テ更ニ考慮アリタシト述ベ(不明)滿蒙除外ニ関スル書面ヲ提出セリ又在仏大使宛貴電第二二三号ノ一、二ノ(ハ)ニ関スル決議案ヲモ「ラモント」ニ送附セリ右(ハ)「The resolution passed at the conference held during the existence of the present consortium ヲモ繼承スルコト」ノ辭句ヲ加ヘ一昨年一月三十日決議ノ顧問問題ヲ自然包含セシムルコトヲセリ尚右書面並決議案写ハ英、仏団体代

表者ヘ夫々送附済ナリ

在米大使、在仏大使ヘ転電セリ

註 日本外交文書大正六年第二冊二〇一文書ノ(ハ)参照

二九〇 六月二十日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙除外ニ関シ小田切ヨリラモントニ交付セル書面ニ付報告ノ件

第二五〇号 (六月二十八日接受)

往電二四九号ニ関シ「ラモント」ニ交付セル滿蒙除外ノ書簡ハ左記ノ通り記述シタル後明治四十五年四月十八日會議錄記載ノ宣言ヲ添記シ注意ヲ喚起シアリ

For your information I would wish to communicate to you that we have been instructed by our principals in Japan that all the rights and options held by Japan in the regions of Manchuria and Mongolia, where Japan has special interests, should be excluded from the arrangements for pooling provided for in the proposed agreement. This is based

通りナリ尤モ本邦団体ハ今後場合ニヨリ増員スルコトアル  
ヘキハ往電講第四一七号ノ通りナリ為念申添ユ

横浜正金銀行  
日本興業銀行  
朝鮮銀行  
台湾銀行  
第一銀行  
十五銀行  
三井銀行  
第一百銀行  
安田銀行  
三菱銀行部  
三十四銀行  
近江銀行  
浪速銀行  
鴻池銀行  
住友銀行  
山口銀行  
加島銀行

upon the very special relations which Japan enjoys geographically and historically, with the regions referred to, and which have been recognized by Great Britain, the United States, France and Russia on many occasions. In this connection I would wish to specially draw your attention to a note from the Secretary of State to the Japanese Ambassador, dated Washington, 2/11, 1917.

次ニ決議案文ハ別電第二五一号ノ通りニシテ五月十二、十三兩日會議ノ詳報郵送シアルモ遠隔ノ地ナレハ追テ右接到後何等修正追加等申来タルヤモ計ラレザル旨添記シ置ケリ  
米仏ヘ転電セリ

二九一 六月二十日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

新借款团加入ノ日本団体組成銀行名通報ノ件

講第五一〇号

貴電講第一二五四号ニ関シ

新借款团成立ノ上ハ之ニ加入スヘキ本邦団体ノ名称ハ左ノ

第三 銀行

右英米ニ転電アリタシ

二九二 六月二十三日

中村正金副総支配人ヨリ  
壇原政務局長宛

梁士詒発在仏葉恭綽宛電報ニ於テ中華銀公司  
ガ新借款团ニ加入セル旨ヲ報ジタリト為セル  
ハ謬報者ノ誤聞ニ起因セルモノナル件

附屬書

在北京小貫正金支配人ヨリ梶原頭取宛書信写

大正八年六月二十三日

横浜正金銀行

副総支配人 中村錠太郎(印)

外務省政務局長 壇原正直殿

拝啓 中華銀公司新銀行团ニ加入ノ旨巴里へ發電ノ件ニ付  
別紙写ノ通り北京ヨリ報告越候間玆許供御内覧候 敬具

(附屬書)

横浜正金銀行

北京支店支配人

小 貫 慶 治

頭取 梶原仲治殿

拝啓

中華銀公司理事長梁士詒ハ数日前交通部ニ依頼シ在巴里葉  
恭綽へ向ケ中華銀公司ハ新銀行团ニ加入シタルニ付公司代  
表者トシテ巴里ニ駐在スベキ旨發電シタル由聞クガ儘ニ御  
電報申上ゲ同時ニ梁氏電文中「銀行团ニ加入シタルニ付云  
々」ノ文句ニ疑ヲ挾ミ或ハ米國ガ已ニ内諾ヲ与ヘタル為メ  
ナラン杯色々觀測スル者有之候ニ付其趣モ附電致置候処本  
日梁士詒發電ニ係ル原文入手致候ニ付仔細ニ之ヲ研究致候  
処右「銀行团ニ加入シタルニ付云々」ハ謬報者ノ誤聞ナリ  
シ事ヲ確メ申候尚右電文中ニハ銀行团ノ經濟借款壟斷ニ関  
スル梁氏ノ意見モ窺ハレ候ニ付原文全部ノ訳文ヲ添付致置  
候間御覽被下度昨日当方發電訂正旁此段申進候也

(別 紙)

六月十一日附中華銀公司理事長梁士詒発

巴里中國公使館氣附葉恭綽宛電報訳文

本銀公司ハ已ニ四國銀行ニ向ヒ加入センコトヲ請求シタル  
ニ銀行ハ其本店へ書面ヲ以テ之ヲ通知スベキコトヲ承諾セ  
リ当方ニ於テハ現ニ理事会ノ決議ヲ經テ貴下ヲ駐歐代表者

トナシ専ラ四國銀行团ト商議スル事加入後ハ銀行团ト中国  
第二次善後借款ヲ取扱ハシムルコトヲ委任ス唯銀行团ニ在  
リテ經濟、實業鐵道借款ヲ壟斷セントスルガ如キコトアラ  
バ斷シテ許サズ万一如斯事アラバ隨時電信ニテ商議セラレ  
タシ委細書面ニテ申述ベタリ

二九三 六月二十四日

内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

中華銀公司ノ新借款团参加ニ関シ梁士詒ノ日

米及四國銀行ニ対スル行動並我方ノ態度ニ付

通報ノ件

第二八七号

往電第一四八号ニ関シ

同電所載支那「シンデケート」ハ其ノ後中国、交通、滙業、  
金城、新華、中孚等ノ諸銀行ノ出資ニヨリ中華銀公司ナル  
モノ組織セラレタル模様ニテ五月十九日梁士詒ハ同銀公司  
理事長ノ資格ニテ在北京正金銀行代表者ニ対シ同銀公司ニ  
於テ対支新借款团ノ一員トシテ参加スルコトヲ得ルニ於テ  
ハ支那側ト借款团トノ間ニ立テ調節ヲ計ル等種々ノ利益勘

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二九三 二九四

カラスト思考セラルルニ付右参加方ニ付日本側ノ好意的幹  
旋ヲ得タキ旨申出テ尚代表者ノ質問ニ対シ梁ハ Abbott 出  
発前同様ノ希望ヲ申入レタル処 Abbott ハ之ヲ諒トシ兎  
モ角歸米ノ上關係者ノ考慮ニ入ルヘキコトヲ約シタル旨答  
ヘタル趣ナリシカ最近梁士詒ハ交通部ノ手ヲ經テ貴地葉恭  
綽ニ対シ同銀公司ハ已ニ四國銀行ニ対シ加入セムコトヲ  
請求シタルニ銀行ハ書面ヲ以テ本店ニ通知スヘキコトヲ承  
諾シタルニ付理事会ノ決議ニヨリ葉ヲ同銀公司ノ駐歐代表  
者トナシ専ラ四國銀行团ト商議スヘク又加入後ハ銀行团ト  
第二次改革借款ヲ取扱ハンコトヲ委任ス尚銀行团カ實業借  
款ヲモ壟斷セムトスルカ如キコトハ斷シテ許シ難キ旨電報  
ヲ発シタル趣ナリ中華銀公司ノ如キ支那銀行参加問題ハ銀  
行团組織ノ本質其ノ他ヨリ種々考慮ヲ要スルモノアリ目下  
慎重詮議中ナルモ不取敢御含迄

右英米ニ転電アリタシ

二九四 六月二十四日

内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

非公募借款ト雖モ三百萬円以上ノモノハ新借  
款团ノ共同範圍ニ屬セシメントスルハ我方針

二九三



ナルモ我方ハ之ヲ固執セザル旨訓示ノ件

第二八八号 至急

往電第二三三三号ニ関シ

同電中(一)の公募セラレザル借款三百万円以上ヲ以テ新借款団ノ共同範圍内トセムトスル我方針ニ付テハ已ニ小田切巽ヨリ各国代表者ニ非公式ニ申入レタル次第ハ屢次ノ貴電ニヨリ承知シ居レル処元來貴電講第九八六号決議(2)の(a)及貴電講第九九〇号新規約案第二条ニ所謂公募 (issue for subscription by the public) ナル語ハ單純ナル文字解釈ニ依レハ公債ヲ發行シテ一般公衆ヨリ資金ヲ募集スルノ意義ニ止マリ從テ財業者カ自己ノ手許ニ存スル資金又ハ他ヨリ融通ヲ得タル資金ヲ以テ支那ノ借款ニ応シ之カ為直接ニ公衆ヨリ資金ヲ募集スルコトナキ場合ハ國際借款団ノ活動範圍ニ屬セザルモノト解スルノ外ナシト雖事實上ニ於テ我財業者中(借款団員タルト否トヲ問ハズ)右國際借款団ノ活動範圍外ト解セラルル借款ヲ引受クルモノ続出シ殊ニ其ノ借款カ巨額ニ上ルニ至ラハ遂ニ列國ノ注意ヲ惹キ恰モ我財業者ニ於テ誠実公正ニ規約ヲ遵守セザルガ如キ批難ヲ受タル虞ナシトセス我提案ニ於テ一定額以上ノ借款ハ

公募セラレザルモノト雖國際借款団ノ活動範圍ニ包含セシムトシタル一ノ主要ナル理由ハ前記ノ如キ物議ヲ避ケムトスルニ在リ然レトモ此際列國団体代表者ニシテ予メ右ノ事態覺悟ノ上前記ノ文字解釈ニ対シ何等異議ナキコトノ明確ナル了解アルニ於テハ我方ハ強キテ往電第二三三三号(一)の(一)三百万円制限ノ件ヲ主張スルノ必要ナク此ノ点ニ關スル貴電講第九八六号巴里會議ノ決議及貴電講第九九〇号新規約案ヲ其ノ儘承認スヘシ右前電補遺旁申進スル次第第二付詳細小田切巽ニ伝ヘラレ速ニ適當ノ措置ヲ講セシメラレ結果回電アリタシ

尚本邦銀行家中ニハ右三百万円ノ制限ハ成ルヘク之ヲ撤回スルカ然ラサレハ少クトモ五百万円ト修正セムコトヲ希望スルモノアリ為念申添ユ  
右英米ニ転電アリタシ

二九五 六月二十六日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団ニ対スル日本ノ態度ニ表裏アル旨京

津タイムス論評ノ件

第九一一号 (六月二十七日接受)

往電第九〇九号ニ関シ

其後当地新聞ハ米國政府ヨリ同國駐劄支那代理公使ニ対シ新借款団組織ノ綱領及借款団規約草案ヲ交付セル旨報ジ右ニ基ク同代理公使ノ報告ノ内容ヲモ記載シ居レル処二十六日ノ京津タイムス北京通信ハ右ニ關シ長文ノ評論ヲ掲ゲ日本ハ例ニ依リ表裏両面ノ芸當ヲ演ジツアリ即チ巴里ニ於テハ他關係國代表者ヲシテ日本ガ新財団参加ニ全然同意ナルガ如キ信念ヲ抱カシメ而モ他面ニ於テハ支那ニ於ケル其ノ与党ト脉絡ヲ通シテ本件計画ニ対スル反対熱ヲ煽ラントシテ全力ヲ尽シツアル旨痛論シ居レリ

二九六 六月二十七日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団ニ中華銀公司ノ加入問題ニ關スル梁

士詒發葉恭綽宛電報等ニ付実情報告ノ件

別電 同日在中国小幡公使發内田外務大臣宛電報第九

一六号

中華銀公司ノ新借款団加入ニ關スル梁士詒發葉恭綽宛電報内容

第九一五号

(六月二十八日接受)

貴電第八三二号後段ニ関シ正金代表者ニ於テハ當時聞込ミ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 二九六

シ儘不取敢電報シタルモ中華銀公司カ新借款団ニ加入シタリト云フハ如何ニモ受取り難キ話ニ付其ノ後梁士詒ヨリ葉恭綽ニ宛タル電文ナルモノヲ入手閱覽シタル処果シテ加入シタリ云々ハ誤リナルヲ發見シタルニ付直ニ其ノ旨正金本店ヘ追報シ置キタル趣ニ有之右ハ既ニ正金側ヨリ御聴取リノ儀ト存スルモ為念右梁士詒發電文ノ大要別電第九一六号ヲ以テ電報スルニ付委細右ニテ御承知アリタシ次ニ上記梁士詒等ノ計案ト米國側トノ關係如何等ニ付テハ往電第七四七号梁ノ小貫ニ対スル談話以外今日迄ノ如何等聞込ミタル所ナキモ此際梁等ノ真意内探旁委細ノ事情ヲ究明スルコト然ルヘント思考シタルヲ以テ小貫ニ命ヲ含メ六月二十六日梁ヲ往訪懇談ヲ試マシメタル処梁ハ先ツ前記葉恭綽宛電報發送ノ事実ヲ是認シタル上過般各關係國資本団体代表者ニ対シ夫々支那側参加ノ希望ヲ申入置キタルモ未タ何レヨリモ回答ニ接セス將又米國側ニ対シテノミ他ヨリモ深く話ヲ進メントシタルカ如キコトナキ旨ヲ明言シ進シテ最近各新聞紙上ニ駐英米支那公使ヨリ報告トシテ現レタル新借款団計画ノ内容ハ総テ事実ナルガ若シ今日迄ノ話合通り実行ヲ見ルコトトモナラハ右ハ独リ支那ノミナラズ日本ニ取リテモ

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二九七

極メテ重大ナル結果ヲ齎スモノト云フヘク殊ニ実業鐵道借款ノ包含ハ飽迄モ之ニ反対セザルベカラズ若シ日支兩國ノ歩調ヲ一ニシテ極力反対ヲ主張スルニ於テハ他關係國ヲシテ承服セシムルコト左程難事ニモアラザルベシトテ頗ル強硬ナル態度ヲ有スルモノノ如ク見受ケラレタル趣ナリ

右梁ノ言明等ニ依リ想像スルニ梁ヲ中心トシテ新借款團割込ニ熱中シツツアルハ最早疑フベカラザル事實ナルト同時ニ右運動ガ未タ彼等予期ノ如ク具體的進展ヲ見ザルモ亦事實ニシテ特ニ米國側トノ間ニ既ニ好意的諒解ヲ有スルモノトハ思考致難シ尤モ上記ニ付テハ梁ニ於テ実業鐵道借款ノ除外ヲ主張シツツアルモ既ニ中華銀行公司ヲシテ國際借款團ニ参加セシメントスル以上其ノ共同事業ヨリ之等經濟的借款ヲ除外セントスル真意聊カ了解シ難キモノアリ旁右借款團事業局限方ニ対スル彼等ノ熱心ナル主張ノ底意如何ハ尚考究ヲ要スルモノアルヤニ想察セラル尚精探ノ上隨時具報ニ及フヘキモ右不取敢

(別電)

六月二十七日在中国小幡公使兼内田外務大臣宛電報第九一六号

タル上在米支那公使ヲ經テ右支那政府ノ反対意見ヲ米國政府ニ伝達セシムル様既ニ申込ミタルカ尚ホ在支米國公使ニ対シテモ本日当リ同様ノ通告ヲ發スル管ナリトノコトナリ

右聞込ノ儘不取敢

二九八

六月二十九日 在米國出淵臨時代理大使ヨリ内田外務大臣宛(電報)

对中国新借款团組織問題ニ関連シ滿蒙除外ヲ

固執スルノ利害得失ニ付意見稟申ノ件

第四七三号

我國ヨリ這回ノ対支新財団組織問題ニ関シ滿蒙留保ノ提議ヲシタルニ対シ關係諸國殊ニ米國側ニ難色アル次第ハ屢次ノ電報ニ依リ明瞭ナル処本問題ノ成行如何ハ國際上帝國ニトリ頗ル重大ノ關係アル義ト存ジ篤ト研究ノ結果左ニ腹藏ナク卑見ヲ述ベ御参考ノ一端ニ供シタシ

今回米國政府ガ從來ノ方針ヲ一變シ自ラ進ンデ新財団組織ヲ提議スルニ至リタル動機ハ要スルニ(一)六國団脱退ノ結果支那ニ於ケル米國ノ財業的勢力漸ク衰ヘ且ツ偶々单独經營

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 二九八

六月十一日梁士詒發葉恭綽宛電報内容

第九一六号別電

中華銀行公司ハ四國銀行団参加ノ申込ヲ為シ各銀行ハ之ヲ其ノ各本店ニ伝達スヘキ旨ヲ承認セリ就テハ今回理事會ノ決議ヲ經テ足下ヲ駐歐代表ニ囑託シ專ラ日英米仏四國銀行団ト接洽シ銀行団加入後第二次善後借款問題ヲ商議セシムルモ若シ他關係國ニ於テ經濟實業鐵道借款ノ壟斷ヲモ欲スルカ如キコトアラハ斷シテ之ヲ承引シ難キニ付果シテ右様ノ義アルニ於テハ隨時請訓ノ上可然御措置相成タシ

二九七

六月二十八日 在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛(電報)

新借款团ノ活動範圍ニ実業借款ヲ包含セシム

ルコトニ反対ナル旨張弧ノ秋山ニ対スル内話

報告ノ件

第九二三号

(六月二十九日接受)

六月二十八日張弧ガ三菱秋山ニ内話セル所ニ依レハ新借款團ガ實業借款ヲモ包括独占セントスルニ対シ政府部内ニテ反对少カラズ結局國務總理代理ヨリ徐總統ノ裁可ヲモ求メ

ヲ試ミタルモノアルモ団体規約等ノ關係ニ制セラレ其ノ活動意ノ如クナラザリシ為メ民間諸方面ヨリ政府批難ノ声高マリタルコト(一)米國ニ於テ右ノ如キ消極的態度ヲ持ツツアル間ニ列國就中我國ノ対支經營着々進行シ殊ニ歐洲戰爭開始後彼ノ日支條約に依リ滿蒙及山東ニ於ケル我が地位ニ一進展ヲ劃シ次デ我國ヨリ借款統々締結セラレ又幣制整理顧問ノ如キ地位ヲモ我が手ニ収メントスルニ至リタル為メ米國ニ於テ漸次我國ニ対シ猜疑ノ念ヲ起シタルコト(二)門戶開放主義ハ元來米國ノ提唱ニ依リ列國ノ贊同シタル処ナルニモ拘ハラズ爾來日露兩國ハ滿蒙ニ於ケル把握ヲ益々鞏固ナラシメ英仏モ亦各々其ノ勢力範圍ノ防衛ニ努メ彼ノ

Siemens Careyガ大規模ノ鐵道計畫ヲナスヤ露國英國及仏國等ノ反对ニヨリ予期ノ目的ヲ達スルニ至ラス又大連河浚渫計畫ヲナスヤ忽チ我國ノ反对ヲ受ケ共同經營案ニ依リ其ノ局ヲ結ベル等實際ニ於テ所謂門戶開放主義ナルモノハ名実相添ハザルモノナルヲ自覺シ斯クテ歐洲大戰ト共ニ國際聯盟其他各種ノ國際機關設立熱ノ高マリツツアル氣運ヲ利用シ支那ニ於ケル各國ノ勢力範圍ヲ一律ニ撤廃シ關係國共同ノ力ヲ以テ支那ノ開發ヲ計リ同時ニ英仏ノ財力往日ノ如ク

ナラザルニ乗ジテ自己ノ強大ナル財力ヲ利用シテ陰然支那ニ向ツテ其勢力ヲ扶殖シ且ツ幾分ニテモ我國ノ单独經營ヲ抵制スルノ必要ヲ感ジタルコト等其ノ重ナルモノニシテ之ヲ要スルニ其動機ハ單純ナル經濟的見地ニノミ出デタルモノニアラズ寧ロ政治的色彩ヲ帶ビ相當深キ根底ニ胚胎セルモノト認メラル之ヲ極東ニ於ケル帝國ノ地位ヨリ考察スルニ対支新財団組織ノ結果列國殊ニ無限ノ資源ヲ有スル米國ノ勢力隣邦ニ加ハルハ甚ダ好マシカラザル処ナルヲ以テ今ヤ露独没落シ英仏亦当分其ノ力ヲ極東ニ延ベザルノ好機ヲ利用シ出来得ベクンバ新財団ノ活動ヲ制限スルニ努メザルベカラザル筋合カト思料スルモ退キテ之ヲ考フルニ資源貧弱ナル我國独力ヲ以テシテハ我が存立上絶対ニ必要ナル支那ノ富源ノ開發ハ百年ノ河清ヲ待ツニ等シカルベク且ツ我が独力ヲ以テ米國ノ傘下ニ集ル各國財団ニ對抗スルノ不可能ナルハ多言ヲ要セザルヲ以テ此際米國ノ提議ニ從ヒ新財団ノ組織ニ賛同スル外致シ方ナカルベク帝國政府ガ之ニ賛同スルコトニ決セラレタル趣旨モ亦畢竟之ニ存スル義ト思考ス然ルニ帝國政府ニ於テ既ニ新財団組織ニ賛同セラレタル以上滿蒙留保ナル一条件ヲ附セラレタルハ果シテ得策ナ

リシヤ又其實徹上十分ニ成算ノ存スルアリヤ頗ル疑問トセザル能ハズ今本件留保ノ歴史ヲ溯リ且ツ政治經濟兩方面ヨリ其ノ得失利害ヲ考フルニ先ツ(一)滿蒙關係事項ニ付帝國政府ガ從來米國政府ト其ノ所見ヲ異ニシタル事例一再ニシテ止マラズ彼ノ日露戰後ニ於ケル滿洲鐵道中立問題ヲ始メトシ錦愛鐵道借款幣制整理問題及滿洲開發借款ノ如キ其ノ顯著ナルモノナルガ幸ニシテ終始我立場ヲ擁護シ米國ヲシテ深ク滿蒙ニ喰込ムヲ得サシメタルモ邇ツテ交渉ノ經過ヲ顧ルニ右ハ概ネ露國トノ提携協力ノ結果ニ依ルモノニシテ一モ我独力ヲ以テ遂行シタルノ事實ナク本件ノ発端タル彼ノ明治四十五年ニ於ケル滿蒙留保ノ如キモ實ハ当初我國ヨリ団体規約中ノ一ケ条トシテ之ヲ明記センコトヲ主張シタルニ拘ラス米國及独逸ヨリ強硬ナル反對説起リ結局露國ノ妥協案ニヨリ辛フシテ不十分ナカラモ記録ニ留保ヲ記載スルノ目的ヲ達シタルモ之ト同時ニ他ノ四國ニ於テモ一ノ對抗的留保ヲ附記シ我が留保ノ効果ヲ減殺シタルコトハ今回本件留保ヲ提議スルニ当リ篤ト注意スヘキ事實ナリト思考ス當時ト今日トヲ比較セハ支那ニ於ケル帝國ノ地歩多少増進シタルコト固ヨリ疑ナキ所ナリト雖當時露國ト協力シテ

尚且満足ナル效果ヲ收メ得サリシ問題ヲ露國瓦解シ共通ノ利害關係ニヨリ我ト提携スヘキ國無キノ時ニ當リ英仏殊ニ國際上ノ新氣運ニ乗シ支那ニ於ケル勢力範圍ノ撤廃ヲ目的トスル米國ノ主張ニ対シ我國独力ヲ以テ之ニ當ルモ果シテ満足ナル結果ヲ收メ得ヘキヤ仮ニ一步ヲ譲リ多少ノ望アリトスルモ山東問題朝鮮問題等我ニ取り尚警戒ヲ要スヘキ諸問題ノ蟠マリ居ル折柄本件留保ヲ固執スルガ如キハ大局上果シテ得策ナルヘキヤ且一旦強硬ニ主張シ之ヲ貫徹シ得サル場合列國殊ニ支那ニ対シ我威信ヲ毀損スルカ如キ觀ナキヤ之レ先ツ第一ニ考慮ヲ要スル点ナリ

次ニ(二)滿蒙留保問題ニシテ我國策遂行上絶対ニ必要ナリトセハ列國ノ意嚮ニ憚カルコトナク有ラユル手段ヲ以テ之ガ貫徹ニ力メサルヘカラサルコト固ヨリ当然ナルヘキモ本件ハ果シテ左迄頑強ニ固執スル価値アル問題ナリヤ第一ニ之ヲ政治上ヨリ見ルニ我存立上輒モスレハ危險ヲ感セシメタル露國ノ現状如何同國カ既ニ五大強國ニ依リ國家ノ組織マテヲモ拘束セラレタル事實ニ顧ミ將來大軍ヲ擁シテ滿蒙ヲ侵掠シ朝鮮ヲ脅カスニ至ルヘントハ想像スルヲ得ス此ノ事態ノ變遷ニ基キ我滿蒙經營ハ最早ヤ政治上軍事上著シク其

ノ意義ト色彩トヲ異ニシ從テ鐵道其他ノ經營方針モ新事態ニ順応シ此際或程度マデ變更スルコト至当ナルヘキカト思料ス第二ニ經濟上ヨリ之ヲ見ルニ南滿安奉兩鐵道及大連ナル門戸ハ既ニ完全ニ之ガ我が手中ニ収メ滿蒙ニ於ケル我が經濟的發展ノ基礎略ホ固マリタル今日例ヘバ滿蒙五鐵道ヲ新財団ノ共同事業ト為スモ(吉会鐵道ハ遠ク明治四十二年ノ間島協約ニ其ノ根源ヲ発シ自ラ特殊ノ歴史アリ且日支條約ニ依リ我權利ヲ約定セル吉長鐵道ヲ通シ我領域内ニ在ル鐵道系ト我独力經營ニ屬スル南滿鐵道トヲ連絡スルモノナルニ鑑ミ之ヲ新財団ノ共同事業ヨリ除外スルコト必スシモ不可能ニアラサルヘシ)該地域ニ對スル我發展上格別ノ損失アルヘントモ思ハレズ況ンヤ我勢力範圍ノ中心タル奉天ト北京トヲ連絡スル幹線及其ノ重要支線タル錦州朝陽線カ英國ノ關係ニ屬シ且滿蒙ニ於ケル海關及塩務等ノ重要機關ガ國際關係ニ屬シ居ルノ事實ニ想到セハ我國ニ於テ此上特ニ滿蒙閉鎖主義ヲ取ルノ必要ナカルヘク寧ロ此際四國ノ事情ニ顧ミ我ヨリ進ンテ開放スルノ方針ニ出ツルコト得策ニアラスヤ是レ第二ニ措置セサルヘカラサル点ナリ

次ニ(三)新財団組織ニ関シ米國ノ標榜スル所ハ經濟的見地ニ

在ルモ其ノ根本的動機ニ至ツテハ勢力範圍ノ撤廃ヲ目的トスル政治的色彩ヲ有スルモノナルコト前ニ述ベタルカ如シ換言スレハ米國ノ提議ハ感情的理想的動機ニ出テタルモノト認メラルルヲ以テ我ニ於テ之ト兩立セサル滿蒙留保問題ヲ固執スルトキハ新財団ノ組織及運用ニ関スル實際問題ヲ離レ徒ニ感情の紛議ヲ滋カラシムル結果トナリ容易ニ解決ノ見込ナカルヘキノミナラス延テ累ヲ大局ニ及ホスノ虞ナキニアラス之ヲ我國ノ實際の利害關係ヨリ打算スルニ滿蒙問題ナルモノハ既往ノ歴史ニ鑑ミ其ノ貫徹容易ナラサルモノアルト共ニ今日ニ於テハ其ノ実益左迄大ナラサルモノアルニ顧ミ寧ロ一応ノ主張ヲ為スニ止メ適當ノ潮時ヲ見計ラヒ之ヲ撤回シ其ノ条件トシテ英仏ヲシテ齊シク勢力範圍撤廃ヲ確約セシメ支那南北ヲ通シ普遍的我勢力ヲ擴張スルノ素地ヲ作り同時ニ關係國殊ニ米國ノ感情ヲ和ケ以テ新財団運用ニ関スル實際の方面ニ於テ支那ニ對スル我が智識ト地位トヲ利用シ常ニ帝國ノ地歩ヲ擁護スルノ方針ニヨリ之ヲ指導スルコト得策ニアラスヤ我國ニシテ淡泊ニ滿蒙留保ヲ撤回シテ公平ナル態度ヲ示シ列國ヲ安心セシムルトキハ列國モ亦必然感情ヲ離レテ實際の見地ニ立戻リ算盤ヲ手ニシ

テ我ニ懇談スルニ至ルベク其ノ場合滿蒙五鐵道ノ如キ格別有利ナラサル鐵道ニハ却テ先方ヨリ参加ヲ辞退スルカ如キコトナシトモ限ラレサルノミナラス目下銀相場法外ノ高値ヲ示シ当分下落ノ見込ナキ折柄金貨國タル米國ノ資本家ガ歐洲及南米ニ於ケル資金ノ需要急ナルニ際シ不慣ナル支那ニ向ツテ果シテ世人ノ憂慮スルカ如キ巨額ノ投資ヲ敢テスヘキヤ本官ノ竊ニ疑フ所ナリ之ヲ要スルニ米國今回ノ提議ナルモノハ感情のナルコトニ著眼シ我國ニ於テ此際成ルベク感情のノ議論ヲ避ケ以テ彼ヲ實際の方面ニ導キ我國策遂行上巧ニ之ヲ利用スルノ方針ニ出ツルコト寧ロ賢明ノ策ニアラスヤ是レ第三ニ考慮セサルベカラサル点ナリ

之ヲ要スルニ帝國政府ニ於テハ此ノ際專ラ實際の見地ヨリ本問題ヲ講究セラレ世界ノ新局面ニ順応スル為既往ノ歴史及一切ノ感情ヲ離レ結局本件留保ヲ拋棄スルコトニ決心セラレ以テ帝國ノ公明ニシテ私心ナキ態度ヲ列國ニ宣明シ多年ノ誤解ヲ一掃シテ我ニ對スル信頼ノ念ヲ昂メシメ彼等ニシテ果シテ實際の見地ヨリ多額ノ投資ヲ敢テスルニ於テハ我ハ之ヲ利用シテ以テ支那大陸富源ノ開發ヲ遂行シ我特殊ノ地位ニ伴ヒ当然來ルヘキ多分ノ分ケ前ヲ懷ニシ國家万年

ノ大計ヲ立ツルコト肝要ナルヘシト思料ス本件ニ就テハ米國政府ヨリ其内何等申出ツルヤモ計リ難キニ付成ルヘク至急御詮議ノ上本官含迄ニ何分ノ儀御電示ヲ請フ

尚序ヲ以テ申述べタキハ在英代理大使發第二五〇号「ラモント」宛書翰末段ニ石井「ランシング」協約ヲ援用シアル処御承知ノ通り元來石井「ランシング」協約ハ米國參戰後我國ヨリ特派大使ヲ派遣シタル際米國ノ感情の政策ノ發露トシテ寧ロ突発のニ成立シタルモノニシテ當時米國政府ハ此ノ協約ニ依リ門戶開放主義ヲ確立シタリトナシテ誇リ日本ハ特殊地位ヲ確認セシメタリトシテ得意アリシモ米國ノ一部ニ於テハ之ニ依リ徒ラニ支那ノ感情ヲ害シ支那ニ於ケル日本ノ地位ヲ鞏固ナラシメタリトテ非難スルモノ尠カラス最近右協約廢止ノ風評ヲ耳ニスルカ如キ事實ノ真偽ハ別問題トスルモ多少注意ヲ要スベキ現象ト思考ス元來石井「ランシング」協約ハ支那全般ニ適用スヘキモノナルノミナラス該協約ノ効果ハ對支關係ノ大局ニ関シ巧ニ之ヲ利用スルコトニ依リテ徐ロニ實現セラルヘキ性質ノモノナルニ鑑ミ今回之ヲ採用シタルハ果シテ如何ニヤト思考セラルルノミナラズ之カ為却テ米國ヲシテ本協約ノ効果ヲ消極的ナ

ラシムルコトニ努力セシムル動機トナルノ虞ナキヤト存ズ

## 註

本件出淵臨時代理大使發内田外務大臣宛電報第四七三号ハ六月二十九日二個ノ電報ニ分割發電セラレ該電報ノ後ノ部分(即チ「滿蒙關係事項」ヨリ最後迄)ハ六月三十日ニ又前段ノ部分(即チ冒頭ヨリ「其ノ得失利害ヲ考フルニ先ヅ」迄)ハ七月十五日ニ夫々外務本省ニ於テ接受セラレタリ

二九九 六月二十九日

在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙除外問題ニ関スル小田切ヨリラモント氏

宛書面ニ對シ同氏ヨリ回答アリタルニ付報告

ノ件

講第一四九〇号

(七月二日接受)

在英大使發閣下宛電報第二五〇号ニ関シ

滿蒙除外ノ件ニ関シ小田切ヨリ「ラモント」ニ送リタル書面ニ對シ「ラモント」ハ六月二十三日大要別電第一四九一号ノ通り返事セリ六月二十七日「ラモント」ハ小田切ニ對シ右返事ハ發送前一応在當地國務省當局ニ示シ其同意ヲ經タルモノニシテ其中ニハ強キ語氣ヲ含ムモ米國側ニ於テハ飽迄モ日本ト提携シテ業務ヲ營マントスル趣意ニシテ他ノ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇〇

団体丈ヲ以テ新借款団ヲ組織(脱)無之ニ付此ノ点ハ日本ニ於テ誤解セラレザル様致度シ平タク言ヘバ Please don't do it ノ意味ナリト説明シ尚彼ハ本件ニ関シ過般来英米当局者ト意見ヲ交換セル結果ヲ漏シテ「バルフォア」ノ如キモ滿蒙除外ニハ反対シツツアル旨ヲ語レリ「ラモント」ハ六月二十八日晚巴里發「ウィルソン」同船紐育ニ直航ノ予定ナリ

英米ヘ転電セリ

註 別電第一四九一号記録ニ存セズ

三〇〇 七月二日 内田外務大臣ヨリ 在仏國松井大使宛(電報)

中華銀公司ノ新借款団加入問題ニ関スル梁士

詒發葉恭綽宛電報ニ付小幡公使来電通報ノ件

第二九四号

往電第二八七号ニ関シ

支那銀行カ新借款団ニ加入スルニハ同借款団ニ加入スル財団ノ一員タルカ若ハ独立ノ支那団体トシテ参加スルカ孰レカノ方法ニ拠ラサルヘカラサル処中華銀公司ニ於テ他國財

右別電ト共ニ英米ニ転電アリタシ

註 別電省略ス前掲九一五文書ト同文ナリ

三〇一 七月二日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

新借款団ニ関スル中国ノ反応並梁士詒ハ反対

論者ノ急先鋒ナル旨報告ノ件

第九四〇号 (七月三日接受)

新借款団ニ対スル当國人ノ意向ニ就テハ隨時報告ノ次第モアリ、大体ノ空氣ハ已ニ御承知済ノ儀ト信ズル処、元来本問題ハ当初余リ世人ノ注意ヲ惹カズ只二三有識者中ニアリテ、間々反対意見ヲ洩シタルモノアル位ニ過ギズ先ヅ第一ニ反対ノ意向ヲ表セルハ梁士詒及其一派ナリシコトハ當時ノ電報ニ依リ御承知ノ通りナリ。梁士詒一派ガ斯ク率先反対ノ声ヲ挙ゲタル動機ハ元ヨリ國家ノ利益ヲ打算シテノコトナルベキモ、別ニ又新借款団ノ組織ハ正ニ梁一派ノ財界ニ於ケル従来ノ勢力ト将来ニ於ケル其活動ニ多大ノ制限ヲ加フル姿トナリ殊ニ実業借款ヲ之ニ包含スルコトニ依リ将来彼等自身ノ利益獲得ニモ重大ノ影響アルヲ感知シタル

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇一

三〇二

団ノ一員トシテ加入スルコトハ五月十一日巴里銀行団會議ノ決議及新規約案第一条ニ徴シ困難ナリ又独立ノ財団トシテ加入スルニハ右新規約案第一条ニヨリ他國財団ノ許諾ヲ得ルトスルモ元来対支新借款団ハ支那ノ財力不足ヲ補ハムカ為メ外國ヨリ支那ニ対シ資金ノ援助ヲ為サムトスルモノナルニ支那側ノ銀行自身カ資金供給者側ニ加ハルカ如キハ對支借款団組織ノ本義ニ適ハス加之中華銀公司ニ於テ新借款団ニ加入スルトモ到底自ラ支那内地ニ於テ資金ノ調達ヲ為スコトハ困難ト認メラレ又仮ニ内地ニ於テ幾分調達ノ余裕アリトセハ同額丈ハ外資ヲ借入ルルノ必要ナキ次第ニテ即チ右ノ如ク外國財団ヨリ成ル銀行団ニ加入スルノ方法ニヨラスシテ直接支那政府其他ノ關係側ニ内資ノ供給ヲ為スコト素ヨリ当然ノ方途タルヘク何レノ途前顯中華銀公司加入問題ハ事理甚タ解シ難ク旁々我方ニ於テ好意的考慮ヲ加フルニ躊躇シ居リ他國側ニテモ多分同様ナルヘルント史料セラルル処我意嚮確定ニ先チ往電第二八七号後段梁士詒發葉恭綽宛電ヲ見ルニ至リタル事情等不取敢承知シ度旨在支小幡公使ニ電訓シ置キタル処別電第二九五号ノ通り同公使ヨリ回電アリタリ御含迄

ニモ依ルモノト想像セラル。

其後本問題ノ内容漸次具体的ニ報道セラレ、殊ニ最近往電第九〇九号及ビ第九一一号ノ新聞記事現ハレテ以来次第ニ一般有識者ノ注意ヲ惹キ世論ニモ上リ新聞ニモ多少議論セラレ中ニハ本問題ノ實現ガ難テ支那ノ前途ニ容易ナラザル災厄ヲ来スノ種トナルモノトシ衷心ヨリ之ヲ憂慮スルモノナキニ非ズ安福派、殊ニ段祺瑞一派ニ在リテハ本問題ノ極メテ重大ナルニ顧ミ支那政府ハ将来外債ヲ起サズ其財政ヲ案排シ以テ國家ノ危難ヲ救フノ策ヲ講ゼザル可ラズトナスモノノ如ク嘗テ曹汝霖陸宗輿ガ本使ニ対シ右様ノ意見ヲ洩セルハ段派ノ新借款団ニ対スル財政方針玆ニ在ルヲ究知スルニ足ルト思考ス。

七月一日王克斯(馮國璋ノ政事の代表者ト目セラル)本問題ニ付過日來財政委員會ニ於テ討議セル模様ヲ本使ニ内告シ各財政委員ガ本問題ノ支那ノ前途ニ最モ重大ナル關係ヲ及ボスモノナルコトヲ自覺シアルコト財政委員會ノ大多數ハ本問題ノ実行ニ反対ナルモ、去リトテ外債ヲ起サズ支那ノ財政ヲ運轉シ得ルノ望立タザルニ付、各委員ハ適當ノ考察工夫ニ苦心中ナルコト、右ノ結果将来全然外債ヲ起サズ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇二

財政ヲ案排スルノ案、政治借款ノミ実行シ実業借款ハ全然支那側ヨリ之ヲ提起セザルノ方針ヲ執ルベシトノ案其他二三案委員中ヨリ提出セラレ目下考究中ナルコトヲ語リタル処ニ依リ新借款団ニ対スル政府内大体ノ意向ヲ察シ得ベシト信ズ。梁士詒ガ実業借款包含ノコトニ極力反対シツアルハ財政委員会ニ於ケル反対論者ノ急先鋒トシテ同人ノ行動シ居レリトノ王克敏ノ言ニ徴スルモ梁ノ本問題ニ対スル態度ニ表裏アリトモ考ヘラレズ過日船津ガ同人ニ面会ノ節ニモ同人ハ本問題ニ対スル反対意見ヲ切論シ新借款団ノ成立ニ依リ支那ニ於ケル万事休スト迄極言シ頗ル昂奮セル態度ヲ示セリトノコトナリ尚正金小貫ニ対シテモ梁ガ此同様ノ言ヲナセル次第ハ小貫ヨリ本店ヘノ報告ニ依リ御承知ヲ請フ。(二日)

三〇二 七月二日 中村正金副総支配人ヨリ  
内田外務大臣宛

巴里四国銀行家會議ノ状況及決議ニ関スル本

邦側代表ノ報告ヲ提出ノ件

附屬書 五月二十日付在巴里小田切取締役ヨリ梶原正金  
頭取宛書信写

五月十三日附翼取締役連署公信ヲ以テ対支那新団体会議ニ関スル經過概要御報告致置候処其後同會議狀況覚書作成致候ニ付玆ニ同封差進候間御覽相成度又其筋ノ参考ニ供スル為右写提出方可然御取計相成度御依頼旁此段得貴意候  
敬具

(別紙)

大正八年五月二十日巴里ニ於テ

小田切万寿之助記

対支新借款团组织ニ関スル巴里會議

狀況及主要事項ニ対スル私見覚書

客歲夏間米國政府ヨリ日英仏三国政府ニ提議セシ対支新借款团组织ニ関スル問題ハ今次巴里平和會議ニ各国当局者ノ集合ヲ機会トシテ同地ニ於ケル四国間ノ議題トナルコトアラント本邦關係者ノ予想セシ所ナリシカ此予想ハ適中シテ本月十一日及十二日ノ兩日ニ於テ其開会ヲ見ルニ至レリ是ヨリ先予ハ本提案ニ対スル仏米側ノ態度ヲ知り且ツ意見ヲ叩カン為メ第一仏國銀行団代表者 Banque de l'Indo-chineノ専務取締役タル Stanislas Simon ヲ往訪シ第二先方ノ希望ニ依リ米國銀行団代表者ノ地位ニ在ル J.P. Morgan

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇二

大正八年七月二日

横浜正金銀行

副総支配人 中村錠太郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

拜啓対支新財団組織ニ関スル巴里會議ノ狀況及決議ニ関シ別紙写<sup>(註)</sup>參通ノ通り小田切翼兩取締役ヨリ報告有之候間玆ニ供貴覽候 敬具

註 別紙写三通トハ(一)対支新団体会議ニ関スル五月十一日第一回會議ノ經過概要(二)五月十二日第二回會議ノ經過概要及(三)五月二十日附小田切取締役ヨリ梶原頭取宛書信「対支那新借款团组织ニ関スル巴里會議狀況覚書送附ノ件」ノ三通ナリ右ノ中(一)及(二)ハ前掲九八五及二四四文書ト大体同文ナルニ付之ヲ省略シ右(三)ノミヲ左ニ採録ス

(附屬書)

大正八年五月二十日

在巴里

取締役 小田切萬寿之助(署名)

頭取 梶原仲治殿

対支那新借款团组织ニ関スル巴里會

議狀況覚書送附ノ件

& Co.ノ組合員ナル T. W. Lamont ト會談セシガ各會見ノ概況ハ毎回当地大使館ヨリ本邦ニ打電セラレタルモノト信スルヲ以テ玆ニ之ヲ記述セズ而シテ右 Lamont ト會見ノ結果本提案ノ為メ開催セラルヘキ団体会議ノ遠キニアラザルヲ知り其開会ニ先チ予等ノ心得置クベキ事項ニ関シ予メ訓令アラント直チニ請求シ更ニ三週日ヲ經過シテ一再同一ノ申請ヲナセシモ不幸ニシテ開会ノ当日迄ハ勿論其後モ何等具體的ノ訓令ニ接セザリシナリ  
斯クテ本月初旬ニ至リ關係列國政府ハ前後シテ自國団体代表者ニ対シ本提案ニ就キ意見ヲ交換スベシトノ訓令ヲ發シ若クハ此ノ行為ヲ取ルコトヲ承認セラレタルヲ以テ玆ニ各國団体代表者ハ前記ノ如ク會議ヲ開クニ至レリ最初ハ本月八日、九日ノ兩日ヲトシテ開会スル管ナリシモ後ニ至リ英國側ノ都合ニ依リ二日間延期セラレタリ右兩日ノ會ニ出席セシ者左ノ如シ

米國 T. W. Lamont H. H. Harjes, J. K. Carten,

C. F. Whigham.

英國 Sir C. Addis, A. N. Frewer, G. Jamieson.

仏國 S. Simon, Ch. G. Picot.

三〇五

日本 小田切万寿之助、巽孝之丞

其他書記數名列席

第一回會議（十一日午前十時半開會）ノ劈頭 Simon ノ發議ニ依リ Lamont 會長席ニ就キ米國政府ノ提議セシ新借款團ノ業務ハ現借款団体ニ比シ範圍廣大ニシテ独リ政府借款ノミナラズ鐵道等一切ノ借款即チ中央政府、其各部、地方政府及ビ上記各政府ノ保証スル会社ノ借款ニシテ公債發行ニ依ルモノヲ全部包括セシメントスルモノニシテ各団体既得ノ利權並ニ將來取得スヘキ利權ヲモ之ヲ網羅セシメントスル主旨ナルコトヲ述ベ英仏政府ハ主義上既ニ之ニ同意セシモ独リ日本ヨリハ未タ何等ノ通牒ニ接セサル旨ヲ附言セシニ付予ハ之ニ對シ日本政府カ主義上既ニ承諾ヲ表セシ次第ハ米國政府ニ於テ承知スル所ナルヲ疑ハズ但シ實業借款ノ既得權利ヲモ新借款団体ノ業務ニ移サシムルコトニ關シテハ日本団体ヨリ未タ詳細ノ訓令ニ接セズ原来日本団体ハ政治借款ニ關シテノミ存在シ實業借款ニ就テハ箇々別々ニ行動シテ利權ヲ獲得シツツアルノミナラズ其資金モ亦各自、自由ニ供給シ會員銀行間ニ何等規約ノ存在セザルヲ以テ此等ノ利權ヲ擧ケテ新借款團ニ持込ムコトハ政府及各利

由如左

イ 兩名ニ於テ本國団体ヨリ具體的訓令ナキコトヲ理由トシテ之ニ對シ贊否ヲ明言セザル時ハ兩名ハ代表の資格ナキモノト視做サレ場合ニヨリテハ議場ヨリ退出セザルヲ得ザル立場ニ陥ルノ虞アルコト  
ロ 政府ニ於テ既ニ日本団体ヲシテ意見交換ノ為會議ニ參列セシムルコトヲ承諾セラレタル上ハ仮令日本団体ヨリ何等具體的訓令ニ接セサルモ兩名ハ議場ニ於テ自ら適當ト信スル態度ヲ取ラザルヲ得ザルコト  
ハ 兩名ハ代表の資格ナシト認メラレ若クハ自ら其資格ナシト信ゼシムル行動ヲ繼續シ其結果トシテ會議ヨリ退出スルコトアランカ是独リ政府ノ方針ニ違背スル所為ナリト言フヲ得ルノミナラズ日本団体ノ立場ヲ危殆ニシ他団体ノ行動ヲ管束スル能ハザル等名状スベカラザル惡影響ヲ与フベキコト

右決議第一項ノ末文 Upon which substantial progress has been made 云々ハ意義曖昧ナルヲ以テ之ヲ明瞭ナラシムル為メ翌日ノ議場ニ於テ湖広鐵道ノ如キハ此中ニ包含セラルルヤ否ヤ具體的ノ説明ヲ望ム旨質問セシニ Lamont

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇一二

權所有者ノ承認ヲ得ルニアラザレバ確答シ難キ次第ナラズヤ尤モ横浜正金銀行ノ關スル限りニ於テ右主義ヲ承諾シ置クハ強テ不可能的ノ事ニアラズト答ヘタルニ Lamont ハ在日本米國大使ヨリ日本政府ハ米國ノ提案ニ同意ヲ表シ日本代表者ニ對シ政府ノ承認ヲ条件トシテ他団体ト意見ヲ交換スヘシトノ命令ヲ下シタル旨電報アリシ趣昨夜華盛頓ヨリ電シ来リタルガ右同一主旨ノ電報ハ未タ当地代表者ノ手ニ着セザルモノト察セラルル旨申述ヘタルニ付予ハ之ニ對シ日本政府ガ主義トシテ米國提案ニ同意ナルコトハ既ニ繰返シ陳述セシカ如シ要ハ同案ノ重要ナル点即提供スベキ既得 Option 等ニ關シテハ未タ日本ヨリ何等ノ訓令ニ接セザルガ為メ今日明確ナル陳述ヲ為ス能ハザルヲ遺憾トスル旨弁明シテ彼是押問答ヲ重ネタリ此ノ光景ヲ傍觀シツツアリシ Addis ハ一ノ決議案ヲ提出セリ（其旨趣ハ同日決議第一項及第二項ト同様ナルモ文句ハ協議ノ末多少修正セラレタリ）彼ノ意見ハ之ヲ議題トシテ意見ヲ交換シ以テ議事ノ進行ヲ図ラントスルニ在リ是ニ於テ予等ハ同案ニ對シテ贊否ノ意見ヲ明言セザルヲ得ザル苦境ニ陥リシガ兩名協議ノ末終ニ政府ノ承認ヲ条件トシテ之ニ同意ヲ表セリ其理

ハ右ハ新借款団体ノ業務ニ移ルヘキ借款目錄ヲ調整スル時ニ於テ之ヲ決定シタシト述ヘ又 Addis ハ今日ニ於テ之ヲ論議スルハ稍早計ニ属スルナラント考フル故他日ノ審議ニ讓リテハ如何ト答ヘテ實質ヲ与フルヲ避ケタリ要スルニ該決議ハ單一主義上ノ問題ヲ決定セシモノナレバ繰入ルベキ Option ニ關シテ具體的ニ最後ノ決定ヲ与フル迄ニハ尚多少論議ノ余地ヲ存セザルニアラザルベシ

次ニ會議ハ新借款團ト露國団体ノ關係ニ關シ意見ヲ交換セリ原來新借款團ハ各自政府ノ後援ヲ有スル団体ヲ以テ組織セラルルノ主旨ナルヲ以テ今日無政府ノ狀態ニアル露國ニ於テ其資格ヲ有スル団体ナキハ当然ノ次第ナレバ今回ノ新借款團ハ露國ヲ除外シテ之ヲ組織シ他日正當ナル露國政府成立シ且ツ列國政府ノ承認ヲ受ケタル後ニ於テ同國団体ヲ招容スベキコトニ取極メ同時ニ會長ヨリ本決議ヲ露國団体ニ通知スヘキコトニ打合セタリ次日 Addis ノ予ニ談ル所ニ拠レバ彼ハ本件ニ關シ当地露亜銀行重役 Kaffalovich ト會見セシシ同人ニ於テモ目下ノ処不得已次第ナリトテ異論ヲ唱ヘサリシ由ナリ

白耳義団体力戰後ニ於テ新借款團ニ加入スル件ハ既ニ關係

三〇七

列國政府間ニ於テ略承諾トナリ居ル次第ナルカ Simon ハ席上同団体ヨリ直接同様ノ希望ヲ披瀝シ来リタリトテ其書面ヲ朗読セリ右ハ各代表者ニ於テ固ヨリ異議アルヘキ筈ナキモ（隴海鐵道及同成鐵道ヲ持込マシムルコトヲ主タル目的トス）同団体ヲ他國ノ団体ト同一地位ニ置クハ面白カラス仮令同國団ノ加入ヲ許スモ他ノ一団体ノ有スル利権ノ一半ヲ附与セバ十分ナラントノ意見モアリテ結局同団体ノ請求ニ對シテハ新借款団成立後ニ於テ *Favorable Consideration* ヲ与フベキコトヲ決議シ同時ニ本決議ノ写ヲ Simon ヨリ同國団体ニ送附スルコトニ取極メタリ

次ニ Addis ヨリシテ独逸資本ノ攪入ヲ防止スル為又各國団体共通ニ他団体ノ組織内容及規約等ヲ知り置ク必要アル為メ新借款団ニ加入スル各國団体ハ各自國民ヲ以テ組織セラルヘク其団体ノ會員タルモノハ直接間接ヲ問ハス他國民ノ利益ヲ代表スルコトナカルベク各団体ノ組織ハ正式契約文書ニ依ルベク此契約写ハ他ノ各団体ニ提供セラルベシト提議セリ同人カ此ノ提議ヲナスニ至リシハ其所言ノ如ク独逸資本驅逐ノ意味アルハ勿論ナレトモ他ノ団體中曾テ日本団體ノ内容ニ對シテ疑惑ヲ挾ミタルモノアリシコト露國団

ヲ言明シ Addis ハ之ニ関スル決議案ヲ提出セリ予ハ之ニ對シ聞ク処ニ抛レバ本件ニ就テハ既ニ或列國政府間ニ合意ノ次第アル由ノミナラズ日本団體トシテ何等反對スヘキ理由ナキニ付同意ヲ表スル旨ヲ述ベ Addis ノ提案ヲ可決セリ

第一日ノ會議ハ午後一時ニ終了シタ刻再度開會シテ以テ決議文書ニ署名セリ右決議ハ一切關係政府ノ承認ヲ条件トセシモノナリ

第二回（即チ十二日午前十時半開會）ノ會議ニ於テ Addis ノ提出セル新借款團規約案ハ審議ニ付セラレ多少ノ修正ヲ加ヘタル上可決セラレタリ該案ノ全文ハ既ニ報告ニ及ヒタルヲ以テ之ヲ省略シ茲ニ単ニ同報告中ニ詳報セラレザル点等ニ関シテ少シク記述シ置カントス規約案序文ノ末段ニ在ル *Are entitled to the exclusive diplomatic support of their respective governments* 云々ハ意義稍不穩當ノ嫌アリシモ關係列國政府ニ於テ異議ナキ場合ニハ之ヲ保留シ置キタシトノ希望ニテ原案通り挿入シ置クコトニ決定セラレタリ

Addis ノ原案ニハ規約ノ末ニ新借款団ニ繰入ルヘキ一切

体カ英白兩國ノ資本家ヲ自國ノ會員ニ列セシメタルコト等亦其動機ノ一ナラント思ハシメタリ右提議ハ理論上實際上何等非難スベキ点ヲ発見スル能ハサルカ為メ満場一致之ヲ可決セリ

次ニ Lamont ハ実業特ニ鐵道建設ニ関シ不可分主義ヲ採ルヘシト提議シテ曰ク從來支那ノ或地方ニ於ケル借款鐵道ハ其全線ヲ數区ニ分チ甲区ハ某國乙区ハ某國ト受持区域ヲ定メ連鎖的ニ其持分ヲ有スルコトハ工事ノ進行上不便利少ナカラサルヲ以テ右等ノ事業ハ将来不可分主義ニ抛ルヲ可トスト Addis ハ之ニ對シ本主義ノ實行ニ関スル方法ハ在北京代表者及技師ニ電訓ノ上立案セシムベシト提議セリ原來支那ノ或鐵道ヲ建設スルニ際シ不必要ノ場合ニモ其受持区域ヲ分割シ隨テ工地上非常ノ不便ヲ来スコトアルハ湖廣鐵道ノ例ニ照シ明白ノ至リニシテ Lamont 及 Addis ノ所言ハ主義トシテ贊成ヲ表セザルヲ得ザル次第ナレバ予等ハ之ニ同意ヲ表シタリ

次ニ Lamont ハ湖廣鐵道問題ニ言及シ英仏米三団体ハ日本団體ニ對シ其新借款団ニ加入スルコトヲ条件トシテ三団体ト同一ノ持分ヲ前記不可分主義ノ下ニ之ヲ提供スベキ旨

ノ既得利權即チ鐵道借款等ノ目錄ヲ記入スルコトニ成リ居リシカ是ハ適當ナル時機ニ於テ會議ヲ開キ之ヲ決定シ其目錄ヲ同會議録ニ記留スルコトニ變更セラレタルコト既報ノ如シ

規約案第二條 *This Agreement relates to existing and future loan agreements which involve the issue for subscription by the public of loans to the Chinese government or to Chinese government Department or to provinces of China or to companies having Chinese government or Chinese Provincial government guarantees* 云々トアリ右ハ現借款團規約ノ規定其ママヲ踏襲セシモノニシテ新創ノ字句ニアラザルモノ一応 *guarantees* ノ意義ヲ確メ置クノ必要アルヲ認メ右ハ会社其物カ支那政府保証ノ下ニ成立シ又ハ業務ヲ經營シツアリトノ意ナルヤ將タ其發行スル社債カ政府ノ保証ヲ有ストノ意ナルヤ立案者ニ質問セシニ Addis 及其他モ亦其行文ノ曖昧ナルヲ認メタルニ拘ラス之ニ代ルヘキ適當ナル字句ヲ見出ス能ハサルト又右規定ハ旧規約ニ抛リタルモノニシテ別ニ異義ヲ有セズトノ理由ニテ其ママ採用スルコトニ同意ヲ



表セリ新規約案ハ旧規約ト同様借款団ノ業務ヲ債券ノ公募ニ限り公募セザル借款ニ関シテハ何等団体ヲ拘束スルノ規定ナシト雖モ現借款団ハ善後借款契約規定ノ権能ニ依リ各種ノ政治借款及塩稅ヲ担保トスル借款ニ対シ商議ノ優先權ヲ有スルヲ以テ新借款団ニ於テ現借款団ノ利益權利ヲ繼承スル以上ハ該借款商議ニ対スル優先權ヲ合併テ之ヲ繼承スルニ至ルベク隨テ新借款団ノ業務ハ新規約案ニ左ノ如ク規定シアルニ拘ラズ實際ニ於テハ極メテ広汎ナル範圍ヲ有スヘキハ論ヲ俟タサル所ナリ

Addis ノ原案ニハ The parties hereto shall adopt the principle of open tender in dealing with orders for material arising out of Industrial loan business ノ一個条アリシガ同人ハ工事用材料等ハ一般ノ投票購買方法ニ依ルヲ可トスルモ而モ工事資金ノ供給者ニ対シテハ優先權ヲ与ヘザル可ラス兎ニ角本問題ハ北京代表者及技師等ヲシテ研究セシメタル上他日ノ會議ニ於テ之ヲ審議スルコトトシテ同案ヲ削除シタシト申出テ一同之ニ同意ヲ表セリ但シ本件ハ正式決議ノ体裁ヲ具備セザルモノナリ會議ハ白耳義団体ニ対シテ他ノ団体ノ有スル利益ノ一半ヲ

ノ如シ)

二、英國側ハ揚子江流域ニ於テ既ニ獲得セル鐵道線路即チ浦信線(少シク疑問アルモ)寧湘線及ビ其延長線ヲ提供スベク(此処措ハ取りモ直サス鐵道建設ノ權利ヲ骨子トシテ仮定セラレタル揚子江流域ノ英國勢力範圍ヲ自ラ打破シ開放スルモノニシテ同國ノ対支政策上ノ一大変局タルハ贅述ヲ須タサル所ナリ)

三、日本側ハ山東鐵道ノ延長線及滿蒙未成線ヲ提供スルノ已ムヲ得ザルニ至ラン

日本トシテハ或ハ條約上ノ權利ニ依リ或ハ重大ナル利害關係ニ鑑ミ自國ノ財力勞力ヲ以テ滿蒙山東ノ諸鐵道ヲ建設スルノ慾望ヲ有スルコト勿論ナリト雖モ此慾望ハ勢力範圍ノ認ムル割拠主義ニシテ英米最近ノ意向タル門戸開放機會均等ヲ徹底のナラシメントスル主義ト相反スルヤ遠シ左ニ割拠主義ヲ固執スルノ利害ヲ考査セン

イ 同主義ヲ固執スルノ結果トシテ日本ノ鐵道建設区域ハ滿蒙及山東ノ一部ニ局限セラレ他ノ方面ニ發展スルノ余地多カラズ而カモ最近支那國民ノ意向ニ徴セハ滿蒙及山東ノ諸鐵道ノ建設実行モ容易ニ進行セザルモノト

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇二

附与セントスルノ意向アルコトハ前既ニ記述セシ通りナルカ右ニ関シ Lamont ヨリ白國団体ノ利益ハ他ノ一団体ノ一半ニ過ギザルニ拘ラズ他ノ団体ト同様ニ一個ノ投票權ヲ与フルヲ可トスルカトノ質問アリテ之ニ対シ英國側書記ヨリシテ他日右ノ如キ団体ノ加入ニ関スル條文ヲ設定スル場合ニ於テ其權利ヲ規定スルモ亦遅カラザルベシト申出テ結局本問題ハ白國団体加入ノ際之ヲ規定スルコトニ取極メタリ

此ノ如クシテ新規約案全部ノ審議ヲ畢リ更ニ該案ヲ団体及所屬政府ノ審査考慮ニ供スル為メ各団体ニ送附スルコトヲ附加決議シテ午後一時散會シ同日夕刻更ニ會合シテ決議文書ニ署名シ茲ニ今回ノ巴里會議ヲ終結セリ

終リニ臨ミ鐵道問題ニ関シテ少シク私見ヲ附記セントス客歲米國政府ヨリ各國政府ニ提議セシ新借款团组织案ノ骨子ハ支那鐵道ノ借款業務ヲ國際化セントスルモノニシテ右計畫ニシテ今回巴里決議ノ如ク実行セラルル場合ハ

一、米國側ハ支那政府裕中公司間ニ契約セラレタル鐵道線路約一千余哩(外ニ予約敷設權利約一千余哩)ヲ提供スベク(線路ハ一小部分ヲ除ク外未タ確定セラレザルモノ

判断シ得ベキニヨリ此望ミ多カラザル一隅ヲ儼守シテ全盤ノ利害ヲ顧ミザルハ我ニ取り有利ノ結果ヲ齎スモノニアラズ

支那富源ノ中心ノ揚子江流域ニ在ルコトハ論ヲ俟タザル所ニシテ從來日本ノ企業者カ同方面ニ於ル鐵道事業ニ着手ヲ企テタルコト數回アルモ毎回勢力範圍ヲ論拠トスル英國ノ為メ防止セラレテ其希望ヲ貫徹スル能ハザリシカ今ヤ英國ハ自ラ進ンテ其牆壁ヲ撤廃シ我ニ対シテ鐵道投資ノ門戸ヲ開放セントス是レ我ニ取り乘スベキノ機會ニアラズヤ尤モ同國ノ門戸開放ニ対スル代償トシテ我ニ於テ滿蒙及山東ノ鐵道ヲ提供スルコトノ得失ハ見方次第ニテ意見同シカラザルモ大体ニ於テ彼此相償ウテ余リアルナラン

ハ日本ニ於テ割拠主義ヲ固執スル時ハ前項ノ揚子江流域及福建ヲ除ク南支方面ノ鐵道事業ニ染指スル能ハザルノミカ此方面ノ事業ハ米、英諸國ノ為メ壟斷セラルルコトナルヘク一面他ノ地方(滿蒙山東ハ別トシテ)ニ於ケル鐵道事業ニ関シテハ日本ハ英米諸國ト對抗シ劇烈ナル商戦ヲ開始スルコトヲ覚悟セザルヲ得ザルベ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇三

シ此レカ為メ日本ノ蒙ルヘキ不利益ト困難トハ枚挙スベカラザルモノアラン

ニ 今日支那ニ対シテ投資ノ余力ヲ有スルモノハ米國一國ナリ「ヴァダアリスト」氏ノ公言スル所ニ拠レハ今後ニ於テ米國ノ海外投資余力ハ（内地需用ノ資本ヲ扣除シテ）毎年三拾億万弗ニ上ル計算ナリト云フ此余力ノ多分ハ南米及歐洲ニ投下セラルベシト雖モ其百分ノ一ナリトモ支那ニ放下セラルルコトアランカ同國ハ我ニ取り一大敵國トナリ其勢力侮ル可ラザルモノアラン故ニ之ニ対スル方策ハ茲ニ一ノ城廓ヲ設ケ我モ彼モ共ニ其ノ有スル利權ヲ尽ク提供シテ其中ニ立籠リ相互牽制シテ事ヲ処スルニ在リ対支新借款團ハ此ノ意義ニ於テ之ヲ組織セザル可ラス又此ノ目的ヲ以テ事業ヲ經營セザル可ラス過去ニ於ケル經驗ニ徴スルニ借款團中ノ一員タル日本ハ地理的形勢、人種の關係及支那事情ニ通曉スル点ニ於テ他國ノ企テ及バサル長所ヲ有シ隨テ其中ニ処シテ有力ナル地位ヲ占メ得タルガ新借款團ニ於ケル日本ノ勢力モ必ス之ト同一ナルベキハ固ク信シテ疑ハザル所ニシテ（他ノ列國ヲシテ我ト共ニ滿蒙鐵道

等ニ投資セシムルモ）何等危険ヲ感スルノ要ナキナリ）

右ノ外世界ノ大勢對支外交等ノ諸点ヨリシテ本問題ヲ考查スレハ割拠主義ハ到底永遠ニ之ヲ固持スル能ハズトノ結論ニ到着スルナラン但シ以上述べ来リタル所ハ鐵道問題ヲ中心トスル割拠主義ノ利害ニ就キ立論セシモノニシテ日本カ滿蒙地方ニ於ケル政治上軍事上特殊ノ地位ヲモ拋棄スベシトノ意味ヲ含ムニアラズ此点ニ関シテハ他日改メテ意見ヲ詳陳スル所アルベシ誤解ヲ防ク為メ茲ニ一言シ置クモノナリ

理由右ノ通りニ付予ハ英國カ浦信、寧湘線及其延長線ハ勿論「ボーリンク」商會ノ沙興雲大二線「ピアソン」商會ノ優先權ヲ有スル南昌廣東線ヲ又仏國ハ中法實業銀行ノ欽渝線ヲモ拳ケテ新借款團ノ共同事業ニ提供スルコトヲ條件トシテ滿蒙山東福建各方面ニ於ケル我カ既得權及優先權ヲ有スル諸鐵道ヲ該團ニ提供スルコトニ賛成スルモノナリ

三〇三 七月二日 在仏國松井大使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

新借款團ノ共同範圍ニ屬セシムベキ非公募借

款額ノ基準問題取扱方ニ付小田切申出ノ件

講第一五一六号 （七月五日接受）

貴電第二八八号ニ関シ小田切ヨリ左ノ通申出テタリ  
公募セザル借款額ニ制限ヲ設クルノ件ハ先般Lamountニ対シテ右貴電ト同一ノ理由ヲ説明シ大体ニ於テ其ノ同意ヲ得タル上在英大使發閣下宛電報第二四九号ノ通り新規約案第二條追加案ノ形式ヲ以テ公然提議シ（但三四百万円以下除外ト記シ置キタリ）一面英仏側ニ其ノ写ヲ送附セシ後ナレハ此ノ際巴里ニ於テ遽カニ異リタル行動ニ出ツルハ事態面白カラス依ツテ適當ノ時期ニ於テ右貴電ノ通り第一關係団体間ニ十分ノ了解ヲ得タル上ニテ前記第一條原案ヲ承認スルコト第二萬一事情許サザルトキハ其ノ制限ヲ五百萬円トスルコトニ尽力スヘキニ付其ノ辺ハ代表者ニ一任セラレンコトヲ望ム

英米ヘ転電済

三〇四 七月三日 内田外務大臣ヨリ 在仏國松井大使宛（電報）

新借款团组织問題大体ノ結着ヲ見ル迄巴里滞在方小田切ニ伝達スル様正金ヨリ依頼越ノ件

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇四 三〇五 三〇六

第三〇〇号

正金頭取ノ依頼ニヨリ左ノ通り小田切ニ伝ヘラレ度シ尚新借款团组织問題ノ経緯ニ顧ミ小田切ニ於テ本件大体ノ結着ヲ見得ル迄滞在スルコト極メテ必要ト認メラレ政府ニ於テモ切ニ其ノ尽力ヲ希望スル旨貴官ヨリモ小田切ニ申添ヘ置カレ度シ

左記

對支借款團問題ハ重大ノコト故大体結着ヲ見得ルマデ滞在ノ上異ト協力被成度大藏省外務省亦同一希望ナリ

三〇五 七月五日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

中国參議院ニ於テ新借款團反對ノ建議案通過

ノ件

第九五六号 （七月六日接受）

七月五日參議院ハ新借款團反對ノ建議案ヲ通過セリ且建議ハ滿蒙ヲ除外スルカ如キハ勢力範圍ヲ明定スルモノニテ國家滅亡ノ危険アル事ヲモ特筆シ居レリ委細郵報

三〇六 七月二十一日 在仏國松井大使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

三〇六 三二二

新借款团ニ対スル四国政府ノ專屬的支持ニ関スル件

講第一六九八号

(七月二十六日接受)

在米大使發往電第四九一号ニ関シ(往電講第一五七二号参照) 仏国政府ハ在仏米國大使ノ通告ニ対シ本件米國政府ノ解釈ニ同意ナル旨回答シタル趣ニテ本件ニ対シ帝國政府モ亦右米國ノ「レダクシヨン」ヲ承認セラルベキヤ承知シ度キ旨十七日附仏國政府ヨリ申越アリタリ

三〇七

七月二十二日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

和蘭國ノ对中国実業投資団設立企画ニ関シ同  
國公使ヨリ意見ヲ求メラレタルニ対シ私見ヲ  
述ベ置キタルニ付請訓ノ件

第一〇三四号

(七月二十三日接受)

七月二十一日和蘭國公使本使ヲ來訪シ最近和蘭國ニ於ケル資本家ヲ糾合シ主トシテ支那ニ対スル実業投資ヲ目的トスル「シンデケート」組織ノ議起リ近ク其ノ成立ヲ見ルニ至ルヘキ処福建、遼西、滿洲等ニ対スル投資ニ付テハ同地方ニ

特殊ノ關係ヲ有スル日本側トノ間ニ論議ヲ生スルコトナキヲ保シ難ク本件和蘭側ノ企画ニ対スル本使ノ意見ヲハ承知シ度旨述ヘタルニ付本使ハ先以テ上記和蘭資本團ノ組織ハ目下巴里ニ於テ商議中ノ新借款团ニ加入セントスルノ意圖ニ基キタル次第ナルヘキヤ若シ然ラズトスルモ新借款团成立ノ上ハ多分実業借款ヲモ右新借款团ノ事業ニ包含セラルルニ至ルヘシト思考セラレ傍借款团ニ於テ其ノ活動ノ余地甚タ少カルヘシト思考スル旨推問シタル処和蘭公使ハ同國資本團ノ組織ハ全ク新借款团ノ成立如何ニ顧慮セズ独立シテ投資ヲ試ミントスルモノニシテ仮令新借款团成立シ実業借款ヲモ其一手ニ独占センコトヲ期スルモ第一支那政府カ其ノ國際條約ニ於テ普ク外資ヲ歡迎スヘキヲ認容セル以上特定國ニ於テ有ラユル事業ヲ独占スルヲ承引スルコトヲ得ザルヘク万一右ノ如キコトカ實現セラルル場合ニハ第三國トシテ支那ニ対シ條約違反ノ抗議ヲ提出スルノ理由アルノミナラス第二実業借款ノ包含ニ付テハ自分ノ接觸セル支那有力ナル人士ノ尽ク總テカ反對スル所ニシテ実業借款ノ關スル限り新借款团トノ件折合ハサル場合ニハ必ス之ヲ借款团以外ニモ提議シ來ルコトアルヘキハ上記支那有力者ノ言

解アルヤノ趣ナルガ同問題ニ就テハ和蘭側ニ於テ今日迄同國側ノ希望ニ対スル支那側ノ意向ヲ探究シタルコトアリヤト追及シタルニ同公使ハ實ハ最近支那側ノ(脱)タル結果其ノ必ズシモ望ミナキニアラザル感想ヲ得タル次第ナリト答ヘタルニ付本使ハ日本側ヨリ見ルモ英米ヲシテ之レニ當ラシムルヨリモ和蘭ヲシテ參画セシムル方寧ロ得策ニアラズヤト思考スル旨全然同公使限リニ対スル本使一己ノ談話トシテ説述シ置キタリ

当日會談ノ要旨ハ大体上述ノ通りナルガ尠クトモ胡蘆島問題ニ付テハ尚ホ篤ト精査ノ必要アルハ勿論ナルモ和蘭ニ於テ上記ノ如キ意圖ヲ有スルヲ幸ヒ同國側ヲシテ支那側トノ間ニ接洽セシムルコト或ハ英米等ノ野心ヲ防止スル上ニ於テ得策ナルベキカトモ思考セラレ

尚ホ和蘭資本團ノ(不明)國ト我特殊地域トノ關係ニ付テハ同國公使ニ於テ本使ノ確答ヲ期待シ居ルコトト察セラルルニ付前記本使ノ陳述セル通りニシテ差支無之ヤ何分ノ儀御電訓ヲ請フ

三〇八

七月二十三日

中村正金副總支配人ヨリ  
内田外務大臣宛

然ルニ仄聞スル処ニ依レバ英、米トノ間ニ既ニ何等カノ了

中国銀行団ノ新団体加入申込ニ対スルアヂス

案ニ同意シタル旨ノ異ノ電報ヲ提出ノ件

大正八年七月二十三日 横浜正金銀行

副総支配人 中村錠太郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

拝啓 支那銀行団ヨリ新団体加入申出ノ件ニ付左記ノ通り  
弊行倫敦支店異取締役ヨリ電報有之候間玆ニ供御高覧候

敬具

左記

倫敦來電 七月二十一日發  
二十三日着

第三十八号

支那銀行団加入ニ関スル貴方電信拝承其趣 C. S. Addis  
ニ通知致候ヘ共加入条件ヲ知りタル上ニテ正式申込ヲ為サシ  
ムルコトハ角立ツ嫌アリ且他ノ団体モ既ニ C. S. Addis  
ノ原案ニ同意シタルニ依リ更ニ電信往復節約ノ為メ拙者ニ於  
テモ之ニ同意致置候

三〇九 七月二十四日 在英国珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

山東問題、新借款団ニ対スル日本ノ滿蒙除外、

朝鮮騷擾事件、巴塘ニ無線電信建設問題等ニ

関シ英外相代理不滿ノ意ヲ述ベタル件

第三〇二号

(七月三十一日接受)

外務大臣代理「カーゾン」卿ヨリ緩々面会シ度旨希望ニ基  
ツキ本月十八日及二十二日ニ同卿ヲ往訪シ長時間會談セリ  
其ノ要件ハ第一支那、第二朝鮮、第三無線電信等ニ関スル  
諸問題ナリ

第一ニ関シ「カーゾン」卿ハ序言トシテ徒ラニ辞令ニ拘泥  
スルハ同盟國ノ交誼ニ添フ所以ニ非ズト極メテ率直誠実ニ  
其ノ所感ヲ披瀝スヘキ旨ヲ述ヘタル上劈頭先ヅ列國カ世界  
大戰ニ全力ヲ傾注セル際日本カ支那ニ於テ有利ノ地歩ヲ獲  
得シタル事歴ヲ略述シ支那國民カ之ニ対シ常ニ強硬ナル反  
感ヲ懷キ輓近山東問題ニ対シ國論沸騰遂ニ條約不調印ノ態  
度ニ出デタル為玆ニ一種ノ行詰ヲ生シタルハ極東ノ為遺憾  
至極ノ次第ナリ而シテ米國ノ輿論ハ翕然トシテ支那ノ態度  
ニ同情ヲ寄セ其ノ反響ハ當國ニモ波及シ益々増大ノ情況ニ  
在リ若シ該問題ヲ世界ノ審判ニ附スルト假定スル時ハ其ノ  
結果ノ日本ニ不利ナルヘキハ疑ヲ容ルルニ余地ナク率直ニ  
言ヘハ自分ノ私見ヨリスルモ之ヲ弁駁スル為有力ナル論拠

ヲ見出スニ困シムト自白セシ世界ノ公論ニ依リテ關係案件  
ヲ決スヘキ今日ニ當リ此ノ点ハ十分ノ注意ヲ要スル議ナル  
ヲ以テ此ノ際日本ニ於テ何等ノ方法ニ依リ時局回轉ノ途ヲ  
講スルハ刻下ノ急務ナリト思考セラル而シテ支那及諸外國  
ニ於テ右様反對ノ原因ハ畢竟日本ニ對スル疑懼ノ念ニ歸著  
スルヲ以テ此ノ際日本ニ於テ大國ノ襟度ヲ示スコト肝要ナ  
ル可シトテ大体牧野男會談講第一六五四号記載ノ意見ヲ繰  
返シ尚具體的ニ自分ノ私見ヲ披瀝セハ日本政府ハ其ノ適當  
ト認ムル場所及方法ニテ山東問題ニ関スル日本ノ意図ヲ鮮  
明シ還附実行ノ時期ヲ指定スルコト右疑懼ヲ一掃スル為此  
ノ際最有効ナルヘキヲ述ヘ更ニ語ヲ継キ右ハ決シテ日本ノ  
主張ヲ批評セントスルモノニ非ズ約言スレハ是非論ニ非ズ  
シテ得失論ナリ此ノ見地ヨリスレハ上述ノ如キ措置ニ出ヅ  
ルコト日本ノ利益ノ為得策ニ非ズヤトノ私見ニ過ギズ此ノ  
点ハ誤解ナカラシムコトヲ希望スト附言セリ

右ニ對シテハ同卿所言ノ精神ニ對シ謝意ヲ表スルト同時ニ  
講和會議ノ際最高會議ニ於テ我全權ノ声明ニ基キ山東問題  
ニ對スル日本ノ態度ノ公明正大ナル次第ヲ詳説シタル上支  
那ノ條約不調印ニ就テハ我政府ニ於テモ英國同様深ク遺憾

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三〇九

ノ念ヲ懷キ日本ノ威信ヲ保チ國民ノ感情ヲ害セサル範圍ニ  
於テ何等カノ緩和策アリトセハ之ヲ実行スルニ吝ナラサル  
ヘキヲ確信ス山東問題ニ對スル我意図ハ前述最高會議ニ於  
テ我全權ノ既ニ聲明シタル所ナルノミナラズ當時之ヲ世間  
ニ公表シ最高會議ニ於テモ「バルフォア」外相ヲ介シテ支  
那全權ニ我聲明ノ趣旨ヲ通告シタルニ係ハラス支那側ニ於  
テハ全ク之ヲ無視シ只管日本ニ對スル猜疑心鼓吹ニ腐心ス  
ルノ今日ニ於テ更ニ同様ノ聲明ヲ繰返スモ支那側ニ及ホス  
ヘキ効力ハ容易ニ期待スルヲ得ザル可ク還附時期ノ指定ハ  
支那側希望ノ一点ナルヘキモ此ノ問題タルヤ日本単独ニ決  
定シ得ヘキ性質ノモノニ非ズ強テ之ヲ指定スルニ於テハ支  
那ノ誠意如何ニ依リテハ不日還附手續ヲ商議スルニ當リ日  
本ニ於テ非常ニ不利ノ地位ニ至ルヘキ理由ヲ弁解シ且本件  
ニ就テハ日本ニ於ケル輿論ヲ考量スルノ必要ニ関シ大体六  
月二十八日牧野男カ「ランシング」氏ニ答ヘタルト(電報  
濟ノ答)同様ノ理由ヲ述ヘ全權委員ノ関スル限り遺憾ナカ  
ラ同卿ノ具体案ニ同意ヲ表スルコト能ハサル旨ヲ弁明シ置  
キタリ

尚右會談中同卿ニ於テハ本問題ニ関スル最高會議ノ經過ヲ

十分承知シ居ラザルカ如キ印象ヲ得タルヲ以テ二十二日ノ会谈ニハ書類携帯ノ上一層詳細ニ之ヲ説明セリ第二回会见ニ於テモ同卿ハ依然前説ヲ守リ自分ハ日本ノ輿論ヲ判断スルノ地位ニ非ザルハ勿論ナリト雖モ日本カ既ニ五大國ノ班ニ列シタル今日ニ於テ一意國威擁護ノ一事ニ偏倚セス讓歩的態度ヲ以テ支那ニ臨ムモ其ノ威望ヲ毀損スルカ如キコト万々無之ヲ信スト述ヘ尚曩ニ戦争中「ガリポリ」ノ撤兵ヲ議スルニ当リ軍事内閣ハ輿論ノ失望激昂ヲ恐レタルモ断行ノ結果ハ其ノ杞憂タリシヲ証明シタル事例ヲ引キ切リニ慫慂力説シタルヲ以テ結局本使ヨリ本会谈ノ詳細ヲ政府ニ報告シ其ノ指揮ヲ仰クヘキコトヲ約セリ就テハ本件ニ関シ何分ノ回答方御回訓ヲ請フ

尚右兩回ノ会见中同卿ノ談自然多岐ニ涉リタルカ就中特記スヘキ点ハ同卿ハ偶々新借款団ニ言及シ滿蒙除外ニ対シ頗ル不滿ノ口調ヲ以テ其ノ不都合ヲ鳴ラシ英國ニ於テモ揚子江地方ニ於ケル勢力範圍ノ確保ニ努メタル時代アリタルモ今ヤ従来ノ方針ヲ一変シタル実例ヲ挙ケ開放の政略ノ採用ヲ力説シタル末自分ノ私見ニ依レハ支那ニ於ケル外國關係ノ鐵道ヲ國際監督ノ下ニ置クコト至当ナルカ如シ云々ト放

日ノ地歩ヲ作り置ク為東部蒙古地方ガ地利上及經濟上南滿洲ト同一系統ニ屬スル次第ヲ述ヘ置キタリ

第二、次ニ「カーゾン」卿ハ朝鮮ニ於ケル騷擾事件ニ談及シ、同地ニ於ケル英國宣教師監督領事館等ノ報告綴込ヲ手扣ヘ之ヲ散読シタルニ何レモ日本兵又ハ警官ノ鮮人及外國人ニ対スル行動ノ詳細ニ亘リ、拘引、殴打、殺害等ノ事件ヲ枚挙シ、横暴、殘虐等矯激ノ語ヲ弄シテ、我官憲ヲ攻撃シタルモノナリ。同卿ハ語ヲ進メテ朝鮮ニハ英國臣民ノ在留スルモノ可ナリニ之アリ。英國政府ハ之ニ対シ相当保護ノ途ヲ講ゼザル可ラズ。又自分ハ往年同地ニ漫遊シタル為、總督府ノ年報等ハ特別ノ興味ヲ以テ之ヲ熟閱シ、常ニ日本治績ノ顯著ナルヲ賞揚シ居タルニ今回ノ椿事ニ対スル日本官憲ノ措置ハ意外千万ト謂ハザル可ラズ。察スルニ右ハ畢竟出先軍人ノ越權ニ出デタル過失ナラン。当省ニ於テハ之等ノ報告ヲ秘密ニ取扱ヒ新聞紙ニ掲載セシメザルモ他ノ筋ヨリ同様ノ消息伝ハリ居ルコトナレバ或ハ本件ハ議會ノ問題トナリ、政府ハ同盟國ノ横暴ヲ坐視シ、何等抗議ノ措置ニ出デズトノ攻撃ヲ加フルヤモ計リ難シ。旁々本件ニ関シ特ニ日本政府ノ考量ヲ煩ハシ度シトノ意ヲ述ベタルヲ

言スルニ至レリ本使ハ之ニ対シ我銀行団代表者ニ於テ本邦銀行団指図ノ下ニ滿蒙除外ヲ主張シタルハ蓋シ云々ノ理由ニ依ルモノナルヘントテ予テ御内訓ノ趣旨ヲ述ヘ尚本問題ハ政府ニ於テ相当考量中ナルヲ信スト輕ク受ケ置キタリ本件ニ就テハ不日關係政府間ノ問題トシテ我ニ提議シ来ルヘキコトト予期セラルル処前述外務大臣代理ノ口調及往電第二八五号ニ徴スルモ滿蒙除外ニ關スル我態度ハ當國朝野トモ氣受甚タ惡シク米國ニ於テハ反對ノ氣焰一層熾ンナル様認メラレ幾分カ排日運動ヲ助ケタルコト想像ニ難カラス殊ニ山東問題ニ對スル米國上院刻下ノ態度ニ顧ミルトキハ此際余リ徹底の閣議ノ決定ヲ主張スルコト甚タ不得策ト思考ノ儘前述ノ通成ルヘク輕ク受ケ置キタル次第ナリ念ノ為附記ス

又鐵道ニ對スル卿ノ意見ニ對シテハ本使ハ我南滿鐵道ノ实例ヲ挙ケ日本カ人命財産上莫大ノ犧牲ヲ払ヒタル日露戰爭ノ記念タル本鐵道ヲ國際監督ノ下ニ置カントスル提議ノ如キハ本邦輿論ノ断然容認セザル所ナル旨ヲ述ヘタルニ同卿ハ南滿洲ニ於テ日本カ特殊ノ地位ヲ占ムルコト勿論ノ義ナルヲ以テ該鐵道ハ全ク別問題ナリト答ヘタリ依テ本使ハ他

以テ本使ハ単ニ歸任早々未ダ本件ニ關聯セル書類ヲ閲読セザルモ、知り居ル限りニテハ右報告ノ如キ殘酷ノ行動アリタルコトヲ覺エズト答ヘ置キタリ。元來本件ニ就テハ種々ノ蜚語ヲ耳ニシ応答ニ差支フルコトアルヲ以テ従来ノ如ク唯概括(脱)請フ。

第三、「カーゾン」卿ハ在支公使ノ報告ニ依レバ、支那ニ於ケル無線電信ニ關シ、三井並日本資本団ト支那官憲トノ間ニ於テ昨年夏二種ノ契約締結セラレ、之ニ依テ日本人ハ四川省「パタン<sup>塘</sup>グ」ニ有力ナル無線電信所ヲ建設經營スルコトトナリ居ル由ノ処、同地ガ西藏ヲ經テ我ガ印度ニ近邇セル事實ニ鑑ミ、右企圖ハ英國政府ニ於テ黙過スルコト能ハズ。適當ノ措置ヲ執ルニ至ル可キヲ以テ、此点ヲ留保シ置ク次第ナリト述べ、尚若シ差支ナクバ右二種契約ノ写ヲ貰ヒ受ケタキ旨ヲ附言セリ。本使ハ無線電信ニ關シテ三井契約ノ外、他ニ契約アルヲ聞カズ。三井契約ニ依ルモ「パタン」ニ電信所建設ノ企圖アルヤ否ヤ承知セサル旨ヲ答ヘ、二十二日会谈ノ際政合送第一一三号三井契約(見積ヲ除キ)並同第一一〇号有線電信契約ヲ大体説明シタルニ同卿ハ在支公使ノ報告ニ依レバ右資本団契約ニ基キ數ヶ所ニ電

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三二〇 三二一

信所ヲ建設スルコトナリ居ル処、四川省ノ如キ遠隔ノ地ヲ選ムハ甚ダ諒解ニ苦シム処ナリ。場所ノ選択權ハ支那政府ニ在ル処ヨリ察スルニ支那政府ハ之ヲ以テ西藏ニ対スル英國ノ行動ニ対スル偵察機關トスルノ目的ニ出デタルモノナル可シ。兎モ角、右様要害ノ地点ニ於テ通信機關ノ經營ヲ仮令同盟國ナリトモ第三國ノ掌裡ニ委スルコトハ國防ノ見地ヨリ到底黙視スルコト能ハズトノ意ヲ繰返サレタリ。依テ本使ハ此機ヲ利用シ、支那ニ於テ無線電信問題ニ関スル昨年ノ交渉ニ談及シ帝國ノ要望ヲ繰返シ、且ツ「マルコニー」会社ノ協同ニ関スル英國政府ノ提案ニ同意ヲ表スル能ハザル理由ヲ説明シ置キタリ。

在仏大使ヘ郵報セリ。

註 在仏松井大使宛内田外務大臣宛電報講第一六五四号ハ日本外交文書大正八年第三冊ニ採録シアリ

三二〇 七月二十四日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団加入ノ自國団体ニ対スル政府ノ支持  
ニ関シ英國政府ハ米國ノ提案ヲ承認スル旨通  
知越ノ件

第三〇四号 (七月三十一日接受)

往電第三〇三号ニ関シ「アヂス」ヨリモ二十二日附ニテ正金ニ対シ巴里決議ノ認可セラレ英國政府ハ在米大使宛電第四九一号左記ノ解釈ヲ認メタル旨ヲ通知シ来リ速ニ日本其ノ他ヨリ同様ノ承認アリ最終協定ノ為會議ヲ開キ度旨附言セリ

最近「アヂス」ハ異ニ対シ米國政府ヨリノ問合ニ対シ英國政府ハ滿蒙除外ニ反对ノ旨答ヘタリト内聞セル趣ヲ語レリ  
米仏兩大使ヘ転電セリ

三二二 七月二十六日 中村正金副総支配人ヨリ  
内田外務大臣宛

中国銀行団ノ新借款団加入申込ニ対スル英國  
発案ノ北京四國団体代表宛回答ニ付報告ノ件

大正八年七月二十六日

横浜正金銀行

副総支配人 中村錠太郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

拝啓支那銀行団ノ対支借款団加入ニ関スル件ニ付別紙ノ通

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三二二

三二〇

第三〇三号 (七月三十一日接受)

二十二日附公文ヲ以テ英國政府ハ借款団ニ關聯セル一切ノ事業ニ関シ従前ノ通り十分支持スベク關係國政府ニ於テ同意ナレバ各自國団体ニ対シ政府ノ与フベキ支持ニ関スル米國政府提案ヲ承認スベキ旨銀行団ニ通牒シタル趣並ニ現存銀行団ハ之ニ專屬的支持ヲ保障シ能ハザルモ其確乎優越ナル地位ヲ支那ニ占ムルニ顧ミ米國提案新借款团组织ニ関シ代表的英國銀行団トシテ認メラレンコト政府ノ望ム所ナル趣ヲ通知シ来リ尚ホ右公文中本決定ニ達セル理由ヲ説明シ當國銀行団ハ政府ガ当初希望シタル如キ十分代表的タル団体ニ改造セラレズ遺憾ナガラ現在並ニ将来ノ総テノ投資家ヲシテ不平無カラシムル事態ニ到達スルヲ得ズ然モ政府指定ノ条件ヲ滿サザルカカル団体ヲシテ政府ノ支持ヲ独占セシムルハ不当トスルガ故ナリト言ヘリ

三二一 七月二十四日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本ノ巴里會議決議承認方ニ関シアヂスヨリ  
正金ニ申越ノ件

リ倫敦異取締役ヨリ電報有之候間玆ニ供御内覽候 敬具  
(別紙)

倫敦來電亨 二十四日發 二十六日着

第三十九号

当方電信第三十六号第三十七号ニ関シ左ノ通り北京団体代表者宛返電致候旨 C. S. Addis ヨリ通知有之

Referring to your telegram received 5th July the British, French, Russian and Japanese groups foresee difficulty in admitting Chinese group to participation consortium but consider it undesirable at present stage to shut the door against their inclusion. The groups therefore request you to suggest Chinese Government should ask their group to formulate its proposal stating what option and concession would be brought into the pool and at same time to make definite application for admission to consortium, which groups could then consider at their next meeting. The foregoing we have consulted American group who concur.

三二二

三二三 七月二十八日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

巴里四國銀行家會議ノ決議ヲ日本銀行團ニ於  
テ承認セラレ度旨アズヨリ正金ニ督促ノ件

第三〇七号 (八月三日接受)

巴里決議仏米政府承認濟兩國團ヨリ通知アリタルニ付最終  
ノ會議ヲ開キ得シカ為日本銀行團ヨリモ同様ノ通牒ニ接シ  
タク切ニ之ヲ俟チツツアル旨二十八日附ニテ「アヂス」ヨ  
リ正金ヘ督促シ越セリ本電並ニ往電第三〇四号「アヂス」  
ノ來意ハ正金支店ヨリ發電ヲ省略セルニ付貴方ニテ御転示  
アリ「アヂス」ニ対スル回答振ハ本店ヨリ直接支店ヘ發電  
セシメラレタシ

三二四 七月三十一日 在米國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙除外問題ニ関シ國務長官ヨリ覚書送付越  
ノ件

別電 同日在米國出淵臨時代理大使發内田外務大臣宛  
電報第五七五号  
右覚書

日本政府ハ日本銀行家ノ表明シタルト同様ノ意見ヲ有シ居  
ラル旨明示セラレタル事ナシ然レドモ米國代表者ガ本問  
題ヲ米國政府ニ廻附シ來リタル以上米國政府ハ本件ヲ日本  
政府ニ提出スルヲ適當ナリト思考ス

日本銀行團ハ或ハ借款團ノ趣旨目的ヲ誤解シ居ルニ非ザル  
ナキヤ借款團ノ目的ハ支那ノ中央或ハ地方政府ノ行政又ハ  
産業ノ為金ヲ貸スコト若ハ中央或ハ地方政府ノ保障ヲ有ス  
ル總テノ借款ヲ包含スル事且右ハ一般公募ニ依ル事ヲ目的  
トシ決シテ財業者及実業団体ノ私的計畫及活動ヲ排セント  
スルモノニ非ザルト同時ニ米國政府モ亦借款團ガ斯ノ如キ  
措置ニ出ヅル事ヲ欲スルモノニ非ズ米國政府ガ米國銀行團  
ノ右ノ留保ニ賛同スル事ヲ理ニ於テ容認シ能ハザルハ日本  
政府ノ容易ニ諒解セラルル処ナルベシ蓋シ借款團ノ活動ニ  
適當トシテ提議セラレタル一切ノ事業ヲ挙ゲテ借款團ニ取  
扱ハシムルハ同團ノ当然ノ作用トシテ欠クベカラザル前提  
条件ナリト信ズレバナリ同團ニ対シ地域的ノ留保ヲ設ケン  
トスルハ折角ノ改善機關ノ効用ヲ損傷スルニ止マリ且其ノ  
活動ニ対シ何等制限ヲ設クルハ支那ニ最モ利害關係ヲ有ス  
ル各國間ノ國際的共同ヲ助長セントスル企画ノ効果ヲ削減

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三二五

第五七四号 (八月一日接受)

往電第四七三三号ニ関シ

三十日國務長官ヨリ別電第五七五号ノ通り覚書ヲ以テ申越  
シ來レリ

英、仏ヘ電報セリ

(別電)

七月三十一日在米國出淵臨時代理大使發内田外務大臣宛電  
報第五七五号  
滿蒙除外ヲ認容シ得ザル所以ヲ説明シタル七月三十日附米  
國覚書ノ内容

第五七五号 別電 (八月二日接受)

米國政府ハ五、六月中巴里新借款團會議ニ於テ日本代表者  
ガ日本ハ滿蒙ニ地理的歴史的特殊關係ヲ有スル事並諸國ガ  
總テノ機會ニ於テ之ヲ承認シタル事ヲ指摘シ該地方ニ於テ  
日本ノ有スル權利優先權ハ新借款團ヨリ除外スベキモノナ  
リト提議シ右ニ対シ米國代表者ハ英仏代表者ノ贊助ヲ得テ  
米國銀行團ノ關スル限り借款團ノ事業範圍ヨリ滿蒙ヲ除外  
スル如何ナル計畫モ容認スルヲ得ズ本問題タルヤ事極メテ  
重大ナルガ故ニ自國政府ノ考慮ニ委スル事トナスベキ旨ヲ  
主張シタリトノ報道ニ接セリ

スルモノナリ加之日本以外ノ各団体ハ規約自体ニ含ム条件  
以外ニハ何等ノ留保ナク彼等ノ有スル權利及優先權ヲ借款  
團ニ「プール」スル事ヲ約シタルコトナレバ同一ノ法則ガ  
各団体ニ適用スルニアラザレバ公平ト云フヲ得ズ

若日本政府ニテ英米仏國団体ノ承諾シタル協定ニ日本銀行  
團ヲシテ何等ノ留保ナク加盟スルノ正当ナルヲ諒得セシメ  
能ハザルニ於テハ米國政府ハ甚ダ失望シ且真ニ遺憾ニ堪ヘ  
ザルベシ蓋シ米國政府ニ於テハ戰時中成立シタル列國ノ關  
係ハ聽テ將來ノ親善ナル協調ヲ以テ相互ノ利益ノ為平和的  
事業ヲ成就シ得ル基礎ヲ構成スルモノナリト信ジ而シテ米  
國政府ハ本借款團ヲ以テ戰時中涵養セラレタル相互的援助  
ノ精神ヲ現實ニスル一手段ナリト信ズ

右ハ單ニ米國政府ノ見解タルニ止マラザル事ハ英仏ノ希望  
並白耳義政府及露西亜銀行ノ加入申出ヲ以テスルモ明カナ  
リ故ニ米國政府ハ日本政府ニ於テモ此ノ見解ヲ取り日本銀  
行團ニ対シ其ノ旨通達セラレン事ヲ期待ス

三二五 八月二日 在米國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛

滿蒙除外ノ我主張ニ対スル米國政府ノ覚書送

付ノ件

附屬書 七月三十日附右覽書亨

機密第五二号

(八月二十日接受)

大正八年八月二日

在米

臨時代理大使 出淵勝次(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

対支新借款团组织會議ニ於ケル帝國ノ滿蒙留保提議ニ対シ米國政府ヨリ意見開陳ノ件

本件ニ関シテハ不取敢往電第五七四号ヲ以テ米國政府申出ノ内容及報告置候次第有之候処玆ニ右覽書亨及御送付候間御査閱相成度此段申進候也

本信亨送付先

在英、公大使

(附屬書)

七月三十日附米國政府覽書亨

滿蒙除外ノ日本主張ヲ説客シ得ザル所以ヲ説明ノ件

MEMORANDUM

The Government of the United States is inform-

churia from the scope of the consortium would be inadmissible; but that the whole question raised was one of such grave importance that it was felt to be beyond the immediate competence of the financial groups to discuss, and that he would therefore, bring the matter to the attention of his Government.

The Imperial Japanese Government has not indicated that it shares the opinion expressed by the Japanese bankers; but inasmuch as the question raised by the latter has been referred to this Government by the American representative, it is felt to be appropriate to bring the matter to the notice of the Imperial Government.

It may be that the Japanese banking group is under a misapprehension as to the objects and purposes of the consortium, which are to make loans to the Central Government of China, or to the provincial governments, for administrative or industrial purposes and to include all such loans as have the

ed that, at the bankers conference held in Paris during May and June last to discuss matters relating to the new consortium for China, the Japanese financial delegates, acting under instructions from their principals, asserted that "all the rights and options held by Japan in the regions of Manchuria and Mongolia where Japan has special interests should be excluded from the arrangements for pooling provided for in the proposed agreement," because of "the very special relations which Japan enjoys geographically and historically with the regions referred to and which have been recognized by Great Britain, the United States, France and Russia on many occasions."

The Government of the United States is further informed that the position taken by the representative of the American Group, with the approval of the British and French financial representatives, was that, so far as the banking groups were concerned, any attempt to exclude Mongolia and Man-

guarantee of the Central Government or any of the provincial governments and which involve a public issue. They do not, however, contemplate the elimination of private enterprise or the activities of financial or industrial corporations, nor would it be the desire of this Government that they do so.

The Imperial Japanese Government will readily understand that the Government of the United States could not consistently consent that the American bankers agree to the reservation proposed, for the reason that it is believed to be an essential prerequisite to the proper functioning of the consortium that all Chinese business of the classes proposed as appropriate for the activity of the consortium be available for it. Reservations of reigons can only impair its usefulness as an instrument for good, and limitations on its activity can only detract from its utility as a means for promoting international cooperation among those most interested in



China. Moreover, as all other parties to the arrangement have agreed to pool their rights and options without other reservation than that contained in the terms of the agreement itself, it is only equitable that the same rule should apply to all alike.

If the Government of Japan is unable to convince the Japanese bankers of the justness of adhering, without reservation, to the agreement as accepted by the bankers representing the groups of the United States, Great Britain and France, the Government of the United States will receive the information with keen disappointment and sincere regret; for it is felt that the relations established during the Great War between these and other nations have laid a basis upon which the work of peace might be erected by cordial co-operation and to their mutual advantage. The Government of the United States believes that the consortium is one of those mediums for constructive work through which the

helpful spirit of the relations which were so cemented during the war may be translated into cooperative action. That this view is not held alone by the Government of the United States is evidenced by the desire on the part of the British and French Governments to cooperate in the consortium and by the requests for representation therein from the Government of Belgium, and from the bank of Russia, both of which are now under consideration. It is, therefore, the confident hope of this Government that the Imperial Japanese Government will also share this view, and will so inform the Japanese banking group.

Department of State.

Signed (Robert Lansing)

Washington, July 30th, 1919.

三二六 八月五日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

借款団加入ノ自國団本ニ於スル政府ノ支持問題

題ニ関スル英國政府ノ公文報告ノ件

第三一九号

(八月十日接受)

(附)  
貴電第二四六号ニ関シ

I have honour to explain, for the information of Japanese Government, the exact conditions on which His Majesty's Government was prepared to guarantee to the British group to take part in the International Consortium for providing loans to China exclusive official support as regards all future public loan involving government guarantee and public issue, whether for industrial, administrative or financial purposes.

British group have unfortunately found it impossible to comply with condition as to its enlargement in such manner as to render it sufficiently representative of British financial houses of good standing interested in loans to China to prevent criticism on the ground of exclusiveness.

I have therefore reluctantly been forced to

三 次中國新借款団組織ニ関シ米國提議ノ件 三二六

conclusion that in this matter it is not possible to attain finality or to satisfy all present and future claimants to participation.

At the same time however His Majesty's Government would not feel justified in conferring monopoly of official support on a group, constitution of which conflicts with most essential of the conditions laid down by them.

I have, however, informed British group that His Majesty's Government will continue, as hitherto, to afford them fullest possible measure of support in all operations arising out of their connection with Consortium, and they are prepared to accept, subject to concurrence of other Governments concerned, formula proposed by American Government regarding measure of support to be accorded by the Governments to their respective national groups.

Regarding Consortium as proposed by the American Government, His Majesty's Government desire

三二六

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 三二七 三二八

that the British group as at present constituted should, in view of their established and predominant position in China, be regarded as the representative of British partner in the Consortium, even though they are unable to give them a guarantee of exclusive official support.

China.

註 八月三日内田外務大臣宛珍田大使宛往電第二四六号ノ全文  
左ノ通  
第二四六号

貴電第三〇三号ニ関シ七月二十二日附英國政府公文原文ノ  
儘至急電報アリタシ

三二七 八月六日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛 (電報)

露國代表者ノ新借款團加入申込ニ対スル措

置ニ付問合ノ件

第三二六号

六月四日貴地小田切取締役發正金本店宛報告書ニヨレバ露  
國代表者ハ五月二十一日付ヲ以テ同団体ヲシテ最初ヨリ

三二八

新借款團ニ加入セシメラレンコトヲ提議スル旨ノ書面ヲ巴  
里銀行団會議々長タル米國代表者ニ提出シタル趣ナルカ  
本件カ其後如何成行タリヤ回電アリタシ

三二八 八月七日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛 (電報)

新借款團加入國技師會議ノ決議ニ関シ其由来

成行等回電方訓令ノ件

第三二七号

小田切及異ヨリ正金宛報告書ニヨレハ米仏兩國団体技師ハ  
五月二十日会合ノ上新借款團各所属団体及支那側ノ選出ニ  
成ル技師會議ナルモノヲ組織シ同會議ニ於テ支那ニ於ケル  
鐵道ノ選定及建設等ニ付新借款團ニ報告シ又新借款團ノ投  
資ニ係ル鐵道ノ測量建設運轉ニ対スル一般の監督ヲ為サシ  
ムルコト等三ヶ条ノ決議ヲ為シ一面各本國団ノ考慮ニ付ス  
ルト共ニ日本銀行団ヨリモ技師派遣方並我意見ヲ求メ來リ  
タル趣ノ処スル決議ヲ見ルニ至リタル由來並其ノ後ノ成行  
本件ニ対スル貴見ト共ニ何分ノ儀回電アリタシ  
右為参考英米ニ転電アリタシ

註 右同文ハ八月十一日在支小幡公使宛電報第一〇五一号ヲ以  
テ通報セラレタリ

三二九 八月八日 内田外務大臣ヨリ  
在英國珍田大使宛 (電報)

パリ四國銀行家會議ノ決議ニ対スル日本政府

ノ方針ハ目下設議中ナル旨英國政府ニ説明方

訓令ノ件

第二五二号

本年五月十一日及十二日巴里ニ於ケル各國銀行団代表者會  
議ノ決議ニ付テハ速ニ帝國政府ノ方針ヲ決定スルコト緊要  
ト認メ居ル次第ナルモ滿蒙留保問題カ國民ノ極メテ重大視  
スル所ナルニ顧ミ政府ニ於テモ特ニ慎重ノ考慮ヲ加フルノ  
必要アリ現ニ八月七日外交調査會ヲ開キ篤ト審議ヲ尽シタ  
ルモ決定ニ至ラズ再ヒ來ル十三日ヲ期シ同調査會ヲ開催シ  
審議ヲ重ナルコトト相成居レル次第ニ付右御含ミ置ノ上貴  
官ニ於テ必要ト認メラルルニ於テハ任國政府若ハ同國銀行  
団代表者ニ対シ帝國政府ニ於テハ本件決議ニ対シ取急キ詮  
議中ナルモ事ノ重大ナルカ為何分ノ決定ニ到達スルニハ尚  
一週間内外ヲ要スヘキ旨可然一応説明シ置カレ度シ  
右訓令トシテ仏米ニ転電アリタシ

三 对中国新借款團組織ニ関シ米國提議ノ件 三二九 三三〇 三三一

三二九

三三〇 八月九日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

和蘭國ノ对中国実業投資団設立問題ニ関シ再

請訓ノ件

第一二二七号

(八月十日接受)

往電第一〇三四号ニ関シ

蘭國公使ヨリ督促シ來タリタルニ付御意向至急御電示アリ  
タシ

註 前掲三〇七文書

三三一 八月十二日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

新借款團加入國技師會議ノ決議ニ関シ其由来

等ニ付回申ノ件

講第一八二八号

(八月十五日接受)

貴電第三百二十七号ニ関シ、小田切ヨリ五月一日ノ巴里會  
議ニ於テ新借款團ハ支那ノ鐵道及実業ヲ不分割トシ統一的  
ニ經營セントスルノ主義ヲ認メ代表者及技師ヲシテ考案ヲ

立テシムヘントノ決議ヲ為シタルコトハ既ニ御承知ノ通ナルカ其當時右ニ関シテ一ノ機關ヲ設クルノ必要アルコトモ話題ニ上リタリ然ルニ其後本件ニ関シ各代表者ノ間ニ何等具体的協議ナカリシカ突然 Randolph ガ Lamont ノ書信ヲ携ヘ来訪ノ結果始メテ Standardisation 其他ノ問題ニ関シ米仏間ニ協議ヲ遂ケタルコトヲ知り同時ニ同人ヨリ日本銀行団側ヨリ技師指名ノコトヲ申出タリ然ルニ新借款団ノ成立前ニ於テ本件ヲ協議スルハ時機ヲ得タルモノニ非スト思惟セル故自分ハ主義トシテ同意ナルモ技師及全般ノ問題ニ付本國団体ノ意向ヲ知りタル上ニ非サレハ何等確答ヲ与フル能ハサル旨口頭ニテ答ヘ置タリ事情右ノ如キヲ以テ日本側ハ米仏技師ノ協議事項ニ付何等拘束ヲ受ケサルモノト承知セラレタシ尤新借款団成立ノ曉ニハ此ノ如キ會議機關ノ成立必要ナルベケレハ日本側ニ於テモ之ニ関シ予メ研究ヲ遂ケラレンコトヲ希望ス因ニ Randolph ハ粵漢鐵道 American section ノ技師ニシテ評判宜シキ男ナリトノコトナリ

英米ヘ電報セリ

日本銀行団ヲシテ其滿蒙除外主張ヲ撤回セシムル様取計ハレ度キ旨ヲ申越セリ

右覺書ハ

專屬の支持ニ関スル解釈ハ米國提議ノ通りトシ英國政府ハ三月二十二日付公文所載借款団改造米國政府原案ヲ容レタレバ現ニ着手セラレタルモノヲ以テ契約並「オプシヨシ」ヲ「プール」シ尚団外者ニシテ此ノ種ノ契約並「オプシヨシ」ヲ有スルモノニ其提供ヲ極力勸奨スベキ旨ヲモ異議ナク決議シ右ニ對シ英米仏何レモ其承認ヲ与ヘ居ルニ拘ラズ日本政府独リ其拳ニ出デズ為ニ新借款団組織ノ進捗ヲ渋滞セシメツツアリ然ルニ英國政府ノ耳ニスル所ニ依レバ在巴里日本財務代表者ハ本國銀行団ノ指令ニ依リ日本ハ滿蒙ニ於テ歴史的地理的特殊關係アリ右ハ既ニ累次英米仏露ノ認メタル所ナルニ依リ同地方ニ於テ日本ノ權利及「オプシヨシ」ハ除外サル可キモノナル旨ヲ他國銀行団代表者ニ告ゲタリトノ事ナルガ右ハ遺憾ノ至リニシテ英米仏団ハ右ハ認容スベカラザルモノト思考スルモ事重大ニシテ銀行団ノミニ於テ輕々シク攻究ス可キモノニ非ズ須ク各自政府ノ決定ニ委ス可シトノ意見

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三三四

三三二 八月十二日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
露國財団ノ新借款団加入申込ニ関シ小田切ヨリ報告ノ件

講第一八二六号

(八月十四日接受)

貴電第三二六号露國財団加入申込ノ件ニ関シ小田切ヨリ其後団体代表者間ニ何等ノ話無キモ次ニ開カルベキ會議ニ於テ或ハ議題トナルコトナラン去レドモ御承知ノ通借款団ノ成立ハ各國政府ノ承認ヲ条件トスルヲ以テ新借款団ニ於テハ露國ノ現状ニ照シ同國団ノ加入ヲ承認スルヤ否ヤ疑問ナリ

英米ヘ電報ス

三三三 八月十二日

在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団ノ活動範圍ヨリ滿蒙ヲ除外セントスル日本側要求ヲ撤回セシムル様英國政府ヨリ  
日本政府ニ憑憑セル覺書ニ付報告ノ件

第三四一号

(八月十七日接受)

英國政府ハ十一日付長文ノ覺書ヲ以テ帝國政府ニ於テ速ニ

ナリシ由斯カル事態ノ下ニアリテ英國政府ハ、合衆國政府ニ於テハ既ニ之ヲ為シタリトノ事ナレバ本件ニ関シ日本政府ノ注意ヲ喚起シ日本銀行団ヲシテ其態度ヲ變ゼシムル様措置方ヲ請フノ妥當ナルヲ覺ユ  
トノ趣旨ヲ叙シタル後別電<sup>(註)</sup>第三四二号ノ如ク述ベタリ  
米仏ヘ電報セリ

註 別電第三四二号ヲ省略ス右ハ後掲三二五文書附屬書ノ後段  
One of the fundamental objects of the American  
proposals ヨリ最後迄ト同文ナリ

三三四 八月十四日 閣議決定

巴里四國銀行家會議ノ決議確認及滿蒙ニ於ケル日本ノ特殊權益留保ノ件

附記一 滿蒙留保問題調查書

二 对中国新借款团组织問題調查書

日本政府ハ千九百十九年五月十一日及十二日巴里ニ於テ對支借款団組織ノ為開催セラレタル日英米仏各銀行団代表者會議ノ決議ヲ確認ス但シ右決議ノ確認ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル日本ノ特殊權利及利益ニ何等不利ノ影響ヲ及

ホスコトアルヘキモノナリト解釈スヘカラサルハ勿論ナリトス

(欄外註記)

「大正八年八月十三日外交調査会決定」

(右英文)

The Japanese Government accept and confirm the resolutions adopted at the meeting of representatives of the banking groups of the United States, Great Britain, France and Japan at Paris on May 11 and 12, 1919, for the purpose of organizing an International Consortium for financial business in China; provided, however, that such acceptance and confirmation of the said resolutions shall not be held or construed to operate to the prejudice of the special rights and interests possessed by Japan in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia.

(附記一)

滿蒙留保問題

(政務局第一課調)

第一、滿蒙ニ於ケル日本ノ特殊地位ニ対スル各国政府当局

の見地ヨリ考察スルトキハ右利害關係ハ滿洲ニ於ケル日本ノ利害關係ト正ニ相匹敵スヘシ此事タル日本カ滿洲ニ於テ政治的利害關係ヲ有スルノ故ヲ以テ敢テ影響ヲ受クベキモノニアラズ

(2) 日本ノ主張

英國政府ハ揚子江流域ニ於ケル英國ノ利害關係ヲ以テ南滿洲ニ於ケル帝國ノ利害關係ヲ律セムトスルモ日本カ條約上並接壤地タル關係上南滿洲ニ於テ政治上及軍事上ノ利害關係ヲ有シ而モ右ハ二回ノ戦争ニ基クモノナルコトハ英國政府ノ夙ニ諒悉セラルル通ナリ從テ英國政府ガ今回南滿洲ノ事態ヲ以テ支那ノ他地方ニ於ケル事態ト同一視セムトスルハ同盟國タル關係上帝國政府ニ於テ一層遺憾ノ念ヲ強ウスル次第ニシテ且南滿洲ニ於ケル前項特殊ノ關係ハ實際ニ於テ英國カ云フカ如ク經濟的關係ヲ引離シテ考慮スルヲ得ズ帝國政府ハ英國政府カ同地方ニ対スル日本國民全体ノ特殊ノ感想ヲ深く考量ニ入レラレムコトヲ切望ス

(四) 大正四年三月八日支交渉行惱ミノ状アリタル際英國

三 对中国新借款団組織ニ関シ米國提議ノ件 三三四

ノ言明

第二、現借款団ニ關スル滿蒙留保

第三、新借款団ニ關スル滿蒙留保ニ対スル各国ノ意向

第一、滿蒙ニ於ケル日本ノ特殊地位ニ対スル各国当局ノ言

明

一、英國ノ部

(イ) 南滿洲ト揚子江トノ比較論(大正二年ヨリ大正三年ニ亘ル)

(1) 英國ノ主張

英國政府ハ從來南滿洲ニ於ケル日本ノ地位ヲ尊重シ往年錦愛鐵道問題ニ付英國資本家ニ援助ヲ与ヘザリシコト並ニ將來ニ於テモ南滿洲ニ対シ容喙セザルノ方針ヲ恪守スヘキモ英國政府ハ揚子江流域ニ於テ特異優越ナル利害關係ヲ有スルヲ以テ日本政府カ南滿洲地方ニ対シ其特殊ノ利害關係ヲ主張スルト同様英國政府ニ於テモ前記利害關係ニ付主張スルコト固ヨリ至当ナリト思考ス尤モ揚子江流域ニ於ケル英國ノ利害關係ナルモノハ単ニ經濟の止マリ且英國政府ハ將來ニ於テモ亦同様タラシムヘキ覺悟ナルモ經濟

外務大臣ハ本多參事官ニ対シ左ノ通り言明セリ

「日本ハ已ニ米國ニモ加奈陀ニモ移民ニ重キヲ措キ居ラザルヲ以テ何レニカ國民ノ發展地ヲ求メザルベカラズ此事情ニ鑑ミルモ支那ニ於テ日本カ商工業上其他將來益發展スヘキハ自然ノ數ニシテ殊ニ滿洲ニ於ケル日本ノ地位伸長ハ自分ノ夙ニ同情スル所ナリ」

(ハ) 大正四年八月三十一日英國外務大臣ハ當時滯英中ノ石

井大使ニ対シ左ノ通り言明セリ

「支那ニ於ケル日本ノ發展ト活動トハ日本國將來ノ運命ニシテ殊ニ滿洲其他ノ支那地方ニ於ケル日本ノ商工業的發展ハ必然ノ大勢ナリ右ハ自分ノ歡迎シ且之ヲ支持スルニ躊躇セザル所ナリ」

(ニ) 大正八年七月十八日英國外務大臣代理「カーゾン」卿

ト会見ノ際珍田大使ハ我南滿鐵道ノ実例ヲ挙ケ日本カ人命財産上莫大ノ犠牲ヲ払ヒタル日露戦争ノ記念タル本鐵道ヲ國際監督ノ下ニ置カントスル提議ノ如キハ本邦輿論ノ断然容認セザル所ナル旨ヲ述ヘタルニ同卿ハ南滿洲ニ於テ日本カ特殊ノ地位ヲ占ムルコト勿論ノ義ナルヲ以テ該鐵道ハ全ク別問題ナリト答ヘタリ依テ同

大使ハ他日ノ地歩ヲ作り置ク為東部蒙古地方ガ地利上及經濟上南滿洲ト同一系統ニ属スル次第ヲ述ヘ置キタリ

二、米國ノ部

(イ) 大正四年日支交渉ノ際ニ於ケル米國当局言明

(1) 帝國政府ニ対スル三月十三日附公文ニ於テ米國國務

長官ハ山東及滿蒙ニ関スル日本ノ对支要求ニ付テハ此等地方ト日本國トハ領地接続ノ關係アリ特殊ノ關係ヲ形成スルモノナルコト米國ノ淡白ニ承認スル処ナルヲ以テ米國政府ハ右日本ノ要求ニ対シ今日ノ如何等問題ヲ提起スルノ意向ヲ有セザル旨言明シ居レリ

(2) 二月二十二日米國國務長官ハ珍田大使ヨリ第五号中

警察ノ件ハ其ノ目的滿洲ニ在ル旨ヲ説明シタルニ対シ滿洲ナレハ日本國ニ於テ特殊ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ了解ニ苦マザル旨述ヘタリ

(ロ) 大正六年一月二十六日米國國務卿ハ日本大使ニ対シ米國政府ハ支那ニ於ケル各國ノ優先權ハ承認スルコト能ハザルモ滿洲ハ別ナリト言明セリ

「帝國政府ニ於テハ本借款ニ関連スル一切ノ事項ハ南滿洲ニ於テ帝國ノ有スル特殊ノ權利及利益ト何等抵触スルカ如キコト之ナカルヘキヲ当然期待ス」

(ロ) 次テ帝國政府ハ關係各國政府ニ対シ南滿洲ニ接近スル東部内蒙古モ日本トノ特殊利益ヲ有スル地方ニ付前記南滿洲同様措置セラレンコトヲ期待スル旨申入レタリ

(ハ) 滿蒙留保ニ付日本銀行團ハ左ノ通り声明シ之ヲ會議録ニ記載セリ

「日本國銀行團ハ本借款ニ関スル事項ハ南滿洲及南滿洲ニ接近セル東部内蒙古ニ於テ日本國力有スル特殊權利及利益ニ何等不利益ノ影響ヲ及ホスコトアルヘカラストノ了解ノ下ニ本借款ニ参加スルモノナルコト」

尤モ右ニ付他ノ銀行團ニ於テ左ノ通り声明シ之ヲ會議録ニ記載セリ

「英独仏米各団体ハ政治上ノ問題ヲ処理スルノ權限ナキヲ以テ此等ノ声明ニ対シ其意見ヲ表示スルノ地位ニ非ズ」

第三、新借款團滿蒙留保ニ対スル關係各國ノ意向

一、英國ノ部

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三二四

(ハ) 大正六年石井「ランシング」取極中ニ左ノ一節アリ

「合衆國及日本國兩政府ハ領土相近接スル國家ノ間ニハ特殊ノ關係ヲ生スルコトヲ承認ス從テ合衆國政府ハ日本國力支那ニ於テ特殊ノ利益ヲ有スルコトヲ承認ス日本ノ所領ニ接壤セル地方ニ於テ殊ニ然リトス」

三、仏國ノ部

大正六年中仏國政府ヨリ帝國政府ニ対シ雲南広東広西ニ於ケル仏國ノ地位確認ヲ得ムコトヲ提議シ来タリタル際此等諸省ニ於ケル仏國ノ地位ト滿洲ニ於ケル日本ノ地位トヲ同視スルモノニハアラザルコトヲ言明シ居レリ

四、露國ノ部

(日露秘密協約第一回乃至第三回) (尚右協約ハ締結當時夫々英仏兩國政府ニ内告シ其了解ヲ得タルモノナリ)

註1 日本外交文書大正四年第三冊上卷五五八文書第二パラグ

ラフ参照

2 同右五三六文書中段参照

第二、現借款團ニ関スル滿蒙留保

(イ) 明治四十五年三月借款團参加方英米仏独四國政府ノ招請ニ対スル帝國政府ノ回答中左ノ一節アリ

(1) 政府側ノ意向

大正八年七月十八日ノ会見ニ於テ英國外務大臣代理「カーゾン」卿ハ珍田大使ニ対シ滿蒙除外ニ対シ頗ル不滿ノ口調ヲ以テ其不都合ヲ鳴ラシ英國ニ於テモ揚子江地方ニ於ケル勢力範圍ノ確保ニ努メタル時代アリタルモ今ヤ從來ノ方針ヲ一変シタル実例ヲ拳ケ開放の政略ノ採用ヲ力説シタル末自分ノ私見ニ依レハ支那ニ於ケル外國關係ノ鐵道ヲ國際監督ノ下ニ置クコト至当ナルカ如シ云々ト放言セリ

(2) 団体側ノ意向

本年六月十九日英國財団代表者「アデイス」ハ日本ガ支那ニ対シ特種ノ利害ヲ有スルコトハ曩ニ各國ノ認ムル処ナランモ其後時勢變遷ニ鑑ミ又今回新借款團組織ノ議ハ爾來各國ガ支那ニ於テ有セル勢力範圍圈ヲ打破シ新ナル覺悟ヲ以テ之ヲ始メントスル計画ナレバ此際日本ニ於テ滿蒙除外ノ如キ提案ヲ為サザルコトヲ希望セザルヲ得ズト云ヘリ

二、米國ノ部

(1) 政府側ノ意向

三 对中国新借款団組織ニ関シ米國提議ノ件 三二四

本年七月三十日米國政府ハ左ノ要旨ノ書面ヲ在米出淵代理大使ニ送致セリ

「新借款団ニ対シ地域的ノ留保ヲ設ケントスルハ折角ノ改善機關ノ効用ヲ損傷スルニ止マリ且其ノ活動ニ対シ何等制限ヲ受クルハ支那ニ最モ利害關係ヲ有スル各国間ノ國際的共同ヲ助長セントスル企画ノ効果ヲ削減スルモノナリ加之日本以外ノ各団体ハ規約自体ニ含ム条件以外ニハ何等ノ留保ナク彼等ノ有スル權利及優先權ヲ借款団ニ「プール」スル事ヲ約シタルコトナレバ同一ノ法則ガ各団体一樣ニ適用スルニアラザレバ公平ト云フヲ得ズ又米國政府ニ於テハ戰時中成立シタル列國ノ關係ハ廳テ將來ノ親善ナル協調ヲ以テ相互ノ利益ノ為平和の事業ヲ成就シ得ル基礎ヲ構成スルモノナリト信ジ而シテ米國政府ハ本借款団ヲ以テ戰時中涵養セラレタル相互の援助ノ精神ヲ現實ニスル一手段ナリト信ズ」

(2) 団体側ノ意向

本年六月二十三日米國代表者「ラモン」ハ吾代表者ニ対シ一応國務省當局ノ同意ヲ經タル上左ノ趣

關係銀行団ト協議ノ上ナラデハ回答シ難キモ私見トシテハ米國団ノ現借款団復歸ハ最モ希望スル所ナリト述ヘタルガ右米國提案ニ付テハ種々不明ノ点アリタルヲ以テ一応ノ挨拶トシテ米國団ノ復歸ヲ歡迎スル意味ニ於テ同年八月二十四日在本邦米國大使ニ対シ米國政府カ対支借款団ニ米國財業者ノ参加ヲ承認スルコトニ決定シタルハ帝國政府ノ満足トスル次第ニテ又米國団ノ参加ハ日本銀行団ノ歡迎スル所ナルヘキ旨米國政府ニ言明スルハ帝國政府ノ欣幸トスル所ナルガ今回米國政府提案ノ内容ニ付テハ帝國政府ノ所見ヲ確定スルニ先チ米國政府ノ意嚮説明ヲ得タントテ質疑ノ点ヲ指摘セリ同年十月八日ニ至リ米國政府ヨリ其ノ提案ヲ説明セル覺書ヲ送付シ来ルト共ニ日本ノ好意アル考慮及賛同ヲ願フ旨申出デタルガ右米國政府ノ説明ニヨリ(一)米國提案ハ現借款団ヘノ復歸ニアラズシテ新借款団ヲ組織セムトスルモノナルコト(二)新借款団ノ共同範圍ニハ実業借款ヲモ加フルモノナルコト明白トナリ優先權ノ拋棄其ノ他我質疑ノ点モ大体ニ於テ明瞭トナレリ

一、之レヨリ先大正七年八月中旬英国外務當局ハ二回ニ亙リ本多公使(瑞西赴任前)ニ対シ英國政府ハ(一)実業借款ヲモ

三 对中国新借款団組織ニ関シ米國提議ノ件 三二四

旨ノ書面ヲ送付セリ

「滿蒙ハ支那ニ於ケル重要ノ地方ニシテ之ヲ新借款団ノ共同範圍ヨリ除外スルコトハ容認シ難キ所ナリ日本ノ所謂滿蒙ニ於ケル特殊利益ハ經濟上ノ事項トハ關係ナシ本問題ハ財業者ノ論スベキ範圍ヲ超エタル極メテ重要ノ問題ニ付米國國務省ノ注意ヲ喚起セリ」

註 右調書ノ冒頭余白ニ左ノ記入アリ

「大臣ノ命ニヨリ作成、淨書ノ分一通提出濟(栗野印)」

(附 記二)

对中国新借款団組織問題(政務局第一課調)

新借款団問題經過大要

一、大正二年現借款団ヨリ脱退セル米國団カ之ニ復歸セムコトハ帝國政府ノ夙ニ希望シタル所ナルガ大正七年七月十日米國國務卿ヨリ在米石井大使ニ対シ日米英仏四國銀行ヲ以テ対支借款団ヲ組織セムトスル計画ニ付通告ノ次第アリ次テ同月二十六日在本邦米國大使來省本國政府ノ訓令ニヨリ後藤外務大臣ニ対シ右対支借款団組織ノ議ニ付帝國政府ノ所見ヲ承知シ度旨申出デタリ仍テ後藤外務大臣ハ本件ハ

新借款団ノ共同範圍ニ包含セシムルコト(二)実業借款ニ伴フ優先權ヲ拋棄スルコト其ノ他二三ノ同意シ難キ点アリ米國政府ニ対シテハ今回同政府決定ニ満足ヲ表スルト共ニ以上ノ点ヲ列記シテ回答スルコトナルヘキ旨内話セリ其後前記十月八日米國政府ノ説明ニ依リ事態稍明白トナリタルヲ以テ更ニ在英大使ヲシテ英國政府ノ意嚮ヲ確メシメタル処同年十一月二十九日英國當局ハ前回同様ノ意見ヲ述ヘ実業借款併合ニ対シ強硬ニ反対ノ態度ヲ示セリ然ルニ英國政府ガ其後遂ニ米國政府ノ提議ニ賛同シ材料供給工事請負ニ付多少ノ条件ヲ附シタル上多年其ノ主張セル実業借款分離ノ方針ヲ一擲スルニ至リタルハ本年三月二十一日ノコトナリ一、右ニ先チ本年三月十七日在本邦米國大使ハ本國政府ノ訓令ニヨル趣ヲ以テ細目ノ条件ニ付政府ノ承認ヲ条件トシテ關係各國銀行家間ニ所見交換ヲ試ムルコト然ルヘク米國政府ハ已ニ米國銀行団ニ之ヲ指令シタル旨提議アリタルニ付帝國政府ハ本件ト關係深キ英仏兩國政府ノ意嚮ヲ確メタル上五月二日米國大使ニ対シ本件実行上ノ困難且複雑ナル諸問題解決方法ヲ案出セムカ為メ如上ノ所見交換ヲ試ムルコトハ極メテ有益ナルヘシト思考スルニ付右米國大使提

案ニ賛同スル旨回答ヲ発シ又英仏兩國政府モ四月末同様米國政府ノ本件銀行団協議方ノ申出ニ対シ異議ナキ旨回答シタリ此ニ於テ當時巴里ニ來合セ居リタル各國銀行団代表者ハ同地ニテ会合討議ノ上新借款団組織ニ關スル決議ヲ為シ各本國政府及銀行団ノ確認ヲ求メ來レリ然ルニ右ニ關スル在仏大使電報到着ニ先チ帝國政府ニ於テハ本件ニ対スル成案ヲ得タルガ前記巴里決議ハ滿蒙除外ノ点ヲ除クニ於テハ其ノ他ハ大体ニ於テ我成案ニ合致セルモノナリ仍テ五月二十四日外務大藏兩大臣ニ於テ我十八銀行代表者ヲ招致シ新借款団ニ加入スヘキ本邦団体ヲ組織シ以テ右巴里會議ノ決議ニ対シ攻究セムコトヲ求メタリ尚右帝國政府ノ成案ニ付テハ五月二十九日外交調査会ノ賛同ヲ得タリ

一、右外務大藏兩大臣ノ勸説ニヨリ本邦銀行団直ニ組織セラレ引続キ本邦銀行団ニ於テ前記決議ニ対シ攻究ノ結果新借款団ノ範圍外ニ置カルヘキ金額ハ公募セラレサル場合ニ限リ五百万円ヲ超エザルコトトナス方然ルヘク尚公募セラレザルモノハ金額ノ多少ヲ問ハス総テ本借款団ノ範圍外トナサバ一層可ナルコト並借款資金ヲ以テスル工事請負材料供給ノ分配ハ主義トシテ各國均等タルヘキコトノ二点ヲ除

キテハ其他ノ諸点ハ異議ナキニ付政府ノ裁定ニ依リ処置アリタキ旨申出アリ又一面在巴里我代表者ニ於テハ前記成案ニヨリ各國代表者トノ間ニ折衝ヲ重ネタルカ滿蒙除外問題ニ付テハ容易ニ他國側ノ賛同ヲ得ルニ至ラズ然ルニ其後英米兩國政府共前記巴里會議決議ヲ承認シ仏國政府モ亦關係各國政府ニ対シ右巴里銀行団ノ決議ハ仏國政府ノ曩ニ異議ナカリシ米國政府ノ提案ヲ基礎トシテ採用セラレタルモノナルニ顧ミ仏國政府ハ已ニ右決議ニ同意ヲ与ヘタルモノト看做サルルモ可ナリト申出デタリ

(欄外註記)

「大正八年八月十五日外交調査会ニ為參考提出(栗野印)」

三二五 八月十五日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛

新借款団ノ活動範圍ヨリ滿蒙ヲ除外セントス  
ル日本財団ノ要求撤回方ニ關スル英國政府ノ  
覚書送付ノ件

附屬書 八月十一日附右覚書写

公第三一三三號 (九月二十七日接受)

大正八年八月十五日

在英

臨時代理大使 永井松三(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

对支新借款団ヨリ滿蒙除外ノ主張撤回後應方ニ關スル  
英政府覚書送付ノ件

本月十一日附標記覚書写ニ通致ニ及進達候 敬具

(附屬書)

八月十一日附英國外務省ヨリ在英國日本大使館宛覚書写

British Foreign Office to Japanese Embassy

No. 112250/10F.

# MEMORANDUM

On the 22nd of last month Earl Curzon of Kedleston had the honour to address to the Japanese Ambassador a note on the subject of the British participation in the International Consortium for providing loans to China. This note will have made it clear to Viscount Chinda that with the exception of the condition concerning exclusive official support to the British group,—a point which has

been satisfactorily settled by the adoption of the American formula defining the measure of support to be accorded by the Governments concerned to their respective national groups,—His Majesty's Government have accepted in their entirety the original proposals of the American Government for the formation of the International Consortium as set out in a note addressed by Lord Curzon to the Japanese Charge d'Affaires on March 22nd last. This scheme, as Viscount Chinda is doubtless aware, comprises the pooling by the groups of all their existing and future options in China, except such concessions as may already be in operation.

His Excellency has probably also had occasion to study the minutes of the inter-group meetings held in Paris on the 11th and 12th of May last, at which resolutions were unanimously adopted, subject of course to the approval of the Governments concerned, providing for the pooling by the groups of

all their existing loan agreements and options involving a public issue and even pledging the groups to use their best endeavours to induce other parties who may possess or control any such agreements or options to surrender the same to the Consortium.

At the present moment the British, American and French Governments have all informed their respective groups of their approval of these Minutes, subject always to the American definition of the measure of official support to be accorded to them, but so far as Lord Curzon is aware no such approval has as yet been intimated by the Japanese Government, with the result that the urgent work of organizing the Consortium has been brought to a standstill.

His Majesty's Government have heard, with the utmost regret, that the Japanese financial delegates in Paris, acting under instructions from their principals, have informed their colleagues that "all the

In these circumstances His Majesty's Government feel justified in bringing this matter to the notice of the Japanese Government,—as they hear has already been done by the American Government,—and requesting them to direct the Japanese group to modify their attitude on this all-important point.

One of the fundamental objects of the American proposals, as accepted by the British, Japanese and French Governments, is to eliminate special claims in particular spheres of interest and to throw open the whole of China without reserve to the combined activities of an International Consortium. This object cannot be achieved unless all the parties to the scheme agree to sacrifice all claim to enjoy any industrial preference within the boundaries of any political sphere of influence. Manchuria and Mongolia are important provinces of China and any attempt to exclude them from the scope of the Consortium would constitute a direct negation of

rights and options held by Japan in the regions of Manchuria and Mongolia, where Japan has special interests, should be excluded from the arrangements for pooling provided for in the proposal agreement" because of "the very special relations which Japan enjoys geographically and historically with the regions referred to and which have been recognized by Great Britain, the United States, France and Russia on many occasions".

His Majesty's Government are further informed that the position taken up by the British, American and French groups towards this claim of the Japanese group was that any attempt to exclude Manchuria and Mongolia from the scope of the Consortium would be inadmissible, but that the whole question raised was one of such grave importance that it was felt to be beyond immediate competence of the Groups to discuss and must therefore be referred to the decision of the Governments.

the principle on which the Consortium is based, would provoke the revival of similar claims on the part of other nations and thus perpetuate the very difficulties which the Consortium is designed to obviate. Moreover as all other parties to the arrangement, except the Japanese group, have agreed to pool their rights and options without other reservation than that contained in the terms of the agreement itself, it is only equitable that the same rule should apply to all alike.

His Majesty's Government have every reason to believe that the Japanese Government will share these views and will cause the Japanese group to withdraw their claim to the exclusion of Manchuria and Mogolia from the scope of the Consortium.

FOREIGN OFFICE, S.W. 1.

August 11th, 1919.

註 七月二十一日附英國政府ノ公文ニ付テハ前掲三二六文書參看



(右和訳文)(註 仮訳文ナリ)

## 覚書

客月二十二日「カーゾン・ケツドルストン」伯ハ対支借款供給ヲ目的トスル國際財団ニ英國加入ノ件ニ関シ日本大使ニ公文ヲ以テ知照スルノ光榮ヲ有ス

該公文ハ珍田子爵ニ対シ英國資本団ニ対スル政府ノ專屬的支持ニ関スル条件即チ各自國資本団ニ対シ本國政府ニ依リ付与セラルヘキ支持ノ方法如何ヲ明示セル米國政府「フオーミユラ」ノ採択ニ依リ其後満足ナル決定ヲ見タル点ヲ除クノ外英國政府ニ於テハ去ル三月二十二日附「カーゾン」卿ヨリ日本代理大使ニ宛テタル公文ニ叙述セル國際財団組織ニ関スル米國政府ノ原提案全部ヲ認諾スルモノナルヲ明確ナラシメタルヘシ本計画ハ夙ニ珍田子爵ノ熟知セラルルカ如ク既ニ着手セラレタル「コンセツション」ヲ除クノ外財団ニ於テ支那ニ於ケル現在及将来ノ有ユル「オブション」ノ「プーリング」ヲ包含スルモノナリ去ル五月十一日及十二日巴里ニ開催セラレタル銀行団會議ニ於テ追テ各關係國政府ノ承認ヲ經ヘキハ勿論ナルモ公募ニ依ル有ユル現存借款及「オブション」ノ「プーリング」ヲ協定シ且如上ノ契約

何ナル計画モ之ヲ認容スルコトヲ得サルモ本問題タルヤ事極メテ重大ニシテ銀行団限リニテ即時之ヲ討議裁決シ得ヘキ限ニアラス之ヲ各本國政府ノ裁決ニ委セサルヘカラスト為セリトノ通報ニ接セリ

上記ノ事情ニ依リ英國政府ハ已ニ米國政府ニ於テモ為シタリトノコトナルニ付英國政府モ亦本件ニ関シ日本政府ノ注意ヲ喚起シ右重要問題ニ対スル日本資本団ノ態度ヲ更改セシメムコトヲ要望スルノ妥当ナルヲ覺ユ

米國提議ノ根本目的ハ已ニ日英仏各國政府ニ於テ認容セルカ如ク利益範圍ニ対スル特殊ノ要求ヲ排除シ支那全土ヲ挙ケテ何等ノ留保無ク之ヲ國際財団ノ活動ノ為ニ開放セムトスルニ在リ而シテ該目的ハ各団体カ本計画ニ対シ如何ナル政治的勢力範圍内ニ於テモ其ノ企業上ノ優先權ヲ享受セムトスル有ユル要求ヲ犠牲トスルヲ肯スルニ非スンハ之ヲ達成スルコトヲ得ス滿蒙ハ支那ニ於ケル枢要ナル地域ニシテ借款団ヨリ同地方ヲ除外セムトスル如何ナル計画モ借款団ノ基礎タルヘキ原則ノ直接拒否トナリ他國民側ニ同種要求ノ再起ヲ挑発シ恫クシテ借款団ノ除却セムトスル難件ヲ依然存続セシムルコトトナルヘシ加之已ニ当該取極ニ対シ日

又ハ「オブション」ヲ保有シ若ハ之ヲ管理スル他団体ヲ勸奨シテ之ヲ新借款団ニ提供セシメムカ為メ努力スヘキヲ保障スルノ決議カ全会一致ヲ以テ成立ヲ見ルニ至レル同會議議事録ハ恐ラク已ニ閣下ノ査閱ヲ經タル所ナルヘシ

今ヤ英米仏各國政府ハ各自國資本団ニ対シ政府ヨリ付与スヘキ支持ノ方法カ常ニ米國ノ見解ニ拠ルヘキヲ条件トシテ上記決議ニ承認ヲ与ヘタリト雖「カーゾン」卿ノ承知スル限リ日本政府ニ於テハ未タ何等本件承認ノコト無ク為メニ借款団組織ノ緊急事業ニ渋滞ヲ来シツツアリ

巴里ニ於テ自國本部ノ訓令ノ下ニ行動セル日本財業代表者ハ「日本カ地理上並歴史上滿蒙地方ニ於テ享有シ而カモ從來屢次英米仏及露各國ニ依リ承認セラレタル緊密ナル特殊干係ニ顧ミ如斯特殊利益ヲ有スル前記地方ニ於テ日本ノ保有スル有ユル權利及「オブション」ハ規約案中ニ規定セラレタル「プーリング」ニ関スル取極中ヨリ除外セラレサルヘカサル」旨ヲ其ノ同僚ニ通告シタルコトヲ知得シタルハ英國政府ノ切ニ遺憾トスル所ナリ

英國政府ハ更ニ前記日本資本団ノ要求ニ対スル英米仏各資本団ノ態度ハ新借款団ノ範圍ヨリ滿蒙ヲ除外セムトスル如

本以外ノ他各団体ニ於テハ規約自体ノ条項ニ含ム事項以外他ニ何等留保スル所ナクシテ各自ノ有スル權利及「オブション」ヲ「プーリング」スルニ同意シタル次第ナルヲ以テ同一ノ定則カ他各団体一律ニ適用セラルヘキハ固ヨリ公正ナリトス

英國政府ハ日本政府ニ於テモ其ノ所見ヲ等シウシ日本資本団ヲシテ借款ノ範圍ヨリ滿蒙ヲ除外セムトスルノ要求ヲ撤回セシムルニ至ルヘシト信スヘキ理由ヲ有ス

千九百十九年八月十一日 英國外務省

三二六 八月十六日 内田外務大臣ヨリ 在英國珍田大使宛(電報)

巴里四國銀行家會議ノ決議承認及滿蒙留保通

告方ニ関シ訓令ノ件

第二六六号

松井大使發講第九八六号及第九九〇号五月十一日及十二日巴里ニ於ケル各國銀行団代表者會議ノ決議ニ付テハ篤ト考慮ノ結果帝國政府ニ於テハ右巴里會議決議ヲ確認セリ但シ右決議ノ確認ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル日本ノ特殊權

利及利益ニ何等不利ノ影響ヲ及ボスコトアルヘキモノナリト解釈スベカラザルハ勿論ナリトス就テハ小田切翼ヲシテ右ノ次第各銀行團ニ申入レシメラルト共ニ貴官ヨリモ往電第二六七号ノ通説明ヲ附シ任国政府当局ニ対シ以上ノ次第通告シ置カレ度シ

右米仏ニ転電シ且任国政府ニ対シ本件ノ次第通告スル様申添ヘラレ度シ

註 「勿論ナリトス」ノ次ニ括弧シテ閣議決定ノ英文全文ヲ挿入シアルモ前掲ニ付之ヲ省略シタリ(三二四文書参看)

三二七 八月十六日 内田外務大臣ヨリ 在英國珍田大使宛(電報)

滿蒙留保ノ通告ニ当リ先方ニ対シ為スベキ我方ノ主張根拠ニ関スル説明振ニ付訓示ノ件

別電 同日内田外務大臣宛在英國珍田大使宛電報第二六八号

日本ノ滿蒙ニ於ケル特殊地位ニ対スル各国政府当局ノ言明

第二六七号

往電第二六六号ニ関シ

スカ如キ事業迄モ挙ケテ國際財業團ノ共同活動ニ委セザルベカラザルガ如キハ到底我國論ノ是認セザル所ニシテ事実上行ハレ得ヘキコトニ非ズ之レ滿蒙ニ於ケル我特殊地位ヲ諒認セル任国当局ノ必ズヤ諒トセラルベキヲ確信ス

帝國政府ハ叙上ノ理由ニ依リ滿蒙ニ関スル留保ヲ主張セザルヲ得ザルモ亦之カ為新借款團ノ班ヲ脱シテ列國ノ協調ニ背クノ不利ヲ憂フルカ故ニ任国政府トノ折衝ニ当リテハ成ルヘク余地ヲ遺スコトヲ努メラレ度応酬ノ次第ハ隨時電報セラレ任国政府ニ於テ到底右主張ヲ認容スルノ望ナキコト明瞭ナルニ至ラハ別ニ請訓セラレタシ

右訓令トシテ米仏ヘ転電アリタシ

尚本電ノ趣旨ハ小田切翼ニモ篤ト申含メ置カレタシ

(別電)

八月十六日内田外務大臣宛在英國珍田大使宛電報第二六八号

日本ノ滿蒙ニ於ケル特殊地位ニ対スル各国政府当局ノ言明

第二六八号(別電)

一、英國ノ部

(1) 先年寧湘鐵道問題ニ関連シ南滿洲ト揚子江トノ比較ニ

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 三二七

貴官ハ任国外務大臣ニ面会ノ上右往電第二六六号通告ニ付左記ノ通説明ヲ加ヘラレ度

「(一)新借款團ニ「ブール」セラルヘキ事業ノ範圍ハ欧米諸國ニ取リテハ主トシテ單純ナル私利ノ問題タルニ止マルニ反シ日本ニ取リテハ日支兩國ノ地理上接近スル結果トシテ往々國家ノ緊切ナル利害問題ヲ包含シ殊ニ滿蒙地方ニ在リテハ國防並國民ノ經濟の生存ニ至大ノ關係ヲ有ス加之滿蒙地方ニ於ケル日本ノ地位ハ日本カ自衛上從來人命及國帑ニ多大ノ犠牲ヲ供シタル自然ノ成果ニシテ列國カ支那ノ一地方ニ於テ有スル地位トハ淵源及性質ヲ異ニス

(二)加之日本カ斯克滿蒙ニ於テ特殊ノ地位ヲ有スルコトハ從來任国当局ニ於テ之ヲ諒認セルコト一再ニシテ止マラサル所ナリ(別電第二六八号参照)

之ヲ要スルニ新借款團ノ成立ニヨリ支那ノ福祉ヲ増進シ關係各國ノ協調ヲ益々緊密ナラシムルハ日本ノ素ヨリ希望スル所ナリト雖滿蒙問題ニ対スル我國民一般ノ感覺ハ前記ノ特殊ナル理由ニ基キ特ニ鋭敏ナルモノアルヲ以テ日本カ滿蒙ニ於テ有スル特殊利益ニ不利ナル影響ヲ及ホ

付日英間ニ論争ヲ重ネタル際英國政府ハ南滿洲ニ対シ容喙セサル方針ヲ恪守スヘキコトヲ言明シ且英國ノ揚子江地方ニ於ケル地位ハ經濟的關係ニシテ右經濟的關係ヨリ云ヘバ南滿洲ト揚子江トハ正ニ相匹敵スヘキコトヲ主張スルト共ニ日本ノ南滿洲ニ対スル地位ハ經濟の以上ニ政治的利害關係アルコトヲ諒認セリ(大正三年貴電第二号及同年機密送第二四号等参照)

(2)大正四年中英國外務大臣ハ本多參事官及當時滯英中ノ石井大使ニ対シ支那ニ於ケル日本ノ發展ハ当然ノ運命ニシテ殊ニ滿洲地方ニ於テ然ル旨言明セリ(大正四年貴電第一四六号及第三九九号参照)

(3)本年七月十八日英國外務大臣代理ハ貴官ニ対シ滿蒙除外ノ不都合ヲ鳴ラスト共ニ南滿洲ニ於テ日本カ特殊ノ地位ヲ占ムルコト勿論ノ義ナル旨言明セリ(貴電第三〇二号)

(4)累次ノ日露秘密協約ノ内告ニヨリ日露兩國ノ滿蒙ニ於ケル特殊地位ヲ諒認セリ

一、米國ノ部

(1)大正四年三月十三日ノ所謂「ブライアン」公文ニ於テ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三二八

同國務長官ハ滿蒙地方ト日本國トハ領地接続ノ關係ヨリ特殊ノ關係ヲ形成スルコトハ米國ノ淡白ニ承認スル所ナリト言明セリ(右公文ハ當時在米大使ヨリ貴官ヘモ写送付済ノ筈)

(2)同年二月二十二日米國國務長官ハ米國側ニテ問題アリタル所謂第五号警察ノ件ニ付我大使ヨリ其ノ目的滿洲ニ在ル旨説明シタルニ對シ滿洲ナレハ日本ニ於テ特殊ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ了解ニ苦マズト述ヘタリ(同年在米大使發本省宛第六号)

(3)大正六年一月米國國務長官ハ我大使ニ對シ米國政府ハ支那ニ於ケル各國ノ優先權ハ承認スルコト能ハサルモ滿洲ハ別ナリト言明セリ(同年同大使來電第二六号)

(4)石井「ランシング」協定

(5)本年六月米國団代表者ハ吾代表者ニ對シ滿蒙除外ノ承認スヘカラサルヲ述フルト共ニ滿蒙ニ於ケル特殊利益ハ經濟上ノ問題ニアラスシテ右滿蒙除外ニ關スル日本ノ提案ハ財業者ノ論議スヘキ範圍ヲ超エタル極メテ重要問題ナリト云ヘリ(在仏大使發議第一四九一号)

一、仏國ノ部

果次ノ日露秘密協約ノ内告ニヨリ日露兩國ノ滿蒙ニ於ケル特殊地位ヲ諒認セリ  
右米仏ヘ転電アリ度シ

三二八 八月十六日 内田外務大臣ヨリ  
在英国珍田大使宛(電報)

滿蒙留保ニ關スル我主張根拠ヲ説明ノ際巴塘無線電信所建設問題ニ對スル英國ノ重大關心ヲ援用セラレ度件

第二六九号

往電第二六七号ニ關シ

右説明ノ際貴官ハ左ノ趣旨ヲ英國外務大臣ニ申添ヘラレタシ

貴電第三〇二号ニヨレハ「カーゾン」卿ハ三井ノ手ニテ四川省巴塘ニ無線電信所設立經營セラルルコトナレル旨ノ報道ニ言及シ同地ノ如キ西藏ヲ經テ印度ニ近邇セル要害ノ地点ニ於ケル通信機關ノ經營カ同盟國トハ云ヘ第三國ノ掌握ニ歸スルコトハ國防上ノ見地ヨリ到底英國ノ默視スル能ハザル所ナリトノ意見ヲ述ヘタル趣ノ処右三井側無線電信所

右訓令トシテ上海ヘ転電アリタシ

三三〇 八月十六日 梶原正金銀行頭取等ヨリ  
内田外務及高橋大藏兩大臣宛

巴里四國銀行家會議ノ決議ニ對シ日本銀行団ニ於テ異議ナキニ付認可方申請ノ件

去ル五月中仏國巴里ニ於テ日本及英米仏國銀行団代表者會合ノ上對支新借款団ニ關スル協議ヲナシ別紙<sup>(註)</sup>ノ通り決議スル処有之日本銀行団ニ於テハ之ニ對シ異議無之次第第二御座候間何卒御認可被成下度右決議第七末項ノ明文モ有之此段申請仕候也

大正八年八月十六日 横濱正金銀行  
頭取 梶原仲治(印)  
日本興業銀行  
總裁 土方久徵(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿  
大藏大臣男爵 高橋是清殿

註 別紙ハ五月十一日及同十二日ノ決議ナリ省略ス

三三一 八月十六日 内田外務及高橋大藏兩大臣ヨリ  
梶原正金頭取及土方興業總裁宛

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三二九 三三〇 三三一

設置ノ次第ニ付テハ帝國政府ニ於テ未タ何等情報ヲ有セズ目下事實取調中ナルモ「カーゾン」卿カ西藏ニ通スル地点ニ於ケル一通信機關ノ設置ヲ以テ直ニ印度辺疆ノ防備ニ對シ不安ノ念ヲ抱キ居レルニ顧ミルトキハ滿蒙カ我本國ニ近邇セル地理的地位ヨリ國防上ハ勿論我緊切ナル利益ニ重大ノ關係ヲ有シ從テ同地方ニ對スル我國民ノ感覺鋭敏ナル所以モ必スヤ十分其ノ了解セラルル所ナルヘキヲ確信ス  
右参考トシテ米仏ニ転電アリタシ

三二九 八月十六日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

新借款団ニ關スル中国朝野ノ意向及滿蒙除外贊否論ニ對スル論評電報方訓令ノ件

第一〇六一号

對支新借款団組織ニ關シ日本ハ滿蒙除外ヲ主張スルニ決セリ等ノ報道昨今頻リニ本邦新聞ニ於テ伝ヘラレ居リ右ハ自然貴地方ヘモ伝播セラルルコト考ヘラルル処支那朝野ノ新借款団組織ニ關スル最近ノ意向並ニ右滿蒙除外贊否論ニ對スル論評電報アリタシ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三三三

巴里四國銀行家會議ノ決議承認及滿蒙留保ニ

関シ示達ノ件

機密送第七二号

对支新借款团组织ニ関スル本年五月十一日及十二日巴里ニ於ケル日英米仏各国銀行団代表者會議ノ決議ハ日本銀行団ニ於テ異議ナキ趣ヲ以テ八月十六日付貴信ヲ以テ申出ノ次第有之候処政府ニ於テハ右巴里ニ於ケル各国銀行団會議ノ決議ヲ確認致候但シ右決議ノ確認ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル日本ノ特殊權利及利益ニ何等不利ノ影響ヲ及ホスコトアルヘキモノナリト解釈スヘカラサルハ勿論ノ義ニ有之候  
右及示達候也

三三二 八月十七日 内田外務大臣ヨリ 在米國出淵臨時代理大使宛 (電報)

巴里四國銀行家會議ノ決議承認及滿蒙留保ニ

関シ米國政府ニ通告及説明方訓令ノ件

第五九二号

貴電第五七五号ニ関シ

所ニ属シ此ノ特殊ナル帝國政府ノ立場ハ米國政府ニ於テモ十分同情ヲ以テ諒解セラレムコトヲ希望スル旨附言セラレタシ

右為参考英仏大使ヘ転電アリタシ

三三三 八月十七日 内田外務大臣ヨリ 在仏國松井大使宛 (電報)

新借款团ニ加入ノ自國団体ニ対スル政府ノ支

持ニ関スル仏國政府ノ提案ニ異議ナキ旨回答

方回訓ノ件

講第六七四号

貴電講第一二六四号ニ関シ

右政府支持ノ件ニ関スル仏國政府ノ提案ノ趣旨ハ畢竟新借款团ノ共同範圍ニ属スル事業ニ付新借款团ト他ノ資本家トノ間ニ競争アル場合ニハ新借款团ヲ支持スルト共ニ若新借款团トノ間ニ競争ナキトキハ本来新借款团ノ右共同範圍ニ属スル一定事業ト雖モ他ノ資本家ニ於テ之ヲ引受クルヲ得ヘク政府亦之ヲ支持スルヲ妨ケスト云フニ在リト認メラルル処果シテ然ラハ帝國政府ニ於テモ右仏國政府提案ニ対シ異存ナキニ付右ノ次第仏國政府ニ回答セラレ度シ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三三三 三三四

三四八

貴官ハ米國政府当局ニ会見ヲ求メ先ツ米國政府カ本件實書中隔意ナク其ノ所見ヲ披瀝セラレタル友情ニ対シ帝國政府ノ深厚ナル謝意ヲ伝ヘタル上帝國政府ハ本問題ノ各方面ニ亘リ熟考ノ結果本年五月巴里ニ於ケル四國銀行団代表者ノ決議ヲ承認スルニ当リ一定ノ留保ヲ附加スルノ已ムヲ得ザルヲ認ムルニ至リタル旨ヲ述ヘ在英大使ヨリ転電スヘキ同大使宛往電第二六六号ノ通告ヲ為スト共ニ同大使宛往電第二六七号ノ趣旨ヲ説明セラレタシ尚米國政府当局ヘノ卒直ナル内話トシテ支那問題ニ対スル利害關係カ日本ト列國ノ間ニ性質及程度ヲ異ニスル所アルノ事實ニ顧ミ我國内一般ニ新借款团ノ将来ニ於ケル作用ニ関シテ深甚ナル不安ノ念ヲ抱クノ実況ヲ叙シ日本國民ハ本計畫ノ發展ニ依リテハ滿蒙地方ニ於テ日本ノ現ニ享有スル地位ノ全然破壊セラルルニ至ルヘキヲ危惧シ殊ニ此ノ形勢ハ畢竟列國ノ圧迫ニ基クモノナルカ如キ感触ノ広ク行ハルルコトヲ述ヘ恰モ日本人ノ墨國其ノ他中米諸國ニ於ケル各種企業計畫ノ流説カ意外ニ米國人心ヲ刺激シ累次合衆國議會ノ議事ニサヘ上リタルト同シク日本國民ノ滿蒙地方ニ対スル感覺ノ極メテ鋭敏ナルハ實際ノ政治問題トシテ到底之ヲ無視スルコト能ハサル

右英米ニ転電シ且本件仏國政府ニ回答ノ次第任國当局ニ通告スル様申添ヘラレ度シ

三三四 八月十八日 首藤正金副総支配人ヨリ 内田外務大臣宛

对中国新借款团加入ノ日本団体組成銀行名ヲ

モントヘ通知ノ件

附屬書 六月二十七日附右通知書写

大正八年八月十八日

横浜正金銀行

副総支配人 首藤正寿 (印)

外務大臣子爵 内田康哉殿  
拜啓本邦ニ於ケル对支借款团组织ノ件ニ付「ラモント」氏ニ対スル通知書写入手候間茲許供貴覽候 敬具  
註 六月八日在仏松井大使宛内田外務大臣宛電報講第一二五四号末尾参照  
(附屬書)

六月二十七日附日本団体代表ヨリラモント氏宛通知書写

Copy.

June 27th, 1919.

三四九

Mr. J. W. Lamont,

Hotel de Crillon,

PARIS.

Dear Sir,

I beg to inform you that I have just received a cablegram from Tokio to the effect that the Japanese Group of the New Consortium for financing China is constituted of the following eighteen banks:

The Yokohama Specie Bank, Ltd.,

The Industrial Bank of Japan,

Bank of Chosen,

Bank of Taiwan,

The First Bank,

The Fifteenth Bank

The Mitsui Bank,

The Hundredth Bank,

The Yasuda Bank,

The Mitsubishi Bank,

The Thirty-fourth Bank,

The Omi Bank,

The Naniwa Bank,

The Konoike Bank,

The Sumitomo Bank,

The Yamaguchi Bank,

The Kajima Bank, (The Kashima Bank)

The Third Bank.

I remain,

Your Very truly,

三三五 八月十九日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙除外ニ対スル中国各紙ノ論評報告ノ件

第一一六五号

(八月十九日接受)

貴電第一〇六一号ニ関シ

帝國政府滿蒙除外決意云々ノ報道ハ路透電報等ニヨリ当地ニモ伝ハリタルガ右ニ関シ八月十八日ノ「ペキン、デリー、ニュース」ハ是レ日本軍閥ノ勝利ヨリ彼等一派ノ打算の現金主義ニ基キ滿蒙ニ於テ自由行動ヲ留保セントスルモ

モノアリ(不明)報ノ反对論委細郵報ス  
上海へ郵送セリ

三三六 八月二十一日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙留保通告ノ訓令ハ英國政府ノ右撤回要請

ニ拘ラズ之ヲ敢行ノ趣旨ナリヤ為念請訓ノ件

講第一八七五号 至急

(八月二十三日接受)

在英大使宛貴電第六二五号対支新借款団滿蒙除外交渉ノ件ニ関シテハ屢次電報ニテ御承知ノ通英米側ノ態度甚ダ強硬ナルモノアリ我主張ノ貫徹困難ナルノミナラズ今日之ヲ持出スハ大局上我ニ不利益ヲ齎スコトヲ保セズトモ思考セラ  
ルル処本件ノ御決定ハ本月十三日ノ外交調査会ニテ為サル  
ル趣(在英大使宛貴電第六〇四号) 承知致居リ本件貴電第  
六二五号ハ或ハ右十三日外交調査会ノ結果ト存(ゼラルル  
処右ハ) 在英大使宛大臣宛第三四一号(八月十二日倫敦  
發) 英國政府ノ意見ト行違ニ本件御決定ヲ見タルコト察  
セラル右英國政府ノ意見御査閱後ト雖本件ハ貴電第六二五  
号ノ通各國政府へ申込ムヘキ御趣旨ナリヤ事重大ト認メラ

ノナルヘク其ノ山東ニ言及セサルハ特ニ時局ニ顧ミタル為  
カ、日本ノ斯カル態度ノ影響如何ハ予測シ難キモ若シ日本  
ニシテ強硬ニ之ヲ主張シ新財団加入ヲ拒絶スルニ於テハ政  
治上經濟上共ニ孤立ノ地位ニ陥ラント論シ北京天津「タイ  
ムス」北京通信ハ日本ノ主張ハ甚タ虫ノヨキ申分ニシテ從  
来支那ガ仕來レル滿蒙ノ門戸開放主義ヲ覆スモノナリ日本  
カ斯カル態度ニ出デタル理由ノ一ハ過去数年如何ハシキ手  
段ニ依リ滿蒙方面ニ幾多ノ借款ヲ締結シタルニ今之ヲ新財  
団ニ移スニ於テハ勢ヒ内情ヲ暴露スルニ至ル為ナリト信ゼ  
ラル今ヤ山東問題米國上院ニ囂々タルノ時日本ノ斯カル態  
度ハ極度ノ不信ヲ招キ甚シキ不利ニ陥ルヘシト論セリ尚「  
アジアティック、ニュース、エージエンシー」ハ英仏カ各  
其ノ特殊利益ヲ拋棄セルニ拘ラス日本ノ滿蒙除外要求ハ新  
財団ノ効果ヲ減殺シ到底米國側ノ容ルル所トナラサルヘク  
結局日本ノ斯カル要求ハ財団加入拒絶ニ齊シ日本当局ノ再  
考ヲ要ストノ通信ヲ出シ居レリ漢字新聞ニハ未タ滿蒙除外  
問題ニ付真面目ニ論シタルモノナキモ新借款団組織自体ニ  
対シテハ(不明)日報ヲ始メトシ一般ニ反对ヲ表シ居レリ  
内ニハ日本ヲ一員トスル借款団ニハ同意シ難シト論シタル

ルルニ付念ノ為経伺ス

尙小田切異ヨリ英米銀行家ニ対シテ為シタル満蒙除外ノ交渉文書ノ（在英大使宛大臣宛第二五〇号）all the rights and options held by Japan should be excluded from arrangements for pooling ト今回ノ all the rights and interests 云々ノ御趣旨トハ較々其ノ意味ヲ異ニセルヤニモ存セラルルニ付此等ノ点ニ関シ詳細御垂示ヲ仰キタシ將又在英大使宛電第二五二号御申聞ノ件ハ英仏兩國政府ヘハ未タ何等挨拶ヲ与ヘ居ラス在英、米大使ヘ転電セリ

三三七 八月二十一日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

満蒙留保通告ニ関スル訓令ノ解釈ニ付訓訓ノ件

第三六九号 （八月二十五日接受）

貴電第二六六号ニ関シ  
「カーゾン」卿休暇中ニテ已ムナク明二十二日次官ニ面会御訓令執行致スベキモ「日本ノ特殊權利及利益ニ何等不利ノ影響ヲ及ボスコトアルベキモノナリト解釈スベカラズ」

トアルハ現存借款中一部ハ之ヲ國際財業団体共同活動ニ委スル能ハズ即チ或者ハ此ノ際「プール」ニ提供セラレズトノ意ニモ解セラルル処右除外セラルベキ実例含ミノ為内容御回示アリ度ク若シ該留保ハ新借款団将来ニ於ケル作用ニノミ関シ為サレタルモノニシテ今回改造ニ当リテハ決議通り現存契約及優先權ヲ全部提供スル我が覺悟ナルニ於テハ其ノ旨御垂示ヲ請フ

英、仏ニ転電セリ

三三八 八月二十二日 在上海有吉総領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

新借款団ニ関スル上海各紙ノ論調報告ノ件

第三四九号 （八月二十三日接受）

貴大臣宛在支公使宛電報第一〇六一号ニ関シ新借款団ニ対シテハ当地方官民ハ之ヲ既定ノ事実ト認メ格外ノ注意ヲ払ハズ其國家ノ前途ニ及ボス影響ノ如何ノ如キ深ク考慮シ居レルモノ少ク諸新聞ニ至リテモ内外ノ電報等ニ依リ之カ經過ヲ報道シ若ハ外字新聞又ハ日本ノ諸新聞等ニ表レタル意見等ヲ記載セルモノアルニ止マリタル処最近我方ノ右ニ加

入方ニ関シ廟議ニ意見ノ一致ヲ欠ケル旨及閣下ノ無条件加入説ガ田中陸相等ノ満蒙除外論等ノ為ニ破ラルル所トナリタリト報道セルニ対シ「ノース、チャイナ、デリー、ニュース」ハ十九日其社説ニ於テ「フリー、ハンド、フォア、ジャパニーズ、ミリタリスト」ト題シ右ヲ軍閥ノ勝利ト目シテ例ニ依リ酷評ヲ弄セルニ刺戟セラレテ漢字新聞中論評ヲ試ムルモノ漸ク多ク即チ十九日ノ申報ハ新銀行団ノ設ケラレントスルハ我方ノ為ニ利益ナル企ニシテ從來ノ借款方法ヲ改善セントスルニ在ルト同時ニ他方各國投資ノ平均ヲ計リ競争ヲ消滅セントスルニ在リ若シ満蒙ヲ例外ニ置カバ将来其名ヲ借りテ单独借款計画根本ヨリ破壊セラレ前途種々ノ危険ヲ生ジ必ズ英米仏ノ争フ所トナルヘシ若シ満蒙ノ除外ガ日人同地方ニ於テ勢力ヲ有スル為ナリトセバ中国南部ニ在リテ勢力ヲ有スル他國ハ更ニ例外ヲ求ムヘク銀行団ヲ設クル必要何レニ在リヤ要スルニ如斯ナラシムルモノ我國借款ヲ以テ生活スルカ為ナルヲ思ヘバ痛心ニ堪ヘザルナリト云ヒ同日ノ民國電報ハ段ノ日派ヲシテ秘密ニ日本國ニ向ツテ売國的借款ヲ締結セシムルヨリハ我銀行団ヲシテ公開的ニ國際借款ヲ結ハシムルニ如カズ日本カ満蒙除外ヲ求

ムルハ其特殊地位ヲ確立シ野心ヲ發展セントスルモノニシテ全ク新銀行団ノ本意ニ反ス  
斯ノ如キ要求ヲ承認スルニ於テハ其存立ノ必要ナルベク必ス無条件ニテ加入セシムベキモノナリト論ジ二十一日ノ新聞報ハ内田外相無条件加入説ハ俄ニ多数ノ反対スル所トナルト日人ノ意ハ友邦ニ対シ協同組織ヲ破壊スルヲ惜マス我國ニ対シテ侵略ノ誤解ヲ惹起スルヲ顧ミズ外債ヲ待テ生活スル我政府ハ隣邦ノ計画ニ向テ感想如何日本ヨリ借款シテ利ヲ為スモノ（不明）ニ及ハザルハ吾人ノ甚シク（脱）日ノ中華新報ハ新銀行団ノ利害ハ自カラ応サニ慎重ニ考慮シ適宜意見ヲ求ムベシ思フニ特殊勢力ヲ否認セバ尚ホ機會均等ノ意思ニ背カザルベク日本果シテ野心ナクバ即チ無条件ニ加入シテ各國ニ示スベク軍閥ノ反対ニ依リテ満蒙除外ヲ要求シ満蒙ハ彼ト存亡ノ關係アリト云フガ如キハ其侵略ヲ明示スルノミナラズ我ヲ以テ第二ノ朝鮮ト為スモノナリト説ケリ將又本問題ニ関シ唐紹儀ハ新銀行団ハ旧組織ニ比シ範圍拡大セラレ未タ全ク賛意ヲ表シ難ク寧ロ支那側ニ於テ一ノ機關ヲ造リ各國ヨリ借款ヲ為スノ國家存立上危險少シト認ムルモ若シ一党一派ヲ助クルカ如キコトトナラザル

限り強テ反対スルノ要ナク日本ガ滿蒙ノ除外ヲ主張スルガ如キ借款团组织ノ趣意ニ反シ極メテ不同意ヲ表セザルヲ得ズトシ孫文、孫洪伊等又略同様ノ意見ヲ有シ居リ要スルニ借款团ニ対シテハ輿論極メテ冷淡ニシテ我滿蒙除外論ニハ一樣ニ反対シ居レル狀況ニアリ畢竟中外人共我方ノ方針軍閥ノ勢力ニ制セラレツツアリトノ觀念ガ本件ニ付テモ亦我方ニ対スル常時猜疑ノ原因ヲ為シツツアルモノト認メラル(二十二日)

三三九 八月二十二日 在英国永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙留保通告ニ関スル訓令執行見合セタル件

第三七二号 (八月二十四日接受)

往電第三六九号ニ関シ

在仏大使發講第一八七五号転電ニ接シタルニ付キ本日訓令執行並ニ銀行团ヘノ申入レハ見合ハセタリ  
米、仏ヘ転電セリ

三四〇 八月二十二日 在米國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

置キタリ長官ノ語氣ニ付察スルニ我方ヨリ留保ノ回答ヲナス時ハ我ニ向ヒテ応酬ヲ重ネテ再考ヲ求ムルノ手續キヲ取ルコトナク或ハ直チニ我ヲ除外シテ事ノ進行ヲ計ルガ如キ態度ニ出ヅルヤモ計リ難ク從ツテ在英大使宛電第二六七号末段御申越ノ余地ヲ殘スコト或ハ困難トナルガ如キ場合アルベキカト懸念セラル右御参考迄ニ。

英仏大使ヘ転電セリ。

註 前掲三一四文書別電及三一五文書附屬書

三四一 八月二十三日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本ノ滿蒙留保ニ関スル京津タイムスノ論調

報告ノ件

第一一七二号 (八月二十四日接受)

八月二十二日「ペキン、アンド、テンシン、タイムス」ハ「日本及ビ銀行团」ナル社説ニ於テ日本ハ軍閥ノ主張ニ依リ新財团ヨリ滿蒙除外ヲ要求スルニ至リタルガ日本ハ最初ヨリ新財团ノ成立ヲ願ハズ内田外相等ノ無条件加入論者ト雖日本ノ滿蒙ニ於ケル特殊地位ハ特ニ列國ノ承認セル処ナ

滿蒙留保通告ノ訓令執行見合並右留保問題ニ  
関シ國務長官ノ談話ニ付報告ノ件

第六二四号(至急) (八月二十四日接受)

滿蒙留保問題ニ関シ曩ニ往電第四七三号ヲ以テ縷々卑見ヲ稟申シ置キタル処今回貴電第五九二号ヲ以テ帝國政府ニ於テハ諸般ノ關係上右留保ヲ必要トセラルル趣ヲ以テ往電第五七五号米國政府申出ニ対スル回答振リ御訓令相成リ次第在英大使ヨリ同大使宛電第二六六号及第二六七号転電ニ接シタルニ付一括シテ右篤ト研究中二十二日朝在仏大使ヨリ同大使發閣下宛講第一八七五号ヲ転電シ来レルニ依リ右ニ対スル何分ノ御回訓ヲ俟ツ方適當ナルベシト思量シ御訓令執行ヲ差控ヘ居リタル処二十二日朝國務長官ニ面会往電第六二三号会谈後長官ヨリ最近東京ヨリノ電報ニ依レバ外交調査会ニ於テ滿蒙留保ノコトニ決定シタル趣ナルガ帝國政府ニ於テ飽迄右留保ヲ主張セラルルニ於テハ米國政府トシテハ遺憾ナガラ其適當ト認ムル措置ニ出ヅル外ナキ次第ナルガ兎ニ角成ルベク速ニ七月三十日附米國政府覽書ニ対シ回答ヲ希望スル旨申出デタリ仍テ本官ハ近ク数日内ニ何分ノ回答ヲ為シ得ル運ニ至ルベシト思量スル旨談白ト答ヘ

レバ特ニ之ヲ条件トスルニ及バズトナシ彼日本ハ列國ノ拒絶ニ対シ容易ニ屈セザルベク延イテ支那政界一部ノ反財团運動ヲ煽動スルノ効果アルベキガ結局日本自身ノ永劫ノ利益ニ反スルコトナルベシト論ゼリ

三四二 八月二十三日 在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙留保ニ関シデリー、ニユース紙論評ノ件

第三五二号 (八月二十四日接受)

八月二十三日「デリー、ニユース」ハ Viscount Uchia ナル題目ノ下ニ社説ヲ掲ゲ新借款团加入ニ関スル八月十四日外交調査会ニ於ケル論争トシテ伝ヘラレタル処ニ対シ評論ヲ加ヘ内田子爵ノ主張セル点ハ曩ニ日本ノ友人ニ依リ反覆痛論セラレタル処ニシテ洵ニ同子ノ論議ノ稱賛ス可キモノナルハ之ヲ認ム可キナリトシ、始メ外交調査会ハ内田子ニ賛成セシニ不拘新借款計画ニ於テ日本ノ理論上得ル処ノ利権ハ加入國ニ比シ決シテ大ナラザルヲ認知スルヤ彼ヲ抛擲シ彼ニ対スル a vote of censure トモ称スベキモノ

ヲ通過シ滿蒙保留ニ関スル軍人派ノ主張ニ和シ以テ本借款ノ成立ヲ無効ナラシメタリト為シ次ニ日本軍閥ノ对支政策ノ誤謬ヲ指摘シ終ニ自滅ニ終ラント論ジタル後若シ日本ニシテ四借款團ニ無条件加入ヲ為シ進ンデ同ジク膠州ヲ支那ニ還附スルノ襟度ヲ披瀝センカ日本ノ支那ニ於テ収ムル処ノ収獲蓋シ無限ナラントシ最後ニ日本ニ於テハ内田子ノ外ニ猶ホ先覺ノ士少ナカラザル可ク此等先覺者ガ一日モ早く軍人派ニ対シ勝利ヲ博センコト切望ニ不堪トシ居レリ

三四三 八月二十四日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙除外ニ対スル新聞論評ニ関シ報告ノ件

第一一七五号 (八月二十七日接受)

貴電第一〇六一号ニ関シ

対日感情ノ惡辣ナル今日我が滿蒙除外ノ主張ニ対スル支那側ノ神經ハ過敏ニシテ觀察ハ至ツテ簡單ナリ一般ハ新借款ノ成立後支那ノ事態如何ヲ顧慮スルニ暇アラズシテ先ヅ日本軍閥ノ跋扈ヲ恐レ日本ハ滿蒙ヲ第二ノ朝鮮トスルノ野心アリト危惧セリ八月二十日ノ晨報ハ日本ノ滿蒙ヲ除外セン

ヨリ(不明) 新借款團ノ成立ヲ必要トセズ是第二ノ策ニシテ日本加入ノ新借款團ヲ承認セザルハ第三策ナリト言ヘリ

三四四 八月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在米國出淵臨時代理大使宛(電報)

滿蒙留保ニ関スル通告ハ訓令通り執行セラレ

度旨指示ノ件

別 電 同日内田外務大臣宛在米出淵臨時代理大使宛電  
報第六一三号

第六一二号(至急)

貴電第六二四号ニ関シ在仏松井大使來電講第一八七五号ニ対シテハ別電第六一三号ノ通り本大臣訓令トシテ松井大使ヘ又參考トシテ永井代理大使ニ転電セラレ度尙貴電第六二四号後段御懸念ノ次第ハ篤ト考量ヲ加ヘタルモ政府トシテハ差当リ既定ノ方針ニ依リ進行スルノ外ナキニ付及フ限リ本件折衝上余地ヲ遺スコトニ努メラルト共ニ本省発在英大使宛往電第二六六号以下ノ通り御措置アリタシ  
右英仏ニ転電セラレタシ

(別 電)

八月二十六日内田外務大臣宛在米國出淵臨時代理大使宛電

トハ軍閥派ノ(脱) 鐵道沿線ノ(脱) 光景ヲ呈スルニ至ラント言ヒ又國民公報ハ日本ノ滿蒙ヲ除外シテ加入セントノコトハ結局新借款ヲ不成立トシ旧借款團解散ハ不可能ニシテ支那ノ軍閥ハ日本ノ軍閥ト提携スルコトナリ其ノ影響恐レベシ吾人ハ英、米、仏國ガ必ズ新借款團最初ノ目的ヲ貫徹スベク日本ノ要求ヲ拒絕スベキヲ希望スルモノナリト言ヒ八月二十二日ノ民新報(交通系)ハ吾人ハ新借款團ヲ不当トシ之レガ改正ニ就テハ別ニ意見ヲ有スルモノナルモ要スルニ各國ガ其ノ特殊ノ利權ヲ全部提供シテ公正ニ支那ノ開發ヲ援助センコトハ素ヨリ其希望スル処ナルモ鐵道共同管理ヲ其必要的手段トスルハ解シ難シ吾人ハ我が米仏ノ各友邦ニ望ム宜シク先ツ其ノ(不明) 第二条ノ無限ナル壟斷の專橫權ヲ廢止シ且ツ鐵道共同管理ヲ行ハザルベシト改正スベク是抑モ又日本ノ滿蒙除外要求ヲ拒絕スル最善ノ手段ナリト論ジ又例ノ益世報ハ八月二十二日ノ紙上本件ニ言及シテ世界今日貸シ得ルモノハ独リ米國アルノミ日本ノ一時的の成金ハ謂フニ足ラズ米國ノ英仏國ヲ引誘シテ新借款團ヲ組織セントハ他國ノ猜忌ヲ避ケントテナリ支那ノ為メニ計レバ節儉自ラ其ノ無限ノ富源ヲ開拓スル第一策トシ米國

報第六一三号

滿蒙留保ニ関シテハ英國政府ノ申出ニ拘ラズ訓令ノ通り通告セラレ度旨在仏國松井大使ニ指示ノ件

第六一三号 別電(至急)

松井大使ヘ左ノ通り

貴電講第一八七五号ニ関シ英國政府ノ申出ハ畢竟本省宛在米代理大使來電第五七四号米國政府申出ト大体同趣旨ニテ且本省宛在英大使發電第三〇二号「カーゾン」外相代理ノ所見ニ徴スルモ英國政府ニ於テ一応斯ル所見ヲ抱ケルコトハ推測ニ難カラサリシ所ナリシモ本省發在米代理大使宛往電第五九二号後段ノ通り新借款團活動範圍ノ問題ハ歐米諸國ニ取リテハ何等其ノ本國ノ緊切ナル利益(vital interests)ニ接觸スル所ナキニ反シ帝國ニ取リテハ往々國家ノ安全ニモ影響ヲ及ホスコトアルヘク殊ニ滿蒙地方ニ関シテハ此ノ見地ニ基ク國民一般ノ危惧ノ念一層深甚ナルニ顯ミ日本政府ハ實際ノ政治問題トシテ本省發在英大使宛往電第二六六号所載ノ方針ヲ執ルノ外ナク此ノ方針ハ固ヨリ利益壟斷又ハ侵略主義ニ起見スルモノニ非ザルニ付我趣意ノ徹底スル様及フ限リ御配慮アリタク尤モ之カ為メ新借款



三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三四五 三四六

団ノ班ヲ脱スルハ不得策ナルカ故ニ任國政府トノ折衝ニ当  
リテハ成ルヘク余地ヲ遺スコトニ努メラルト共ニ速ニ前  
電通り御措置相成度シ次ニ貴電講第一八七五号後段小田切  
異ヨリ英米銀行家ニ提示セル案ハ本省発在英大使宛往電第  
二六六号通り執行ノ結果ハ自然消滅ニ帰スルモノト御承知  
アリタシ

三四五 八月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在英國永井臨時代理大使宛 (電報)

英國政府ニ対シ滿蒙留保ノ通告ヲ為スト共ニ

我方事情説明及懇談方訓令ノ件

第二八三号

貴電第三四一号ニ関シ

貴官ハ本省宛在仏松井大使來電講第一八七五号ニ対スル当  
方回電御査閲ノ上英國政府当局ニ会见ヲ求メ英國政府カ本  
件覚書中隔意ナク其ノ所見ヲ披瀝セラレタル友情ニ対シ帝  
國政府ノ深厚ナル謝意ヲ伝ヘタル上帝國政府ハ本問題ノ各  
方面ニ亘リ熟考ノ結果本年五月巴里ニ於ケル四國団代表者  
ノ決議ヲ承認スルニ當リ一定ノ留保ヲ附加スルノ已ムヲ得

滿蒙留保問題ニ関シ至急帰英ノ上英國当局ニ

対シ我方ノ立場ヲ懇説セラレ度旨珍田大使ニ

指示ノ件

第三三八号 (至急)

珍田大使ヘ左ノ通り

新借款問題ニ関シ任國政府ニ申入方ニ関シテハ永井代理大  
使宛往電第二八三号等ニ依リ委曲御承知アルヘキ通り本件  
ハ帝國政府ノ極メテ重要視スル所ニシテ我希望ヲ貫徹スル  
ニ就テハ英國政府ノ同情アル了解ヲ得ルコト極メテ必要ト  
存スルニ付巴里ニ於ケル御都合相着ク限り貴官ハ至急一時  
帰英シ英國当局ニ面会ノ上前記諸電訓ノ趣旨ニ依リ帝國政  
府ノ立場ヲ懇篤説明セラレ其ノ友好的考量ヲ促サルル様特  
ニ御尽力アリタシ

三四八 八月二十六日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

日本団体ノ滿蒙除外主張ヲ抛棄セシムル様日

本政府ヨリ訓令セラレ度旨仏國政府申越ノ件

講第一八九九号 (八月二十八日接受)

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三四八

三四七 三五八

サルヲ認ムルニ至リタル旨ヲ述ヘ往電二六六号ノ通告ヲ為  
スト共ニ往電第二六七号及第二六九号ノ趣旨ヲ委曲説明セ  
ラレ尙英國当局ヘノ卒直ナル内話トシテ本省発在米代理大  
使宛往電第五九二号後段 (但シ墨國其他中米諸國ニ関スル  
点ヲ削除ス) ノ趣旨ヲ附言セラレ英國政府ヲシテ帝國政府  
ノ立場ヲ篤ト了解セシムル様十分御尽力アリタシ  
右為参考仏米ヘ転電アリタシ

三四六 八月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛 (電報)

我留保ノ対象ハ滿蒙ニ於ケル「特殊ノ權利及

利益」ナル旨指摘ノ件

第六九二号 (至急)

貴電講第一八七五号中ニハ「今回ノ all the rights and  
interests」云々トアルモ本省発在英大使宛第二六六号ニハ  
「the special rights and interests」云々ト申進シタル  
次第ニ付右為急不取敢電報ス  
右英米ニ転電アリタシ

三四七 八月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛 (電報)

八月二十三日附仏國外務省ヨリ在仏大使宛左記「ノート」  
送附アリタリ

対支借款団ニ対シ關係國政府ヨリ与フヘキ支持ニ関スル米  
國政府ノ提議 (在米大使宛大臣宛第四九一号) ニ付キ仏國政  
府之ニ同意ヲ表シタル次第ハ曩ニ七月十七日附書簡ヲ以テ  
日本政府ニ通告シタル通 (往電講第一六九八号) ニシテ本  
問題解決ニ依リ借款団ヲシテ既ニ甚シク遷延セラレタル其  
活動ヲ開始セシメ得ヘキヲ期待シタル処、聞ク処ニ依レハ  
日本銀行代表者ハ聯合國銀行団ニ対シ日本カ滿洲及ヒ蒙古  
ニ於テ有シタル權利及ヒ「オブション」ハ借款団契約ノ規  
定ヨリ除外センコトヲ申出テタル趣ナリ

仏國政府ハ本件除外ノ如キハ政治問題ニシテ政府ヲ措キ  
銀行団ニ依リテ提起スベカラズ又決定スベカラザル問題ナ  
リトノ意見ヲ表明セザル可ラズ

仏國政府ハ其關スル限り該除外ハ目下適當ナルモノニ非  
ズ而シテ聯合國及ヒ同盟國ノ取來レル対支政策ニ反スルモ  
ノト認ム蓋シ全支那ヲ開放シテ國際借款団ノ活動ニ委スル  
コト並ニ支那鬭爭ヲ終止セシメントスル聯合國ノ努力ニ背  
馳スルノ結果ヲ生スヘキ勢力範圍ノ創設ヲ助成セザルコト

ニ付テハ聯合國ニ於テ固キ希望ヲ表明シタル所ナレハナリ  
依テ仏國政府ハ日本政府ニ於テ日本銀行団代表者ヲシテ  
其要望ヲ拋棄セシメ以テ英、仏、米ノ代表者同様巴里會議  
ニ於テ決議セラレタル協定ノ条件ニ從ヒ其權利及ヒ「オプ  
ション」ヲ借款団ニ提供セシムルタメ之ニ訓令ヲ与ヘラレ  
ンコトヲ希望ス

三四九 八月二十七日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

## 滿蒙留保ニ関シ既定方針堅持ニ付通報ノ件

第一〇九九号  
往電第一〇九七号ニ関シ

松井大使ニ対シ大要滿蒙留保問題ニ対スル帝國政府ノ立場  
ハ往電第一〇七一号以下ノ通りニテ今回決定ノ我方針ハ固  
ヨリ利益墮斷又ハ侵略主義ニ起見スルモノニ非ザルニ付我  
趣旨ノ徹底スル様及フ限リ努ムルコトトシ速ニ前電通り措  
置スヘキ旨電訓シ又在米代理大使ニ対シテハ往電第一  
〇九六号後段同代理大使懸念ノ次第ハ篤ト考慮ヲ加ヘタル  
モ政府トシテハ差当リ已定ノ方針ニ依リ進行スル外ナキニ

## 貴電第六一三号ニ関シ

八月二十七日國務省第三次官ニ会见ノ上本官ヨリ在英大使  
宛貴電第二六六号英文覚書ヲ手交シ次テ同大使宛貴電第二  
六七号及本官宛貴電第五九二号御訓令ニ基キ予メ作製シ置  
キタル書付ニ基キ委曲我立場ヲ説明シ且先方ノ希望ニ從ヒ  
手控トシテ之ヲ写シトラシメ尚ホ本官ノ私見トシテ日清戰  
役後遼東還附ヨリ説キ起シ義和團變後露國ニ於テ事實上滿  
洲ヲ占領シ外國領事ノ駐在ヲ許サザリシ事情ヲ述ヘ當時米  
國其他ノ諸國ハ単ニ抗議ヲ繰返スノミニテ何等為スナキニ  
当リ我國独リ敢然トシテ露國ト戰フ交ヘ多大ノ犠牲ヲ払ヒ  
露國ノ勢力ヲ驅逐シタル結果今日滿洲ハ世界ノ貿易ノ為開  
放セラレ現ニ關東奉天大連等ニ於テ米國領事遺憾ナク執務  
シ得ルニ至リタル次第ナルコトヲ詳細説明シ滿蒙ニ対スル  
日本ノ國論ノ極メテ鋭敏ナルモノアルハ当然ノ成行ニシテ  
今回帝國政府ニ於テ新借款団参加ノ条件トシテ滿蒙除外ヲ  
為シタルハ誠ニ已ムヲ得ザルニ出デタル次第ヲ切言シ且右  
留保ハ主義上ノ問題ニ属シ日本ハ之ヲ楯ニ採リ將來滿蒙ニ  
於ケル一切ノ事業ヲ独占セントスルモノニハアラス將來同  
地方ノ發展ニ伴ヒ必スヤ我実業家ニ於テ米國及其他ノ実業

付及フ限リ本件折衝上余地ヲ遺スコトニ努ムヘキ旨電訓シ  
又在英永井代理大使ニ対シ往電第一〇八七号英國政府申出  
ニ対シテハ往電第一〇八三号米國政府ニ対スル回答ト同様  
ノ趣旨（英國当局ヘ内話スヘキ部分ハ墨國其ノ他中米諸國  
ニ関スル点ヲ削除ス）ニテ挨拶シ英國政府ヲシテ帝國政府  
ノ立場ヲ篤ト了解セシムル様尽力スヘキ旨電訓セリ

註1 在仏大使來電講第一八七五号全文（三三六文書）ヲ転電  
シタルモノ

2 在英大使宛往電第二六七号全文（三二七文書）ヲ転電シ  
タルモノ

3 在米出淵臨時代理大使來電第六二四号全文（三四〇文  
書）ヲ転電シタルモノ

4 在英永井臨時代理大使來電第三四一号全文（二二三文  
書）ヲ転電シタルモノ

5 在米出淵臨時代理大使宛往電第五九二号全文（三三二文  
書）ヲ転電シタルモノ

三五〇 八月二十八日 在米國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

## 滿蒙留保ニ関シ通告及説明ヲ行ヒタル件

第六三七号 （八月二十九日接受）

家ト協同シテ幾多ノ企画ヲ為ス場合アルヘキヲ附言シタル  
ニ次官ハ日本國民カ滿蒙ニ対シ痛切ナル利害ヲ感シ居ルモ  
ノナルコトハ充分之ヲ了承スルモ米國ノ提議ニ係ル門戸開  
放機會均等主義ニ贊同セル日本カ滿蒙ニ対シ特ニ留保ヲ為  
スコトハ主義上ノ点ニ於テ米國ノ同意シ得ザル所ナリト述  
ヘ尚ホ最近聯合通信（別ニ電報ス）ニ依リ伝ヘラルル所ニ  
依レハ現ニ内田外相ノ如キハ滿蒙留保ニ反对セラレタルニ  
拘ラズ陸軍側ニ於テ之ヲ固持シタリトノ事ナルガ果シテ然  
リトセハ日本ノ為誠ニ惜ムヘキコトナリト附言セリ將又今  
回御訓令ノ趣旨ハ本来國務長官ニ申入ルヘキ筋合カトハ存  
ジタルモ長官ハ連日議會又ハ「ホワイト、ハウス」ニ詰切リ  
緩々會談ノ機會ヲ得ルコト困難ナルト同時ニ第一次官「フ  
イリップス」ハ共和黨ニ属シ且健康上ノ關係モアリ過般來  
久シク休暇ヲ得テ執務シ居ラズ第二次官「エーデー」ハ事  
実政務ニ参与スルコトナク目下第三次官專ラ國務省ノ事務  
ヲ總括シ居リ殊ニ借款問題ハ同官ノ變理シ來レル事柄ナル  
ニ顯ミ本官トノ親交ヲ利用シ委曲我立場ヲ説明シ且ツ御訓  
令ノ趣旨ニ從ヒ出來得ル限リ交渉ノ余地ヲ殘スノ見地ヨリ  
シテ特ニ同官ニ会见シタル次第第二付為念申添ユ

英仏へ電報セリ

三五二 八月二十八日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

新借款団ニ加入ノ自國団体ニ対スル政府ノ支持ニ関スル仏國提案ニ対シテハ單純ニ異議ナキ旨ノミヲ回答シ可然哉ニ付稟申ノ件

講第一九一四号

(八月三十日接受)

貴電講第六七四号御申越ノ次第ニ関シ  
元ト新借款団組織ニ当リテハ将来ノ対支借款ハ出来得ル限リ借款団ニ於テ一手ニ之ヲ引受ケ以テ各資本家ノ自由競争並是等競争ヨリ生ズル面白カラザル影響ヲ避ケントスルノ趣旨ナリシコトハ同借款団組織ニ関スル最初ノ提議及五月十一日巴里ニ於ケル銀行団代表會議ノ決議第二項C等(往電講第九八六号)ニ依ルモ推測ニ難カラザル所ナルカ今前記貴電御申越ノ次第ヲ持出スハ我方ニ於テ右新借款団成立ノ趣旨ニ反シテ借款団ニ属セザル資本家ニ支持ヲ与ヘ以テ借款団以外ニ活動セシメンコトヲ予期シ之ヲ活動セシムルノ素地ヲ今ヨリ見出サント努メツアルカ如キ疑ヲ抱カン

三五二

八月二十九日 内田外務大臣ヨリ  
在英國永井臨時代理大使宛(電報)

滿蒙留保ノ解釈ニ関シ滿蒙五鐵道及吉会鐵道  
ハ新借款団ノ活動範圍ニ投入シ得ザル旨等小  
田切及巽ニ伝達方指示ノ件

第二八九号

貴電第三六九号ニ関シ

八月二十一日貴地正金支店ヨリ本店ニ対シ(一)帝國政府ハ巴里會議決議ヲ承認スル以上ハ滿蒙五鐵道及吉会鐵道ヲ Pool スルモノト解シ差支ナキヤ(二)若シ然ラハ往電第二六六号但書ノ条件ハ或ル格段ノ事業ニシテ本邦ノ特殊權利及利益ニ不利ノ影響ヲ及ホスモノニミ備フル留保ト看做シ然ルヘキヤ回電ヲ得タキ旨電報シ来リタル趣ノ処右ニ対シテハ貴官ヨリ左ノ通り小田切巽ノ含ミ迄ニ伝ヘラレ度尙貴電第三六九号質疑ノ次第ハ右ニ依リ御承知相成度シ

(一)滿蒙五鐵道及吉会鐵道ハ日本ニ取リテハ政治上經濟上極メテ重要ノ關係ヲ有シ支那ニ於ケル普通借款關係ノ鐵道トハ異ナリ單純ナル營利的企業ノ見地ノミヨリ考察スルヲ許

ムルノ虞アリテ新借款団問題ニ関スル本邦側ノ態度對關係國政府並民間ニ於テ彼此ノ批評アル今日之ヲ申入ルルハ甚タ面白カラザル義ト思考セラルルノナラズ仏國提案(往電講第一二六四号)ニ於テモ将来借款団以外支那ニ於テ活動スヘキ個々ノ会社又ハ資本家ノ存在スルコト而シテ政府トシテ其ノ活動ヲ阻止スルコト不可能ナルヲ以テ借款団ノミニ對シテ政府ノ專屬的支持ヲ約スルノ困難ナルコトハ已ニ同國政府ノ予想セル所ニ有之且又同國提案末段關係國政府ノ借款団ニ与フヘキ支持ニ関スル案文中ニハ借款団ト同資本家トノ間ニ借款獲得ノ競争アル場合ヲ云々スルノミニシテ右競争ナキ場合ニ付テハ何等提議シ居ラザル義ニ付今日ノ場合此点ニ触ルル必要ナク新借款団以外ノ資本家ニ於テ別ニ企画スルコトアルヘキ場合ハ前顯仏國政府ノ公文ニモ予想シ居ルニ付帝國政府ニ於テ新借款団ノ規約ヲ主義上承認セラルルニ於テハ本件仏國ノ提案ニ對シテハ同公文ノ趣旨ニ參照シ別ニ異議ナキ旨ヲ答ヘラレ前記貴電ノ趣旨申入レハ暫ク見合ハス方然ルヘキカト思考ス  
右更ニ御考量ヲ仰ク様致シタシ  
英米へ電報セリ

サザルモノアリ此等諸鐵道ハ一面滿蒙ニ於ケル我特殊地位ニ極メテ緊密ノ關係アル南滿鐵道ノ營養線タルモノニテ其ノ建設經營ノ如何ハ南滿鐵道ノ消長利害ニ深甚ノ影響ヲ及ホスヲ免レザルノミナラズ特ニ吉会鐵道ノ如キハ直ニ我朝鮮國境ニ接セムトスルモノニシテ國防上ノ見地ヨリスルモ到底之ヲ國際財業団ノ手ニ委スルヲ得ザルモノト承知シ置カレ度シ

(二)滿蒙地方ニ於ケル借款ニ付其ノ新借款団に Pool セラルヘキヤ否ヤノ問題ハ我國防乃至國民ノ經濟の生存ニ至大ノ關係ヲ有スル一方同地方ノ問題ニ對スル我國民一般ノ感覺亦極メテ鋭敏ニシテ實際ノ政治問題トシテ到底之ヲ無視スルヲ得ザル次第ハ累次ノ電報ニテ御承知ノ通りナルガ之カ為メ日本ハ固ヨリ滿蒙ニ於ケル利益ヲ壟斷シ又ハ同地方ヲ侵略セムトスルカ如キ何等ノ意圖ヲ有スルモノニアラズ從テ滿蒙ニ於ケル借款ニシテ我國家及國民生活ノ安固ヲ確保スルノ見地ヨリ重要視セラルル特殊權利及利益ニ不利ナル影響ヲ及ホスト認メラルモノハ國際財業団ノ共同活動ニ委スルコトヲ得ザルト共ニ其ノ不利ナル影響ヲ及ボサズト認ムルモノハ之ヲ新借款団に Pool スルヲ辞スルモノニア

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三五三

ラズ即チ此ノ点ハ正金側申出(一)ノ通り我特殊權利及利益ニ不利ノ影響を及ホスモノノミニ関スル留保ト言フヲ妨ケサルモ其ノ如何ナルモノカ右ノ如ク不利ノ影響ヲ及ホスモノナルヤ否ヤハ一ニ我カ自由ノ認定ニ委セラルヘキハ勿論ナリ尚滿蒙ニ対スル我國民ノ感覺ト雖モ時勢ノ推移ト共ニ變化スルヲ免レザルベク從テ我ニ於テ新借款団ニ<sup>pool</sup>スルヲ妨ゲズト認ムル事業ノ範圍モ自然伸縮ノ余地アルヘシ御含迄申添ユ

右為参考仏米ニ転電アリタシ

三五三 八月二十九日 内田外務大臣ヨリ 在英国永井臨時代理大使宛(電報)

滿蒙留保問題ニ関シ在本邦英國代理大使及幣

原次官間会谈ノ内容通報ノ件

第二九〇号

当地英國公使(代理大使)八月二十八日幣原次官ト会見ノ際対支借款団問題ニ言及シ帝國政府ノ意向ヲ問ヒタルニ付次官ハ本件ニ関シテハ不日在英大使ヨリ英國政府ニ交渉スルコトトナルヘク今日自分ニ於テ何等公然論議スルコトヲ

三六四

得ヘキ筋合ニ非ザルモ同代理大使一己ノ含迄ニ自分ノ私見ヲ内話スヘキ旨ヲ告ケ本問題ニ付從來累次貴官及在米大使ヘ電報セル趣旨ニ依リ帝國ト歐米諸國トノ間ニハ支那問題ニ関スル立場ニ於テ趣ヲ異ニスル所アルコト、滿蒙ニ関スル留保ハ我緊切ナル利益及國家的安全ヲ保障スルヲ主要ナル目的トシ何等侵略主義又ハ經濟上ノ利益壟斷主義ニ基クモノニ非ザルコト、並目下本邦各政党共ニ滿蒙ニ関スル留保ノ必要ヲ主張スルニ於テ全然一致スルノ現状ニ顧ミ如何ナル内閣ト雖民意ヲ基礎トスル以上此ノ傾向ヲ無視スルノ決定ハ事實上之ヲ為シ難カルヘキコトヲ説明シ例ヘバ吉会鐵道ノ如キ滿洲ノ内地ヨリ朝鮮ノ國境ニ向フ鐵道ニシテ現ニ日本ノ資本ヲ以テ建設スヘキ協定ノアルモノヲ新借款団ノ活動範圍中ニ引繼キ日本ハ單ニ其ノ鐵道借款ノ四分ノ一又ハ五分ノ一ノ利益ヲ有スルコトヲ以テ満足スヘシト言フニ至リテハ國家自衛ノ見地ヨリスルモ日本ノ同意シ得ラルベキモノニ非ザルハ明瞭ナルヘシト述べ巴塘ニ於ケル無線電信設置問題ニ対スル英國政府ノ主張ヲモ附言シタル処英國代理大使ハ自分ハ能ク日本ノ立場ヲ了解シタリト答ヘ唯滿蒙ニ於ケル事業ト雖日本ノ緊切ナル利益又ハ國家的安全

三五五 八月三十日 在米國出淵臨時代理大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

滿蒙除外ニ関スル東京發聯合通信ニ付紐育タ

イムスノ論評報告ノ件

第六三九号 (八月三十一日接受)

滿蒙除外ニ関シ本月二十二日東京發聯合通信大要左ノ通ニ十六日各新聞ニ載セラル

昨日ノ閣議ハ軍閥ノ意見ヲ容レ滿蒙除外ヲ主張スルコトニ決セリ朝日新聞ノ報道ニ依レハ内田外相ハ右主張ハ日本ニ野心アルヤニ見エ且支那ニ必要ナル借款ヲ妨害スルモノト解セラルヘク斯カル主張ハ日本ニ不利益ニシテ全ク孤立ノ地位ニ立タシムルモノナリトテ無条件加入ヲ勸告セシガ田中陸相ハ仮令財団ヨリ脱スルニ至ルトモ日本ノ經濟的優先權擁護並國防上ヨリ見テ必要ナルヲ公言セリト謂フ

右ニ関シ二十七日紐育「タイムス」ノ社説大要左ノ通

去ル五月米國カ伝来ノ政策ヲ變更シ五國団組織ヲ公表セルトキ日本ノ参加ハ頗ル満足ヲ以テ迎ヘラレ右協定ハ世界將來ノ平和ヲ形造ルモノト見做サレタリ然ルニ今回日本ノ内

ニ關係ナキモノモアルヘク具体的問題トシテハ日本ニ於テ如何ナル事業ニ付右留保ヲ適用セラルベキヤト問ヒタルニ對シ次官ハ右ハ各個ノ場合ニ就キ日本ノ認定ニ一任スルノ外ナカルヘシ蓋シ自國ノ國防上其ノ他諸般ノ機微ナル見地ヲ包含スル此ノ種ノ問題ヲ國際的論議ニ付スルコトハ何國ト雖容認シ得ザル所ナルベキヲ信ズト答ヘタルニ同氏ハ至極尤ナリト述ヘタリ

以上ハ全然私見ノ交換ニ過ギザルモノ何等御參考迄右為参考仏米ニ転電アリタシ

三五四 八月二十九日 内田外務大臣ヨリ 在米國出淵臨時代理大臣宛(電報)

伊國資本家ノ新借款団加入ニ関スル件

第六一九号

八月二十三日在本邦伊國代理大使ヨリ本國政府ノ訓令ニヨル趣ヲ以テ伊國政府ハ同國資本家ヲ對支新借款団ニ参加セシムル意向ナルコト並ニ右ノ趣日本財団ニ通知セラレ度キ旨公文ヲ以テ申出アリタリ

右英仏伊ヘ転電アリタシ

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三五四 三五五

三六五

閣力軍閥ニ屈シ滿蒙除外ヲ主張セントスルコト若シ真ナリトセハ誠ニ不幸ノ極ナリ日本ノ新聞ニ依レハ内田外相ハ欧米ノ関心ヲ述ヘ反駁ノ余地ナキ迄ニ論セリト謂フ山東ニ関スル紛議ノ鎮静カ世界平和ノ為最必要ナル時期ニ際シ日本ニ於テ軍閥カ勢力ヲ得日本ノ独占ノ利益ノ為借款団ヨリ支那領土ノ廣大ナル部分ヲ除外セントスルハ最不祥ナリ斯カル政策ハ日本ノ友人ヲ失ヒ其ノ敵ニ批難ノ材料ヲ与ヘ甚賢明ナラザル政策ナリ然レトモ日本ハ新旧政治家、軍人ト非軍人、元老ト責任内閣トノ間ニテ意見ノ争存スルコトヲ斟酌スルヲ要ス要スルニ日本ニハ尚二ノ政府アルナリ内田外相ノ主張勝利ヲ得ンコトヲ切望ス

### 三五六

在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙留保ニ関スル通告ヲ仏国外相ニ交付ノ上

説明ヲ加ヘタル件

講第一九二二号

(九月一日接受)

八月三十日「ピシヨン」氏ニ面会本日ハ微妙ナル問題ニテ特ニ会见ヲ求メタル次第ナリト前提シ Consortium ニ関シ

政府ヨリ訓令有リタリトテ貴電第二六六号ノ仏訳ヲ交付シ往電第一八九九号仏國政府ノ公文トハ行違ナルヘキモ帝國政府ノ意見ハ此ノ通りナリト言ヒ帝國カ兩度ノ戦争ニ依リ滿蒙ニ有スル特殊ノ利益擁護ニ関シテハ帝國民一般ノ感覺特別ノモノ有ルヲ以テ此義ハ篤ト了解アリタシト述ヘタルニ「ピシヨン」氏ハ米國政府ハ之ニ同意シタルヤト尋ネタルニ付キ本使同様に英米大使ハ右ノ趣ヲ同政府ニ夫々通告スルコトナリ居ルガ未ダ米國回答ノ次第ヲ承知セズ又英國ニ対シテハ珍田大使婦英ノ上「カーゾン」卿ト篤ト談話有ル筈ナリト答ヘタリ「ピシヨン」氏ハ実ハ本問題ニ就テハ米國ヨリ仏英兩政府ヘ屢々交渉有リ最近ハ現ニ昨日モ本問題ヲ急速解決スル様申来リタル次第ナルガ日本ノ立場モ尤ナルモ(脱)カンコトヲ切望ス米國ニテハ山東問題ニ関シ日本反對ノ声高キ代リニ日本ニテモ米國ニ反對ノ声有ルモノノ如ク兩國人心ノ折合面白カラザル様見受ケラル山東問題ニ関シ仏國議員中ニモ反對意見有ルガ議會ノ分科報告主任タル「ロング」氏ハ政府党故自分ヨリ相当此迄ノ成行意見等ヲ説明シタルコト有リ、今日迄ノ報告左シタルコトナク又議場ニ於テモ余リ議論ナカルヘキ見込ナリト言ヘ

### 三三七

在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

カーゾン卿ニ対シ巴里四國銀行家會議ノ決議

承認及滿蒙留保通告竝右ノ説明ヲ為シタル旨

報告ノ件

第三九二二号

(九月四日接受)

リ、依テ本使ハ日本人中「ウィルソン」大統領ヨリハ寧ロ「ランシング」氏カ支那最負ナルガ故ニ諸事支那ニ好都合ナルコトヲ主張スルモノト了解シ居ルモノ有リ真偽ハ兎ニ角滿蒙問題ニ神經敏キ日本ノ輿論ト目下米國ノ如キ日本反對ノ声有ルトキ Consortium ノ如キ問題ノ解決ニハ余程慎重ノ考量ヲ要スト言ヒタルニ「ピシヨン」氏ハ「ランシング」氏ノ意見ハ五國會議ノ際ニモ聞キタルカ兎ニ角此問題ハ尚ホ篤ト研究スヘシト答ヘタリ要スルニ「ピシヨン」氏ハ米英ノ催促ニ依リ往電講第一八九九号ノ公文ヲ差出シタルモノニ付キ米英ノ態度ヲ聞カザレバ何トモ意見ヲ述フルコト能ハザル立場ニ在ルモ本日ハ少クトモ本使ニ対シ同情有ル態度ナリシヲ以テ本使ハ何レスル問題ハ即時決定シ難カルヘク又日本カ対支借款団ニ加入ノ際仏國ノ(支援ヲ得)タルニ付キ或ハ又今後此問題ニ付キ「ピシヨン」氏ノ助力ヲ仰クコトモアルヘキ旨ヲ述ヘタルニ如何ニモ此前日本カ借款団ニ加入ノ際ハ自分カ外務省ニ在リタルトキナリ確ト記憶スト言ヒ本日ノ会谈ハ極メテ同情的ノモノナリキ英米ヘ転電セリ

九月一日外相代理「カーゾン」卿歸省地ヨリ一時歸京面会ノ機会ヲ得タルニ付貴電第二六六号御訓令ヲ執行スルニ当リ先ヅ本件ハ事態重大ナル為政府当局ニ於テ問題ノ各方面ニ亘リ之ヲ考量シタルノミナラズ外交調査会ニモ附議シ慎重審議ヲ重ネタル後決定ニ達シタル次第ヲ述ベ本使ハ右決定ヲ同卿ニ通告スルト同時ニ其ノ理由ヲ詳細説明スベキ様特別ノ訓令ヲ受ケタル旨ヲ披露シテ貴電第二六六号英文ヲ朗読手交ノ上本問題ニ関スル帝國ノ立場ハ欧米諸國ト全然其ノ趣ヲ異ニスル所以、帝國特殊地位ハ從來英國ノ諒認シタルコト、本邦ノ輿論ガ滿蒙除外ニ全然一致シ居ル事情等ニ付累次御訓令ノ趣旨ニ從ヒ説明シタルニ同卿ハ終始沈黙傾耳(同卿ニハ珍ラシキ態度)更ニ反對ノ評言を挾マザルノミナラズ何レカト云ヘバ寧ロ同情ヲ以テ受ケ居ルガ如キ印

象ヲ与へ本邦輿論ノ説明ニ対シテハ特ニ諒解首肯ノ色ヲ示シタリ右本使説明ノ終ルヲ俟チ同卿ハ然ラバ日本政府ニ於テハ一定ノ地域ヲ劃シテ留保ヲナスノ意図モ認メラルルガ如何トノ問ヲ發シタルニ付本使ハ然ラズ滿蒙ト雖モ借款団活動範圍ヨリ地方的ニ之ヲ除外セントスルニアラズ当面ノ問題トシテ具体的ニ立言スルトキハ現存契約ノ鐵道ハ實際我が國家ノ緊切ナル利益ニ直接關係アルガ為之ヲ共同ノ作用ニ委スルコト能ハザルハ勿論ナリト雖モ将来我が緊切ナル利益ニ觸レザル事業アル場合ニハ右事業ガ共同範圍ニ入ルコト妨ナカルベシト述ベタルニ同卿ハ如何ニシテ之ヲ定ムベキカト問ヒタルヲ以テ本使ハ自分一箇ノ私見ニテハソハ其ノ時ノ熟議ニ讓ルモ差支ナカルベシト輕ク答ヘタル後(御訓令ノ趣旨ニ相違ノ点ハ後段ニ説明ス)之ヲ要スルニ我が留保ノ真意ハ我ニ於テ地方的ニ總テノ利益ヲ壟斷セントスルモノニアラザルモ國家トシテノ日本ガ将来必要ヲ認ムルモノハ我が手ニ収ムルノ決心ナル趣ヲ詳述セリ同卿ハ更ニ語ヲ進メ南滿洲ニ関シテハ日本ガ人命財産ノ犠牲ヲ払ヒタル事歴ニ鑑ミ其ノ特殊地位ハ十分之ヲ諒解スルモ東部蒙古ニ之ヲ及ボスノ理由ハ自分ノ諒解ニ苦シム処ナリ一体

東部蒙古ナル地域ノ境界ハ何処ニアルヤト問ヒタルニ付本使ハ之ニ対シ「テクニカル」ノ問題ニシテ本使ニ於テモ即座確答シ兼ヌルモ約言スレバ東部蒙古ト云ヒ滿洲ト云ヒ地理學上「コンベンションナル・ネイムス」ヲコソ異ニスレ歴史的及經濟的ニ觀察スレバ兩地一帯ト見ルコト適當ニシテ經濟的見地ヨリ立論セバ東部蒙古ハ滿洲ノ「ヒンテルランド」ニ過ギズト述ベタルニ同卿ハ此点ニ付テハ先日モ同様ノ貴説ヲ聞キタルガ或觀察点ヨリ見ルトキハ蒙古ハ寧ロ北京ニ対スル「ヒンテルランド」ナリト見ラレザルニモ非ズ此処ニ割拠スルモノハ遠ク北京ニ庄迫ヲ加ヘ得ル地勢ナルガ如シト如何ニモ意味有リ氣ニ述懐シタリ而シテ之ヨリ先八月二十二日ノ会谈中同卿ハ山東省ニ於ケル我が經濟的權利ニ関シ山東鐵道ノ發展如何ニヨリテハ北京ニ対シ庄迫ヲ加フルノ利器トナリ得ベシ云々ノ語ヲ吐キ又支那全權ノ意見書中ノ一節ニハ日本ガ滿蒙及山東兩面ニ其ノ勢力ヲ扶植シ北京ヲ侵略セントスルノ野心ヲ包蔵ストノ説ヲ鼓吹スルアリ之等ノ所説ヲ綜合スルニ「カーゾン」卿ニ於テハ我ニ対シ一種根強キ猜疑心ヲ抱キ居ル様看取セラレタルヲ以テ本使ハ滿蒙ニ於ケル河流商路ノ南下直隸灣ニ向ヒ居ル関

係ヨリ見ルモ兩地經濟的生命ノ全然一体ナルコト掩フベカラザル事實ナル旨ヲ説明シ尚進ンデ帝國ガ滿蒙地方ニ於テ利權ヲ扶植シ且之ヲ確保セントスルハ支那ニ対スル野心ニ非ズシテ日露戰役後露國ノ復讐戰ニ対スル防禦ノ外ナラズ而シテ混沌タル露國ノ現状ニ顧ミルトキハ過激派ノ侵迫又ハ安逸ノ東漸之レ無キヲ保シ難ク此(脱)依然存在スル処實際之ガ防備ニ當リ得ルモノハ帝國ヲ指イテ他ニ求ムベカラザルハ歷史上明証スル処ナリトノ点ヲ指摘シテ滿蒙ニ於ケル利權ノ確保ハ我ニトリ自衛上必要ナルト同時ニ我が立場ノ欧米諸國ト異ル事由ヲ力説シ置キタリ「カーゾン」卿ハ右聴取リノ後本件ハ事重大ニシテ且他國政府ニモ關係アリ慎重ノ措置ヲ要スルニ付何等即答ニ及ビ難シト述ベタルガ本使ハ尚一個ノ私見トシテ前段開陳ノ事由ニ鑑ミルトキハ本件ハ其ノ性質上日英同盟ノ活用範圍 (within the purview) ニ入ルベキ問題トモ思考セラルル処日本ガ文字上(及精神上)共ニ同盟ノ責務履行ニ忠実ナルハ戰前並戰爭中ノ諸事跡ニ徴シテ明カナルヲ以テ英國政府ニ於テモ充分之ヲ諒トシ本案件ニ関スル帝國ノ主張ニ対シテハ好意的考量ヲ加ヘラレ且他政府ニ対シ支持ヲ与ヘラレンコトヲ

希望スル旨申添ヘ右終ルヤ同卿ハ自分ノ方ニモ貴説ト類似ノ理由ニヨリテ帝國政府ノ考量ヲ煩シ度キコトアリトテ別電報告ノ如ク西藏ニ関スル英支條約問題ニ関シ說出シタリ追而本電前段ニ新借款団活動に委ネル事業ト然ラザルモノトヲ決定スルハ其時ノ熟議ニ讓リ差支ナカルベシト答ヘタル旨記述セルガ右決定方針ハ今日必ズシモ明確ニ説示スルノ要ナク寧ロ将来實際ノ場合ニ殘ス方本問題取纏ノ為得策ナルベシト思考シタルニ依リ特ニ私見トシテ上述ノ通輕ク受ケ流シ置キタル次第ナルガ貴電第二八九号(二)ノ趣旨ヲ以テ明確ニ説明スルコト必要ナリトノ御趣意ナルニ於テハ訂正ノ方法ヲ採ルベキニ付何分ノ御訓令ヲ煩シ度シ在米、仏大使ヘ転電セリ

三五八 九月六日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

南滿東蒙ノ境界問題ニ関シ英國極東部長ト会

談ノ件

第四〇五号

(九月七日接受)

「カーゾン」卿引続キ休暇中ニテ地方ニ赴キタルニ付九月

四日極東部長「マクレイ」ヲ訪ヒ過日同卿ヨリ東蒙古境界ニ関スル質問アリ帰館後手元参考書類ニ就キ調査シタルモ確タル材料ナキニ付早速東京ニ問合ヲ發シタルガ電報往復ニ多少ノ時日ヲ要スベク其ノ趣同卿ニ伝達アリタキ旨依頼シタルニ同人ハ之ヲ諒承シタル後南滿境界ニ関シテモ同卿ヨリ質問ナカリシカト怪訝ノ様子ニテ推問シタル処ヨリ察スルニ南滿ニ関シテモ明確ニ境界ヲ知ラントスルモノノ如ク早晚質問ニ接スベクト思考セラルルニ付是亦併セテ御回示ヲ煩ハシタシ

次ニ本使ガ過日「カーゾン」卿ニ於テハ本使申入ノ件ニ関シ意見ヲ留保セラレタル処本使ニ於テハ奥國条約等ニ關聯シ渡仏ノ必要モアリ何時頃同卿ヨリ意見ノ回示アル都合ナルベキカト質問セルニ對シ部長ハ本件ハ米國政府トノ協議ヲモ要スルコトナレバ相応長時日ニ亘ルベク差当リ渡仏アルモ不都合ナカラント答ヘタル後自分一箇ノ私見ナリト前言シテ米國ニ於テハ二十一箇条要求並西原借款等ニ對シ反感アルニ顧ミ本件ハ米國側ニテ面倒ヲ生ズルナキヤヲ慮ルト述べ更ニ南滿ニ對スル日本ノ特殊地位（ニ関シテハ了解）ニ苦シマザルモ蒙古ニ関シテハ然ラズ例ヲ鐵道ニ引カ

ンニ朝鮮方面ノ鐵道ハ國防上ノ見地ヨリシテ日本ガ特ニ重要視スルハ十分之ヲ諒トシ得ベキモ遠ク蒙古ニ於テ北京ニ近邇セル地域例ヘバ洮南ヨリ「ジヨホール」ニ至ル鐵道ニマデ之ヲ及ボスガ如キハ了解ニ苦シム処ナリ斯クテハ日本ハ山東蒙古両方面ニ勢力ヲ扶植シ北京ヲ威圧スルノ情勢ヲ為スペント述べタリ依テ本使ハ大体、過日「カーゾン」卿ニ述ベタルト同ジク我が國ト欧米諸國ト滿蒙ニ對スル立場ヲ異ニスル所以ヲ説キ日本ガ滿蒙ニ於テ利權ヲ扶植シ且ツ是ガ確保ニ努ムルハ支那ニ對スル方針ニアラズシテ政治的ニハ露國方面ヨリノ將來ノ侵迫ニ對シ防禦ノ必要ニ出デ經濟的ニハ我が國現實既得ノ權利タル南滿鐵道ノ利益ヲ保護スルノ必要ニ出ヅル旨ヲ説明シ置キタリ尚同氏ハ九月二日後藤男ニ面会ノ際ニモ同様ノ意見ヲ述べタル由ナレバ彼是ヲ綜合スルニ往電第三九二号「カーゾン」卿ノ言ハ偶發ノ所感ニアラズシテ支那全權ノ附會説先入主トナリタル結果當國外務當局ニ於テハ本論點ニ関シ執拗ニ我が誠意ヲ疑ヒ居ルコト明瞭ナルガ如シ（六日）

米、仏ニ転電セリ

三五九 九月二十六日

在英国珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

我勢力範圍下ニ在ル南滿東蒙ノ地理的境界ニ

関シカーゾン卿ニ説明シタル件

第四三八号

（九月二十八日接受）

九月二十五日「カーゾン」卿ニ面会我勢力範圍下ニ在ル東部内蒙古境界ノ説明ヲ与ヘントシタルニ同卿ハ併セテ南滿勢力範圍ノ説明ヲモ得シコトヲ求メタルニ依リ本使ハ貴電第三〇八号ノ趣旨ニ依リ我勢力範圍トシテ除外ヲ求ムル地域ハ滿洲ニ於テハ第二松花江鉄橋ヲ中心トセル東支鐵道本線併行線以南ヲ指シ、蒙古ニ於テハ東部内蒙古中特ニ南滿ニ接壤セル東四盟ノ大部分ヲ指スモノナルヲ述ヘ尚同卿ガ取寄セタル英国外務省備附ノ地図ニ依リ説明ヲ加ヘタル処偶然同地図ニハ滿蒙ニ於ケル我勢力範圍トシテ本使説明ト略ホ同様ノ区域ヲ表示シアルヲ発見シ同卿ハ極東部長ノ如ク熱河方面等ニ関シ何等論評ヲ加フルコトヲ為サス単ニ本使説明ヲ能ク了解セル旨ヲ語レリ依テ本使ハ滿蒙除外ニ関シ英米兩國政府間既ニ交渉開始サレタルヤヲ尋ネタルニ同卿ハ本件ハ境界問題ニ関シ本使ヨリ回答ナカリシ為未タ商

議著手ノ運ニ至ラサル処米國ハ主義上本件ノ除外ニ反対スヘシト想像ス云々ト輕ク答ヘタリ  
米、仏ヘ転電セリ

三六〇 十月三十日

在米國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

我滿蒙留保通告ニ對シ米國政府ヨリ回答越ノ件

第七七一号

（十月三十一日接受）

滿蒙留保ニ関スル帝國政府ノ提議ニ對シ二十八日附覽書ヲ以テ別電第七七二号ノ通國務長官ヨリ回答シ来レリ覽書冒頭ハ我提議ノ要旨ヲ叙説シタルモノニ付之ヲ略ス尚本件ニ関スル第三次官トノ會談要領別ニ電報ス  
右在英仏伊大使ヘ電報セリ

註 別電第七七二号ヲ省略ス同別電ハ次掲三六一文書附屬書第二バグラフ「This Government, after an earnest study of the proposal thus made, 以下全文ナリ

三六一 十一月五日

在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛

我滿蒙留保通告ニ対スル米國政府ノ回答覚書

写交付ノ件

附屬書 十月二十八日附右覚書写

機密第七九号

(十二月十八日接受)

大正八年十一月五日

在米

特命全權大使 幣原喜重郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

対支新借款滿蒙留保ニ関スル件

帝國政府ノ対支新借款滿蒙留保ノ提議ニ対スル米國政府ノ  
回答ハ往電第七七二号ヲ以テ及報告候処右國務省米信亨茲  
ニ及送付候間御査閲相成度候也

(附屬書)

十月二十八日附米國國務省ヨリ在米國日本大使館宛覚書写  
我滿蒙留保通告ニ対スル米國政府回答ノ件

MEMORANDUM

The Government of the United States has received and carefully considered the memorandum dated August 27, 1919, in which the Imperial Japa-

project which all the other interested Governments and groups have treated in a liberal and self-denying spirit and with the purpose of eliminating so far as possible such disturbing and complicating political motives; and it considers that from the viewpoint, either of the legitimate national feeling of China or of the interests of the Powers in China, it would be a calamity if the adoption of the consortium were to carry with it the recognition of a doctrine of spheres of interest more advanced and far-reaching than was ever applied to Chinese territory even in the period when the break-up of the Empire appeared imminent.

It can only be assumed that in taking its present position the Japanese Government has misapprehended the purposes of the consortium and assumed that it is the intention of the other Governments to encroach upon the existing vested Japanese interests in the region indicated. That such is not the inten-

nese Embassy advised it that the Japanese Government accepted and confirmed the resolution adopted at the meeting of the representatives of the bankers groups of the United States, Great Britain, France and Japan at Paris on May 11 and 12, 1919, for the purpose of organizing an international consortium for financial business in China, subject, however, to the following proviso:

“that the acceptance and confirmation of the said resolution shall not be held or construed to operate to the prejudice of the special rights and interests possessed by Japan in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia.”

This Government, after an earnest study of the proposal thus made, reluctantly finds itself unable to assent to the proviso in reference to South Manchuria and Eastern Inner Mongolia: it can only regard the reservation in the form proposed as an intermixture of exclusive political pretensions in a

tion may be seen from the wording of the intergroup agreement of May 11th which in Article I specifies that only those industrial undertakings are to be pooled upon which substantial progress has not been made. This wording plainly excludes those enterprises which are already developed and thus constitute vested proprietary interests (such as the South Manchuria and Ssupingkai-Chengchiatun Railways, the Fushun collieries, et cetera) and may fairly be interpreted to exclude likewise the existing options for the extension of railways already in operation (for instance the proposed continuation to Taonan of the Supingkai-Chengchiatun Railway and to Hueining (Hoiryong) of the Kirin-Changchun Railway.) If Japan's reservation is urged with a view solely to the protection of existing rights and interests, it would seem that all legitimate interests would be conserved if only it were made indisputably clear that there is no intention on the part of the



consortium to encroach on established industrial enterprises or to expect the pooling of existing Japanese options for the continuation thereof: and this Government feels that the Japanese Government should be amply content with the understanding that certain specific enterprises are exempt. This Government can not accept a geographical reservation which would not but lent itself to implications which are foreign to the purposes of the consortium. But it is still hopeful that the Japanese Government may find it possible to authorize its banking group to enter the proposed consortium with full assurance that no legitimate Japanese rights or interests would thereby be jeopardized.

(Signed) Robert Lansing.

Department of State,

Washington, October 28, 1919.

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

覚書

シテ進歩セル利益範圍ノ主義ヲ此際承認スルコトモナラシカ其ハ実ニ大ナル災厄ト思考ス

米國政府ハ日本政府カ現態度ヲ執ラルルニ当リ借款團ノ目的ヲ誤解シ且他國政府ノ意嚮カ上記地域ニ於ケル日本ノ現ニ固定セル利益ヲ侵害セントスルニ在ルカ如ク推定セラレタルモノト思惟セサルヲ得ス然レトモ何等斯卡ル意嚮ナキコトハ五月十一日ノ団体規約第一条ニ明記セル通り「相當進捗シ居ラサル実業の企業ニ限り提供セラルヘキモノナリ」トノ字句ニ徴スルモ之ヲ察知スルヲ得ヘシ

右字句ニ依レハ企業ニシテ既ニ進捗シ從テ固定のニ財産上ノ利益トナレルモノハ(仮令ハ南滿鐵道及四鄭鐵道撫順炭坑等ノ如キ)明ニ之ヲ除外シ又已ニ運行中ノ鐵道ノ延長ニ對スル現存優先權(仮令ハ四鄭鐵道ヲ洮南府ニ又吉長鐵道ヲ會寧ニ延長スル計畫ノ如キ)モ均シク除外スルモノト解釈シ得ラレサルニ非サレハ若シ日本ノ留保ニシテ単ニ現在ノ權利及利益ヲ保護セントノ見地ヨリ主張セラルルモノトセバ借款團カ已ニ固定セル実業の企画ヲ侵害シ或ハ其ノ繼續ニ對スル日本ノ現存優先權ヲ提供センコトヲ期待スルカ如キ意図ナキヲ裁然明確ニスルニ於テハ適法ノ利益ハ一

米國政府ハ千九百十九年八月二十七日付覚書ヲ受領シ慎重考慮ヲ加ヘタリ日本大使館ハ右覚書ニ於テ日本政府ハ支那ニ於ケル財業ニ関スル國際借款團ヲ組織スル目的ヲ以テ千九百十九年五月十一日及十二日巴里ニ開催セラレタル米英仏日各國銀行団代表者會議ノ決議ヲ確認ス尤モ左ノ但書ヲ条件トスル旨ヲ勸説セラレタリ

「右決議ノ確認ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル日本ノ特殊權利及利益ニ何等不利ノ影響ヲ及ホスコトアルヘキモノナリト解釈スヘカラサルハ勿論ナリトス」

米國政府ハ以上ノ提議ニ関シ慎重審議ヲ遂ケタルカ乍遺憾南滿洲及ヒ東部内蒙古ニ関スル但書ニ同意ヲ表スル事能ハス米國政府ハ今回提唱ノ形式ニ依ル留保ハ他ノ關係諸國政府及団体カ寛裕克己ノ精神ヲ以テ且出來得ル限り斯卡ル煩瑣紛糾セル政治的動機ヲ排除スル目的ヲ以テ処理シ來レル計画ニ對シ排他的政治上ノ主張ヲ包有セシメントスルモノナリト認メサルヲ得ス且米國政府ハ支那ノ正當ナル國民的感情ノ見地ヨリスルモ將又支那ニ於ケル列強ノ利害關係ノ立場ヨリ見ルモ借款團ニ於テ予テ支那帝國瓦解ノ機切迫セル時機ニ方リ支那領土ニ見タル利益範圍ニ比シ更ニ遠大ニ

切保存セラルルコトナルヘシ斯クシテ米國政府ニ於テハ日本政府カ或ル特定ノ企業カ除外セラルルモノナリトノ諒解ノ下ニ十分満足セラルル事ト信ス畢竟スルニ米國政府ハ借款團ノ趣旨ト相容レサルモノニ加担セリト認メラルルニ至ルカ如キ地理的保留ハ到底之ヲ認容スル事能ハス然レトモ米國政府ハ日本政府カ日本ノ適法ナル權利利益ハ之カ為メ危殆ナラシメラルルコトナカルヘシトノ十分ナル保障ノ下ニ其ノ銀行団ヲシテ今回提唱セラレタル借款團ニ加入セシメ得ラレンコトヲ希望シ居レリ

千九百十九年十月二十八日 華盛頓國務省

ロバート・ランシング(自署)

三六二 十一月二十日

在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

我滿蒙留保ノ通告ニ對シ反對ナル旨ノ英國回答受領並右反對ノ論拠ニ付カーゾン卿説明ノ件

第五〇七号

第五〇七号

(十一月二十二日接受)

十一月十九日「カーゾン」卿ノ求メニ応ジ往訪シタルニ同卿ハ我滿蒙留保ニ對スル英國政府ノ回答ヲ陳述セラレタル

ガ其所説ハ大体別電<sup>(電)</sup>書ノ趣旨ニ外ナラサルヲ以テ爰ニ此ヲ省略スルモ右以外ニ亘リ同卿ノ尤モ力ヲ籠メテ布衍論弁シタル点ヲ挙グレバ(一)從來英國モ支那ニ於ケル一利益範圍ノ確保ヲ以テ最モ重大ノ問題トナシ之ガ主張ニ努メタルガ今や世界維新ノ大勢ニ順応シテ全然此方針ヲ改メタル事實並新財団ノ組織ハ畢竟此新思想ニ胚胎セル事理ニ鑑ミ此公明ナル根本義ト矛盾スル趣旨ニ對シテハ断然反對セザルヲ得ズ(二)若シ日本ニ於テ飽ク迄地方的留保ヲ固持スル時ハ勢ヒ団外ニ孤立セザルヲ得ザルニ至ル可ク一面支那國民ガ日本ニ對シ深酷ナル反感ヲ抱キ居ルコトハ是非ハ兎モ角掩フ可ラザル事實ナルニ顧ミルモ亦日本ハ實際孤立無援ノ境遇ニ陥ルノ已ムヲ得ザルニ至ル可シ之レ自分ガ衷心日本ノ為メ憂慮スル点ニシテ切ニ日本政府ノ猛省ヲ請ハント欲スル処ナリ云々ノ二点ナリ又英國回答ノ趣旨ハ結局米國ト同一ト看做スベキヤトノ本使ノ質問ニ對シテハ其通ナリト答ヘラレタリ依ツテ本使ハ右ノ説述ニ對シ米國ノ回答ハ甚ダ遺憾ニ感ズル処ナルモ米國輓近ノ態度ニ照ス時ハ強チ喫驚スベキニ非ズト雖モ英國ヨリ同様ノ回答ニ接スルハ自分ノ最モ失望且ツ意外ニ感ゼザルヲ得ザル処ナリ蓋シ滿

蒙殊ニ南滿洲ニ於ケル日本ノ特殊ナル地位ハ英國政府ノ明ニ認識スル処ニシテ日本今回ノ留保ハ結局右特殊地位ニ伴フ自然ノ結果ニ外ナラズ之ヲ以テ地理的留保トナシ財団組織ノ根本義ニ反スト論ズルモ我留保ノ本質ハ地理的ニアラズシテ我緊切ナル利益ヲ標準トスルノ点ニアリテ存スルコトハ現ニ滿蒙ノ範圍内ト雖モ斯ル利益ニ触レザル事業ニ對シテハ全然門戸ヲ開放スベキ我方針ニ見ルモ明瞭ナルベシ又南滿洲ニ於ル緊切ナル我企業ハ解釈上實際除外セラレタリト仮定スルモ將來ニ對シテハ何等安心スベキ保証ナク例ヘバ將來我既設鐵道及營業上又ハ我國防上不安ヲ感ゼシムル如キ鐵道ヲ敷設スル等ノ場合ニ對シ何等保証ナクシテ同地ニ於ケル將來ノ企業ヲ舉ゲテ國際団体ノ活動ニ委スルガ如キハ本邦輿論ノ容認スル能ハザル処ナリ從テ本問題ノ解決如何ニ依リテハ或ハ日本ハ止ムヲ得ズ団外ニ獨立シテ行動ノ自由ヲ保ツノ舉ニ出ヅルガ如キ事之無シトモ保シ難ク斯ノ如キ事態ハ独リ日本ノミナラズ財団自身ノ利害ヨリ見ルモ最モ遺憾ナル結果ニ至ルベク極力之ヲ避ケント欲スルノ点ニ於テハ本使一個ノ感想ハ全然同卿ト一致スルガ故ニ此ノ見地ヨリシテ本問題ノ解決ニ関シテ何等カノ妥協点

ヲ見出スコト出来マジキヤ例ヘバ地理的留保ニ有ラザル了解ノ下ニ南滿洲ニ限リ我留保ヲ承認スルガ如キ事行ハレマジキヤトノ趣旨ヲ以テ其ノ考量ヲ促シタルモ同卿ハ諄々其ノ不可能ナル所以ヲ述ベ毫モ交譲ノ色ヲ示サズ其ノ所説ハ大体前記ノ反覆ニ過ギザルガ故ニ此処ニ詳記スルノ要無キモ就中嶄新ノ点ヲ挙グレバ本問題ニ對スル日本ノ輿論必ズシモ一致シ居ラズ或新聞ノ如キハ現ニ無留保加入ヲ主張スルヤニ聞キ及ベリ又自分ノ所見ヲ以テスルモ日本人ハ其ノ地理上人種上ノ關係ヨリスルモ工業力ノ發展ヨリスルモ支那ニ於テ他外國人ノ企及バザル優勝ノ地位ヲ占ムルノ事實ニ顧ミ仮令全然無条件ノ下ニ外人ト行動スルモ實力ノ競争必ズ勝ヲ制シ得ベキハ疑ヲ容レザル処ナリト確信ストノ点ヲ力説シタリ本使ハ前記輿論云々ニ付一部ノ論者中右様ノ意見ヲ有スル者有ルヲ疑ハザルモ決シテ輿論ト認ムベカラザル事由ヲ弁明スルニ止メ会谈既ニ長時ニ亘リ此ノ上論談ヲ続クルモ充分ノ了解ニ達スベキ見込ナキヲ以テ(脱)覺書ヲ申受ケ尚ホ書面ニ付キテ考量ノ上更ニ会见ヲ請フ事有ルベキ旨ヲ述ベ談緒ヲ他日ニ譲リテ他ノ問題ニ談及シタリ右会谈中本使ノ得タル印象ヲ略記スレバ

第一、英國政府ハ東蒙古ニ関シテハ断然反對ノ態度ヲ取ルト同時ニ南滿洲ニ関シテハ成ルベク寛宏ノ態度ヲ示シ少クトモ同地方ニ於ケル我未成企業ニ對シテ出来得ル丈広義ノ解釈ヲ取り成ルベク緩和ノ道ヲ講ゼントスルノ意向ナルガ如ク又日本ヲ除外シ之ヲシテ獨立ノ行動ニ出デシムルノ不利益ヲ感ズル事頗ル切ナルガ如シ鐵道布設ニ就テハ閣下宛在米大使電報第八〇一号ハヨク英國政府ノ態度ヲ穿テ居ル事ヲ看取シタリ然シナガラ本案件ニ関シテハ英國政府ハ米國ノ主唱ニ附和スル形勢有ルハ想像ニ難カラザル所ニシテ日本除外問題ノ如キモ結局米國ノ態度ニ依リテ決セラルルニ至ルベシト思考セラルル処國務省ノ態度今日ノ如ク強硬ナルニ顧ミル時ハ吾ニ於テ飽迄今日ノ態度ヲ固持センニハ結局団外孤立ヲ賭スルノ外ナキヲ以テ帝國政府ニ於テハ此ノ際各般ノ利害ヲ考量シ適當ノ時機ニ於テ適當ノ展開策ヲ講ズル事緊要ナリト思考ス。

米仏ヘ転電セリ。

註 別電第五〇八号ヲ省略ス同別電ハ次掲三六二文書ノ中段  
His Majesty's Government have now, after the most careful consideration of the Japanese contention, 以下

三六三 十一月二十四日 在英国珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛

我滿蒙留保ニ反対ナル旨英國政府ノ回答覚書

写 送 付 ノ 件

附属書 十一月二十日附右覚書写

機密公第二八号 (大正九年一月八日接受)

大正八年十一月二十四日

在英

特命全權大使子爵 珍田捨巳 (印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

对支借款团改造滿蒙留保ニ関スル英外務大臣覚書写送  
付ノ件

十一月二十日附標記覚書写一通茲ニ差進候間御查收相成度  
候 敬具

(附属書)

十一月二十日附英國外務省ヨリ日本大使館宛覚書写

我滿蒙留保ニ反対ナル旨英國政府回答ノ件

British Foreign Office to Japanese Embassy

golia.

His Majesty's Government have now, after the most careful consideration of the Japanese contention, been forced to the conclusion that they could not justifiably accept the claim for the exclusion of Southern Manchuria and Eastern Inner Mongolia from the sphere of activity of the Consortium if it were intended as a territorial claim.

As was pointed out to the Japanese Ambassador in the Memorandum communicated to His Excellency on August 11th, the admission of such a claim to a monopoly of commercial interests in a large geographical area of China would be a direct infringement of the fundamental idea underlying the creation of the Consortium, which was to abolish spheres of interest and throw open the whole of China to the activities of an international financial combination.

Lord Curzon, however, cannot help thinking that the Japanese Government must be labouring

三 对中国新借款团组织ニ関シ米國提議ノ件 三六三

On September 1st His Excellency the Japanese Ambassador communicated to Earl Curzon of Kedleston the following memorandum:—

"The Japanese Government accept and confirm the resolutions adopted at the meeting of the Representatives of the bankers' groups of the United States, Great Britain, France and Japan at Paris on the 11th and 12th May 1919, for the purpose of organising an international Consortium for financial business in China; provided, however, that the acceptance and confirmation of the said resolutions shall not be held or construed to operate to the prejudice of the special rights and interests possessed by Japan in South Manchuria and Eastern Inner Mongolia."

At a subsequent interview with Lord Curzon, Viscount Chinda, in accordance with instructions received from His Government defined what was meant by South Manchuria and Eastern Inner Mon-

under a misapprehension as to the scope and purpose of the Consortium. It is not and never has been intended that under the guise of the Consortium vested interests should be encroached upon. Article 1 of the inter-group agreement of May 11th last specifically lays down that agreements and options relating to industrial undertakings (including railways), upon which substantial progress has been made, need not be pooled. Indeed the sphere of the new Consortium is definitely limited to the financing of future undertakings in China and was never meant to extend to established industrial enterprises.

So far as Southern Manchuria is concerned, Lord Curzon recognises that there are in that province important railways and other industrial enterprises which have been developed or are in course of development by Japanese enterprise and which are clearly not within the sphere of the Consortium.

Such is not however the case in Eastern Inner

Mongolia where although options for railways have been granted to Japan no work has yet been begun. Indeed such a claim as is put forward by the Japanese Government in regard to Eastern Inner Mongolia amounting to the reservation of an exclusive interest in a large area whose southern boundaries practically envelop Peking and encroach upon the province of Chihli, cannot be reconciled with the maintenance of the independence and territorial integrity of China which Japan has so often pledged herself to observe.

It is confidently hoped therefore that when the question is viewed in this light, the Japanese Government will see no objection to modify their present attitude as regards both South Manchuria and Inner Mongolia and will authorise the Japanese banking group to enter into the new Consortium on the same basis as the other groups, that is, without any special reservations.

The Japanese Government will also no doubt recognise the urgent need of promptitude in dealing with the situation in view of the disastrous situation on the verge of which China appears now to find herself.

20th November 1919.

三六四 十二月十七日 内田外務大臣ヨリ  
在英國珍田大使宛(電報)

米中間五百万磅借款問題ニ関連シ新借款団組織ニ対スル日本ノ意向承知シ度旨在本邦英國代理大使申出ニ対スル我応答ニ付通報ノ件

別電 同日内田外務大臣發珍田大使宛電報第四二五号  
日本ノ無留保加入ト国防ニ関スルカーゾンノ提言

#### 第四二四号

十二月十六日在本邦英國代理大使本大臣來訪往電第四一五号同代理大使宛五百万磅對支借款ニ関スル帝國政府ノ回答ヲ英國政府ニ電報シ置キタル処今回本國外務大臣ヨリ右ト行違ヒニ電訓ニ接セリトテ本件五百万磅借款ニ関シ日英

間ニ交渉中偶々米國ヨリ支那ニ借款貸付ノ契約成立セントスルカ如キ次第ニ付可成速ニ新借款団組織ニ対スル日本政府ノ意向ヲ承知致シタク若右米國借款愈成立シ支那ニ対スル外資貸付ノ門戸開放セラレ無秩序ナル借款競争ノ狀態發生スルニ至ラバ今後此ノ種借款ハ統統成立ヲ見ルニ至ルヘキニ付旁英國政府ニ於テハ速ニ新借款団ノ組織ヲ見ルニ至ラムコトヲ切望スル次第ナルガ日本政府ノ本問題ニ対スル詮議振ハ如何アルヘキカ承知シタク旨申出且大体 Curzon 卿カ貴電第五〇七号ノ通り貴官ニ陳ヘタルト同様ノ趣旨ヲ陳ヘ別電Formulaニ談及シ我回答ヲ迫リタルニ付之ニ対シ本大臣ハ本件ハ目下慎重詮議中ナルガ何分日本ニ取リテハ極メテ重要ノ問題ニシテ Curzon 卿ノ珍田大使ニ述ヘラレタルカ如ク成程本問題ニ対シ一部日本人士中無留保加入ヲ唱フルモノナキニシモアラズ又將來無留保加入ノ時期到來スルコトナシトセザルモ少クトモ今日ニ於テハ國民ノ感情ハ依然トシテ飽迄滿蒙留保ヲ支持シ居レル次第ニテ殊ニ日本ハ朝鮮ヲ領有シ居レル關係上其ノ隣接スル滿蒙ノ將來ニ對シテハ多大ノ懸念ヲ有シ居レル次第ニ付此際無留保加入ハ頗ル困難ノ義ト思考セラル且滿蒙留保ヲ主張スルモ要ス

ルニ新規ナル要求ヲ為サントスル趣旨ニハアラズ今日ヨリ七年以前ニ於テ關係銀行団代表者ニ對シ日本銀行団代表者ガ為セル声明ヲ支持シ以テ Status quo ヲ維持セムトスルニ外ナラズ然ルニモ拘ラズ本問題ニ付英米等ヨリ尚同意ヲ得ザルハ甚ダ遺憾ニ堪ヘザルトコロナリFormula云々ノ件ハ珍田大使ヨリ報告ニ接シ居ラザルガ實ハ目下本大臣ニ於テモ折角何等カノ案ヲ求メ可成關係國ノ意向ニモ副ヒ且我方ノ趣旨ヲモ貫徹セムコトヲ努メ居レル次第ナルガ仮令一ノ成案ヲ得ルトスルモ其ノ確定ヲ見ル迄ニハ閣議及外交調査会等ニ附議シテ慎重審議ヲ尽スノ必要アリ之カ為メニハ相当ノ手続ヲ要スル次第ニ付多少ノ時日ヲ要スルコトハ蓋シ已ムヲ得ザル処ナリ從テ五百万磅借款問題ト同時ニ本件ヲ解決セムコトハ到底困難ニ付五百万磅借款問題ハ本件トハ關係ナク別ニ商議ヲ進捗セシメムコトヲ希望スル旨答ヘ置ケリ

Curzon 卿カ貴官ニ對シ無留保加入ノ結果トシテ日本ノ国防ニ累ヲ及ホスコトアルヘキ場合ニ関シ一個ノ formula ヲ帝國政府ニ於テ案出セムコトヲ提言シタル趣ナルガ右ハ貴電第五〇七号中ニ見当ラズ何等カノ行違ヒト認メラルル

ニ付此ノ点ニ関スル英國代理大使申出ノ次第別電第四二五号ニテ電報ス右ハ帝國政府ニ取リテハ新規ノ消息ナルガ目下本問題解決方折角詮議中ニ付右提言ヲモ考慮ニ加フル所存ナリ不取敢御含迄

右別電ト共ニ米仏伊ニ転電アリタシ

(別電)

十二月十七日内田外務大臣発在英國珍田大使宛電報第四二五号

日本ノ無留保加入ト国防ニ関スルカーゾンノ提言

第四二五号(別電)

Lord Curzon invited Viscount Chinda, if there is any fear that any project launched under the aegis of the Consortium might threaten the strategic security of Japan, to guard against this danger by proposing a formula to meet the case.



## 事項四 中国ヘノ兵器供給ニ関スル件

三六五

一月十一日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國公使ヨリ日本ノ兵器供給ニ関スル申出ア

リタルニ付報告ノ件

第四六号

往電第一二号及第一三号未ダ御訓令ニ接セザル為客年貴電一一八二号米國公使其他ヘノ説明其儘トナリ居リタル処一月八日米國公使館一等書記官徳川ヲ来訪シ同公使ノ命ニ依ル趣ヲ以テ目下秦皇島ヘ日本ヨリノ兵器到着シツツアル趣ナル処右ハ如何ナル次第ナルヤ説明ヲ聞クコトヲ得バ幸ヒナリト申出タルニ付徳川ヨリ実ハ客年往電第一七一六号ノ件ニ關聯シ本使ヨリ米國公使ヘ説明スベキ旨ノ電訓接到シ居ルモ右来訓中疑問ノ廉ニ付目下(脱)ヘ問合中ナル為未タ右説明実行ノ運ビニ到ラザリシ次第ナルニ付右来示ノ趣ハ早速本使ヘ伝フベキ旨ヲ述ヘ置タル趣ニテ右ノ如ク米國公使ヨリ問合アリタル意味ハ前記御回訓ヲ待タズ兎ニ角説明ヲ加ヘ置クコト然ルベシト認メ本日本使同公使ヲ往訪客

四 中国ヘノ兵器供給ニ関スル件 三六五

年貴電第一一八二号大要英訳ヲ申聞カセ尚之ヲ一読セシメ且適宜説明ヲ加ヘタル処同公使ハ帝國政府ノ御趣旨ハ一応了解シタルガ自分一個ノ所見トシテ腹藏ナク申述ブレバ(一)休戰条約モ既ニ締結セラレタル此際支那ノ參戰義務ニ基ク日支軍事協定ノ実行ニ關聯シ借款ヲ供給スルガ如キハ何分其理由ニ乏シキ様思料セラルルノミナラズ新式軍隊ノ編成ノ如キモ支那ノ内争漸ク終了ニ近ヅキ新ナル統一政府ノ樹立モ程遠カラズト認メラルル今日右新政府ノ成立ヲモ待タズ謂ハバ一部軍憲トノ慣合ヒニ基キ右等計畫ヲ進行セシムル事ハ啻ニ南方側ヲシテ疑惑ヲ逞ウセシムベキノミナラズ或ハ将来再ビ支那ノ平和ヲ威嚇スル禍因トナルナキヲ保シ難ク旁タ目下ノ場合兵器供給ノ如キハ兎モ角モ之レヲ停止セラルル方望マシキ様思ハルトノ趣旨ヲ繰返ヘシ述ベ又(二)兵器ニ関スル協同宣言ノ提議ハ日本ノミニ対スル如キ嫌ヒ有リトノ点ハ自分ハ右様思考セズ既ニ歐洲戦争休止ノ今日米國ノ如キ支那ノ南北統一サヘ成リ居ラバ今直チニテモ兵器ヲ供給シ能ハザルニ非ズトノ趣旨ヲ述ベタルニ付本使ハ